

参考資料

- (資料 1) 平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書
- (資料 2) 金沢大学附属図書館基本理念と目標（平成 21 年度作成）
- (資料 3) 金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン（平成 25 年度作成）
- (資料 4) 金沢大学附属図書館短期アクションプラン（平成 25 年度作成）
- (資料 5) YAMAZAKI プラン 2014（抜粋）
- (資料 6) 金沢大学附属図書館規程
- (資料 7) 金沢大学図書館委員会規程
- (資料 8) 利用者アンケート（平成 26 年度 2 月実施）調査概要及び分析結果
- (資料 9) 利用者アンケート（平成 26 年度 2 月実施）で出された自由意見
- (資料 10) 金沢大学附属図書館資料整備要項
- (資料 11) 金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針
- (資料 12) 金沢大学附属図書館受入資料取扱基準
- (資料 13) 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項
- (資料 14) 中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書（平成 24 年 3 月 12 日、図書館委員会承認）
- (資料 15) 第 2 期中期目標・中期計画期間中における電子ジャーナル及びデータベースの利用実績及び選定基準についての評価（平成 26 年 3 月 13 日、図書館委員会承認） ※取扱注意資料のため未公開
- (資料 16) 柴田正良「自然科学系図書館の特別開館（24 時間利用）の中止について（持続可能な「自学自習」の確立に向けて）」こだま 167 号、2009
- (資料 17) 附属図書館関係各種統計（経年変化）
- (資料 18) 金沢大学附属図書館医学系分館将来構想計画：医学系分館将来構想検討ワーキンググループ報告書（平成 22 年 5 月）
- (資料 19) 金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項
- (資料 20) 附属図書館の活動（平成 20～26 年度）
- (資料 21) 附属図書館関係各種統計（文部科学省学術情報基盤実態調査による他大学との比較）
- (資料 22) 利用者アンケート実施要領及び設問

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書

平成21年3月

金沢大学附属図書館

目 次

はじめに	
ー自己点検・自己評価からあるべき図書館の姿を求めてー	3
自己点検・評価ワーキンググループ	4
附属図書館の現況	5
附属図書館の活動	6
評価の概要	8
評価の結果	10
評価報告	12
1 組織・管理・運営	12
1-1 運営組織	
1-2 事務組織と職員	
2 予算・経費	14
2-1 予算	
2-2 経費	
3 施設・設備	17
3-1 施設	
3-2 設備・機器等	
4 情報資源・資料	19
4-1 資料の収集	
4-2 図書	
4-3 雑誌・電子ジャーナル及び二次資料データベース	
4-4 金沢大学学術情報リポジトリ (KURA)	
4-5 目録情報とコンテンツの電子化	
5 サービス	23
5-1 開館日・開館時間	
5-2 情報リテラシー教育	
5-3 来館利用及び貸出冊数	
5-4 ILL (他大学等図書貸借及び文献複写)	
5-5 ミニ展示	
5-6 広報	
5-6-1 図書館出版物	
5-6-2 図書館ウェブサイト	

5-7	利用者満足度調査	
6	地域連携・社会貢献	27
6-1	県内図書館との連携	
6-2	市民への公開	
6-3	イベント等	
6-4	所蔵貴重資料等の提供	
7	図表・データ集	29
7-1	図	
7-2	表	
7-3	平成 18 年度大学情報基盤実態調査による他大学との比較	
7-4	定量的評価指標による基礎データ	
8	自己点検・評価コメント一覧	55

附属資料

- 1 金沢大学附属図書館利用者アンケート調査結果報告
- 2 ノートブック “LibQUAL+™ 2008 survey Kanazawa University Library”

はじめに

－自己点検・自己評価からあるべき図書館の姿を求めて－

ここに、みなさまにお届けするのは、平成 15 年度から平成 20 年度にかかる附属図書館の活動に関する自己点検・自己評価の結果です。この間に、われわれの図書館は、金沢大学の法人化という制度的変革と、自然科学系図書館の新設による 3 館体制の確立という大きな変化を経験しました。しかし、図書館が経験したのは、このような本学固有の状況の変化ばかりではありません。図書館一般の役割はごく最近においても大きな変貌を遂げており、それを受けて、「いずれ近いうちに図書館は、情報の管理を電子的に行うだけのヴァーチャルな館（やかた）となり、人が実際に集う場所としては消滅するだろう」と予言した図書館長経験者もいます。例えば、電子ジャーナルのような情報の電子化が進むことで、教員・研究者の来館への動機が弱まり、また学生の学習スタイルが集団でのディスカッションや協同作業へとシフトすることで、いわゆる「静謐空間」とは異なる発想の「勉強の場」が求められるようになりました。

しかし、この先、図書館はいかなる機能を果たすいかなる存在になるべきなのでしょう？まだ誰も未来の図書館の姿をはっきりと描くことはできないのですが、どのような形であれ、少なくとも今後何十年かは、図書館が大学の学術情報の基盤を担うことはまちがいないでしょう。

当面、附属図書館は、これから金沢大学が第二期中期目標・中期計画を定め、実行していくにあたって、その下での図書館の具体的な使命を果たしていかなければなりません。大きく言えば、われわれは、金沢大学憲章に基づく「金沢大学附属図書館の理念」に拠って立ち、教育にあっては「自学自習」、研究にあっては「卓越した知の創造」、地域貢献にあっては「北陸さらには東アジアにおける知の拠点」という目標を達成するための盤石の礎とならなければなりません。

そのためにいま何が具体的に求められているのか、それを本報告書は明らかにしてくれています。その意味で、本報告書は、今後ただちに図書館が実行すべき計画書のエスキース(esquisse)とも言えるものです。

平成 21 年 3 月

附属図書館長 柴 田 正 良

自己点検・評価ワーキンググループ

(座長)

柴田正良 附属図書館長

(委員)

西條清史	医学系分館長・医薬保健研究域医学系教授
宮下孝晴	資料館長・人間社会研究域歴史言語文化学系教授
西村 聡	人間社会研究域歴史言語文化学系教授
森本章治	電子情報学類長・理工研究域電子情報学系教授
笠原禎也	総合メディア基盤センター准教授
鈴木新一	情報部長
内島秀樹	情報部情報企画課長
川添真澄	情報部情報サービス課長

(活動記録)

- | | |
|---------------------|---|
| ・ 2008. 08. 06 | 第 1 回ワーキンググループ開催（評価要領，スケジュールの承認） |
| ・ 2008. 08～12 | 評価用データの収集 |
| ・ 2008. 09～10 | 利用者アンケート調査 |
| ・ 2008. 11～12 | 評価用資料とりまとめ |
| ・ 2008. 12. 24 | 第 2 回ワーキンググループ開催（委員の追加，評価シートによる評価方法の確認） |
| ・ 2008. 12～2009. 01 | 評価用資料による評価の実施 |
| ・ 2009. 01～02 | 評価シートとりまとめ，報告書案作成 |
| ・ 2009. 02 | 報告書案の検討 |
| ・ 2009. 03. 04 | 平成 20 年度第 3 回図書館委員会へ報告書案提出 |

附属図書館の現況

金沢大学附属図書館は、第Ⅱ期総合移転に伴う自然科学系図書館の新設にあたり、「金沢大学附属図書館の将来について」（平成12年9月図書館委員会承認・将来構想）において、中央図書館、自然科学系図書館及び医学系分館の3館体制による附属図書館の組織と役割分担を明確にした。これは、附属図書館が3つの地区で、それぞれの分野に最適化したサービスを効率的に行うため、管理部門を可能なかぎり中央図書館に一元化し、中央図書館が角間北地区へのサービスと中央館機能を、自然科学系図書館と医学部分館（現・医学系分館）はそれぞれの地区へのサービスを中心に運営するというものであり、平成17年度の自然科学系図書館のオープンによって、この3館体制の整備が完了した。

組織・管理面では、平成16年度の法人化をはじめとして、平成18年度の事務組織再編、平成20年度の8学部から3学域16学類への再編（以下、学域再編）など、非常に大きな変動があった。

予算面では、情報通信技術の進展を受け、①電子ジャーナルの本格的な導入、②二次資料データベースの拡充、③学生用図書の充実など、全学的観点から特別整備事業「電子ジャーナルの拡充等」の予算配分を受け、学術情報基盤の整備と資料費の共通経費化が進んだ。

教育支援面では、1年生全員を対象とした「大学・社会生活論」及び「情報処理基礎」の講義を図書館職員が分担することにより、図書館オリエンテーション及び情報リテラシー教育を効率的に行っている。

社会貢献面では、3館とも一般市民にも開放しており、館外貸出も実施している。県内公共図書館とは県立図書館の配送便を利用し、相互協力を行っている。また、第四高等学校をはじめとする前身校から受け継いだ特色ある資料群の展示会も定期的に資料館と共催で行っており、図書館講演会・シンポジウムと合わせて、地域社会への文化情報発信の役割を果たしている。

特筆すべきは、附属図書館を中心に構築・整備している「金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）」である。金沢大学の教育・研究成果を蓄積・保存し、それらを発信するために整備され、国立大学法人評価委員会による平成19年度実績評価結果の中でも、注目される活動の一つとして特記されている。

一方、施設・設備面では、築40年となる医学系分館と築20年となる中央図書館の老朽化、設備更新の遅れなどによる管理コストの増大、収蔵スペースの不足といった機能劣化がおきている。また、情報資源の電子化資料へのシフト、学生の学習行動の変容といった図書館利用の変化もある。

附属図書館の活動

文書等		
平成 12 年 9 月 「金沢大学附属図書館の将来について」		
平成 15 年 3 月 「金沢大学における学術雑誌の整備について～電子ジャーナル編～(提言)」		
年度	組織・運営・施設整備	サービス・イベント
平成 16 年度	・ 理事が附属図書館長を兼任 ・ 副館長を配置 ・ 情報部に情報企画課・図書館サービス課・情報基盤整備課の 3 課を設置 ・ 自然科学系図書館竣工 ・ 医学部分館入口自動ドア化, 身障者対応トイレ新設 ・ 国立情報学研究所 (NII) の遡及入力事業を受託 (H16-H18)	・ 中央図書館の土曜開館を 1 時間延長・日曜開館の開始 ・ 特別展を資料館と共催 ・ 「大学図書館への招待」開講
平成 17 年度	・ 工学部分館を廃止 ・ 自然科学系図書館仮オープン ・ NII 次世代学術情報基盤コンテンツ共同構築事業 (CSI 事業) を受託 ・ 自然科学系図書館全面オープン	・ 石川県図書館横断検索システムに参加 ・ 自然科学系図書館開館記念シンポジウム開催 ・ 「大学図書館への招待」開講
平成 18 年度	・ 理事の図書館長兼任解除 ・ 情報部を 3 課から 2 課に再編 ・ 情報企画課が旧情報基盤整備課の業務を引き継ぐ形で情報企画係を新設 ・ 図書館サービス課は情報サービス課となり, 5 係から 4 係へ ・ NII CSI 事業に応募, 採択 (H18-H19) ・ 図書館業務システム更新	・ 「大学・社会生活論」及び「情報処理基礎」開講 ・ 金沢大学学術情報リポジトリ (KURA) 公開 ・ 特別展 (四高) を資料館と共催 ・ シンポジウム (四高) を金沢まち博と共催
平成 19 年度	・ 中央図書館衛星放送コーナー機器更新, 正面玄関自動ドア化 ・ 自然科学系図書館自動化書庫内環境調査	・ 京都大学附属図書館と四高旧蔵教育掛図の画像公開について連携協定締結 ・ 特別展 (師範学校) を資料館と共

		催 ・ 宮本文庫開設 ・ シンポジウム（教員養成）を資料館と共催 ・ DRF 国際シンポジウム（大阪）開催（図書館長参加，地域組織委員担当，セッション座長，ポスター発表に職員参加） ・ DRF 地域ワークショップ（北陸地区）開催 ・ 附属図書館アクションプラン制定 ・ 図書館学生ボランティア発足
平成 20 年度	・ 社会貢献室を情報企画課から総務部へ移行（地域連携推進センター） ・ 医学部分館を医学系分館と改称 ・ NII CSI 事業に応募，採択（H20-H21） ・ 情報戦略本部の設置 ・ 自然科学系図書館特別開館の中止，H21 年度より 3 館の平日 22 時までの開館延長を決定 ・ 医学系分館 1F 机，椅子更新，照明器具交換，無線 LAN 設置 ・ 中央図書館冷房用室外機 1 基を冷暖用に交換 ・ 中央図書館無線 LAN と閲覧席 PC 用電源増設	・ 「大学・社会生活論」改良（教員の体験談を追加），「情報処理基礎」教材改良 ・ 図書館利用者アンケート実施 ・ SPARC Digital Repositories Meetings 2008（USA）で職員が日本の学術機関リポジトリについて報告 ・ 北陸銀行文庫開設 ・ 自然科学系図書館特別開館の中止に関する学生と館長との懇談会開催

評価の概要

1. 評価対象期間

平成 15 年度から平成 19 年度の実績を基本とした。一部平成 20 年度実施中の業績を含む。

2. 評価項目

組織・管理・運営
予算・経費
施設・設備
情報資源・資料
サービス
地域連携・社会貢献

3. 評価用資料

「平成 20 年度附属図書館自己点検・評価用資料」として、以下の資料を用いた。

- 評価項目毎に現況及び評価指標等を記載した資料（概ね目次の「7 図表・データ集」と同じ資料）（7-1, 7-2）
- 「平成 18 年度学術情報基盤実態調査報告」（文部科学省）を参考に作成した他大学との比較資料（7-3）
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index20/08032421.htm
- 「大学図書館における評価指標報告書（Version 0）」を参考に作成した定量的評価指標による基礎データ（7-4）
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/publications/reports/73.pdf>
- LibQUAL+TMアンケート結果ノートブック（附属資料 2）
- 金沢大学の中期目標・中期計画に基づく、附属図書館の年度計画及び業務実績報告書

4. 評価方法

各委員が評価用資料をもとに、評価シートを記入する形で行った。評価シートには、6つの個別評価と全体評価を次の4段階で評価することとした。

非常に良好である・・・十分な活動がなされている

おおむね良好である・・・改善の余地がある

ある程度良好である・・・改善の必要がある

不十分である・・・大幅な改善が必要である

また、「評価する点、今後改善すべき点、提言等」についてのコメントを項目毎に記入するか、または「その他」、「全般について」に記入することとした。

評価の結果

(総評)

金沢大学附属図書館の総経費・職員数は、大学規模からすると、決して潤沢ではない。附属図書館は限られた資源のなかで、この5年間で、自然科学系図書館の開館、金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）の公開、学術情報基盤の整備、情報リテラシー教育等に取り組んで一定の成果をあげている。しかし、これらの成果は、アンケート調査によれば学内構成員に必ずしも実感されていない。今後、ニーズの適切な把握とサービス機能強化により、改善を図るとともに、附属図書館が自ら活動を学内外に向けて積極的にアピールしていく必要がある。

今回の評価結果から、以下の①～③の項目については、学内合意を得ながら順次整備を進めることが重要となる。これに伴い、新たな「将来構想」の策定と「附属図書館の理念」の明文化を早急に行うことが肝要である。

① 環境整備

大学図書館に求められる機能は近年大きく変化し、現在の中央図書館及び医学系分館は、時代に即した新しいサービス展開が難しい。宝町地区の再開発における医学系分館改築の具体化を急ぐとともに、新たな将来構想に基づいて全ての地区の学生に快適な学習図書館機能を提供し、3館体制の実質化を図る必要がある。また、各地区の蔵書と利用形態に即した収蔵設備を確保する必要がある。特に中央図書館の収蔵状況は極度に悪化しており、このことがサービスへの人的資源の投入を阻害する要因ともなっている。

② 学術情報基盤整備

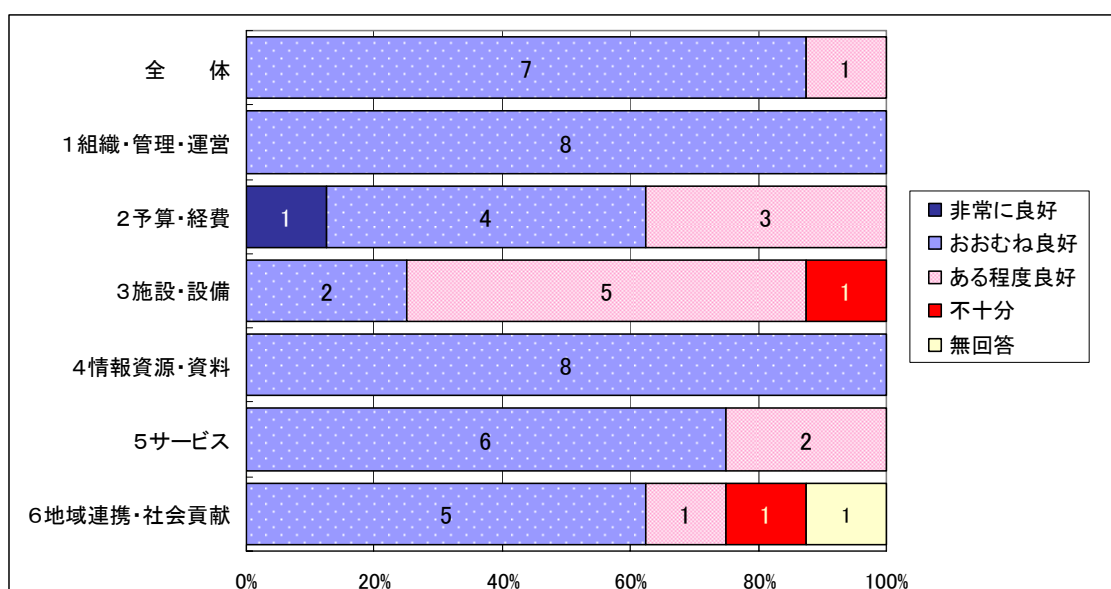
電子的資料及び学生用図書については、これまで重点的・計画的に整備されており、引き続き共通的経費の確保が望まれる。今後は、バランスを考慮し、総合大学として系統だった整備が求められる。

③ 情報発信

金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）の整備をさらに進めことによって、コンテンツの充実を図り、金沢大学の教育・研究成果の発信に努める。また、所蔵貴重資料等の体系的な展示及び電子化により、地域及び社会に還元していく必要がある。

(集計結果)

委員 8 名の評価シートによる評点の集計結果は下記の通りである。



全体評価としては、「おおむね良好である＝改善の余地がある」という結果であった。

項目別に見ると、1, 4 については一致した評価であるが、2, 3, 6 については評価が分かれた。もっとも評価が低かったのは、3 施設・設備である。

詳細については、次頁からの「評価報告」で項目毎に報告する。なお、評価者のコメントは、「8 自己点検・評価コメント一覧」としてまとめて掲載する。

評価報告

1 組織・管理・運営

(評価)

おおむね良好である(8)

1-1 運営組織

【3館体制と館長・分館長】

附属図書館は、中央図書館・自然科学系図書館・医学系分館の3館体制となっており、館長及び副館長に加えて、医学系分館には医学系分館長が置かれている。組織上、自然科学系図書館は分館ではなく、中央図書館に含まれる(図2)。

平成16年度～17年度については、図書館長は情報担当副学長の兼任であったが、平成18年度以降は教授をもって充てることとなった。また、平成20年度の学域再編時に、図書館長は教育研究評議会メンバーから外れた。現在の図書館長は学類長のポストで同会議に出席しているが、“図書館長の立場で”出席することが重要と思われる。

平成20年度現在、図書館長がメンバーとして出席する主な全学会議は、情報企画会議、財務企画会議、キャンパス整備委員会である。

【図書館委員会】

附属図書館の運営等に関する審議は、図書館委員会で行っている。この委員会は、平成16年度の法人化の際、情報企画会議の専門委員会として位置づけられた。図書館固有の議題を扱い、特別なことがない限り情報企画会議での再審議は行わないこととしている。

図書館委員会の下に作業部会を置くことができることから、年度毎に必要な部会等を設置している。主な部会等としては、学生用図書選定部会、自然科学系図書館運営部会、学術情報基盤整備ワーキンググループがある。

なお、医学系分館は、医学図書館運営部会により運営されている。

1-2 事務組織と職員

【事務組織の変遷】

平成 20 年度現在、附属図書館業務を担当するのは、情報企画課の一部と情報サービス課である（図 3）。

平成 16 年度の法人化に際し、附属図書館事務部（2 課）は、事務局情報部へ再編され、情報基盤整備課を含む 3 課となった。情報企画課は附属図書館の管理系業務の他に、資料館業務及び社会貢献室業務を所掌した。

平成 18 年度には、情報基盤整備課が廃止されて情報部は 2 課となった。この時点で情報企画課には、旧情報基盤整備課の業務も加わったことから、情報サービス課を 5 係から 4 係へ再編（参考調査係を廃止）し、情報企画課に情報企画係を新設した。

平成 20 年度には、社会貢献室（現・地域連携推進センター）業務を情報企画課から総務部に移行した。また、本学の情報化を戦略的に推進するために情報戦略本部が新設され、総合メディア基盤センター等の協力を得て、情報部の情報企画課が事務を担当することとなった。

【図書館職員】

附属図書館の職員数は、合計 43 名（うち非常勤職員 16）である。1 人あたりの学生数は 249.8 人であり、全国平均の 1.51 倍（平成 18 年度文部科学省大学情報基盤実態調査、以下、H18 実態調査）である。

旧帝大のような大規模大学と異なり、図書館職員の人事管理を一元化していること及び 3 館体制により、管理系の業務を中央図書館に集中し、複数部局に分散していたサービスポイントを 3 館に集約してきたことが、少人数による運営を可能にしている。その反面、利用者と図書館の距離が出来て、きめ細かな対応がしにくいという側面も併せ持つこととなった。

法人化後の 5 年間で、情報基盤整備を含む情報関連業務が情報企画課の中で比重を大きくしている。特に平成 20 年度の情報戦略本部の設置により、図書館職員が本学の情報化推進に主体的に関与しつつある。一方、図書館の仕事に携わる職員は数に現れない形で漸減している。

教育支援としての情報リテラシー教育の充実や学術機関リポジトリの構築・運営など、附属図書館が新しく取り組むべき業務は増えている。また、国立大学図書館協会の活動や国立情報学研究所との協働事業にも積極的に参加し、各種講習会への講師派遣及びシンポジウム等での事例報告にも取り組んでいる。さらに、学術機関リポジトリの普及活動においては、国際会議の企画運営や全国で開催される地域ワークショップの運営に寄与している。

このような状況のなかで、図書館職員が専門職としての能力を常に向上させることはもちろんのことであるが、大学職員としてより広い視野を持った職員の確保や、育成体制を確立していくことも必要になってきている。

2 予算・経費

(評価)

非常に良好(1)	おおむね良好である(4)	ある程度良好である(3)
----------	--------------	--------------

2-1 予算

【基礎的予算】

附属図書館に配分される基礎的な予算項目は、以下のとおりである（人件費は別途配分）。管理経費及び図書館事業費は毎年数%ずつ削減されている。

区 分	用 途
特別管理経費 (部局等特別管理運営費)	中央図書館・自然科学系図書館の光熱水費等
教育研究支援施設事業費 (図書館事業費)	部局所要額（業務委託費・施設保守等経費・消耗品費・電子計算機借料・図書費・雑誌費・製本費等）
学長戦略経費（設備充実費）	老朽化設備の計画的更新

設備充実費は、既設設備等の計画的な更新のための経費として配分されているが、3館合わせて年間250万円に過ぎず、絶対的に不足している。そのため、耐用年数を過ぎた機器の修理等にかかる費用が経常経費を圧迫している。

また、図書館事業費には、施設の管理費と図書・雑誌の購入費の両方が含まれるため、予算の削減はサービスと資料整備の双方に大きく影響を与える。平成20年度には部局長戦略経費が配分されたが、実質的に予算が増加しているわけではないので、戦略的な使用は困難である。

【全学及び図書館以外の部局負担予算】

上記に加え、資料費予算等には次のものがある。

区 分	用 途
部局経費からの振替	電子ジャーナル経費部局負担分
特別整備事業 (電子ジャーナル等の拡充)	電子ジャーナル及び二次情報データベースの整備・学生用図書費拡充・リポジトリ構築
科学研究費間接経費	Web of Science 導入
教育経費（留学生経費等）	留学生用図書購入、就職支援図書購入

電子ジャーナル経費部局負担分については、毎年、学術情報基盤整備WGでその配分方法について議論している。部局負担総額は増えていないが、全ての部局が納得できる配分方法を決めることは極めて困難であり、部局からの徴収によらない予算措置が強く望まれる。なお、学術情報基盤整備計画に基づく特別整備事業費の措置により、電子ジャーナルの共通経費化（部局負担総額の縮減）、二次情報データベースの充実、学生用図書の充実、学術機関リポジトリ構築を実現している。

「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移（特別整備事業年次計画）		
平成 17 年度	9,000 千円	法人化以前の文科省からの配分額と同等
平成 18～19 年度	44,000 千円	全学経費と部局負担の比率を変更
平成 20～21 年度	82,000 千円	整備計画による予算措置，全学経費の増

【その他の予算】

その他の予算（学内措置及び外部資金）として、以下の経費を獲得している。

区 分	用 途
キャンパスインテリジェント化経費 （学内応募）	IT 環境整備・所蔵目録情報データ電子化等
学長戦略経費（学内応募）	シンポジウム・展示会開催等
次世代学術コンテンツ基盤共同構築 事業（国立情報学研究所）受託事業	学術機関リポジトリ構築，平成 17 年度から受託 （平成 18 年度以降応募・採択）

2-2 経費

【大学総経費に占める割合】

平成 19 年度の図書館総経費は 495,392 千円である。大学総経費に占める割合は 1.09%，年々増加傾向にある（図 4）。図書館総経費のうち 61%が運営費であり，残り 39%が資料費（部局購入の資料費は除く）である。

【運営費と資料費】

運営費については、固定費の割合が高い。施設・設備の老朽化に伴う維持管理費が増大し、施設環境整備に苦慮している。また、光熱水費の抑制にも限界があり、過度な削減はサービス環境の悪化につながりかねない。

運営費と比較すると、資料費の伸びが大きい（図 5）。資料費については、電子ジャーナルを中心に共通経費化を進めながら同時に、大学全体で手当とする額を増やす努力も行っている。部局からの移算額は増加しているものの（図 6）、特に外国雑誌の部局経費による執行額は平成 16 年度以降大きな変化はない。今後は、共通経費の拡充（2-1）によって、予想される価格上昇分を吸収して他部局からの移算額を押さえつつ、研究大学に相応しい電子的資料の拡充をはかるべきである。受益者負担（ログ実績による課金）の導入については、研究費を持たない大学院生等の利用の抑制につながる可能性もあり、今後も慎重に検討する必要がある。

図書購入費のなかでも、電子資料購入費の比率の伸びが大きい（図 7）。これは、平成 16 年度の学術情報基盤整備計画に基づき、電子ジャーナルの整備を積極的に進めた結果である。

学生一人あたりの学生用図書費は、平成 16 年度の 2 倍以上の 1,590 円になっているが（図 8）、まだ学生 1 人あたり 1 冊には達していない。

3 施設・設備

(評価)

おおむね良好である(2)	ある程度良好である(5)	不十分(1)
--------------	--------------	--------

3-1 施設

附属図書館の3館の施設概要は、表5の通りである。自然科学系図書館の竣工により大幅な施設・設備の充実が図られた。一方で築40年となる医学系分館の老朽化が著しく、築20年の中央図書館は収蔵能力が限界に近づいており、機能劣化が進んでいる。

3館体制下で、各学域・研究域に相応しい学習支援機能・研究支援機能・収蔵機能を勘案した将来構想を新たに策定し、それに必要な水準の施設・設備を鋭意整備していくことが望まれる。また、新たなサービスや設備については、費用対効果と必要性を考慮し、学内合意を得た上で、実現可能な部分から順次計画的に実現する方策をさぐる必要がある。

【中央図書館】

中央図書館では、学域再編に伴い、各地区の研究室等からの返納図書が急増し、収蔵能力が限界に達しつつある。当面は、重複資料の廃棄と自然科学系図書館の自動化書庫の有効活用によって凌ぐことができるが、学術資源を保存するという図書館の重要な機能を維持するために、将来的には増築が必要になる。

また、学生の学習行動の変化に対応した施設の環境整備（機能及びスペース等）が必要であり、ラーニングコモンズ（PC等を利用してグループでディスカッションしながらの学習やプレゼンテーション演習、論文・レポート作成に支援を受けられる施設）の導入も検討する必要がある。従来の静謐空間だけでは、現在の教育に合った学習支援機能を果たすことは難しい。

図書館は自習室を提供する場所ではないが、角間北地区には南地区と比較して、学生が安心して落ち着いて学習できる、あるいは飲食をしながら寛ぐことができるスペースが少ない。全学的な学生アメニティ向上の面からも中央図書館機能を考える必要がある。

【医学系分館】

医学系分館は、宝町地区再開発の臨床研究棟整備計画からはずれており、建て替え計画はいまだ具体化していない。同規模大学である新潟大学や千葉大学の医学図書館と

比較すると極度に見劣りする。熊本大学でも、平成 20 年度に新図書館が建設されている。

当面は、補修による住環境の向上を図る（平成 20 年度から 3 年計画）とともに、同地区のキャンパスマスタープランに着実に組み入れてもらうことが重要である。そのためには、施設整備計画の動向を注視しつつ、施設管理部への継続的な働きかけが必要である。同時に、医学系の学習・研究支援拠点としての図書館機能を早期に検討しておく必要がある。

【自然科学系図書館】

自然科学系図書館は、自動化書庫のメンテナンスを含め、PFI (Private Finance Initiative) 方式により運営されている。平成 17 年度の開館から 3 年を経て、管理委託業者との調整等、運用面も落ち着いてきたが、自動化書庫内を含めた換気、空調、照明調節の運用等に課題を残している。

なお、特別開館（24 時間利用）については、セキュリティ面の問題等により、平成 21 年度から中止する。

3-2 設備・機器等

安定した図書館サービスを提供するためには、設備・機器等を計画的に整備し、運用することが欠かせない。

例えば、中央図書館の電動書架が耐用年数に近づいてきており、メンテナンスに相当のコストが見込まれている。最悪の場合、故障により当該箇所の資料が利用不可能になる事態も考えられる。その他にも自動貸出装置や無断持ち出し防止装置など、高額な機器が順次更新時期を迎えることとなるが、経常的に配分される学長戦略経費（3 館合わせて年間 250 万円）でこれらの設備更新を遅滞なく計画的に実行していくことは困難であり、全学の基盤整備としての枠組みに組み入れていく必要がある。

附属図書館の情報関連設備・機器については、利用者用 PC のウィルス対策や OS の更新などのセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立が課題であるとともに、無線 LAN、情報コンセント及び電源の整備にあたっては、キャンパスインテリジェント化経費による拡充が望まれる。

また今後、多機能 IC カードの導入計画も注視しなければならない。

4 情報資源・資料

(評価)

おおむね良好である(8)

4-1 資料の収集

附属図書館は、前身校から受け継いだ図書資料や暁烏文庫をはじめとする歴史的に貴重かつ特色ある資料群を所蔵している。これに加えて、法人化以前には、大型コレクションを要求することで研究用図書を整備してきた(表 11, 12)。しかし、現在の学術情報資源収集の重点は、紙媒体から電子的資料に大きくシフトしている。

大学設置基準第 38 条に「教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする」とあるように、図書館資料は継続的・系統的に整備する必要がある。これを一旦怠れば、後日回復することは相当の困難を伴う。

図書館資料整備は、設備と同様に将来への投資である。ILL(他大学等図書貸借及び文献複写)で学内に所蔵のない資料も取り寄せは可能であるが、学習・研究に必要な資料を手に入れる際に、時間的・経済的に余分なストレスをかけることは、大学経営にとってもマイナスである。とりわけ学生にとっては、授業で利用する資料、学習に必要な図書が欲しいときに、すぐ手に入る環境を整備しておくことが大切であり、図書館が役に立ったという印象を早い時期に得ることが、自学自習の精神を養うには有用である。

限られた予算のなかで、すべての需要を満たすことは不可能だが、できるだけ効率的に必要な資料を整備するためには、利用者ニーズを把握し、少しでもミスマッチを無くす方策が必要である。

4-2 図書

【蔵書数】

平成 19 年度末現在の蔵書冊数は、1,758,256 冊(学生一人当たり 167 冊、教員一人当たり 1,546 冊)である。平成 16 年度からの法人化に伴い、消耗品を大量に資産登録したため大幅に伸びた。しかし、平成 17 年度以降は重複図書の廃棄が受入冊数を上回ったため減少に転じている(図 10)。特に平成 20 年度からの学域再編に伴い、これまで研究室等に配置していた図書の返納が急激に増加し、大量の重複図書を廃棄している影響と考えられる。今後も、教員の退職等により、この傾向は続くものと予測される。

【年間購入冊数】

研究費による購入を含む年間購入図書冊数は、平成 19 年度 15,633 冊（学生一人当たり 1.5 冊，教員一人当たり 13.8 冊）である（図 11）。法人化，自然科学系図書館新営及び小立野地区からの移転という特殊要因があるものの，傾向としては，研究費による図書購入が横ばいのなか，学生用図書の購入増により冊数が増加している。

【学生用図書】

学生用図書の平成 19 年度受入実績は，4,284 冊である。学生一人当たり 0.4 冊となっている（図 12）。平成 15 年度は，文部科学省の一時的な予算措置による増加であるが，法人化後は図書館で計画的に整備できるよう徐々に学内措置され，冊数も増加している。

中央図書館と自然科学系図書館の学生用図書の選定については，図書館委員会の下に置かれた「学生用図書選定部会」で 4 半期毎に行っている。医学系分館については，独自に選定を行っている。

学生用図書費を継続的に確保していくことは，図書館の蔵書構築に必須であり，学生の様々なニーズに対応するためには，より柔軟な収書体制を検討する必要がある。また，シラバス掲載図書の整備については，シラバスの締切りから講義開始までにタイムラグがあるため，実際の使用図書とズレが生じている可能性があり，フォローが必要である。学生及び教員からの学生用図書購入依頼についても随時受け付けているが，情報が行き渡っておらず，周知が必要である。

今後，FD・ICT 教育推進室と連携協力し，新アカンサスポータルの活用を検討に加えて，平成 20 年度に本学と北陸銀行との包括的連携協定に基づき寄贈された「北陸銀行文庫」の拡充も継続的に進める必要がある。

4-3 雑誌・電子ジャーナル及び二次資料データベース

【電子ジャーナル】

「金沢大学における学術雑誌の整備について～電子ジャーナル編～（提言）」（H15.3.13）に基づき，計画的に整備を進めた結果，平成 19 年度は 5,375 タイトルの利用が可能となり，平成 15 年度比の 351%となっている（図 14）。

なお，平成 20 年度の契約電子ジャーナルは 5,767 タイトルである（表 9）。

【購読雑誌数】

紙媒体の購読雑誌数は，平成 19 年度は 2,303 タイトルであり，平成 15 年度比 56.21%

となっている（図 13）。多くは電子ジャーナルへのシフトによる減少であると考えられる。

【二次資料データベース】

本学では、全国でも比較的早い時期にリンクリゾルバ（=電子コンテンツへの誘導データベース；平成 17 年度導入時は Article Linker，平成 21 年度 WorldCat Link Manager に変更）を導入している。平成 17 年度には Scopus，平成 18 年度には Web of Science を導入し、電子ジャーナルの利便性の向上を図っている。

データベースの利用状況は（表 10）に示す。

利用者アンケートで最も理想と現実のギャップが大きかった項目が「学習・研究に必要な雑誌が整っている」である。また、「私の研究に必要な雑誌が、印刷版または電子ジャーナルとして収集されている」も低評価となっているので、注意しなければならない。

今後、研究大学として必要な中核的雑誌（例：Nature 及び姉妹誌，Cell Press 全体タイトル等）の整備が求められる。

4-4 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）

平成 18 年 6 月、本学教職員等が教育・研究活動の成果として生み出した学術論文、紀要等の全文を登録し、インターネットを通して世界中から利用可能とする「金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）」を公開した。KURA（Kanazawa University Repository for Academic Resources）の登録状況・利用状況とシステム構成図は、図 15, 16 に示す。コンテンツ収録数は 8,516 件（平成 19 年度末現在）、年間ダウンロード数は 90,173 件（平成 19 年度年間実績）となっている。

平成 19 年度は、教育研究等実績データベースから送信されたメタデータ及び全文ファイルを KURA に登録後、各業績の URL を出力し、返戻する機能を開発した。

国立大学法人評価委員会による「国立大学法人金沢大学の平成 19 年度に係る業務の実績に関する評価結果」の中で、注目される活動の 1 つとして、KURA が特記されている。

また、KURA の事例報告やポスター発表を行うとともに、日本の大学機関リポジトリの活性化の活動（DRF；Digital Repository Federation）に企画委員として主体的に参加し、各地で開催する地域ワークショップ及び国際シンポジウムの企画運営に携わっている。本学においても DRF 地域ワークショップ（北陸地区）を開催した。

4-5 目録情報とコンテンツの電子化

【目録情報の電子化】

研究室等に配置されている 1989 年以前受入の図書は、OPAC（蔵書検索システム）未登録となっており、オンラインで検索できない。これら未登録資料は、返納時に中央図書館で入力しており、徐々に登録が進んでいる。医学系分館でも、職員が蔵書の入力を順次進めている。OPAC 登録率は、平成 19 年度末で 67.25%である（7-4(a 2.4)）。

図書館配置の図書にも未入力資料が残っており、平成 16 年度から 18 年度にかけて国立情報学研究所（NII）の委託事業「遡及入力事業」で資金を獲得して順次、第四高等学校旧蔵資料等の目録情報電子化を実施してきた。引き続き他の前身校旧蔵資料及び和古書の目録の電子化にとりかかる予定であったが、平成 20 年度以降は NII の委託事業の対象が変更になり、資金獲得が困難となった。そのため、これらの図書の登録が停滞していることから、今後も学内のキャンパスインテリジェント化整備計画に応募するなど、継続的な経費確保に努める必要がある。

和古書については、資料の保存と利用・公開の両面の観点から目録の電子化と同時に画像データのデジタル化も視野に入れて検討する必要がある。

【コンテンツの電子化】

平成 19 年度には、第四高等学校旧蔵教育掛図 250 点を京都大学図書館機構との協定に基づき、京都大学電子図書館から公開している。

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/kakez4ko/index.html>

他の多くの貴重資料についても、総合メディア基盤センターとの連携により早期に電子化し、金沢大学のサイトから公開するとともに、教材等に活用することが望まれる。

5 サービス

(評価)

おおむね良好である(6)	ある程度良好 (2)
--------------	------------

5-1 開館日・開館時間

【開館日数・開館時間】

平成 15 年以降の開館日数及び時間の推移は、以下の通りである。詳細は 7-4 (a3. 3)。なお、現在の開館状況は、表 13, 14 の通りとなっている。

- ・ 平成 16 年 6 月 中央図書館の土曜開館の 1 時間延長及び日曜開館の開始
- ・ 平成 17 年 4 月 自然科学系図書館開館

平成 20 年度において、全国 86 国立大学法人中、午後 8 時で閉館している中央図書館は 16 館であり、8 学部以上を有する大学では金沢大学のみとなっている。これは同規模大学と比べてもあきらかに劣っている（図 17）。また、利用者アンケートでも、開館時間に対する不満の声が多い。このような状況を改善するため、平成 21 年度から 3 館の通常期平日の開館時間を午後 10 時まで延長することとした。

【特別開館】

自然科学系図書館では、開館以来、自然科学本館のカードキー所持者が随時入館できる、いわゆる 24 時間開館を続けてきた。規則上は、図書館長が利用できる対象を定めることになっているが、実際にはカードキーの発行システム上、図書館で利用者をコントロールすることができない状態であった。さらに、セキュリティ面、照明・空調等の環境面及び学生の生活習慣面などの問題があり、平成 21 年度から中止することとした。

5-2 情報リテラシー教育

【ガイダンス】

ゼミ等に合わせて行うガイダンスは年 9 回開催し、157 名参加（平成 19 年度実績）した。また、留学生ガイダンスは年 2 回開催し、各約 30 名参加（同）した。その他大学院人間社会研究科、病院の新採用職員等対象のガイダンスの一部を図書館職員が担当

している。

【学生ボランティアによるサポート】

平成 20 年度より試験的に学生ボランティアによる新入生サポートを開始した。初年度の登録ボランティアは 9 名。利用案内・利用登録補助などを行った。

【説明会等】

Web of Science, Scopus 等のデータベース利用に関する説明会を年間 7 回開催し、149 名が受講した（平成 19 年度実績）。

【授業との連携】

平成 17 年度までは、教員と図書館職員でオムニバス形式の授業を開講し、年間 60 名の受講者を受け入れた。

平成 18 年度に共通教育機構がカリキュラムを改変する際、新しく設けられた「大学・社会生活論」（1 コマ）及び「情報処理基礎」（1～2 コマ）を図書館職員が担当し、全新生を対象に図書館情報リテラシー教育を行っている（表 15）。このような活動によって、全学生に対して効率よく図書館の利用法や OPAC 等データベースの使い方を周知することができるようになった。また、平成 20 年度に新たに設けられた人間社会学域 1 年生対象の学域共通科目「大学・学問論」（受講者約 110 名）に参加し、「学問と図書館の歴史」のテーマで図書館職員が 1 コマの講義を行った。

平成 20 年度は、学長戦略経費の配分を受け、「新入生の足を図書館へ」というコンセプトの下にビデオ教材「図書館ナビめざせ、達人！ー」（英語字幕つき、平成 21 年度から使用）とパンフレットの作成を行った。今後、FD・ICT 教育推進室との連携協力のもとで、ビデオ教材をベースにした e-ラーニング教材の作成も予定している。

5-3 来館利用及び貸出冊数

全体の入館者数は、平成 17 年度を底に緩やかに回復しているが、小立野地区から角間南地区への移転以前の平成 15 年度の値には達していない（図 18）。このことは、電子的資料へのシフトによる教員及び大学院生の利用形態の転換が原因の一つと考えられる。同様に学生の貸出冊数が回復傾向にあるのに対し、平成 19 年度の教員の貸出冊数は、平成 15 年度の 60%程度に減少している（図 19）。

5-4 ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）

現物貸借については、平成 17 年度（角間南地区への移転の年）を除けば、受付・依頼ともに概ね減少傾向にある。平成 17 年度に「借りる」が「貸す」を上回り、その比率は年々上昇する傾向にある（図 20）。

複写については、平成 17 年度のみ「依頼＝取寄せ」が「受付＝提供」を上回っているが、これは移転による影響と考えられる。他の年の比率はほぼ横ばいである。

全体として減少しているのは、電子ジャーナルの普及によるところが大きいと考えられる（図 21）。

5-5 ミニ展示

中央図書館では、カウンター前のホールを利用してミニ展示を随時開催し、所蔵資料の紹介と利用促進を図っている（表 16）。目につく場所に表紙が見える形式で展示することで、学生が図書を手に取り、実際に借りていくという効果が見られる。

「館長おすすめ図書コーナー」は、平成 20 年度から異なる研究領域の教員のリレー方式による「教員おすすめ図書コーナー」と衣替えし、ウェブサイト上での電子展示も開始した。また、平成 20 年度より学生ボランティアによる展示も開始し、好評を得ている。

5-6 広報

5-6-1 図書館出版物

附属図書館の広報出版物は以下の通りである。今後、広報対象に合わせて印刷物の特性を生かしつつ、ウェブサイトとの使い分けをしていく必要がある。

【図書館概要】

隔年発行，発行部数 200，学内及び来客に配付。

【広報誌「こだま」】

年 3 回発行，発行部数 2,000（新入生特集は 5,100），学内外に配布。

平成 20 年度から，学外への冊子の郵送配付は中止し，電子メールによる通知のみとした（本文は図書館ウェブサイトで公開）。平成 20 年 12 月現在，166 号発行。

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kodama/index.html>

【メールニュース「ひかり」】

附属図書館の電子メールニュースとして、全教員に随時送信発行している。

従来、図書館報「こだま」よりも速報性のある広報誌としてリーフレット形式で発行してきた「ひかり」（附属図書館サービス速報）を、より速報性を高め、印刷及び配布の効率化を図るために電子メールに切り替えたものである。創刊は、平成 18 年 12 月。平成 20 年 12 月現在、36 号発行。

http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/hikari_mail/index.html

5-6-2 図書館ウェブサイト

平成 19 年度末、図書館ウェブサイトホームページのリニューアルを実施した。今後の課題として、コンテンツの充実、多言語化、新アカンサスポータルとの連携（平成 21 年度）、ユーザビリティの向上（ログの採取と分析）が挙げられる。

5-7 利用者満足度調査

利用者満足度調査については、次の附属資料 1，2 を参照のこと。

- 「金沢大学附属図書館利用者アンケート調査結果報告」
- ノートブック “LibQUAL+™ 2008 survey Kanazawa University Library”

6 地域連携・社会貢献

(評価)

おおむね良好である(5)	ある程度良好(1)	不十分(1)	未回答(1)
--------------	-----------	--------	--------

6-1 県内図書館との連携

県内公共図書館とは、県立図書館の配送便により、資料の相互貸借を行っている（表17）。平成17年度に石川県図書館横断検索システムに本学 OPAC も参加した。

石川県内横断検索サイト：

<http://www.library.pref.ishikawa.jp/htdocs/cross/index.html>

6-2 市民への公開

平成13年度より石川県内に在住または通勤通学する市民及び本学の卒業生、元教職員を対象に館外貸出を開始した。また、平成14年度に石川県公共図書館協議会との間で資料の貸借等の相互協力に関する覚書を締結した。さらに、平成16年度より館外貸出の対象者を石川県内在住・通勤・通学から北陸3県に拡大した。

利用範囲は、館内閲覧、複写、レファレンス・サービス、図書館・分館所蔵資料の貸出である。

【学外者の利用状況】

平成19年度の入館者数は4,133名であった。貸出冊数は3,501冊で貸出全体の3.16%を占めた。入館者数・貸出冊数とも増加傾向にある（図22）。

平成17年度入館者の減少は、小立野地区から角間南地区への移転作業期間中に一部資料が使用できなかったことが原因と推測される。なお、登録者数は微増傾向にある。

6-3 イベント等

資料館が中央図書館の建物内に併設されているという特色があることから、双方の資源を補いあう形での共催展示は効果的である。今後は、図書館資料の体系的な展示・公開と情報の発信についても検討していく必要がある。ただし、イベントの開催につい

では、費用対効果と他業務のとのバランスを考慮して、過度な負担とならないよう精選して計画することが必要である。

【シンポジウム】

隔年で特別展と交互に開催している(表 18)。ただし、平成 18 年度は第四高等学校開学 120 周年記念イベントを開催したため、平成 17～19 年度は連続開催した。

【講演会（暁烏記念講演会）】

毎年、暁烏文庫の寄贈者である暁烏敏(あけがらす はや)師の功績を称える暁烏記念式と記念講演会を開催している(表 19)。平成 21 年度に第 60 回を迎えるため、これを機に今後の在り方について検討が必要になっている。

【特別展】

資料館と共催の特別展を 2 年に 1 度開催している(表 20)。ただし、平成 18 年度の第四高等学校開学 120 周年記念イベントの開催に引き続いて、平成 19 年度に同じく前身校である師範学校等に関する展示会を開催したため、平成 18～20 年度は連続開催となった。

【その他】

平成 20 年度の国際学類発足にあたり、EU フレンドシップウィークイベントに来県したルクセンブルク公使を招いて講演会(特別授業)を行った。

6-4 所蔵貴重資料等の提供

地域、国内の博物館等やテレビ局からの求めに応じ、展示会への出陳及びテレビ番組等への資料提供等を行っている(表 21)。

7 図表・データ集

7-1 図

図1 運営組織図(平成20年4月1日現在)

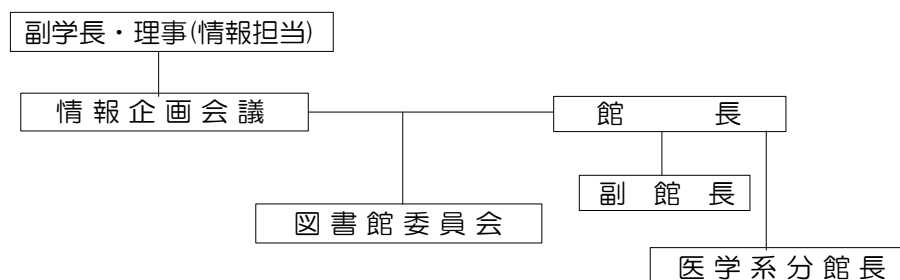


図2 附属図書館組織図

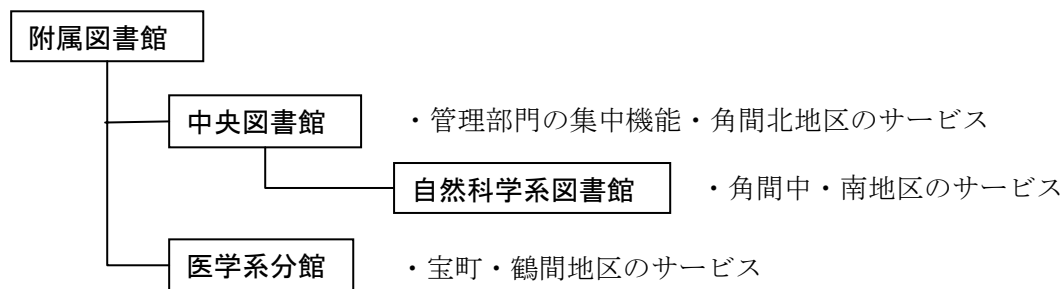
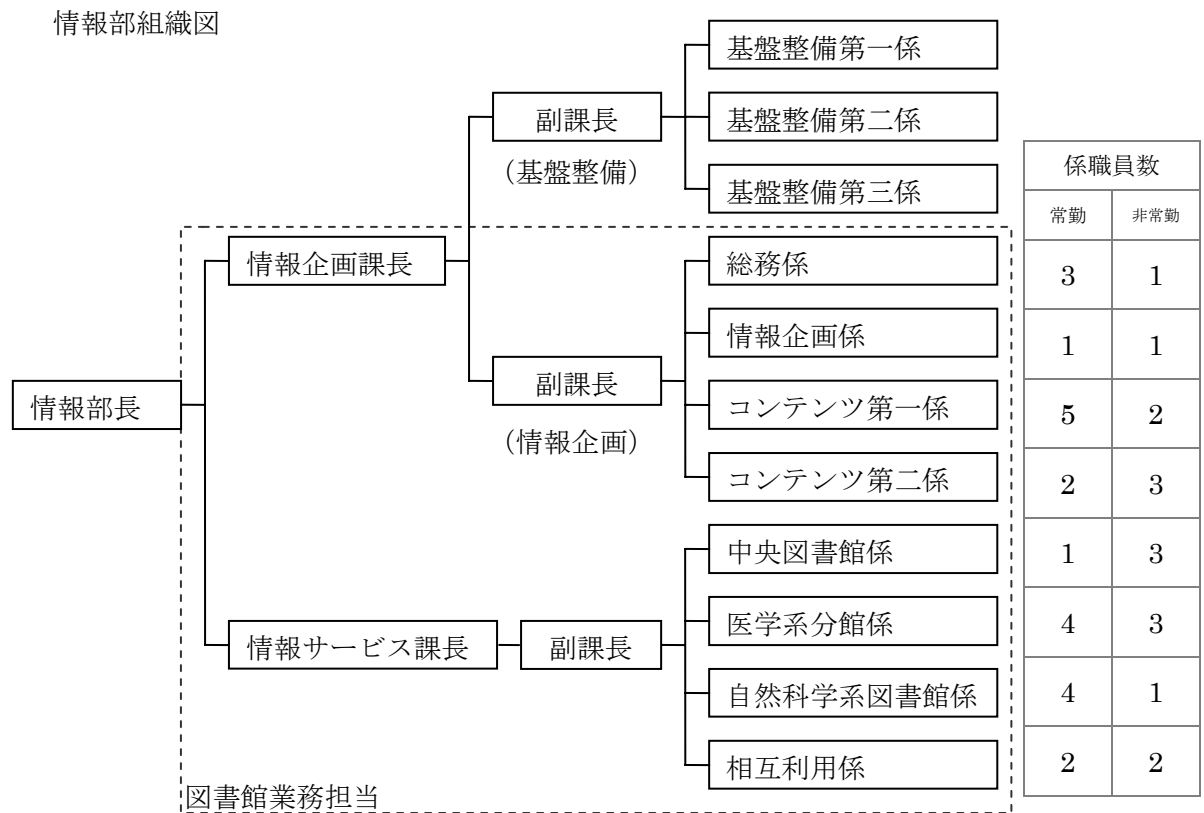
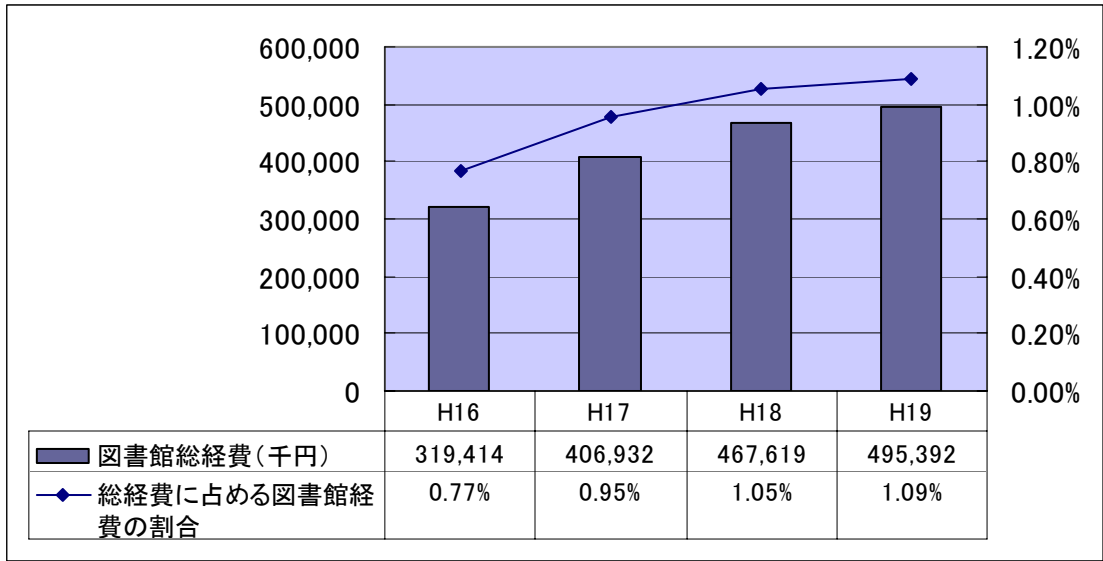


図 3 事務組織図



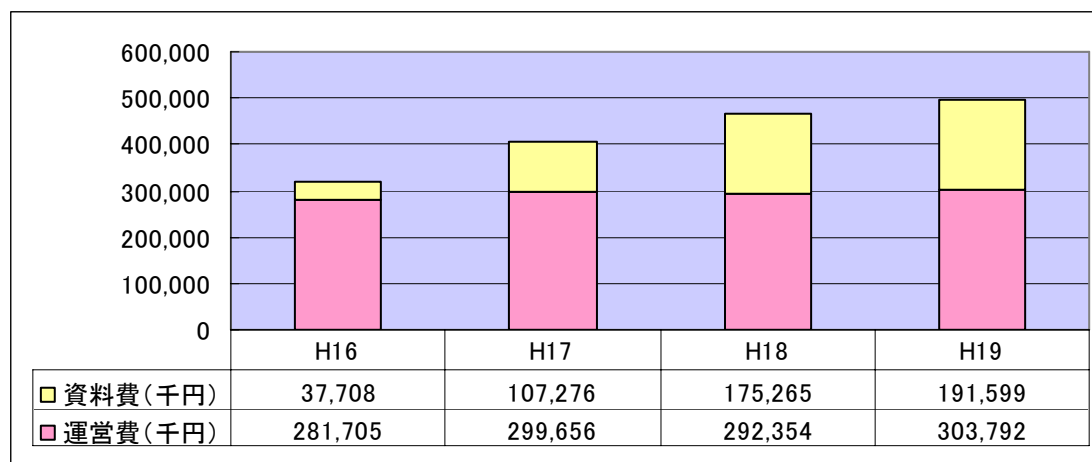
平成20年4月1日現在

図 4 大学総経費に占める図書館総経費の推移(平成16～19年度)



注)「大学総経費」は財務諸表の「経常費用」、図書館総経費は部局で支出する資料費を除く。

図 5 資料費と運営費の推移(平成 16～19 年度)



注) 平成 16 年度の運営費は, 特殊要因の移転事業等経費 143,993 千円を除いた額

図 6 資料費の出所別比率の推移(平成 16～19 年度 単位:千円)

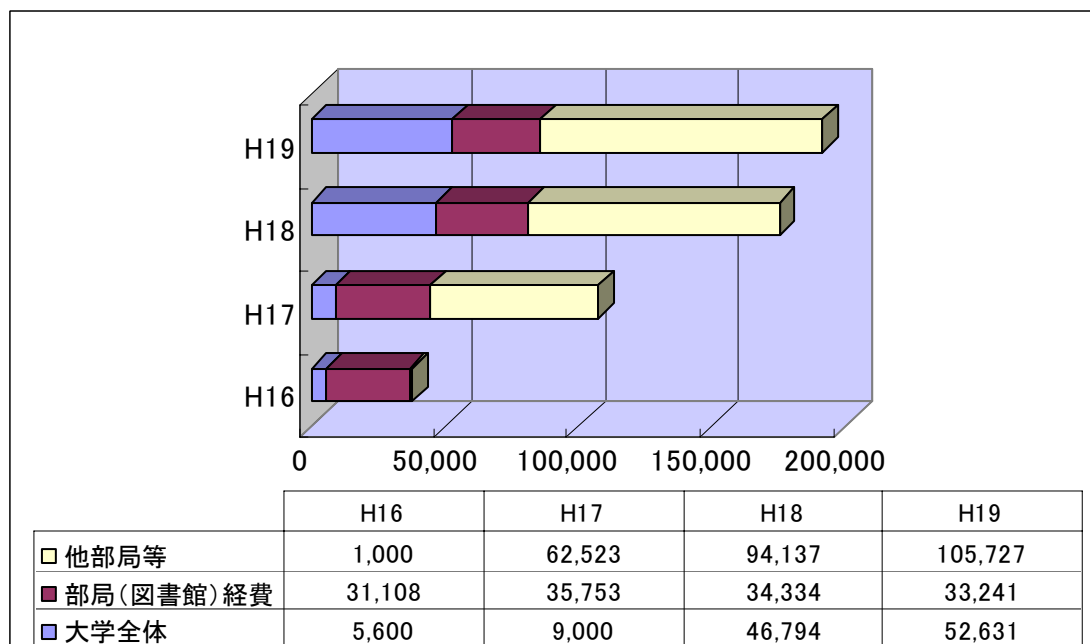


図 7 資料費の種類別比率の推移(平成 16～19 年度)

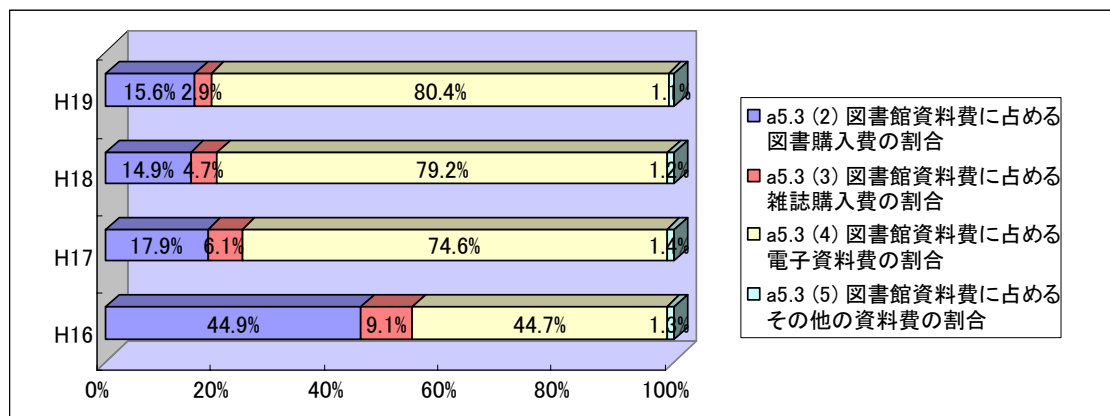


図 8 学生一人あたりの学生用図書費の推移(平成 16～19 年度 単位:円)

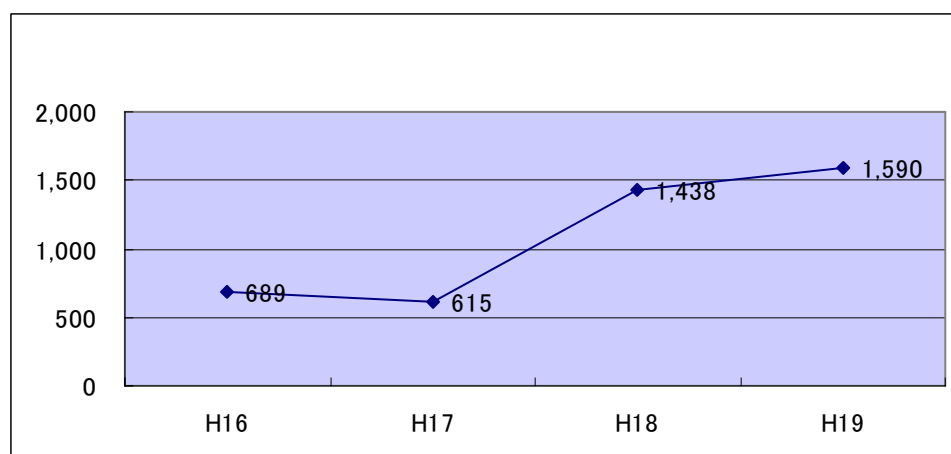


図 9 図書館総経費に占める図書館資料費の割合の推移(平成 16～19 年度)

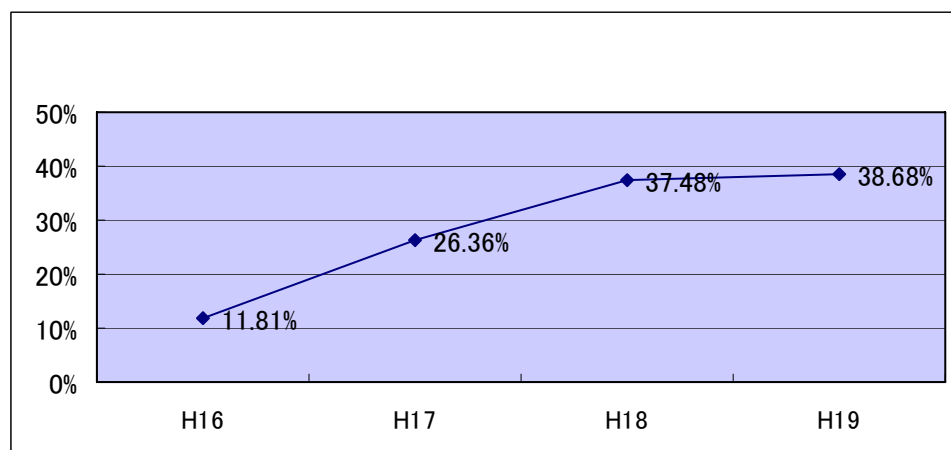


図 10 蔵書数の推移(平成 15～19 年度)

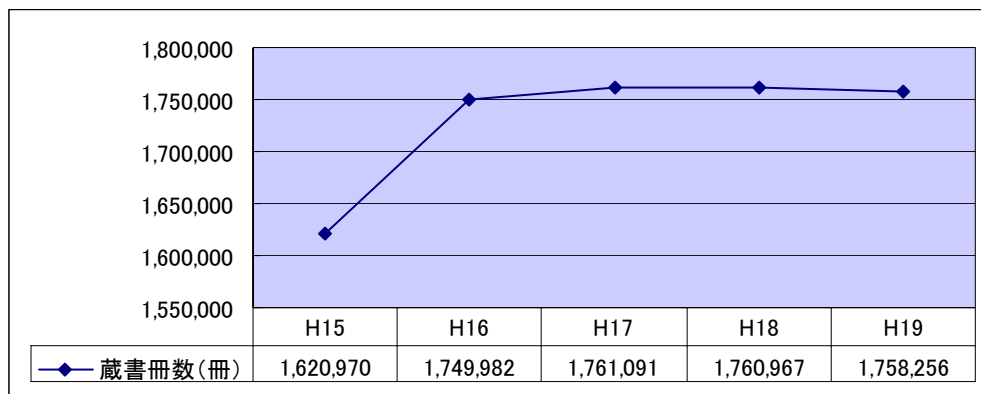


図 11 年間購入図書冊数の推移(平成 15～19 年度)

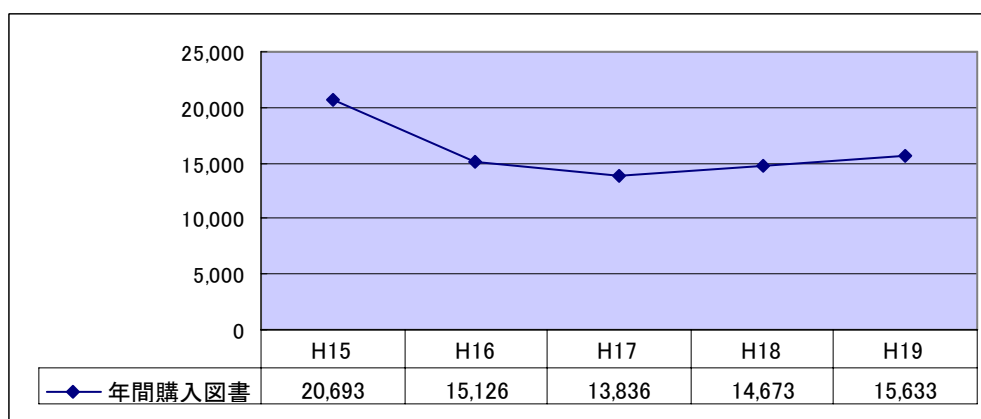


図 12 学生用図書購入冊数の推移(平成 15～19 年度)

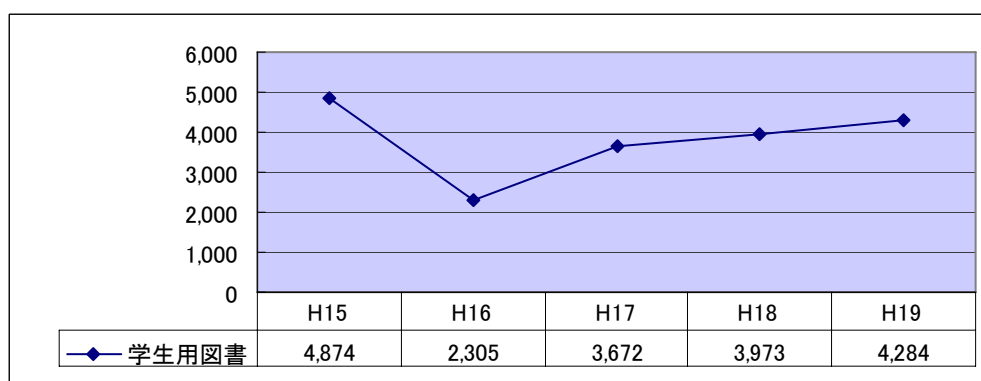


図 13 購読雑誌数の推移(平成 15～19 年度)

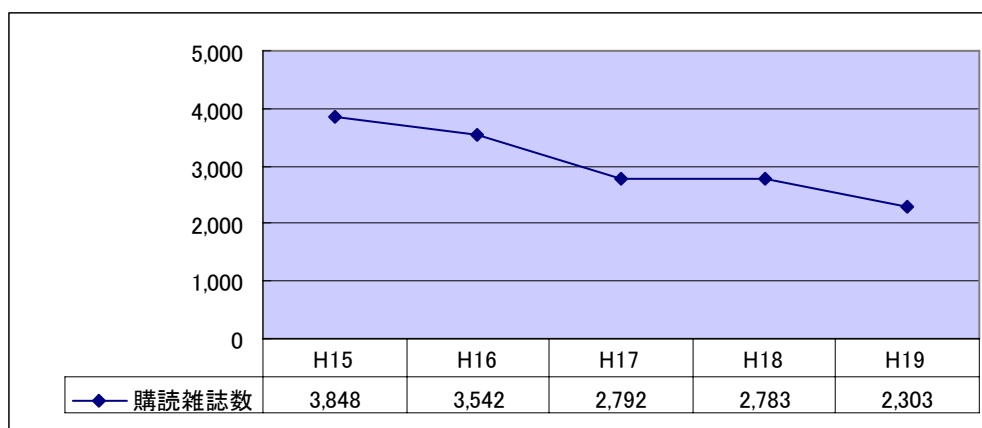
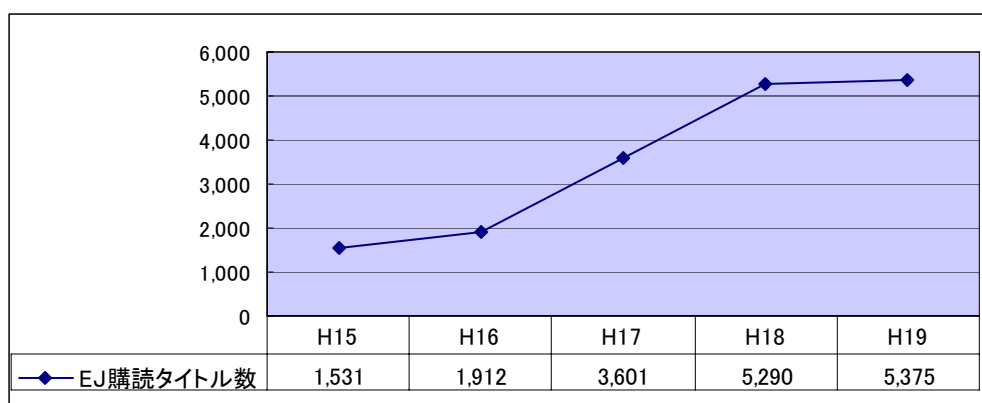
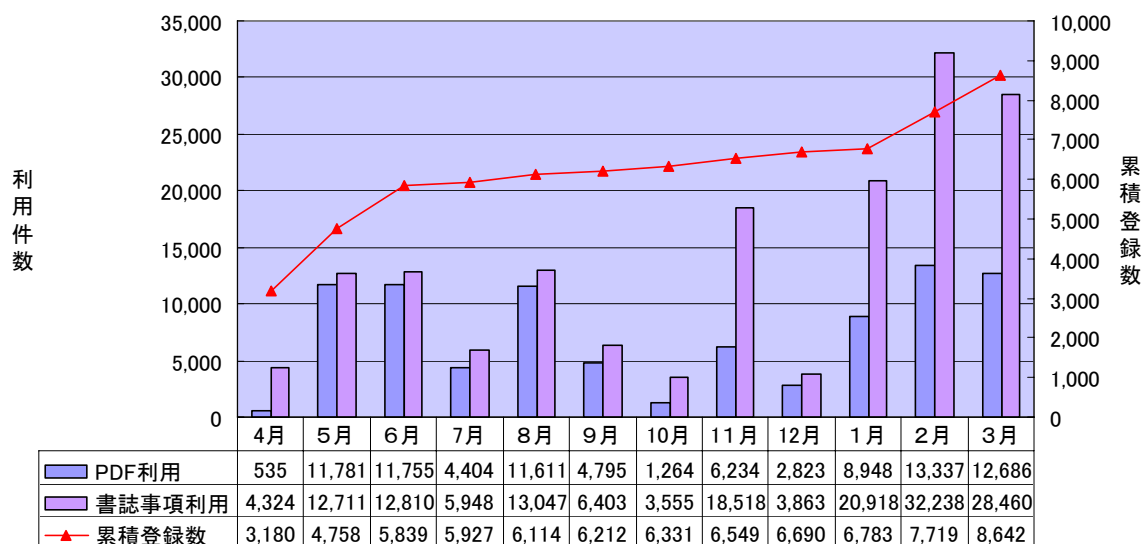


図 14 購読電子ジャーナルタイトルの推移(平成 15～19 年度)



注) 電子ジャーナルタスクフォース契約状況調査報告より (外国雑誌・国内誌合計)

図 15 KURA のコンテンツ累積登録数と利用件数(平成 19 年度)



注)「累積登録数」には削除済データ件数も含んでいるため 実際の収録数より多くなっている。

図 16 KURA システム構成図

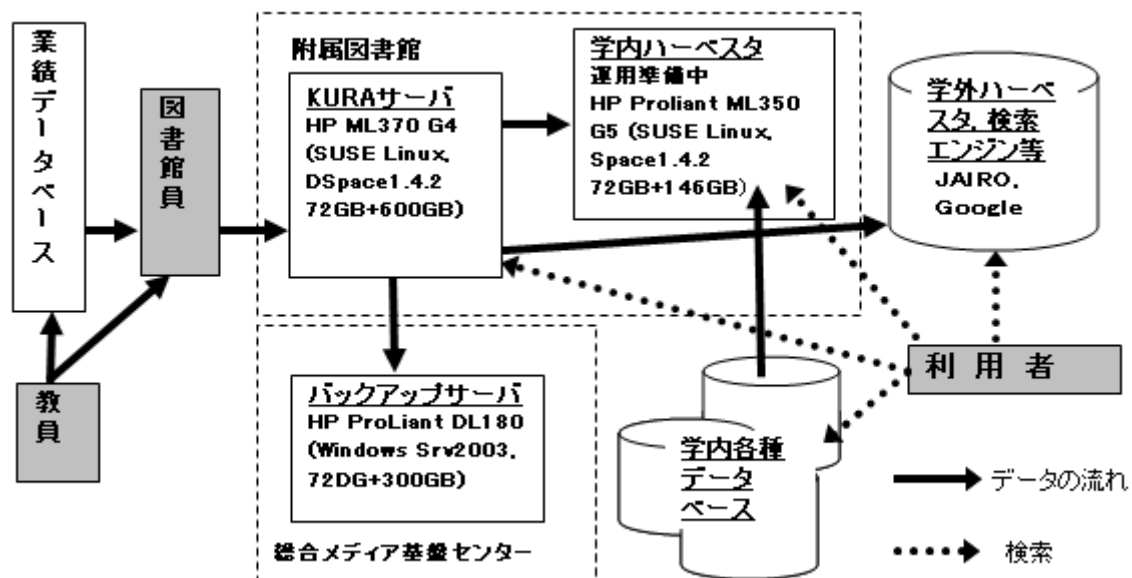
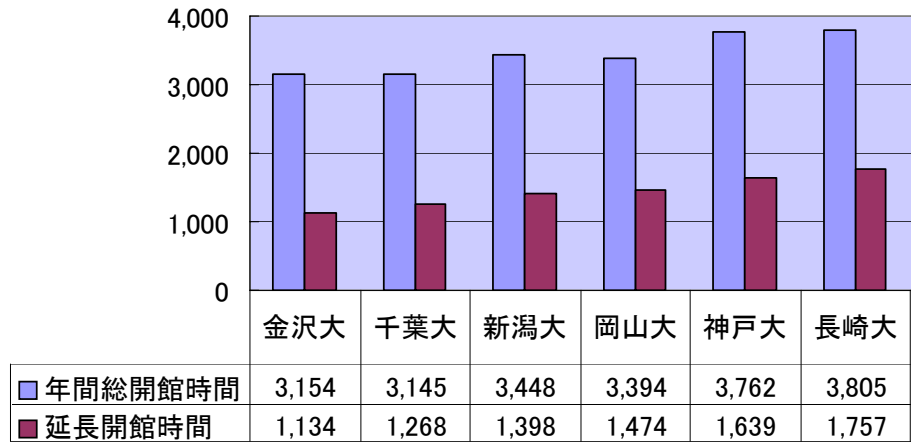
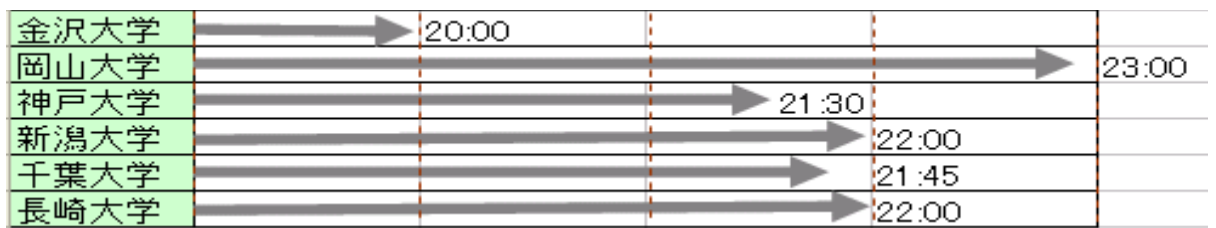


図 17 各大学中央図書館開館時間比較(平成 20 年度)



注) 延長開館時間＝夜間・土・日祝の開館時間



注) 平成 20 年度各大学図書館ウェブサイトより

図 18 総入館者数と学生および教員 1 人あたりの来館数の推移(平成 15～19 年度)

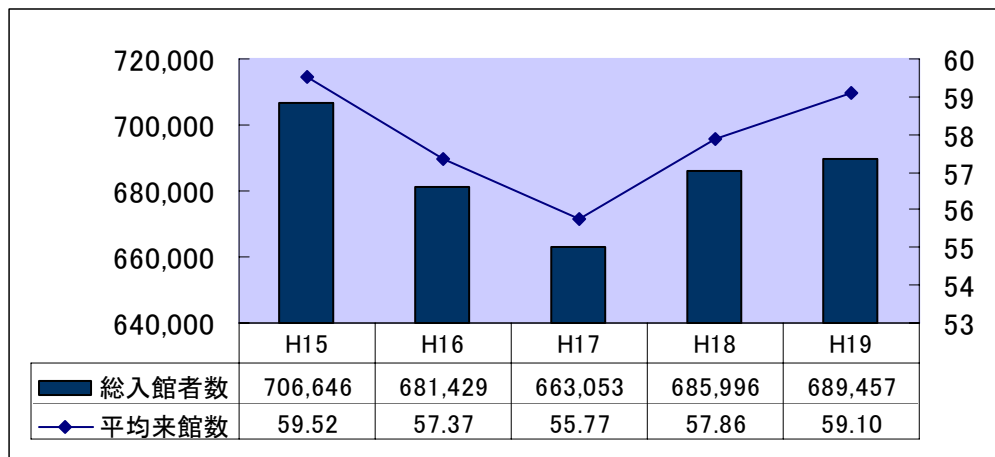


図 19 貸出冊数の推移(学生・教員別 平成 15～19 年度)

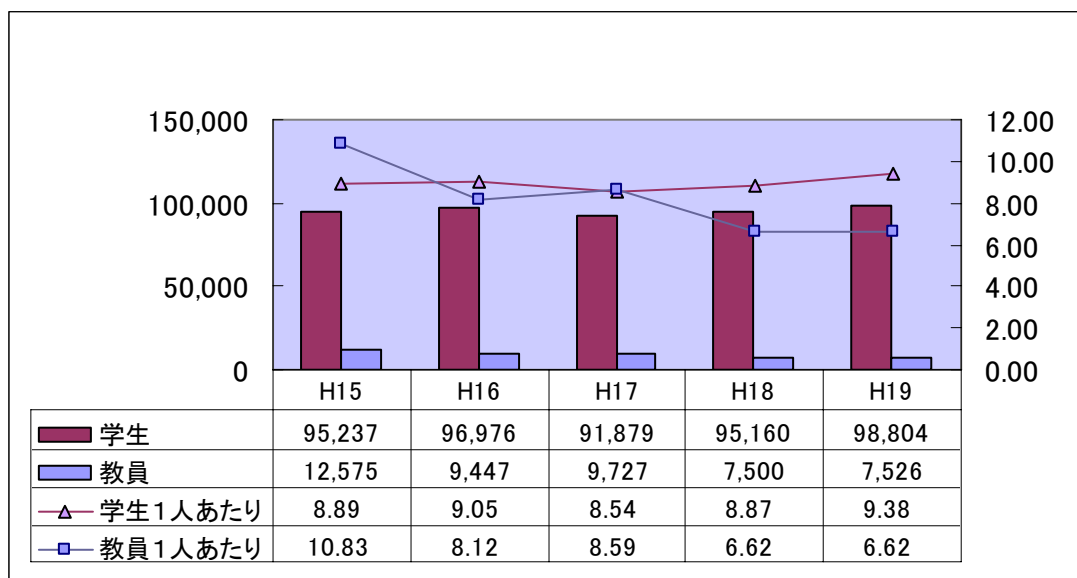


図 20 他大学との図書現物貸借数と比率の推移(平成 15～19 年度)

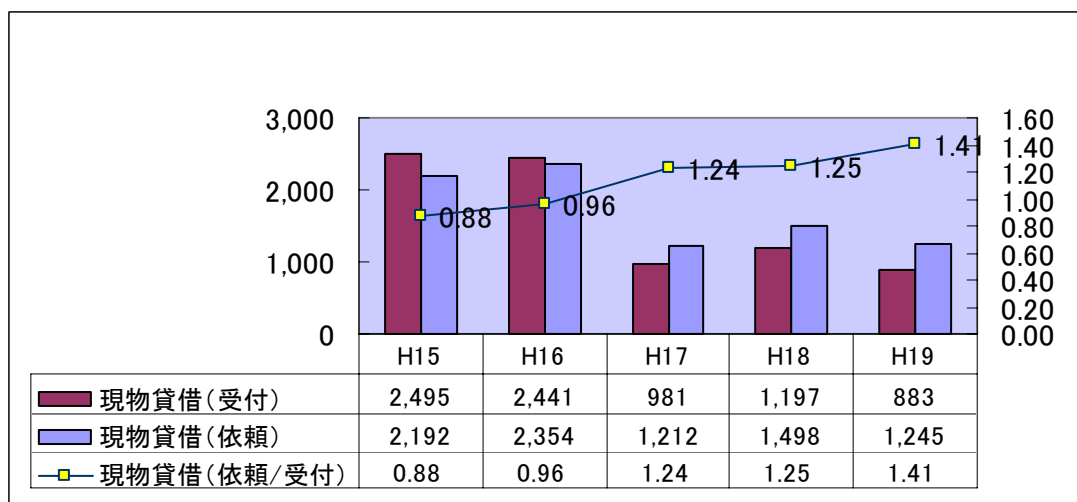


図 21 他大学との文献複写数と比率の推移(平成 15～19 年度)

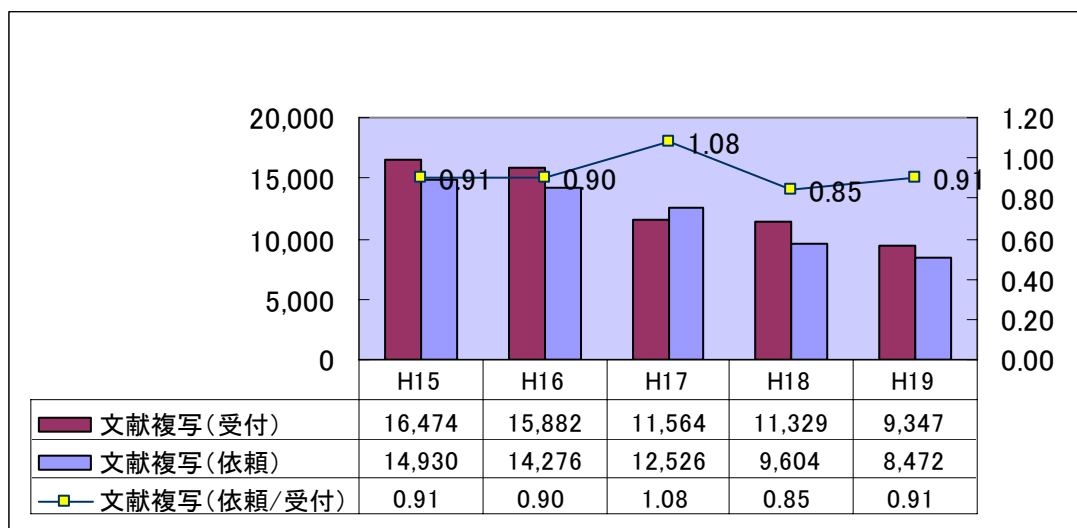
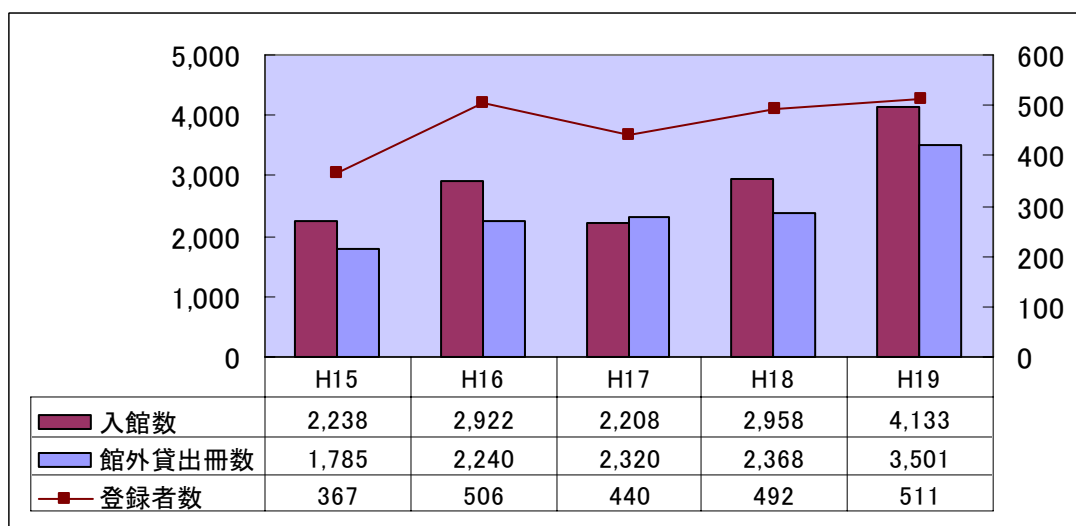


図 22 学外者入館者数, 貸出冊数および登録者数の推移(平成 15～19 年度)



7-2 表

表 1 大学総経費に占める割合(平成 19 年度)

大学総経費(千円)	図書館総経費(千円)	大学総経費に占める図書館総経費の割合
45,490,327	495,392	1.09%

表 2 図書館総経費の区分別割合(平成 19 年度)

図書館 総経費 495,392 (単位:千円)	図書館運営費 303,793 千円 61.32%				
	職員給与	賃金・謝金	外部委託費	賃借料	その他
	230,866	500	5,584	13,318	53,525
	46.60%	0.10%	1.13%	2.69%	10.80%
	図書館資料費 191,599 千円 38.68%				
	図書購入費	雑誌購入費	電子資料費	その他の資料費	
	29,943	5,466	154,135	2,055	
	15.63%	2.85%	80.45%	1.07%	

表 3 平成19年度図書館経費の出所別・区分別割合

区分	運営費		資料費	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
共通的な経費から	185,264	37.40	52,631	10.62
図書館経費から	108,862	21.97	33,241	6.71
他部局等経費から	1,166	0.24	105,727	21.34
外部資金	8,500	1.72	0	0.00
計	303,792	61.32	191,599	38.68

表 4 図書館資料費の内訳と、学生及び教員1人あたり金額(平成 19 年度)

区 分	金 額(千円)	学生当たり(円)	教員当たり(円)
図書館資料費	191,599	18,200	168,510
図書購入費	29,943	2,840	26,340
うち、学生用図書	16,757	1,590	14,740
雑誌購入費	5,466	520	4,810
電子資料費	154,135	14,640	135,560
その他の資料費	2,055	200	1,810

表 5 施設概要(建物・閲覧席・収蔵能力 平成 19 年度末現在)

図書館名	閲覧座席数・面積・施設等		蔵書数※	収蔵能力※※
中央図書館 平成 2 年竣工	971 席 9,702 m ²	電動集密書架	1,257,548 冊	819,306 冊
		特別資料室・特別閲覧室・AV 室・演習室・マイクロ資料室	153% 蔵書数/収蔵能力	
自然科学系 図書館 平成 17 年竣工	575 席 6,513 m ²	自動化書庫・貴重書室	227,928 冊	523,250 冊
		AV ホール・グループ研究室・研究個室	44%	
医学系分館 昭和 44 年竣工	128 席 1,845 m ²	積層式 4 層 情報ラウンジ	275,491 冊	242,639 冊
	48 席 356 m ²	(保健学類図書室) 集密書架 グループ学習室	114%	

※ 地区の部局所蔵含む

※※H19 学術情報基盤実態調査による。25 冊/0.9m (棚長) として計算

表 6 建物・施設等整備状況(平成 16～20 年度)

	中央図書館	医学系分館	自然科学系図書館
平成 16 年度		入口自動ドア化及び身障者対応トイレ新設	自然科学系図書館竣工
平成 17 年度			自然科学系図書館開館
平成 19 年度	衛星放送コーナー機器更新 正面玄関を自動ドアに改修	2 F 閲覧室天井灯交換 空調機交換	
平成 20 年度	冷房用室外機 1 基を冷暖用に交換 無線 LAN 設備の増強 PC 用コンセント増設	1 F 閲覧室什器更新 1 F 閲覧室天井灯交換 無線 LAN 設備の設置	

表 7 AV 室等の利用状況(平成 15～19 年度)

施設名		H15	H16	H17	H18	H19
中央図書館 AV 室	回数	33	50	248	273	214
	人数	1,380	2,128	5,768	4,596	3,507
自然科学系図書館 AV ホール	回数			11	51	60
	人数			332	1,585	3,674

表 8 各館別機器数一覧(平成 19 年度末)

視聴覚機器等	中央図書館	医学系分館	自然科学系図書館
マイクロリーダー	4	0	0
ビデオレコーダー	12	4	10
CD/LD/DVD プレーヤー	17	2	10
利用者用パソコン	22	19	99

表 9 契約電子ジャーナルサービス及びタイトル数(平成20年度)

サービス名	タイトル数
Blackwell (全分野)	737
Cambridge University Press (全分野)	208
Elsevier Science Direct (全分野)	1,819
JSTOR (人文科学分野)	119
LWW (医学系)	100
Oxford University Press (全分野)	166
Springer-Link (全分野)	1,275
Wiley InterScience (全分野)	533
洋雑誌 その他※	433
和雑誌 (NII-ELS : NII 電子図書館)	377
合 計	5,767

※ ACS (化学) , Annual Reviews (医学) , GeoScienceWorld(地学) などのパッケージ及び個別タイトル

表 10 データベースの利用状況の推移(平成 17～19 年度)

データベース名	H17		H18		H19	
	ログイン数	検索数	ログイン数	検索数	ログイン数	検索数
全分野(社会科学＋自然科学)						
1 GeNii				93,348	29,127	107,864
2 Magazine PLUS					3,385	12,533
3 Scopus	12,237	37,931	19,769	65,785	21,631	69,984
4 Web of Science				7,767		22,010
人文・社会科学系						
5 EconLit			80	292	55	220
6 LEX/DB			2,241	5,061	4,167	12,136
7 PsycINFO			496	2,353	533	2,461
8 SocINDEX, ERIC				521	39	195
9 Westlaw International			839	1,779	634	1,428
自然科学系						
10 医学中央雑誌	23,849		22,573		19,474	41,887
11 CINAHL	974	5,287	747	4,058	657	3,868
12 EBMR			1,379	6,058	1,639	7,343
13 GeoRef				984		902
14 JCR on Web			2,451	4,365	3,276	4,915
15 MathSciNet					11,170	14,369
16 SciFinder Scholar			4,750	18,442	4,939	17,824
新 聞						
17 聞蔵			2,046	11,896	1,765	10,920
電子ジャーナルのタイトル検索						
18 Serials Solutions				31,585		118,813

注) 7, 8 は平成 20 年度で中止

18 は平成 21 年度から” WorldCat Link Manager” に変更

空欄は未提供等, データなし

表 11 文庫等一覧

文庫名	内 容
第四高等学校蔵書	金沢大学の前身である旧制第四高等学校が所蔵していた図書。 青島文庫・教育掛図等を含む。
暁烏文庫	石川県白山市北安田町浄土真宗大谷派明達寺元住職，暁烏敏師旧蔵の図書。各分野に渡る膨大な蔵書。このうち 13,500 冊が仏教関係図書。
阿閉文庫	元金沢英和学校校長で，エスペラント語を広めたことでも知られる畜産業家阿閉政太郎氏寄贈の蔵書。
井田文庫	教育者，井田竹治氏寄贈の蔵書。享保 9 年から天保 8 年までの浄瑠璃本のコレクションを含む。昭和 25 年 12 月に本学に寄贈された。
浦井文庫	元第四高等学校教授，浦井鯉一郎氏及び同教授記念事業会寄贈の図書。西洋史に関する文献が多い。
金戸文庫	元県立中学校の数学教諭，金戸貞敬氏寄贈の和算書についてのコレクション。
岸文庫	元第四高等学校教授・元本学講師，岸重次氏寄贈の蔵書。英語・英文学関係図書中心。語学以外の資料は金沢市立図書館に寄贈。
駒井文庫	元第四高等学校教授，駒井徳太郎氏寄贈の蔵書。加賀藩刊行の図書・郷土資料等や経書類が多い。
鈴木文庫	元教養部教授，鈴木直治氏旧蔵のコレクション。古代漢語に関する資料が中心。
北条文庫	元第四高等学校校長・元学習院院長，北条時敬氏寄贈の蔵書。江戸期の写本が中心。日本青年館，日本棋院，石川県立図書館等にも寄贈。
用和堂文庫	旧加賀藩礼法指南役，渡辺家寄贈の蔵書。礼法及び有職故実に関する図書が中心。この蔵書は渡辺篤氏が四高在学中に寄贈したもの。
宮本文庫	元滋賀大学学長で第四高等学校卒業の宮本憲一氏寄贈の蔵書。平成 19 年 9 月に開設された。財政学，環境経済学，地域経済学，地方自治論，公害問題などの図書約 8,000 点のうち，整理が終わった約 4,000 冊が閲覧できる。
吉岡文庫	教育学部の前身石川師範校出身の吉岡勝恵（旧姓宮崎）氏の寄付金により，「郷土の研究に関する文庫」を意図して収集されたもので，石川県内の市町村史・学校史等が中心。
和田文庫	元法文学部教授，和田三良氏（専門は経済史）寄贈の蔵書。経済史学を中心として，法文経済系図書が多い。

表 12 コレクション一覧

コレクション名
National Reporter System. (全米判例体系)
Hansard : Great Britain Parliamentary Debates. 1066-1981 (ハンサード英国議会議事録)
Stenographische Berichte uber die Verhandlungen des Deutschen Reichstages. (ドイツ帝国議会議事録)
Annual Reports of the Major American Companies. (米国主要会社年次報告書)
東寺百合文書
明治前期産業発達史資料
百部叢書集成
景印文淵閣四庫全書
正統道蔵
敦煌宝蔵
西藏大蔵経
ビザンツ研究資料コレクション
西洋古典文学コレクション

表 13 3館の開館時間一覧(平成 20 年度)

図書館名	開 館 時 間		
	平日	土曜日	日曜日
中央図書館	8:45-20:00 休業期 8:45-17:00	9:00-17:00 休業期休館	9:00-17:00 休業期休館
自然科学系図書館	8:45-20:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期休館	休 館
医学系分館	8:30-21:00 休業期 9:00-17:00	10:00-16:00 休業期休館	休 館

表 14 3館の年間開館日数と時間数, 延長開館(夜間・休日)時間数(平成 19 年度)

図書館名	年間開館日数	年間開館時間数	うち時間外開館(※) 総時間数
中央図書館	320	3, 223	1, 185
医学系分館	299	3, 284	1, 188
自然科学系図書館	286	2, 922	898

※) 平日 17:15 以降及び土・日・祝の開館

表 15 授業形式の情報リテラシー教育

開催年	科目名	対象・担当者
平成 11～17 年度	「大学図書館への招待～みずから学ぶ, 図書館資料を楽しむ～」	2 単位 定員 60 名 教員+図書館職員
平成 18～19 年度	「図書館利用法」(「大学・社会生活論」内の 1 コマ) 計 11 回 「資料探索法」(「情報処理基礎」内の 1 ～ 2 コマ) 計 39 回	全新入生対象 図書館職員で担当

表 16 ミニ展示一覧

展示名	展示期間
サッカーワールドカップ関連企画展示	2006/06/07～07/09
金沢大学教員著作図書展	2006/07/18～08/31
石川知学(ちがく)展	2006/10/01～11/19
就職図書展	2007/01/22～02/18
EU 資料展示『EU を知ろう!』	2007/05/21～06/03
石川知学(ちがく)展: 金沢編	2007/07/19～08/17
就職図書展	2008/01/08～02/10
EU 資料展『EU 資料に親しもう!』	2008/05/08～05/21
就職図書展	2008/12/15～12/25

表 17 石川県公共図書館との相互利用件数(平成 19 年度)

区 分		申込件数	実施件数	謝絶件数
相互貸借	依頼(借用)	44	43	1
	受付(貸出)	127	124	3
文献複写	依頼(受領)	0	0	0
	受付(提供)	64	62	2

表 18 開催シンポジウム一覧(平成 15～19 年度)

開催年	テーマ
平成 15 年度	デジタル時代における学術雑誌の新たな進展と著作権の課題
平成 17 年度	(金沢大学自然科学系図書館開館記念シンポジウム) これからの学術コミュニケーション： 電子ジャーナル・オープンアクセス・機関リポジトリ
平成 18 年度	学都シンポジウム： 学都の心を再び
平成 19 年度	金沢大学 3 学域化と総合大学の教員養成の新機軸： 地域における教員養成の過去・現在・未来

表 19 暁烏記念講演会演題・講演者一覧(平成 15～20 年度)

開催年	テーマ	講演者
平成 15 年度	暁烏敏の意義	松田章一
平成 16 年度	聖なるものを求めて： ある日本人僧と現代インド仏教運動	島 岩
平成 17 年度	自由の精神： 西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ	竹村牧男
平成 18 年度	菩薩として生きる	杉本卓洲
平成 19 年度	近代社会における宗教の役割： 仏教とウェーバー	立川武蔵
平成 20 年度	アメリカ人の見た日本の宗教： 地の果てへの旅	D. K. Andrews

表 20 開催特別展一覧(平成 16～20 年度)

年度	テーマ	開催期間
平成 16 年度	文字・人・ころこ： 金沢大学ゆかりの墨跡・拓本・手跡	2004/10/26～11/7
平成 18 年度	四高開学 120 周年記念展示： 学都金沢と第四高等学校の軌跡	2006/10/16～10/29
平成 19 年度	教える×学ぶ： 師範学校といしかわの教員養成史	2007/10/15～11/16
平成 20 年度	うけつがれた「モノ」たち： 明治・大正・昭和の掛図・模型	2008/10/15～11/14

表 21 提供所蔵資料および提供先一覧(平成 16～19 年度)

申請日	資料名	申請者
2004. 7. 7	加賀藩年中行事図絵 4 帖	金沢市立玉川図書館
2004. 9. 3	加賀藩年中行事図絵から「香林坊の木戸」(写真)	(株) テレビ金沢
2004. 12. 8	第一高等学校校友会雑誌 294-300 号 (四高蔵書)	(株) 八木書店
2005. 1. 5	加賀藩年中行事図絵から「越前万歳」(写真)	(株) テレビ金沢
2005. 5. 27	百練抄, 源平盛衰記, 義経記 (四高蔵書)	石川県立歴史博物館
2005. 8. 26	金澤城分間絵図 (四高蔵書), 加賀藩年中行事図絵から「橋爪門」ほか (写真)	(株) 日本テレビ放送
2005. 11. 28	加賀藩年中行事図絵 (三)	東京都江戸東京博物館
2005. 12. 27	儀式風俗図絵から「元日登城」ほか 5 点, 加賀藩年中行事図絵から「婦人の年始」ほか 4 点 (写真)	石川県立歴史博物館
2006. 1. 6	儀式風俗図絵, 加賀藩年中行事図絵 (全写真)	東京大学埋蔵文化財研究室
2006. 12. 22	ヘルツェル教育用掛図 1 4 軸 (四高蔵書) (画像)	京都大学
2006. 2. 22	室生犀星直筆「金沢大学校歌原稿」, 信時潔直筆「金沢大学校歌楽譜」	室生犀星記念館

2006. 4. 15	儀式風俗図絵から「髪置」「殿中謡初」「袴着」（写真）	（有）三猿舎
2006. 5. 19	儀式風俗図絵から『蚊帳つり』ほか 10 点，加賀藩年中行事図絵から『浜行』ほか 1 点（写真）	前田土佐守家資料館
2006. 5. 6	加賀藩年中行事図絵（下），儀式風俗図絵（乾）	石川県立歴史博物館
2006. 6. 15	寛文二年金澤御城御普請の絵図並奉書，寛文七年金澤御城二丸石垣御普請の絵図附奉書（四高蔵書）	鳥越一向一揆歴史館
2007. 3. 3	教科書コレクションの中から「中学国語二（下）」（学校図書）ほか 15 点	中谷宇吉郎雪の科学館
2007. 12. 13	儀式風俗図絵から『元日拝礼』ほか 3 点（写真）	北陸総合研究所
2008. 3. 26	法華義疏（暁鳥文庫）	大谷大学博物館
2008. 4. 9	Elementary Treatise on Physics（四高蔵書）	金沢ふるさと偉人館
2008. 6. 11	浅野御家之記（北条文庫）（マイクロフィルム）	NHK 大阪放送局

7-3 学術情報基盤実態調査（平成 18 年度）（注 1）による他大学との比較表

赤字は国立大学平均を下回った数値

分割右欄の指数は、金沢大学の数値を各カテゴリ平均で除した指数

経 費							
項 目	金沢大学 (注 2)	国立大学平均 (注 3)		A クラス 17 校平均		B クラス 18 校平均	
図書館総経費(千円)	636,121	489,227	1.30	1,352,306	0.47	437,223	1.45
資料費(千円)(注 4)	335,249	243,193	1.38	694,331	0.48	214,788	1.56
運営費(千円)	300,872	246,034	1.22	657,975	0.46	222,435	1.35
学生 1 人当たり図書館資料費(千円)	31.3	33.6	0.93				
大学総経費(注 5)に占める 図書館総経費の割合	1.0%		1.7%		1.8%		1.5%
大学総経費に占める 図書館運営費の割合	0.5%		0.9%		0.9%		0.7%
図書館総経費に占める 図書館運営費の割合	47.3%		50.3%		48.7%		50.9%
図書館総経費に占める 人件費の割合	32.7%		36.7%		35.8%		36.1%
図書館総経費に占める 資料費の割合	52.7%		49.7%		51.3%		49.1%
大学総経費に占める 資料費の割合	0.5%		0.8%		0.9%		0.7%
資 料							
項 目	金沢大学	国立大学平均		A クラス 17 校平均		B クラス 18 校平均	
蔵書数	1,758,256	1,081,945	1.63	2,938,445	0.60	999,114	1.76
図書受入数	23,501	16,136	1.46	46,242	0.51	12,075	1.95
雑誌受入数	8,788	5,332	1.65	13,014	0.68	5,356	1.64

図書館・室の職員（H18.5.1 現在）							
項 目	金沢大学	国立大学平均		A クラス 17 校平均		B クラス 18 校平均	
専任職員	27	22	1.23	57	0.47	20	1.35
臨時職員	16	22	0.73	53	0.30	21	0.76
職員合計	43	44	0.97	110	0.39	41	1.05
図書館員 1 人あたり学生数	249.8	165.0	1.51				
書架収容力（H18.5.1 現在）							
項 目	金沢大学	国立大学平均		A クラス 17 校平均		B クラス 18 校平均	
棚板延長(メートル)	57,067	35,694	1.60	95,681	0.60	31,945	1.79
収容可能冊数	1,585,195	991,494		2,657,801		887,356	

注 1) 文部科学省による調査。平成 20 年 11 月現在公表されている最新版。

全体の総計と A～D の大学規模別の集計値が公表されている。

A, B クラスの内訳は下表に記載。金沢大学は A クラスに分類。

注 2) 金沢大学のデータは他大学との比較のため、同調査報告時のデータで記載。

注 3) 総計を当時の国立大学数 87 で除した値。

注 4) 部局購入の資料費を含む。

注 5) 学校基本調査の数値による。

A クラス(8 学部以上)17 校	B クラス(5～7 学部)18 校
北海道大学・東北大学・千葉大学・東京大学・新潟大学・金沢大学・信州大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・神戸大学・岡山大学・広島大学・九州大学・長崎大学・鹿児島大学・富山大学	弘前大学・山形大学・茨城大学・埼玉大学・岐阜大学・静岡大学・三重大学・山口大学・徳島大学・愛媛大学・熊本大学・琉球大学・筑波大学・総合研究大学院大学・島根大学・香川大学・高知大学・佐賀大学

7-4 定量的評価指標による基礎データ

大学・図書館規模		H15	H16	H17	H18	H19
大学規模						
a1.1	予算規模(千円)		41,452,034	42,721,000	44,465,276	45,490,327
a1.2	学部規模	8	8	8	8	8
a1.3	キャンパスの数	3	3	3	3	2
a1.4	スタッフ					
a1.4(1)	総学部学生在籍数	8,326	8,280	8,217	8,176	8,057
a1.4(2)	総大学院生在籍数	2,386	2,434	2,539	2,547	2,471
a1.4(3)	教員数	1,161	1,164	1,132	1,133	1,137
a1.5	図書館規模					
a1.5(1)	蔵書冊数	1,620,970	1,749,982	1,761,091	1,760,967	1,758,256
a1.5(2)	逐次刊行物所蔵数	32,972	33,404	32,628	33,443	34,212
a1.5(3)	図書館・図書室数	5	5	4	4	4
a1.5(4)	図書館施設面積	13,318	13,318	14,754	14,754	14,754
a1.5(5)	図書館職員数(非常勤職員・内数)	42(15)	42(15)	42(15)	43(16)	43(16)

資 源		H15	H16	H17	H18	H19
a2.1	蔵書冊数					
a2.1(1)	利用対象者当たりの蔵書冊数	136.53	147.33	148.14	148.53	150.73
a2.2	収集活動					
a2.2(1)	利用対象者当たりの年間購入図書	1.74	1.27	1.16	1.24	1.34
	〃 購読雑誌数	0.35	0.30	0.23	0.23	0.20
a2.4	目録資源					
a2.4(1)	OPAC データ入力率		54.89%	58.17%	64.67%	67.25%

管理運営		H15	H16	H17	H18	H19
a3.1	職員					
a3.1(1)	図書館職員当たりの利用対象者数	282.69	282.81	283.05	275.72	271.28
a3.1(2)	図書館職員当たりの蔵書数	38,595	41,666	41,931	40,953	40,890
	図書館職員当たりの図書受入冊数	815	749	560	595	720
	図書館職員当たりの雑誌受入数	215	220	209	208	187
a3.2	施設設備					
a3.2(1)	利用対象者当たり図書館面積	1.10	1.10	1.61	1.62	1.64

	閲覧座席数	1,328	1,328	1,722	1,722	1,708
	利用対象者あたり閲覧座席数	0.11	0.11	0.14	0.15	0.15
a3.3(1) 開館状況						
	年間開館日数(中央図書館)	288	287	325	318	320
	年間開館時間数(中央図書館)	2,967	2,922	3,302	3,204	3,223
	年間開館日数(医学系分館)		287	290	290	299
	年間開館時間数(医学系分館)		3,251	3,286	3,264	3,284
	年間開館日数(自然科学系図書館) H16 は工学部分館		230	256	288	286
	年間開館時間数(自然科学系図書館) H16 は工学部分館		2,335	2,638	2,958	2,922
a3.3(2) 休日・時間外の開館状況(中央図書館)						
	休日開館日数	5	5	42	42	39
	休日開館時間数	35	35	336	336	312
	夜間・土曜開館時間数	935	871.75	933	846	873
a3.3(3) 毎週の開館時間数						
	中央図書館	70.25	70.25	72.25	72.25	72.25
	自然科学系図書館(工分館)	61	61	63.25	63.25	63.25
	医学系分館		68.5	68.5	68.5	68.5
	保健学科図書室			69	69	69

サービス		H15	H16	H17	H18	H19
a4.2 図書館アクセス						
	入館者数	706,646	681,429	663,053	685,996	689,457
a4.2(2)	利用対象者の平均来館数	59.52	57.37	55.77	57.86	59.10
a4.3(1)	有人サービスポイント数	5	5	4	4	4
a4.4 貸出						
	貸出冊数(学生)	95,237	96,976	91,879	95,160	98,804
	貸出冊数(教員)	12,575	9,447	9,727	7,500	7,526
	貸出冊数(学外者)			2,320	2,368	3,501
a4.4(2)	利用対象者あたり平均貸出冊数	9.08	8.96	8.55	8.66	9.12
a4.7 ILL						
	貸借(受付)	2,495	2,441	981	1,197	883
	貸借(依頼)	2,192	2,354	1,212	1,498	1,245

	複写(受付)	16,474	15,882	11,564	11,329	9,347
	複写(依頼)	14,930	14,276	12,526	9,604	8,472
a4.7(3) ILL 受付件数と依頼件数の割合						
	貸借(依頼/受付)	0.88	0.96	1.24	1.25	1.41
	複写(依頼/受付)	0.91	0.90	1.08	0.85	0.91

経 費			H16	H17	H18	H19
a5.1 全般						
a5.1(1)	大学総経費に占める図書館総経費の割合		0.77%	0.95%	1.05%	1.09%
a5.1(2)	利用対象者当たりの図書館経費		26,891	34,230	39,442	42,468
a5.1(3) 図書館経費の出所別割合						
	大学全体の共通的な経費からの配当	運営費	58.59%	46.17%	38.27%	37.40%
		資料費	1.75%	2.21%	10.01%	10.62%
	部局全体の共通的な経費からの配当 (図書館経費)	運営費	29.59%	26.23%	21.96%	21.97%
		資料費	9.74%	8.79%	7.34%	6.71%
	上記以外の校費から支出されたもの (他部局等)	運営費	0.02%	0.00%	0.37%	0.24%
		資料費	0.31%	15.36%	20.13%	21.34%
	外部資金	運営費	0.00%	1.23%	1.92%	1.72%
		資料費	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	合計	運営費	88.19%	73.64%	62.52%	61.32%
		資料費	11.81%	26.36%	37.48%	38.68%
a5.2 図書館運営費						
a5.2 (1)	図書館総経費に占める図書館運営費の割合		88.19%	73.64%	62.52%	61.32%
a5.2 (2)	図書館総経費に占める人件費の割合		74.42%	57.16%	48.86%	46.70%
a5.2 (3)	図書館総経費に占める外部委託費の割合		0.89%	2.58%	0.54%	1.13%
a5.2 (4)	図書館総経費に占める賃借料の割合		4.12%	3.29%	2.87%	2.69%
a5.2 (5)	図書館総経費に占めるその他の運営費の割合		8.76%	10.60%	10.25%	10.80%
a5.3 図書館資料費						
a5.3 (1)	図書館総経費に占める図書館資料費の割合		11.81%	26.36%	37.48%	38.68%
a5.3 (2)	図書館資料費に占める図書購入費の割合		44.9%	17.9%	14.9%	15.6%
a5.3 (3)	図書館資料費に占める雑誌購入費の割合		9.1%	6.1%	4.7%	2.9%
a5.3 (4)	図書館資料費に占める電子資料費の割合		44.7%	74.6%	79.2%	80.4%
a5.3 (5)	図書館資料費に占めるその他の資料費の割合		1.3%	1.4%	1.2%	1.1%
a5.3 (6)	利用対象者当たりの図書館資料費		3,175	9,024	14,783	16,430
a5.3 (7)	利用対象者当たりの図書購入費		1,424	1,611	2,203	2,570

a5.3 (8)	利用対象者当たりの雑誌購入費	288	554	691	470
a5.3 (9)	利用対象者当たりの電子資料費	1,420	6,733	11,715	13,210
a5.3(10)	利用対象者当たりのその他の資料費	43	126	173	180

注) 定量的評価指標については、以下の資料を参考にした

「大学図書館における評価指標報告書 (Version 0)」2002 年 3 月 14 日

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/publications/reports/73.pdf>

8 自己点検・評価コメント一覧

1 組織・管理・運営

- ・比較対象のため、Aクラス校（金沢大学）・Bクラス校という分類を利用しているが、平成19年度版金沢大学財務レポートでは文科省基準によるAグループ校・Gグループ校（金沢大学）分類が利用されている。扱う問題により分類を変えることはあってもやむを得ないが、理由を述べるべきであろう。いずれにせよ、図書館員一人あたりの学生数が国立大学平均の1.51倍と相対的な過負荷状態で、しかも大学総経費に占める図書館総経費の割合が1.0%と国立大学平均1.7%より大幅に低い中で、一定レベルの図書館サービスを実施していることは評価できる。
- ・職員数が多くないことは、経費削減・効率化の面ではプラスでも、利用者サービスの面ではマイナス。後者に傾かない努力を継続する必要がある。
- ・少ないスタッフで、良好な管理・運営を継続されている点は評価できる。
- ・図書館業務に係わる組織・管理・運営については、情報部全体の視点からの評価も必要と思われる。
- ・図書館が学術情報基盤整備の中核的な役割を果たすためには、図書館長が（図書館長として）学内意志決定機関に積極的に参画する必要があるのではないか。
- ・図書館専門職の育成及びキャリアパスの確立が必要である。
- ・情報部への組織再編後、管理業務が増えている点、情報企画係の新設に伴う参考係の廃止などに耐えつつ現状を維持している点が評価できるが、サービスの厚みが図書館の存在意義であるとするサービス系の人員数につき、配慮することが望まれる。

2 予算・経費

- ・電子ジャーナル経費の共通経費化、学生用図書費の制度化（一冊単価での学生1人一冊分の予算の確保）など、明確に法人化後の厳しい状況の中で着実に改善されている点が高く評価される。ただし、学生用図書1人一冊が実現されていない点（単価の積算の問題か？）など、理念と実態をあわせていくことが望まれる。
- ・電子ジャーナル購入用の経費が増大しているが、これでもかなり経費抑制の努力をしている結果であろう。今後もある程度の受益者負担の原則を入れないと、経費抑制は避けられないように思われる。
- ・電子ジャーナルや学生用図書の充実が評価される一方、学術性の高い図書の購入が一般に減少しているし、大型コレクションの購入も実現しがたい状況にある。

- ・限られた予算の中で、電子ジャーナルの充実など、予算・経費の効率的運用の工夫が行なわれている点が評価できる。
- ・評価項目全体に言えることだが、ある程度の「評価軸」がないと評価が難しい。例えば、A クラス大学と比較した場合、図書館総経費、資料費及び運営費は半分以下なので「不十分」と思われるが、図書館総経費に占める図書館運営費の割合などは「おおむね良好」と思われる、など。
- ・電子ジャーナルの恒常的かつ安定的な経費確保が望まれる（高騰化対策）。

3 施設・設備

- ・自然系図書館を中心にかなりの整備が進んでいるが、今後は整備が遅れている図書館の整備を進める必要がある。
- ・受け入れスペースが狭小なために、貴重な重複図書が廃棄されるのは残念な事態である。
- ・自然科学系図書館の竣工により大幅な施設・設備の充実が図られた点は高く評価できる。またキャンパスインテリジェント化計画に基づく無線 LAN 整備など、ICT インフラの整備にも努力している点は評価できる。反面、医学系図書館の老朽化への対応と、返納図書増加に伴い早晚枯渇することが予想される中央図書館・医学系図書館の収蔵能力の増強が重要課題と考えられる。
- ・医学系図書館において、改築までの間、一部の改修工事が予定されていることは評価できる。
- ・医学系図書館の改築及び中央図書館の狭隘化対策が必要である。
- ・自習環境の改善（特に冷暖房）及びアメニティの整備が望まれる。
- ・閲覧用 PC の管理運用体制及び無線 LAN や情報コンセント等の整備が必要である。
- ・施設・設備の改善要求等は、要求後のウォッチとフォローアップが重要である。
- ・時代に即した施設・設備の整備が望まれる。
- ・築 20 年となる中央図書館は空調や電動書架など設備の老朽化が進んでおり、今後、機器等を計画的に更新することによって、安定的に運用することが望まれる。また、文系部局からの返納図書の急激な増加により、収蔵能力の限界に近づきつつある。
- ・築 40 年となる医学系図書館は、老朽化が進み、居住性が著しく劣化している。宝町地区の再開発マスタープランに着実に組みいれるとともに、当面の緊急的な措置としてリフォームを行う必要がある。
- ・新営された自然科学系図書館では、質の高い施設設備を提供できており、自動化書庫も含め PFI による運用もほぼ安定しつつあるが、空調の運用等、若干問題が残っている。
- ・自然科学系図書館の新営と、中央図書館、医学系図書館の老朽化・書庫の狭隘化が相殺して、このような評価となる。3 館が同じレベルの設備を提供して、真の全学サービスとな

ることが図書館にとって重要であり、理念にあわせて3館の施設・設備を鋭意整備していくことが望まれる。とりわけ、医学図書館の老朽化が激しく、同じ旧六大学の千葉大、新潟大学に比して、明らかに劣る施設・設備の改善が望まれる。

- ・3館体制下で、各学域・研究域に相応しい学習支援機能・研究支援機能・収蔵機能を勘案した将来計画の策定が必要である。
- ・在庫冊数が既に許容 capacity を超えているので「将来的な」拡張では不十分かつ医学系図書館の老朽化はあきらかであるのに将来計画が進行していない状態は明らかに異常。

4 情報資源・資料

- ・ここ数年間で電子ジャーナルの購入タイトル数が整備されてきたことは評価できるが、その割に大学院生の電子ジャーナルに関する評価（LibQUAL+™）が高くないのは、工学系大学院生の回答が大かったためであろうか。また KURA の立ち上げと拡充の努力と成果は高く評価されるべきであろう。今後は、教員評価システムとの連携も重要な課題である。
- ・KURA や電子ジャーナルの充実の評価できる。図書に関しては、図書購入予算が減少する中である程度冊数を確保しようとするれば、高価な学術性の高い図書は買えなくなる。とくに文系の教員の利用が減少する一因と考えられる。
- ・計画的整備によって、平成15年度から平成19年度の間に、電子ジャーナルのタイトル数が大幅に延びたことは高く評価できる。また、金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）の立ち上げにより、本学教職員等の教育・研究成果がインターネットを通して世界中に情報発信される環境が充実した点も高く評価できる。
- ・ただし、LibQUAL+™2008 による調査で、特に研究資料としての書籍・雑誌・電子情報資源に関する IC-3、IC-4、IC-8 の質問項目で、利用者が感じる図書館の実情と、図書館に期待する最低限の要求レベルが近接していることは留意すべき事項である。特に教員から現状が必要最低限程度と厳しく評価されている点を真摯に受け止め、今後も電子ジャーナルをはじめとする各種資料の計画的整備をはかるだけでなく、急速に発展する ICT 化、電子化の流れを見極めて、本学の教育・研究基盤を支える情報源としての図書館の将来のあり方を議論していく必要があると考える。
- ・電子ジャーナルのタイトル数の増加は評価できる。
- ・KURA のコンテンツ収録数及びダウンロード数の増加は評価できる。
- ・KURA のさらなる拡充が望まれる。
- ・選書に係わるニーズ把握の改善が必要と思われる。
- ・特徴ある資料群を、今後さらに学習教材や研究資料として役立てる必要がある。
- ・和古書資料の目録電子化の推進が必要である。
- ・貴重資料の電子化・公開について検討する必要がある、関連分野の教員の協力を得て調査

を行うことが望ましい。

- ・法人化後の厳しい財政状況の中、ある程度の厚みのサービス（電子ジャーナルタイトル数、図書数）を確保していることは評価できる。しかし、電子ジャーナルや DB の提供数の相対的な改善に比べて、人文社会系の高額資料など、個人研究費の縦割りの制度の中で整備が難しい資料を本学の研究・教育の基盤として掬い取る予算の措置と充実が望まれる。（理科系と人文社会系のサービスの均衡化の必要性）

5 サービス

- ・3 館で開館時間がバラバラなことや自然系図書館での 24 時間開館時のエアコン等の不満も大きい。今後は 24 時間開館を止めて、開館時間を揃えて 22 時までの開館時間にすることは合理的である。
- ・書籍利用から電子媒体利用への変化による図書館の利用方法の変化は当然の流れと考えられる。
- ・開館時間の延長・短縮の議論には、利用者の利便性だけでなく、エネルギーの節約や利用者の安全確保の視点が重要と考える。
- ・利用者の満足度調査などからもサービスは全般的に良好と考える。また情報リテラシー教育においても、積極的に図書館利用のための教育が行なわれており評価できる。ただし、開館時間については、利用者からも延長の要望が多く、また全国の他大学と比べても開館時間の延長が実現できる体制を整えることが望ましいと考える。
- ・図書館専門職としての能力向上（資料組織化からサービス業務にシフト傾向？）及びサービス業としての接遇等の改善が必要と思われる。
- ・サービス向上に役立つ研修へ職員を積極的に派遣し、個人のスキルアップをはかると同時に、研修成果を共有する態勢を整え、全体のレベルを底上げする必要がある。
- ・開館時間については、他の同規模大学と比べ短く、あきらかに見劣りがする。全学的な学生サービスの視点から手当てが必要である。
- ・情報リテラシー教育については、未だ、教員・学生ともに評価を得るには至っていない。今後も継続する必要があるが教材の改善やフィードバック、FD との連携が今後の課題である。
- ・貸出冊数、閲覧冊数など統計的にはそれなりの評価はできる。また、リテラシー授業への参加など努力は認める。しかし、本当に学生が便利さを享受・実感できるまでには多くの改善が必要ではなかろうか。例えば、開館時間の延長などは時代の流れ（学生のニーズを掬い取るサービスの展開）であり、まだまだ不十分である。物理的に改善できる要素と人的な資源とサービス体制に依存する部分は切り離し、（統計では読み取れない）利用者ニーズをいかに把握し、サービスに反映するか検討が必要。系の削減など時代（のニーズ）

に逆行している面もあり，このような評価とした。

- ・移転後の来館者の伸びは評価できる。
- ・留学生の利用状況が不詳。今後，急激に増えるであろう留学生の利用環境を整え，利用促進を検討すべき。

6 地域連携・社会貢献

- ・石川県内の横断検索システムへの参加や，北陸3県への貸し出し対象者の拡大など，着実に学外者の利便性が向上しており，地域連携に貢献しているといえる。
- ・学外利用者に対し，地域連携・社会貢献に資するためのアンケート調査を実施してはどうか。
- ・前身校旧蔵資料等，地域に根ざした特色ある資料を用いて，展示会等の活動を行っており，地域および全国の博物館等関連機関やマスコミへの資料提供も活発である点が評価できる。
- ・今後は図書館資料の体系的な展示・公開と情報の発信についても検討していく必要がある。
- ・イベントの開催については，費用対効果を勘案するとともに，他業務のとのバランスを考慮して過度な負担とならないよう精選して計画することが必要である
- ・本学の職員数・規模としては，資料館ともども良く努力していると考ええる。図書館の基本的な役割の一つは，電子化の時代においても貴重な史資料の保存と公開にあり，その役割に忠実に公開展示や講演会を実施している。しかし，図書館のシンポジウムが隔年になったことなど後退した面もあり，史資料の展示のような図書館固有のアピール点などとあわせて図書館の社会貢献機能を強化することが望まれる。（ハイブリッドな図書館機能の意識化の必要性）
- ・大学図書館らしいシンポ，講演会，展示企画は評価できる。
- ・大学が主催する各種公開講座や市民大学院においても，新入生対象のような「大学図書館への招待」などを開講し，存在と利用を地域にアピールする努力を。ラジオなどのメディアを利用して，（地の利は悪いが）大学図書館の魅力と特質を定期的に紹介するのもいいと思う。
- ・実質医学系図書館には地域連携は存在しない。

7 その他

- ・アピール不足。資料を見るとサービスが法人化後，一定改善されていることが明白である。こうした点に分かるように利用者に訴えるべきである。一方，学生サービスは常時利用者

のフィードバックを行い、図書館の重点施策として（「教育重視の研究大学」）改善の努力をすべき。

- ・先駆的・先進的な図書館業務に関する取り組みが期待される。
- ・企業及び同窓会との連携事業の検討が必要である。
- ・学内及び地域に対し、図書館活動の PR やアピールが足りないのではないか（図書館主催のシンポジウム等の開催等）
- ・図書館職員の地位向上？のために、教育支援（情報リテラシー教育等）にも積極的に携わっていく必要がある。

8 全般について

- ・我が国から 3 校しか参加していない LibQUAL+™による利用者満足度調査に本学が大阪大学、慶應義塾大学と共に参加したことは高く評価される。しかし、拡充に努めた電子ジャーナルや自然系図書館を開設し最新の設備を備えた図書館設備など全般にわたって、その結果があまり芳しくないのは、不満を持っている者が積極的に回答するからであろうか。もう少し回答率を向上させた再調査が望まれる。
- ・質の高い図書の整備が予算的に苦しいなか、暁烏文庫等既存の文庫資料の活用、たとえば文庫資料を底本とする教科書の作成、市民大学院論文集への翻刻掲載などがさらに推進されるのもよい。
- ・予算・職員数など、必ずしも潤沢といえない中で、様々な工夫をして、図書館の維持管理、また改善を行なっていることが認められる。ただ、LibQUAL+™2008 による利用者アンケートでは、利用者は必要な要求レベルは満足しているものの、望ましいとされるレベルまでの隔たりはまだ大きく、今後もさらなる努力を期待する。
- ・特に電子ジャーナル・DB などの電子資源、リテラシー教育への参加、予算の共通経費化、自然科学系図書館の新営などいくつか特筆すべき点がある。一方、学内外での図書館のアピール不足がこうした成果が周知されることを妨げている。また、3 館体制と言いながら、サービスにばらつきがあり、今後理念に基づくトータルな図書館機能の整備が必要。
- ・LibQUAL+™の AS-1「図書館スタッフは利用者に自信を持たせてくれる」は大学図書館の「司書」機能の充実に関わる本質的項目であるから、利用者の期待そのものをアップさせる必要がある。

金沢大学附属図書館の基本理念と目標

金沢大学附属図書館は、かつて加賀金沢を「天下の書府」と言わしめたこの地の学問に対する深い情熱と、流行におもねることなく伝統美を斬新な意匠で織り上げてきた繊細な感性とを己のものとして受け継ぎ、本学の学術情報の揺るぎなき礎となって、すべての利用者にきめ細やかな支援を提供することを目指します。

すなわち、金沢大学附属図書館の使命は、金沢大学憲章に謳われた「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という本学の理念を支え、「卓越した知の創造」と学生の「自学自習」を促進するために、学術情報資源の収集、整理、保存、発信に力を注ぐとともに、一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスを具体化することに他なりません。

そのため、金沢大学附属図書館は、以下の目標の実現を目指します。

利用者志向のサービス

中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館のそれぞれの特性を生かした3館体制機能を強化し、常に学生、教職員及び地域市民のニーズの把握に努め、それに応える先進的で上質な利用者サービスを提供します。

学術情報基盤の整備

先端的情報通信技術を活用し、教育・研究を支える先進的な学術情報基盤を整備し、図書やデジタル資料等多様な学術情報資源の効率的な収集及び管理等に努めるとともに、最善のアクセス手段を提供します。

学 生 支 援

学生の自学自習と自由な研究ならびに社会人としての自立を支えるために、学習・研究用図書及びキャリア教育や就職活動を支援する資料の充実を図り、快適な学習環境の整備に努めます。

知 の 拠 点

東アジアにおける知の拠点として、金沢大学の知的研究成果を「金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)」により蓄積し、国内外に発信します。

知のクロスロード

金沢大学が前身校及び本学ゆかりの先人たちから受け継いだ資産を守り、時間、空間を超えた知のクロスロード（交差点）として、知的資産の安定した提供及び保存管理体制を整備します。

知 の 多 様 性

地域社会や国際社会との多様な知の交流を促すため、地域社会との連携を積極的に進めるとともに、異なる文化的背景を持つ留学生・研究者へのサービスを充実します。

図 書 館 職 員 の 志

金沢大学附属図書館の基本理念と目標を実現するため、図書館職員は常に資質の向上に努めつつ、設備や施設の整備・充実を図ります。

平成 25 年 11 月 29 日
附 属 図 書 館

金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン

大学とともに世界と地域に生きる知の前衛たちの図書館。われわれは、世界最先端の学術情報の受発信を担い、学習支援空間を強力に展開し、資料の電子化を可能な限り進める未来型の図書館をめざす。

※ 中長期ヴィジョンを実現するための6つの戦略

1 最新の学術情報を受発信する機能の強化

学術研究の基盤となる電子ジャーナルの安定的確保と、機関リポジトリの一層の拡充を最優先課題として取り組む。

2 「自学自習」の理想を追求する学習支援センターとしての機能強化

共通教育、専門教育、大学院教育の教育組織及び教育内容と緊密にリンクした新たな学習支援の仕組みを創出するとともに、ラーニングコミュニティ等の学士課程及び大学院教育のための学習スペースを整備拡充する。

3 蔵書電子化の推進

電子的資料の積極的な購入や蔵書の電子化を可能な限り着実に進め、一層充実した「電子化図書館」をめざす。

4 資料保存基準の見直しと他図書館との収蔵共有化

長期収蔵に関して新たな基準を作成し、公共図書館及び大学図書館との資料の共有化を積極的に図る。

5 地域の公共図書館および大学図書館との連携強化

地域住民の生涯学習を支援する空間を積極的に提供し、他大学図書館との相互の連携事業を一層高いレベルで行い、「地域に生きる新たな図書館の時代」を切り開く。

6 図書館員の新たな分野での能力開発

図書館職員は旧来の任務の常識を一新し、教育、広報、企画、運営等の新たな任務を積極的に果たすべく、自身の能力を格段に高める。

平成 25 年 11 月 29 日

金沢大学附属図書館短期アクションプラン

1 最新の学術情報の受発信

- 第Ⅲ期中期目標・中期計画期間に研究基盤となる電子ジャーナル等の学術資料を整備するため、新たな購入方針及び計画を策定する。
- 本学紀要論文は電子化を旨とし、広く学術刊行物に掲載された論文等の機関リポジトリへの登録義務化をめざし、研究成果の登録件数を増加させ、より情報発信を推進する。

2 学習支援機能の強化

- 留学生を含む学生支援の担当部署や、大学院生も含めた学生との連携を密にし、求められている新しい学習支援の仕組みを案出する。
- ラーニングコモンズを自然科学系図書館に整備する。そのための学生等のニーズの把握に努め、整備のたたき台とする。

3 図書館が所蔵する一般的資料の電子化の推進

- 電子図書の購入や既存資料の電子化を推進するとともに、財産管理等の在り方に関する問題点を洗い出し、所蔵する一般的資料の電子化を促進するための実施方針を策定する。

4 図書館資料の収蔵計画の策定

- 収蔵スペースの狭隘化に対応するため、廃棄、電子化の推進、書架の集密化を推進するとともに、石川県内、北陸三県、東海北陸地区の他図書館との資料の共有化等を検討し、資料の長期的な収蔵計画を策定する。
- 蔵書目録未登録図書（旧第四高等学校図書、旧工業専門学校図書等）の保存について検討を進めた上で、遡及入力の実施計画を策定し推進する。

5 地域の公共図書館及び大学図書館との連携強化

- 石川県内の公共図書館及び大学図書館等との利用券の共通化、共同でのシンポジウム開催等、地域と連携した図書館活動の底上げを図る。
- 石川県内の大学図書館を先導し、教育研究の拠点である図書館のあり方に関する講演会、シンポジウム、研修会等、現状のレベル（相互貸借や相互案内等）以上の連携を目指す。

6 新たな分野での職員の能力開発

- 専任の特任助教のもと、図書館職員の能力強化を行い、情報リテラシー関連の指導及び企画に関する能力の向上を目指すとともに、新しい教育支援（ビブリオバトル、ライティング指導等）にも積極的に参画する。

YAMAZAKIプラン2014(抜粋)

情報基盤整備

資料5

Vision

附属図書館・資料館の教育研究活動支援機能の強化

Subject1 教育研究活動の基盤となる蔵書の電子化の推進 及び最新の学術情報の受発信機能の強化

[Action] 電子ジャーナルタイトルを充実するとともに、附属図書館・資料館における収蔵資料の電子化を推進する。また、機関リポジトリにおけるコンテンツを充実する。

Subject2 附属図書館における学習支援機能の強化

[Action] 附属図書館を全学の自学自習の理想を追求する学習支援センターと位置付け、学習相談、情報リテラシー教育等を充実するとともに、自学自習に係る設備やスペース等を整備する。

Subject3 地域住民に対する附属図書館及び資料館のサービスの向上

[Action] 公立図書館等と連携し、附属図書館における地域住民の利便性を向上させる施策を実施するとともに、附属図書館・資料館が所蔵する貴重資料を積極的に公開する。

Subject4 公文書及び博物資料の確実な保存の推進

[Action] 大学が保存すべき公文書や貴重な博物資料を組織的に収集し、確実に保存する。

○金沢大学附属図書館規程

平成16年4月1日

規程第144号

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢大学学則第11条第3項の規定に基づき、金沢大学附属図書館(以下「図書館」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 図書館は、教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供することを目的とする。

(図書館資料)

第3条 前条の図書館資料は、次のとおりとする。

- (1) 図書
- (2) 雑誌、新聞等逐次刊行物
- (3) 記録類
- (4) 視聴覚資料
- (5) その他図書館資料として適当と認めるもの

(分館)

第4条 金沢大学学則第11条第2項の規定により附属図書館に置かれる分館は、医学系分館とする。

2 医学系分館は、医学図書館と称する。

(館長、副館長及び分館長)

第5条 図書館に館長及び副館長を、分館に分館長を置く。

2 副館長は、館長が選考する。

3 分館長の選考は、別に定める。

(職務)

第6条 館長は、館務を掌理する。

2 副館長は、図書館の館務につき館長を補佐し、館長に事故があるとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理し、又はその職務を行う。

3 分館長は、当該分館の館務を掌理する。

(図書館委員会)

第7条 図書館の運営に関する重要事項を審議するため、図書館委員会を置く。

2 図書館委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、図書館の運営及び業務に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

○金沢大学図書館委員会規程

平成16年4月1日

規程第145号

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢大学附属図書館規程第7条第2項の規定に基づき、金沢大学図書館委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、金沢大学附属図書館に関する次の事項を審議する。

- (1) 規程等の制定及び改廃に関する事項
- (2) 運営に関する重要な事項
- (3) 学長が諮問した事項
- (4) 委員が提議した事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 附属図書館副館長
- (3) 附属図書館医学系分館長
- (4) 各研究域の教授のうちから委員長が指名する者 各2人
- (5) 医薬保健学総合研究科、人間社会環境研究科、自然科学研究科及び法務研究科を担当する教授並びにがん進展制御研究所の教授のうちから委員長が指名する者 各1人
- (6) 学内共同教育研究施設の長及び保健管理センター長のうちから選出された者 1人
- (7) 情報部長
- (8) 情報企画課長
- (9) 情報サービス課長
- (10) その他委員会が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第4号から第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長は、委員2人以上の要求があるときは、委員会を招集しなければならない。

4 委員長に事故があるときは、副館長が議長の職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、重要な議事については、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

3 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(作業部会等)

第7条 委員会に、専門又は特定の事項を審議するため、作業部会等を置くことができる。

(議事録)

第8条 委員会には議事録を備え、次の事項を記載しなければならない。

(1) 開会の日時及び場所

(2) 出席者の氏名

(3) 議事の要項

2 議事録は、次回の委員会で確認を得なければならない。

(事務)

第9条 委員会の事務は、情報部情報企画課において処理する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

平成26年度金沢大学附属図書館自己点検・評価に関する利用者アンケート 結果概要

実施期間：平成27年1月13日(水)～2月5日(木)

対象者：金沢大学の学生，院生，職員

回答総数：927

【回答者属性1】あなたの身分を次の中から選んでください。

			前回%
学部生(1年)	143	15%	25%
学部生(2年)	153	17%	17%
学部生(3年)	209	23%	19%
学部生(4年)	173	19%	15%
学部生(医薬5年)	6	1%	3%
学部生(医薬6年)	11	1%	
大学院生(修士課程)	107	12%	14%
大学院生(博士課程)	42	5%	3%
科目等履修生，その他	9	1%	0%
教員	39	4%	5%
事務職員	23	2%	
技術職員	12	1%	
合計	927	100%	100%

【回答者属性2】あなたの所属する学域・研究域，研究科等を選んでください。

			前回%
人間社会学域・人間社会研究域	411	44%	35%
理工学域・理工研究域	264	28%	41%
医薬保健学域・医薬保健研究域	219	24%	24%
研究所・センター・機構等	15	2%	1%
附属病院	8	1%	
附属学校	0	0%	
事務局(室を含む)	10	1%	
合計	927	100%	100%

【回答者属性3】あなたの性別をお選びください。

			前回%
男	407	44%	62%
女	520	56%	38%
合計	927	100%	100%

【質問1】金沢大学の図書館の中でいちばんよく利用する館を1つ選んでください。

※ 質問2～7については，その館について回答してください。

中央図書館	503	54%
自然科学系図書館	265	29%
医学図書館	69	7%
保健学類図書室	84	9%
利用したことがない	6	1%
合計	927	100%

質問2:

図書館の来館頻度を教えてください。

			前回%
ほぼ毎日	206	22%	18%
週1回程度	405	44%	51%
月1回程度	233	25%	24%
3ヶ月に1回程度	75	8%	6%
利用したことがない	8	1%	1%
合計	927	100%	

質問3:

図書館窓口での貸出・返却や利用案内等のサービスに満足していますか？

満足	374	40%
やや満足	236	25%
普通	239	26%
やや不満	27	3%
不満	5	1%

利用したことがない	46	5%
合計	927	100%

質問4:

図書館スタッフは利用者一人一人を大事にしていると思います

			平均値の比較	
			H26	H20
そう思う	244	26%	6.56	5.63
ややそう思う	337	36%		
どちらともいえない	243	26%		
ややそう思わない	59	6%		
そう思わない	27	3%		
利用したことがない	17	2%		
合計	927	100%		

※「そう思う」を9点～「そう思わない」を1点として平均値を出したもの

質問5:

図書館の開館時間に満足していますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
満足	226	24%	5.3	5.79
やや満足	153	17%		
普通	185	20%		
やや不満	248	27%		
不満	108	12%		
利用したことがない	7	1%		
合計	927	100%		

※「満足」を9点～「不満」を1点として平均値を出したもの

質問6:

図書館の開館日に満足していますか？

満足	228	25%
やや満足	182	20%
普通	216	23%
やや不満	213	23%
不満	81	9%
利用したことがない	7	1%
合計	927	100%

質問7:

図書館の来館者向けサービスとしてどういうサービスが必要だと思いますか？

また、問題点があればご記入ください。

282件

質問8:

図書館員が担当している「情報処理基礎」「大学・社会生活論」などの授業（OPACの検索、文献の探し方等）は役立っていると思いますか？

思う	175	19%
やや思う	305	33%
どちらともいえない	156	17%
やや思わない	80	9%
思わない	54	6%
受講したことがない	157	17%
合計	927	100%

質問9:

図書館内で実施している利用者向けの文献検索等の講習会等は

役立っていると思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	74	8%	6.74	4.95
やや思う	104	11%		
どちらともいえない	53	6%		
やや思わない	17	2%		
思わない	7	1%		
参加したことがない	672	72%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点～「思わない」を1点として平均値を出したもの

質問10:

図書館員は利用者からの学習に関する質問に回答できる知識を持っていますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	114	12%	5.75	6.08
やや思う	177	19%		
どちらともいえない	173	19%		
やや思わない	61	7%		
思わない	62	7%		
わからない	340	37%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問11:

図書館が行う学習支援としてどのようなサービスがあると良いと思いますか？

その他の意見をお持ちの方は質問14にご記入ください。(複数回答可)

職員や院生が常駐する学習支援デスク	153	17%
職員や院生による予約制の学習支援デスク	164	18%
特定の授業の予習・復習について院生がサポートするサービス	211	23%
Webによる学習支援に関する質問の受付	289	31%
特に必要はない	314	34%
その他	21	2%

質問12:

金沢大学学術情報リポジトリKURAは、皆さんの学習や研究のために役立っていると思いますか？

思う	90	10%	38%
やや思う	91	10%	38%
どちらともいえない	41	4%	17%
やや思わない	12	1%	5%
思わない	5	1%	2%
利用したことがない	688	74%	239
合計	927	100%	

質問13:

他の図書館への文献複写依頼、他図書館からの借用サービス(ILLサービス)は、学習や研究のために役立っていると思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	260	28%	8.04	5.75
やや思う	122	13%		
どちらともいえない	17	2%		
やや思わない	12	1%		
思わない	2	0%		
利用したことがない	514	55%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問14:

学習や研究の支援のために大学全体としてどのようなサービスが必要だと思いますか？

また、問題点があればご記入ください。

210件 * 回答は任意

質問15:

附属図書館報「こだま」の内容について評価してください。

満足	65	7%
やや満足	140	15%
どちらともいえない	109	12%
やや不満	7	1%
不満	5	1%
読んだことがない	601	65%
合計	927	100%

質問16:

図書館Webサイトは、利用者が自力で情報を見つけられるように作られていると思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	256	28%	6.85	5.85
やや思う	347	37%		
どちらともいえない	122	13%		
やや思わない	77	8%		
思わない	14	2%		
利用したことがない	111	12%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

合計	927	100%
----	-----	------

質問17:

学習や研究のために必要な蔵書(紙の本や雑誌)は揃っていると思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	172	19%	6.05	6
やや思う	377	41%		
どちらともいえない	152	16%		
やや思わない	117	13%		
思わない	68	7%		
利用したことがない	41	4%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問18:

学習や研究のために必要な電子ジャーナルやデータベースは揃っていると思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	124	13%	5.98	5.71
やや思う	254	27%		
どちらともいえない	134	14%		
やや思わない	93	10%		
思わない	45	5%		
利用したことがない	277	30%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問19:

図書館のオンライン蔵書目録(OPAC Plus)は使いやすいと思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	239	26%	6.8	6.16
やや思う	297	32%		
どちらともいえない	125	13%		
やや思わない	67	7%		
思わない	18	2%		
使ったことがない	181	20%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問20:

図書館資料全般についてお尋ねします。人に頼らずに簡単にアクセスできるように情報が提供されていると思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	222	24%	6.6	5.94
やや思う	407	44%		
どちらともいえない	164	18%		
やや思わない	92	10%		
思わない	18	2%		
使ったことがない	24	3%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問21:

附属図書館Webサイトから電子資料にアクセスする頻度を教えてください。

			前回%
ほぼ毎日	29	3%	6%
週1回程度	141	15%	26%
月1回程度	178	19%	26%
3ヶ月に1回程度	208	22%	19%
使ったことがない	371	40%	23%
合計	927	100%	100%

質問22:

図書館の蔵書として、どういう資料があると良いと思いますか？また、問題点があればご記入ください。

209件 * 回答は任意

質問23:

質問1で「よく利用する」と回答した館についてお尋ねします。図書館は安全で安心できる場所だと思いますか？

			平均値の比較	
			H26	H20
思う	438	47%	6.6	5.94
やや思う	293	32%		
どちらともいえない	111	12%		
やや思わない	45	5%		
思わない	13	1%		
利用したことがない	27	3%		
合計	927	100%		

※「思う」を9点
～「思わない」を
1点として平均
値を出したもの

質問24:

中央図書館のオープンスタジオ(3階)の満足度をお書きください。

満足	172	19%
やや満足	240	26%
どちらともいえない	68	7%
やや不満	29	3%
不満	8	1%
利用したことがない	410	44%
合計	927	100%

質問25:

中央図書館のブックラウンジ(ほん和かふえ。)の満足度をお書きください。

満足	241	26%
やや満足	301	32%
どちらともいえない	107	12%
やや不満	65	7%
不満	14	2%
使ったことがない	199	21%
合計	927	100%

質問26:

医学図書館のオープンスタジオ(2階)の満足度をお書きください。

満足	41	4%
やや満足	56	6%
どちらともいえない	29	3%
やや不満	8	1%
不満	1	0%
使ったことがない	792	85%
合計	927	100%

質問27:

医学図書館のブックラウンジ(プラタナス・カフェ)の満足度をお書きください。

満足	33	4%
やや満足	51	6%
どちらともいえない	25	3%
やや不満	6	1%
不満	1	0%
利用したことがない	811	87%
合計	927	100%

質問28:

図書館内でのイベント、展示等の活動についてどう思いますか。

関心がある	100	11%
やや関心がある	378	41%
どちらともいえない	140	15%
あまり関心はない	224	24%

関心はない	85	9%
合計	927	100%

質問29:

図書館はどういう場所であって欲しいですか？次の中からお選びください。（複数回答可）

			前回
学習・研究意欲をかきたてられる場所	526	57%	602
ひとりで学習・研究するための静かな場所	673	73%	633
快適でまた行きたくなるような場所	547	59%	614
学習・研究・調査のためのとっておきの場所	322	35%	589
グループ学習や共同研究のための場所	209	23%	523
その他（具体的内容は質問31にご記入ください）	15	2%	

質問30:

金沢大学附属図書館のサービスの質全般について評価をして、10点満点で点数をつけてください。

平均値の比較	
H26	H20
7.63	6.13

質問31:

図書館サービスについてのご意見を自由にご記入ください **300件** * 回答任意

附属図書館利用者アンケート 自由意見

1 運営方針に関する意見

分野	学年等	性別	館	意見
人社	4年	女	中央	金沢大学自体が教育機関・研究者養成機関・就職予備校の機能をごっちゃにしてそれぞれ中途半端になっているので、大学の方針としてどれに特化するのかを学生や高校生に明示して頂ければと思います。

2-1 安全安心に関する意見

人社	教員	男	中央	静粛な環境のほか談話もできる空間もあれば最良だと思います。プライバシーの観点から一定の注意は必要だが、ゲート管理やしかるべき範囲での防犯・監視体制の充実化は必要かと思ひます。
医薬保	4年	男	自然	ロッカー(鍵付き)があると便利だと思います。
人社	3年	女	中央	盗難防止のため、貴重品を入れておくロッカーが欲しい
医薬保	修士	女	保健	夜間ももう少し使えと良いと思うが、図書館前の廊下が真っ暗というのはあまり治安上良くないと思う。
人社	3年	女	中央	図書館前の階段の除雪
人社	修士	女	中央	貴重品の預かり。トイレなど、少し席を離れる際にパソコンを預けたいと思う。

2-2 アメニティに関する意見

理工	修士	女	自然	自然科学系図書館の雰囲気が好きで、よく利用しています。スペースに余裕があり、落ち着けるあの雰囲気が好きで、継続していただきたいです。
人社	3年	男	中央	いつもお世話になっております。自分はよく机を掃除してから帰るのですが 消しクズを入れるゴミ箱がないので ぜひ設置して欲しいです！ 勿論、他のゴミをたくさんいれられ 清掃が困難になる可能性があるので 問題
人社	3年	女	中央	研究のための文献を探していると、手に持つ本の冊数がついつい多くなってしまいます。そんな時いつも、本を入れておけるカゴがあったらいいのになあと思っています。来館者が自由に使えるカゴを置いて欲しいです。
人社	3年	女	中央	図書館を自習に利用している人も多いのですが、消しカスをそのままにしている人が多いと思います。消しカスが捨てられるような小さなゴミ箱をいくつか設置してあればいいと思います。
人社	1年	女	中央	静かで落ち着いた場所なので、今後もたくさん利用するつもりです。
人社	2年	男	中央	ゴミ箱がない。消しカスが捨てづらい。
人社	教員	女	中央	学習・研究・調査の環境として有用であることは勿論だが、研究のインスピレーションが湧いたり研究の合間にリラックスしたりできる空間でもあって欲しい。よいデザインのソファやアートがあるととてもうれしい。
人社	3年	女	中央	ひざかけがあると嬉しい。
人社	2年	女	中央	ソファ等がもっとあれば 静かな場所なので疲れたとき休憩したい
人社	1年	男	中央	時間つぶし(バスの待ち時間等)に最適な場所
人社	2年	男	中央	まずは心地よく学習できるための最低限の環境作り(清掃など)を怠らないことが大切だと思います。
人社	2年	男	中央	中央図書館を利用しますが、館内でなくてもよいので出入口付近に飲料水機を設置してほしいです。

2-3 カフェに関する意見

医薬保	2年	女	医学	医学図書館でもほんわかふえのようなカフェメニューの提供が欲しいです。あと、以前までラウンジにあったカップの自販機は生協ではなく、ラウンジにあったほうが利用しやすいと思います。
医薬保	技術	女	医学	プラタナスカフェが出来て以前より図書館に行く頻度が増えました。惜しむらくは営業日が限定されている事
理工	3年	男	自然	自然研図書館にも飲食可能なスペースがあると便利だと思う
理工	修士	女	自然	自然研にもほんわかふえのようなカフェが欲しい
人社	4年	女	中央	昼休みの時、本和カフェの席はほぼ満席ですが、ちょっとを増やした方がいいと思います。
理工	1年	男	中央	ほんわかふえからの騒音、声が気になることがある(中央図書館)
人社	教員	男	中央	ブックラウンジの利用について、ある程度ルール作りをする必要があるのではないかと思います。ブックラウンジがカフェの占有スペースではないことは理解していますが、現状ではカフェが可哀想なくらい、カフェとは無関係の人で溢れています。持ち込みの飲食をしている人や長時間にわたってテーブルを確保している人も多く、カフェで購入したものを味わいながら寛いだり、本を読んだりするする環境にはなっていないような気がします。購入しても、座る場所がない。だから購入をやめざるをえないという状況は少なからず図書館利用者にはあると思います。図書館がカフェを誘致したのであれば、そのあたりのルール設定がないとカフェは可哀想だし、カフェ利用者も困ります(というか実際かなり困っています)。
理工	教員	男	中央	カフェの併設を全ての図書館で行ってほしいことと、カフェの開店日時を図書館の開館日時に合わせてほしいこと。カフェスペースの拡充も含む。
人社	3年	女	中央	ほとんど毎日利用させていただいています。図書館の方、というよりは金大生のおかげかもしれませんが非常に静かで集中して勉強ができるのでとても感謝しています。来館者向けのサービスとしては、オープンカフェのとなりのスペースの貸し出しを、当日でも予約が入ってなければ許可してほしいと思います。
人社	1年	男	中央	どこでも飲食を可能にすべきだと思う
人社	4年	女	中央	ほんわかふえの飲み物を図書館内で飲めると嬉しい(食べ物は禁止でいいので)
人社	1年	女	中央	紙カップの飲み物でも、蓋つきであれば持ち込み可にしてほしいです。例えば、ほんわかふえの飲み物等。
人社	4年	女	中央	適度にリラックスして勉強できる、ほんわかふえのようなスペースがもっと欲しい。
人社	2年	女	中央	ほんわかふえの利用について、1人でテーブルを占領している人が多く、大抵の人はカフェを利用せずに学習の場または集まりの場として使っている。食事をしたい人が利用できない状態であり、食事をしない人には利用しないでもいい。なんらかの注意書きを提示してほしい。
人社	4年	女	中央	ほんわかふえでも、持ち込み可能な飲み物を販売して欲しいです。
理工	1年	女	中央	カフェまでついていて居心地がいいです(*ω*)
人社	3年	男	中央	ほんわかカフェの座席をもっと増やしてほしい。午後になると絶対席が空いておらず、新聞が読めない。
理工	2年	男	中央	もう少しほんわかカフェを広くしてほしい。席を全般的に増やしてほしい。
人社	1年	女	中央	ほんわかふえで電子マネーが使えるようになってほしい。
人社	2年	男	中央	ほんわかふえがもう少し広くなってくるとありがたいです
医薬保	1年	女	保健	ほんわかふえが利用しやすく好きです。
医薬保	3年	女	保健	医保図書館にもブックラウンジ(カフェ的なもの)がほしいです。(スペース的に厳しいと思いますが…)

人社	教員	女	中央	ほん和カフェやスタジオなど、いろいろ新しい試みがなされていて、とてもいいと思います。カフェは混んでいて、休暇中はゆっくり利用しようと思っても開いていないとか、スタジオも利用しようすると予約済みなど、なかなか利用できないのが残念です。
人社	1年	女	中央	飲食できる場所がブックラウンジしかなく、混んでる時は利用できません。もう少し飲食スペースを増やしていただきたいです。テスト1週間前は、土日は7時くらいまで開けていただきたいです。
人社	4年	女	中央	飲食可。せめて紙バックの飲み物可。冬寒い。暖房の設定温度を上げてほしい。
理工	4年	男	自然	ほん和カフェの座席数が足りないと思います。図書館員のオススの本が並べてあると興味を持ちます。会議室を予約制で使えることに感謝しています。
医薬保	2年	女	自然	自動販売機の設置(図書館前でもいいと思います)
理工	修士	女	自然	図書館の付近に自動販売機と休憩コーナーがあってほしい 自然科学系図書館にも就職活動の最新の図書を入れてほしい

2-4 空調に関する意見

医薬保	修士	女	医学	一階カフェラウンジが、少し寒い気がします。
理工	2年	女	自然	空調管理をもっとしっかりしてほしい
理工	修士	男	自然	夏は暑く冬は寒いので、どうにかしてほしい。
人社	1年	女	中央	冷暖房の徹底
人社	3年	男	中央	少し寒いです
人社	3年	女	中央	冬は暖房をもっと強くした方が良く思う。
人社	3年	女	中央	防寒用具の貸し出し
人社	3年	女	中央	足元が寒いときがあるのでブランケットの貸し出しがあると嬉しいです。
人社	2年	女	中央	もうちょっと暖房を奥の机の方にもかかるようにつけてほしい。
人社	修士	女	中央	夏暑く冬寒いのでもっと空調を効かせてほしい
人社	2年	女	中央	もう少し暖房を強くしてほしいです。寒いと感じることがよくあります。
人社	4年	女	中央	冬季の窓際の寒さ対策 夏季の涼しさUP
人社	1年	女	中央	空調をもう少し効かせて頂きたいです。
人社	3年	女	中央	寒いので温度をあげてほしい。
人社	1年	女	中央	冷暖房の徹底
人社	3年	女	中央	冷暖房がしっかり効いた部屋。
理工	1年	男	中央	夏の図書館は暑いのでクーラーをつけてほしい
人社	2年	女	中央	冷暖房が不十分である。
人社	2年	女	中央	暖房があまり効いていないため、少し寒い
人社	2年	女	中央	中央図書館が夏は暑すぎて、冬は寒すぎる。とくに夏は暑くて勉強に集中ができない。あまりの暑さに勉強を諦めて帰宅したことが何度もある。友達と勉強をしようと計画していたとき、中央図書館は暑いから嫌だという意見が多く、なかなか利用しようとはならない。クーラーは一応付いているがそれは職員のいる箇所だけ。扇風機も何の役にも立っていない。実際中央図書館は勉強するには不適切と考える学生が増えてきている。学年が上がるにつれ勉強することが多くなると同時に勉強しやすい場所をもっと求めるようになる。それなのに中央図書館はこのような状況であることが非常に残念である。
人社	4年	女	中央	暖房が弱く感じます
人社	3年	男	中央	寒い
人社	博士	女	中央	暖房不足
人社	博士	女	中央	冷暖房はもう少し効かせてもらったほうがありがたいです。
人社	4年	女	中央	節電は十分理解しているが、特に冬は夜になると寒いのでもう少し暖房を効かせてほしい。
人社	4年	女	中央	パソコンが新しくなったり、頻繁に楽しいイベントを開催していたり、夜の遅い時間まで開いていたりと利用の環境は良いものであると思う。できれば夏場にもっと2階にクーラーをきかせてほしい。
人社	3年	女	中央	冷暖房が物足りない
人社	1年	女	中央	静かで学習に適しているけれど、空調が適切でない時があるので検討をお願いします。
人社	4年	女	中央	もう少し暖房の温度を上げてもらいたい
人社	2年	女	中央	暖房や冷房ももっとつけてほしい。いまはさむいです。
人社	2年	女	中央	空調が弱い。今の時期寒い。
人社	4年	女	中央	快適に使わせていただいておりますが、夏暑すぎるときがあるので冷房をもう少しきかせてほしかったです。
人社	1年	女	中央	中央図書館に関して、夏の暑い日になると、冷房のききが悪いように感じます。常に28℃設定なのは環境を配慮してのことだと思われそうですが、実際の気温とのバランスもかねて、より柔軟に対応していただけると、図書館がより快適な場所になると思います。
人社	3年	男	中央	中央図書館のオープンスタジオの暖房が十分ではなかったため、改善していただけると有り難いです。
人社	3年	女	中央	館内が寒いので、暖房を強くしてほしい。
人社	3年	女	中央	空調管理をもう少し快適にしてもらえたら嬉しいです。
人社	2年	女	中央	夏の空調設備をもう少しなんとかしてほしい。
人社	4年	女	中央	冷房、暖房をしっかりかけてほしいです。館内が夏は暑く、冬は寒いので、勉強する環境として不十分であると感じたことがあります。
人社	博士	女	中央	冷暖房はもう少し効かせてもらえると嬉しいです。
人社	2年	女	中央	節電は大切な事だと思いますが、大学の講義室は授業が終わると暖房を切られてしまいます。なので図書館を利用するのですが、図書館の温度も快適とは言えない日があります。図書館だけでも、冬は暖房をしっかりつけておいてほしいです。
医薬保	2年	女	保健	空調も整っていて、かつ静かでとても快適な空間です。
医薬保	4年	女	保健	冬はすごく寒くて夏は暑いのが、勉強に集中できなくて困っています。
医薬保	4年	女	保健	ほんとに寒い。もう少しあたたかくならないですかね。
医薬保	3年	女	保健	保健学類の図書室は静かでとても使いやすいです。しかし、とても寒くて長時間いられないので、もう少し暖かいと嬉しいです。
医薬保	3年	女	保健	夏だと暑い、冬だと寒いので空調の温度をさげたりあげたりしてほしい。

医薬保	4年	女	保健	夏は暑く、冬はとても寒いので温度調節をもう少し快適にしてほしいです。
人社	1年	女	中央	夏館内が暑くて勉強がはかどりませんでした。本を探すときにいつもそのジャンルのコーナーにたどり着くのに時間がかかるので、わかりやすい看板や表示があると助かります。
人社	修士	女	中央	暖房が弱いのでもう少し暖めて頂きたいです。DVDの借用を許可して頂きたいです。
理工	1年	女	中央	冷房、暖房の効きやすいところ、効きにくいところを教えてください。エアコンが苦手なので避けて座りたい。消しゴムのかすを捨てる場所に困る。
医薬保	4年	女	自然	冬は暖房を、夏は冷房をもう少し効かせてほしいです。夏に暑すぎて勉強に集中できないときがありました。あと休日の開館時間を、テスト期間だけでもよいので、もう少し長くしていただけたら嬉しいです。
理工	1年	女	中央	自宅で勉強するよりも資料が近くにあり集中できるので、よく利用しています。おおむね満足ですが、冷暖房の効き具合がちょっと惜しいかなと思います。中央図書館は特に、夏は暑いです。自然研は快適でした。それから日曜日の閉館時間が17時なのは個人的に早いと思います。あとは特にありません。いつもお世話になっています。ありがとうございます。
医薬保	1年	女	中央	冷暖房があまり効かないのが残念。二階だけでなく三階の机にもコンセントのプラグがあればよい。
人社	4年	女	中央	冷暖房設備をもう少し、充実させてほしいです。特に、冬は寒いので平日の日中(授業開講時間くらいは)もう少し暖房を上げて欲しいです。オープンスタジオのホワイトボードで使うペンがよくインクが切れてます。きちんと確認してほしいです。
人社	4年	男	中央	・夏場、冷房が効いていない時間があり、非常に暑く、とても学習できるような環境ではなかった。・友人が夏場の冷房について職員に苦情を伝えると、邪陰に対応されたと言っていた。・開館時間が短い。海外の大学図書館は、24時間開いているという図書館も少なくない。また、都心部と異なり、大学周辺にそれほど多くの学習環境がないので、学習スペースだけでよいので、深夜を含め開けてほしい。・友人が盗難被害にあっているため、巡回を増やすなど、対策を強化してほしい。
人社	3年	女	中央	寒い時がある 一般的な文学小説の数が少ない
2-5 トイレに関する意見				
人社	3年	女	中央	図書館が開いてからトイレ掃除されるのは、すこし迷惑なので開館前にすませて欲しいと思うときがあります。
人社	3年	女	中央	トイレの増設
人社	修士	女	中央	トイレが湿気臭い
人社	3年	男	中央	最近中央図書館3階?のトイレのドアが開くたびに軋む音(パチっという比較的大きな音)がして、集中力を欠いてしまう場合があります。直るようだったら直したほうがいいかと思います。
人社	修士	女	中央	中央図書館のトイレや椅子、床などが清潔であればさらに良いと思います。ほんとかふえも同様にイスや机がキレイであって欲しいです。
人社	3年	女	中央	図書館サービスとは、直接的には関係ないですが、トイレに清潔感がないのが気になります。「席を離れる際は、貴重品を身につけて」と言っているにもかかわらず、トイレに荷物を置く場所がない。荷物を掛けるフックは、位置が高すぎて届きません。デパートでもどこでもそうですが、トイレが汚いともう来たくなくなるし、トイレが綺麗だとまた来たいと思うような気がします。トイレを綺麗にしてください！
人社	2年	男	中央	二階の男子トイレのドアが開ける度大きな音がしてうるさいので何とかしてください。
人社	3年	女	中央	雑誌や企画展示が充実していてうれしいです。トイレの臭いが少し苦手です。
人社	4年	女	中央	盗難が多いのがこわいトイレが少なくきれいではない いつも受付の人が丁寧に接してくれるので安心します たまにトイレが2, 3階ともに清掃された時があったので、その時は困りました。また文献取り寄せの際に、ちょうど使わないといけなかったのも困りました。あと、現金コピーの際、カウンターでの両替もできなくて困りました。生協などで両替してくださいと言われましたが、生協も両替は受付ていないので、何かしら対応してほしいです。(予めわかるように分かりやすく掲示しておくなど)
2-6 閲覧室内の音に関する意見				
理工	4年	男	自然	個人のモラルの問題になりますが、図書館内での必要以上の会話は気になるので、何とかなればと思います
人社	4年	女	中央	静かすぎるので、静かなBGMが欲しいです。
センター等	教員	男	中央	総合図書館の、18時に流れるアナウンスは必要ないと思います。(昨日は流れなかったような記憶があるのですが)私の場合、ちょうど図書館へ入り、さあはじめようという時間に放送されるため、非常にわずらわしく感じています。PC用のコンセントを、自然科学図書館と同様に、中央図書館へも配置していただきたい。
人社	3年	男	中央	基本的に使いやすい図書館だと感じる。ただ、頻繁に入る放送がやや煩わしい、中央図書館でコンセントをつなげる場所が少ないといった点が残念だと思われる。
人社	3年	女	中央	中央図書館のオープンスタジオの音が気になることがあります。オープンスタジオは素晴らしいサービスですが、防音効果が高くなると図書館で勉強している人も快適だと思います。研究室に置いてある本を借りるときの手続きがよくわかりません。研究室に所属している学生が持ち出したままになっている本もある気がしま

2-7 施設設備等に関する意見

人社	1年	男	中央	Wi-Fi設備をもう少し充実させて欲しい。電波の弱いところがあるから。
理工	修士	男	自然	自然研図書館の2階に、本を検索するためのPCを複数設置してほしいです。
理工	2年	男	自然	図書館で勉強するときには本と共にスマートフォン等を利用して調べものをするが多々ある。だから、スマートフォンが充電できるようにもっと多くの机にコンセントを取り付けて欲しい。
理工	3年	女	自然	席数も多くコンセントなども整備されているので快適です。
人社	3年	女	中央	コンセントを増やしてほしいです
人社	4年	男	中央	コンセントの利用を可能にほしい。
人社	1年	女	中央	情報コンセントが全部利用できるようにしてほしいです
人社	4年	男	中央	パソコンを使う場所(コンセントのある机)はもっと必要だと思う。パソコンは学習に必要不可欠になっているの
人社	4年	女	中央	コンセント利用可の机を増やしてほしいです。
人社	4年	女	中央	パソコンでレポートや卒論を書く際に、コンセントの数が少ないので、充電できずに不自由な思いをしています。また、トイレの数が利用者数の割りに少なく、音が漏れやすいのも気になります。なので2点マイナスにしコンセントを増やしてほしい。
人社	3年	女	中央	ほんわかふえにもう少し差し込みプラグがほしい。パソコンを充電しながら使える席があまりない。

人社	3年	女	中央	ほん和カフェに電源用コンセントがほしい、
理工	3年	女	自然	パソコンのコンセントがさせる席がもう少しほしい。図書館の開館時間を購買が開く時間と同じくらいにしてほ
センター等	教員	男	中央	中央図書館には、自然科学図書館と同様に、コンセントを増設して欲しい。開館日時を増やして欲しい。図書館は、本を閲覧するだけのエリアではないと考える。全館営業である必要はなく、学習スペースなど、一部でもよいので、営業して欲しい。
医薬保	3年	女	保健	図書館に傘立てを設置するサービス OPAC専用のパソコンの設置 土曜日の開館時間の延長 日曜日の開館(午前中だけでも)があればいいと思います。

2-8 館内のIT機器等に関する意見

人社	4年	女	中央	図書館のパソコンを使うとき、立ち上げ・シャットダウンに時間がかかる。
人社	4年	女	中央	パソコンの数をもう少し増やしてほしいです。
人社	修士	女	中央	いまはiPadの貸し出しサービスがあるが、iMacなど使いやすいデスクトップ型パソコンを10数台設置するメディアセンターを館内につくってそこでiMovieなどの作業ができるとよい。グループスタジオやオープンスタジオ、ほんわカフェが混み合っているのも、もっとグループで話しながら学習できる場が館内に広がるとよい。デスクトップ型パソコン一台と4人ほど座れる大きなテーブルの席などがあるとよい。フタ付きの飲み物だけ持ち込み可で、お菓子も食べられないのは厳しすぎると感じる。所蔵書籍を閲覧しない場合など、長時間快適に勉強できるように、チョコなどの飲食を認めてほしい。学生はマナーを守れると思う。
人社	修士	女	中央	パソコンの数を増やしてほしい。また、コンピュータの机がもう少し大きいと作業しやすいのですが。図書館をよく利用するのですが、利用している人や職員の方もいないので女性一人で長い時間いると不安になることが
人社	修士	男	中央	蔵書というよりも、ほん和カフェの放映番組についてですが、CNNとNHKだけでなく、地域に根差した大学図書館づくりという観点から、金沢ケーブルネットTVの導入も検討してみたいかがでしょうか。金沢での独り暮らしや課外活動に役立つコンテンツが多いテレビなのですが、下宿生にとっては、なかなか手が届かない有料放送であり、図書館で視聴できるようになると嬉しいです。

2-8 図書館へのアクセスに関する意見

人社	2年	男	中央	資料館側も出入り自由にして欲しい
理工	1年	男	中央	シャトルバスがでてほしい エアコンを温度によってつけるようにしてほしい
医薬保	修士	女	医学	角間キャンパスと宝町キャンパスをいききできるバスがあればもっといい。→色んな文献を直に手にとって文献を探すことも、すごく勉強になるとおもう。
理工	修士	女	自然	駐車場
理工	修士	男	自然	大学関係者以外の人に対する配慮が少ない。特に、駐車スペースがわからない。
医薬保	4年	女	中央	近くに駐車場があればいいと思います。
医薬保	6年	男	自然	医学図書館が駐車場の問題で利用づらいです。病院の休みの日は、駐車場が空いていると思うので 図書館利用者に解放してほしいです。
理工	修士	男	自然	3号館から遠すぎる。

3-1 蔵書に関する意見(新しい本)

医薬保	6年	男	医学	各蔵書の最新版が常にあればなおよい。
医薬保	3年	男	医学	最新版の教科書 医学、生命科学、生物系の新書
医薬保	4年	男	医学	少し古い気がする。
理工	3年	男	自然	古い参考書が多いため、新しい参考書があったら良いと思う。それからデザイン系の書籍もあれば有難い。
理工	修士	男	自然	環境学コレクションのスペースは環境に関する資料が多く揃っていて非常に探しやすいですが、環境問題の本は特に新しい情報が重要となってきますので、新しい本が多くあると嬉しいです。
人社	博士	女	中央	最新の資料があるとよいと思いますし、それが問題点であると思います。
人社	3年	男	中央	翻訳が古いのが多く、新訳が少ない。(特に、思想系の専門書)
人社	4年	男	中央	どの分野でもというわけではないが、新しい資料が少ないと思う。
理工	1年	男	中央	最近の動向をとらえた書物。
人社	3年	女	中央	古い文献は充実していますが、最近の文献は検索しても出てこないことが多いので増やしてほしいです。
人社	4年	女	中央	新しく出た本の入りが遅い。
人社	4年	女	中央	法学においては、古い図書が法改正前のものが多いので、大幅な改正があるような図書は新しいものにしてほしいです。
人社	2年	男	中央	最近の資料や本が欲しいです。昭和前期の本を置かれても状況が現在とは違うのであまり参考にならないで基本的な最新の研究書が十分架蔵されていないと思う。書庫のスペースという問題があるのかもしれないが、リポジトリに頼って、雑誌の受付をやめているのも本当は良くない。実際に紙媒体を見たり、通覧することで得られる情報がある。
人社	教員	男	中央	もっと新しい本
理工	1年	女	中央	最新の本
人社	3年	女	中央	最新の本
医薬保	2年	女	保健	最新の保健学系(看護)の専門書があると良いと思います。発行年が古い本が多いため、社会の制度、背景も昔の時代のものであり、今の看護を知る目的で読むときにはあまり参考にならないです。
理工	修士	男	自然	最新の文献やマイナーな分野の資料

3-2 蔵書に関する意見(一般書・小説)

医薬保	2年	男	医学	医学図書館には、医学書はそれなりに充実していると思います。しかし小説や、科学一般に関する本などが少なく、幅広い分野の本に接することのできる図書館にはなっていないと思います。個人的には、それが寂し
医薬保	5年	男	医学	主に医学図書館を利用しているが、他図書館にあるような、一般向けの本の冊数を増やしてほしい。
医薬保	3年	女	自然	専門書は充実しているが、小説などが少ないと思う
理工	2年	男	自然	心を軽くするための一般向けの哲学・書や、一般相対論・病理・英文学など少し踏み込んではいけど簡単に触れることのできる本がさらに多いとさらに良いと思います。
医薬保	博士	女	自然	自然研にも研究用ではなく、一般の小説などを増やしてほしい。少なすぎます。
理工	修士	女	自然	小説などが少ない。自然研にも文学系の書籍を置いて欲しい。

医薬保	2年	女	自然	自然研図書館にも、少くく文学書籍を置いて欲しいです。
理工	博士	男	自然	少しでも小説等があると楽しい
理工	4年	男	自然	小説を増やしてくれるとうれしいです。
理工	3年	女	自然	最新のものや小説など。
医薬保	3年	女	自然	小説の本が少ないと思う。
理工	2年	男	自然	すごく個人的な意見で申し訳ないですが、普通の小説をもっと置いてくれるとありがたいです。
理工	2年	女	自然	もっと土日に開放してほしい 自然研の図書館に近現代の小説をもっとおいてほしい
人社	3年	女	中央	来館者を増やすために専門書以外にも読みやすいと思われる本を入れると良いと思う。
人社	4年	女	中央	文学作品はもう少し充実させてもいい気がする。また文学作品の書架は作品が不適切な並びになっている事が多いと思う。
理工	1年	男	中央	趣味、娯楽のコーナーに写真に関する蔵書を増やしてほしい
人社	4年	女	中央	・現代小説
医薬保	1年	男	中央	最新の小説など置いてあれば課題以外の目的で利用する学生が増えるのではないかと思います。
人社	1年	女	中央	普通の娯楽小説も増やして欲しいです。例えば伊坂幸太郎や朝井リョウや有川浩の本などを入れて欲しいで
人社	4年	女	中央	村上春樹などといった、文学作品
医薬保	1年	女	中央	学術系の本が多いのは仕方がないと思うが、もう少し娯楽思想的なもの(漫画とかではない)、例えば話題の作家の作品、現代の作家の文庫やハードカバー等を入れてほしい。
人社	修士	女	中央	「吉本ばなな自選選集」岩波文庫のぼろぼろの古い装丁の書籍は読む気にならないので、新しい物も並べて置いてほしい。
人社	1年	女	中央	難しいとは思いますが、学習資料だけでなく、書店で売られているような小説をもっと豊富にしてほしいです。
人社	4年	男	中央	文系全般の書物が少ない気がするので、予算をふやしてほしい。統計資料の種類、数が少なく、県立図書館や市立図書館に行かないといけないため、利用者離れにつながりやすいことが問題である。
人社	2年	女	中央	研究資料には特化しているが、趣味としての読書のための図書はあまり充実していない点
人社	4年	男	中央	文芸書、日本文学系の本を充実させて欲しい。とくに比較的時代の新しいもの。読みたい本を検索したが、研究室や保健管理センターに置かれていた。取りに行くのが面倒だったので、入手を諦めてしまった。
理工	1年	女	中央	文芸の書籍を増やしてほしい。
医薬保	1年	女	中央	専門書のほかに、もう少し最新の文芸書を増やしてほしい。
人社	4年	男	中央	小説が少ないので増やしてほしいです。
医薬保	1年	男	中央	学習のための蔵書は揃っているとおもうが、もう少し小説など娯楽的な本もおいてほしい。(有川浩、朝井リョウ)
人社	4年	女	中央	資料よりも小説を増やしてほしいです。
人社	1年	女	中央	文芸書がやはり手薄だと思う。文芸書も研究のための本となりうる。もう少し充実させてほしい。
医薬保	1年	男	中央	学習のための蔵書は揃っているとおもうが、現代小説などもう少し娯楽的な本もおいてほしい。(有川浩、朝井リョウなど)
人社	4年	女	中央	現代小説
人社	2年	女	中央	文学作品を拡充してほしい
人社	1年	女	中央	小説が少ないように思えます。
人社	2年	女	中央	資料ではないですが、現代小説があったらもっと利用したくなくとも思います。少しは置いてありますが1巻だけあって2巻以降がなかったりしてがっかりした経験があります。勉強第一なのはわかりますが、もっと娯楽的な本がたくさんあれば良いのになと強く思います。
人社	1年	女	中央	普通の流行りの本(小説など)
理工	修士	女	中央	アカデミックなもの以外の蔵書も必要。例えば一般的な図書館にあるようなもの。そのほうが居心地がさらに良くなる。
人社	2年	女	中央	著名な作家の小説
医薬保	1年	女	中央	小説
人社	4年	女	中央	小説等をもっと増やしてほしい。
人社	2年	女	中央	専門書が多いのでありがたい。でも、小説など娯楽系の本もあればいいと思う。
人社	3年	女	中央	新刊の小説を充実させること。純文学に限らず。
医薬保	1年	女	中央	一般的な小説など、学問以外の分野の本が欲しい。県立図書館などは少し遠いので。
医薬保	3年	女	保健	アンケートをとって人気の資料、図書を増やす

3-3 蔵書に関する意見(教科書)

理工	3年	女	自然	新学期に教科書の紹介ブースを設ける
医薬保	修士	男	自然	金沢大学で扱っている教科書とは異なる同分野の教科書を充実させてほしいです。新しい版がでたらなるべく早めに更新してほしいです。
理工	修士	男	自然	学校で使用する教科書など。卒業していく学生に寄付を呼び掛けたいのでは。
センター等	教員	男	中央	定番の教科書、特に洋書で国際的に教科書採用の多い書籍やシリーズ
人社	2年	女	中央	教科書類
人社	3年	女	中央	授業で使う教科書を入れて欲しい。お金がないときは買うのが辛いので。
人社	3年	女	中央	学部に限らず、授業用の教科書や参考図書として指定されたものは、一冊だけでなく、何冊か置いてほしい。特に法学類は必要な図書が多いため、全て購入となると、金額が非常に高額となり、生活を圧迫するため、お願いしたいです。
理工	3年	女	自然	資料は多くそろっていると感じるが、授業で扱うような教科書系の本がもう少しあってもいいと思いました。また、中央図書館ではもっと小説を増やしてもらえると嬉しいです。
人社	4年	男	中央	もっと、社会情勢や教養を身につけられるような資料を増やして欲しい。細かい資料は結局街の図書館に頼りにくいのは、大学として残念に思う。

3-4 蔵書に関する意見(高額図書、専門書)

医薬保	博士	女	医学	欲しいけど高く買えない書物があると本当に嬉しいです。
人社	教員	男	中央	高価ではあるが県や市では保管できない書籍・資料

人社	博士	女	中央	古典籍(版本)が一般資料と混在しているので、整理して古典籍の棚を作してほしい。四高文庫や暁文庫には手に入りにくい本が多いので、もっと見やすく使いやすく整理してほしい。
人社	3年	男	中央	哲学や文学に関しては全集が刊行されているような有名どころだけではなく、少しマイナーでも重要な哲学者や作家の作品もあると良いと思います。
医薬保	博士	男	医学	専門が救急医学なので、救急医学の蔵書が増えると嬉しいです。
理工	修士	男	自然	個人では買にくい高価な参考資料
理工	教員	男	自然	化学洋書のシリーズ本が少ない
人社	4年	女	自然	中央図書館に、自然科学系図書館にあるような数学の専門書を増やしてほしいです。
理工	4年	男	自然	事故系や失敗作のような教訓となるような工学系の本もっとあるといいと思う。ただそれが原発などに偏りすぎるならいけない
理工	3年	男	自然	専門的なものがあればOK
理工	修士	男	自然	専門分野を広くカバーする資料
理工	修士	男	自然	各分野の専門書
人社	3年	女	中央	福祉に関する資料
人社	3年	女	中央	言語学専門なので、言語学の本が増えるとうれしいし、主要でない言語の本もあるととてもうれしいです。
人社	4年	男	中央	私は外交史を研究していますが、絶版になっているニクソン回顧録など政策当局者の回想録や日記を収集すれば、研究がより深化するのではないかと。
人社	3年	女	中央	介護保険や年金の制度をよりわかりやすく具体的に解説しているような本や資料
人社	3年	男	中央	法律系の蔵書がもっと欲しい。
センター等	事務	女	中央	学習・研究に必要な専門書。
人社	事務	男	中央	続修四庫全書
人社	修士	女	中央	現代思想
人社	1年	女	中央	人文なので特に人文系の書籍についてですが、あまり蔵書に無いマイナーな細かい範囲の書籍も増やして欲しいです。レポートで興味があったことを書こうとして、時々参考にする本がないときがあります。
人社	3年	女	中央	同性愛に関して美術の観点から取り上げた本
人社	修士	男	中央	自分が研究しているのがチベット死生儀礼についてなのですが、チベットについての資料は非常に稀です。他の大学に所在であるみたいで、金大になかったのも、ちょっと大変です。
人社	3年	女	中央	文学専攻なので、外国語の現代文学が増えると嬉しいです。
人社	3年	男	中央	基本書よりも専門性が増した図書。多少価格が高くても内容の有用性がそれに勝るものも多いので、リクエスト図書で購入申し込みがされた場合は購入していただければ有り難いです。
センター等	事務	男	中央	ヨーロッパ産業史関係
人社	1年	女	中央	研究室にしかないような少し専門的なもの。
人社	博士	女	中央	専門書をたくさんおいていただいて助かってます 研究科の図書室の蔵書は貸し出しができませんから…。
医薬保	3年	男	保健	「病気がみえる」という参考書が学習に非常に役立ちます。鶴間の図書館に「病気がみえる」を増やしてほしい
医薬保	2年	女	保健	看護の新しい資料をいれるといいとおもいます
理工	1年	男	中央	高価な専門書 TOEICに関するものを増やしてほしい
理工	修士	男	自然	各専門分野の専門書と、心の病気を抱え込まないための哲学や思想書があるといい

3-5 蔵書に関する意見(実用書等)

理工	2年	女	自然	資格取得に関する本
人社	3年	男	中央	国家試験、教員採用試験などの参考書(北陸以外の県のものなど)
理工	4年	女	自然	就職関連の本は同じものを何冊かおいても良いと思う
理工	1年	男	自然	企業のパンフレットや、就活の本が多ければよいと思った
人社	3年	女	中央	就職に関する本を充実させてほしい
医薬保	3年	女	保健	就職活動に関する情報
人社	1年	女	中央	小説の充実 海外の学術的な本
人社	1年	女	中央	高いところにあると取りづらいので台があったら便利だと思う。
人社	修士	男	中央	新刊の新書
人社	1年	男	中央	新書を増やして欲しい
人社	4年	女	中央	雑誌や新聞の種類を増やして欲しい。TVやDVDが見たい
理工	博士	男	自然	国土交通白書
人社	教員	男	中央	経年的なデータを得るために政府刊行の統計資料を揃えて欲しい。
人社	2年	男	中央	政府が出しているあらゆる統計データ(消費者物価指数やGDPの推移など)
人社	4年	女	中央	市政情報
理工	3年	女	自然	プログラミング関連の資料を増やしてほしい。
人社	3年	女	中央	一般企業就職希望者向けの蔵書は多くあるのに対し、教員採用試験対策の蔵書は少ないように思います(特に自然研で)。教員採用試験対策の問題集参考書や教育時事に関する本がより多くあればいいと思います。
医薬保	3年	女	医学	新書 文庫本
医薬保	2年	女	自然	最新版の教科書やより普通の文庫本があるといい機会も増えると思う。
理工	教員	男	中央	気軽に読める文庫や新書を充実してほしいことと、地域の情報としてミニコミ紙や広報誌、フリーペーパーも扱っては如何か。
人社	2年	男	中央	小説と新書
人社	4年	女	中央	あさきゆめみしやベルサイユのバラのように、漫画でありながら資料ともなるものをもっと増やしてほしい。
理工	1年	男	中央	他言語(特に英語以外)の日本語訳が出版された際、早めに読めるようになると嬉しい。
理工	修士	女	自然	古い資料や、高価な資料 学習に興味のわくような、やさしい内容の資料

3-6 蔵書に関する意見(その他、全般)

医薬保	4年	男	自然	本棚のすぐ近くに、腰を下ろせる小さな椅子とかがあると少し読みたい時に助かります。
医薬保	1年	男	中央	全体的に種類が少ないです。
医薬保	6年	女	医学	専門書だけではなく一般書籍ももう少し増えれば良いと思います。

医薬保	3年	女	医学	普通の新書、文庫をもっと置くべき。また、リクエストを取り入れて欲しい。
医薬保	2年	女	医学	専門科目の学習や研究、という観点からはずれてしましますが… 医学図書館では図書のほとんどが医学書で、他の分野の図書や小説などは全くないので、そういった類の図書を借りる機会が二年になり宝町キャンパスに移ってからは無くなってしまいました。医学書以外の図書を何冊か、月替わりで貸し出しできるようにしてはどうでしょうか。月ごとにテーマを変えて専用のコーナーを作ってみても面白いかと思います。
医薬保	2年	男	医学	医学図書館にも一般書をおいてほしい。
医薬保	6年	女	医学	一般文学書をもっと入れていただけると嬉しいです。
医薬保	修士	女	医学	医薬の図書館には小説が一冊もないと言っても過言ではないです。確かに、専門書も大切ですがもう少し小説など関係のない本も置いて欲しいです。
理工	修士	女	自然	大学の図書館なので仕方のないことですが、小説の充実をもっと図ってほしいと思います。
理工	修士	男	自然	薄くて読みやすく、面白い本を玄関前においてほしい
理工	教員	男	自然	新着図書が到着日付順に分かるようにしてほしい。以前のように。
理工	3年	女	自然	授業で使う教科書を忘れたりしたときに借りることができるよう、もっと教科書が用意してあればよいと思う。
理工	2年	男	自然	学習支援のサービスとして、高みへ独学していくための簡単に本を何種類かの紹介をまとめたものがあると良いと思います。英語だったら、このレベルの本が読めたらこんな本はどうだろう、のような。または、生協の購買で毎学期売っている教科書の表をまとめたものを大学をあげて作る。違う学類・学域の勉強はしたいけど、何から手を付けていいかわからない人は多いと思います。こういった他学域の独学を大学が推進すれば学力向上にもつながると思います。中央図書館の新しく購入した本が入ってる棚の上に、記憶が古くなければ、原発関連の本がまとめておいてあると思います。エネルギーについてなら火力など他も、原発についてなら原発推進の本も置くべきです。何か強い意志があって置いてあるのであれば特に何も言いませんが。
医薬保	博士	女	自然	購読雑誌をもう少し増やしてほしい。化学系論文。
理工	修士	女	自然	購読可能な論文を増やしてほしいです。
医薬保	2年	女	自然	調べるための資料の充実であると思うがこれはすでに満たしていると思う
理工	修士	男	自然	資格対策本を新しいものに交換してほしい。
理工	2年	男	自然	授業で扱う参考図書をなるべく図書館に入荷しておくよう先生方との交渉をしてほしい
理工	博士	男	自然	english research material.
人社	4年	女	自然	私は学校教育学類の数学教育専修の4年生です。一番行きやすいのは中央図書館ですが、中央図書館より自然科学系図書館に数学の専門書が多くあるので、図書館を往来するのが面倒だと感じるがありました。テスト勉強をするときに、日曜日に自然科学系図書館が閉まっているので、参考書を借りることができなくて困ったこともありました。先生方のおすすめの本のコーナーや色々な特集をしていて、今まで出会えなかった本を読む機会になりとてもよかったです。教員採用試験関連の参考書を特集していることもあって、こんなに参考書があることを知らなかったのも、また特集してくれれば後輩のために良いと思います。
理工	3年	男	自然	といっくの、参考書の追加
理工	修士	男	自然	できるだけ新しい専門書を多く取り寄せれば、刺激が受けられる
医薬保	1年	女	自然	分厚目の本など、軽くていいから内容を紹介しよう。帯をつけたら便利だなと思う
理工	修士	男	自然	自然科学の書籍数が圧倒的に少ないと思います。特に、専門書棚には空きが目立ち、調べ物をするには参考文献が少なすぎます。
理工	4年	男	自然	洋書の専門書の数をもっと増やしてもいいと思う。(ある分野では洋書の教科書しかなかったりするので…)
理工	技術	女	自然	図書館はきれいで環境がいいと思います。蔵書も充実していると思いますし。でもやはり雑誌はもう少し充実すると更にありがたいです。
理工	修士	男	自然	図書館には本が充実している事を望んでいます。自然研図書館をよく利用しますが、理系の本がほとんどで、文芸系の本、雑誌などがほとんどありません。自然研図書館にも理系用以外の本を充実させて欲しいで
理工	教員	男	自然	自然系図書館のDVDや文庫には明らかに自然科学と無関係と思われるもの(軍事関係のDVDなど)が多数あり、違和感がある。
理工	教員	男	自然	蔵書の位置換えなどがたまにありますが、変更直後は探すのに苦労するので、あまりそういうことは行わないでいただきたいと思っています。
理工	2年	男	自然	調べ物としての図書館と読書家としての図書館、両方充実してほしいです(小説が欲しいという意味合いで
理工	教員	男	自然	昔と違って、図書館に行って何かを行うことは減り、オンラインで図書館にアクセスして利用する機会が殆どになりました。ただ、情報通信関係の知識はすぐに陳腐化します。また研究分野によって利用するリソースが大きく異なります。分野分野に適した最新情報がわかりにくくなっているような気がします。ロートルの教員にとっては、図書館のポテンシャルが全く生かせない時代になっているのかもしれない。
理工	修士	男	自然	もっと小説をおいて欲しいです。
理工	修士	男	自然	学生にとって、図書館は必要な知識を収集するための場所であり、特に大学の図書館は他の場所では探ることのできない専門書の存在する場所であるべきであると感じます。その点で、自然科学の図書館は、書籍数の観点から、大学の図書館としての要件を満たしていないと思います。設備・システムがしっかりとしているだけに、形だけにこだわった今の図書館のあり方が非常に残念です。参加する人がいるかわからない呼び込みのイベントよりも必要な書籍の情報収集とその重点に力を入れてほしいです。資料がしっかりとしていれば利用者は増えていくと思います。
医薬保	修士	女	自然	図書館の蔵書整理について、あれだけの本を管理するとなると大変だとは思いますが何卒よろしくお願い致します。WEBで図書が購入できたり、電子書籍が普及したりする時代となりましたが、やはり一度実物を手にとって見る事ができる場というのはとても貴重です。書店もそうですが、やはり貴重書となると入手は困難でそういった意味でも図書館は私にとって必須です。今後ともよろしくお願い致します。
理工	2年	男	中央	雑誌をもう少し充実させてほしいです。
医薬保	1年	女	中央	ビブリオバトルで紹介された本を蔵書に入れてほしいのと、新しい最近の作家の文庫または本を増やしてほしい。今は古いものが多い
人社	3年	女	中央	小説のような学問以外の本をもっと増やしてほしい
理工	1年	女	中央	小説をもっといっぱい置いてほしいです(/・ω・)/
人社	4年	男	中央	本屋大賞などの賞をとった作品を大々的に取り上げていただけるとありがたいです。
人社	4年	女	中央	もっと小説などの読み物を増やしてほしいです。資料などの参考文献は満足しています。よろしくお願いしま

人社	4年	男	中央	できるだけもう少し購入依頼の返事が早く欲しい
人社	3年	男	中央	貸出書籍の電子化。
人社	3年	女	中央	オーディオブック(英語版)など増やしてほしい。
理工	博士	男	中央	より本を手にとりて見たくなるような図書の陳列があると良いと思う。
人社	3年	女	中央	予算もあり難しいとは思いますが、可能なら文芸雑誌を飛び飛びではなく揃えて欲しい。復刻版でも構わない。
人社	2年	男	中央	参考文献としてあつかわれるであろう文献の冊数は複数冊あると嬉しく思います。
人社	2年	男	中央	本の品揃えはもっと増やすべきだと思います
人社	3年	男	中央	書籍が充実していればその分だけ自分で学習や研究ができると思うのでとにかく書籍の購入が必要だと思
人社	4年	女	中央	専門書の充実(専攻によって書籍の充実度に違いがある)
人社	4年	男	中央	学生から図書館に入れて欲しい本のアンケートをとって、反映させてはどうか。また、学生が研究に取り組む際に、文献に関して助言、推薦ができれば良いのではないかと。
人社	2年	女	中央	数多くの分野の本を取りそろえる
人社	博士	女	中央	文献の量も多く非常に助かってます。新版が出たらなるべく入れて欲しいところですが、追いかけるのは大変ですよね…。できる限りお願いします。
人社	1年	女	中央	講義で取り上げている本の数を増やしてほしいです。
人社	教員	男	中央	質問7と同様。それ以外は十分なサービスだと思うが、これ以上の削減は研究水準維持に関わる。読書量が少なくても論文を生産できる分野の基準で決めないでほしい。
人社	2年	男	中央	過去問のデータを閲覧できるようにする。
人社	1年	女	中央	共通教育科目で必要になりそうな本は揃えてほしいです。
人社	4年	女	中央	雑誌・論集が少ない。
人社	博士	男	中央	歴史資料の充実(以前に、北陸に関する特定の学部の実験室にしかない史料を図書館経由で貸出依頼をした際に、基本史料であることを理由に断られた。そのため、少なくとも大学が所在する北陸に関連する史料については、中央図書館にも蔵書しておくべきと思われる)
人社	1年	女	中央	語学試験の関連書籍が少ない。IELTS関連を増やしてほしい。
人社	4年	女	中央	・文系の英語論文冊子・日本語学習者や第二言語学習者向けの各言語に関する資料(文庫本、言語学習教材、絵本、映画、等)
人社	2年	女	中央	語学の分野ですが、TOEICなどの試験の過去問題集がもう古いと思います。
センター等	教員	女	中央	日本語教育関連の資料。日本語教育の専攻や留学生に対する日本語指導が行われているにもかかわらず、少ない。
人社	3年	男	中央	書籍の質や量については少し不満もありますが、職員さんの対応や図書館の環境についてはとても満足しています。本当にいつもありがとうございます。
人社	1年	女	中央	難しいかとは思いますが、学習用でない、娯楽としての読書が出来る普通の本も置いて欲しいです
人社	1年	女	中央	opacで見つけた本が、貸し出されてないのにないことがよくある。
人社	2年	女	中央	小説を増やして欲しい
理工	1年	男	中央	自分が生まれた時のものより古い時に出版されている本が残っていてそれを手にとりて読めることはうれしい
附属病院	事務	男	中央	文庫の蔵書を増やしてほしい
人社	3年	男	中央	専門書、論文が少ないように感じられます。出来ればもう少し新しいものも含めて増やして欲しいです。
人社	1年	女	中央	いつも気持ちよく使わせていただいています。言語に関する図書も、自分の専攻に関する図書もたくさんあってさすが大学の図書館だといつも惚れ惚れしています。一方でもう少し、学習に関係のない新書や小説も増えたら嬉しいです。
人社		男	中央	読みたい雑誌のバックナンバーが欠けている事が時々あります。欠号の補充はできませんか。貸し出しされていないけれども書架に見当たらない図書がありますが、定期的な蔵書点検で捜して定位置に戻していただければ幸いです。
人社	4年	女	中央	快適な空間であるが、本が少ないのが残念である。
理工	1年	女	中央	最近出版された小説、文庫本などもおいてほしいです。今置いてある本がどれも結構古いので
人社	1年	男	中央	近代小説の蔵書を増やしてほしい。
人社	2年	女	中央	小説などの文学作品をもっと充実させて欲しい
人社	2年	女	中央	学業の合間の休憩かつ教養にもなるのでもう少し現代の小説を置いてほしいです。
医薬保	2年	女	保健	専門書以外の一般図書も置いて欲しい。
医薬保	博士	男	保健	Please add many kind book with english book of medicine and health sciences
医薬保	博士	女	保健	無料で入手できる文献が増えたら嬉しいです。
医薬保	博士	男	保健	Add many book and ejournal access
医薬保	修士	女	自然	大学図書館なので専門書の貯蔵が第一というのは理解できますが、入門書の方ももう少し揃えて頂ければと思います。研究を行ってきましてどうしても自分の専門分野以外のことも自力で学ばなくてはならないことが多々ありますが、そういった時に専門書ばかりですとかなり学習が困難です。個人的には特にExcelの統計手法について詳しい書籍があればと思っております。
人社	2年	男	中央	書庫の中で、同一ジャンルの本が複数箇所に分かれていて調べるのが大変だった 持ち運びながら書庫の本を探せる端末か、レシートで場所を印字できるようにしたら最高
人社	4年	女	中央	書庫の統計書(国勢調査や工業統計など政府が発効しているもの)について、過去のものが揃っていないことがある。出来れば揃えてほしい。※近年のデータはインターネット出もみることが出来るが、過去のものはインターネットで見る事ができない。または見づらいものがあるため、現物が必要な時がある。
理工	4年	男	自然	有名な参考書などは、複数冊無いと借りられないときがあって困る
理工	教員	男	自然	重複図書を1冊だけ残して整理されている件ですが、どうしてそのようなことをされているかわからない。少なくとも理系のものは2冊は残して欲しい。1冊は館内閲覧にして2冊めを貸し出しに。文化財保護のためにも。
理工	修士	男	自然	古い本のデータ化。
人社	2年	女	中央	昭和時代初期など、かなり昔に書かれた本などか
人社	4年	女	中央	既に絶版になった書籍が読みたいときがあると便利です。
人社	2年	女	中央	古文書のバリエーション、地図など増やして欲しい
理工	修士	女	自然	絶版になった本や本屋で手に入らないような本があったら嬉しいです。また語学学習の本がたくさん増えてくれるといいです。
人社	3年	女	中央	理系や医学の本が多いのに対し文系の本が少ない。

人社	修士	女	中央	外国語の資料がもっと多ければいいです。
人社	4年	女	中央	洋書をたくさんいれて欲しい。SGUに選ばれたからにはもっと入れるべきだと思う。
人社	4年	女	中央	近年出版の史学分野の洋書
医薬保	博士	男	医学	既に取り入れられているのかもしれませんが、希望の書籍を依頼できるシステムがあると助かります。医学図書館の蔵書はすぐ古くなりますので。新しい版の教科書なども積極的に入れて欲しいです。
人社	修士	女	中央	原典と原典の翻訳資料が整理して分類されていると、資料を探す際に非常に便利だと思います。
理工	1年	男	中央	絵画関連
理工	教員	女	自然	海外の大学で使われる教科書
医薬保	5年	男	医学	医学英語、一般英語などの教材 一般図書
人社	修士	女	中央	外国語論文を読むためのサポートサービスがあると良いです。
人社	4年	女	中央	外国語資料。スペイン語学習資料。(特にdele対策の資料) スペイン語の学術論文
人社	3年	女	中央	書き込みがされた本がある
医薬保	3年	男	医学	非常に個人的な要望なのですが楽譜が置いてあると嬉しいです
人社	3年	女	中央	楽譜があると嬉しいです。
人社	4年	女	中央	地元(加賀藩に該当する地域)の研究に関する蔵書は揃えてほしい。県立図書館のみにしかない、という状況だったり、県内に蔵書がないような資料もあることがある。

3-7 蔵書検索に関する意見

理工	3年	男	自然	検索履歴や貸し出し履歴からあなたへのオススメ があると更なる利用が期待出来るのと便利になるのと人気不人気等も分かるのではないですか？
理工	修士	女	自然	図書の検索方法について、漠然としたキーワードで検索したい場合の検索方法など教えてほしい。
理工	4年	男	自然	もし可能であれば蔵書検索システムに少し本の内容が書かれているとうれしいです。(知らないだけかもしれないですが…)
理工	3年	女	自然	自分が欲しいデータが載っている本がなかなか見つからないので検索システムの工夫が必要だと思う。
医薬保	4年	女	自然	必要な文献をすぐに見つけられるようなシステムがあると助かります。
理工	3年	男	自然	図書検索をすると同時にデジタル図書で一部閲覧したり学習出来るとちょっとした探し物に便利だと思います
理工	4年	女	自然	本の中の一部分のみを知りたいとき、または一部分しか知らないときに、その本をOPACから検索することが難しい。だから、本の目次にある単語を検索できたら良いと思う。
理工	教員	女	自然	資料検索のための場所
人社	3年	男	中央	opacから直接に他図書館や外部データベースにアクセスできるようにしてほしい。そんな所ありますよ。もっと見易いopacの画面が良い。検索結果が、一度にもっと多く、しかも出版事項も併せて表示されると良い。
人社	3年	女	中央	文献の検索が少しやさしくないの、もう少し分かりやすく、誰にでもわかるようにする工夫があればと思いました。
人社	4年	男	中央	タッチパネルでの本の検索
人社	4年	女	中央	もっと文献を探しやすく
人社	1年	女	中央	論文がもっと探しやすく見やすくして欲しい
人社	3年	男	中央	金沢大学内に現に存在する全ての図書資料をopacで検索できるようにしてほしい。叢書の細目も。現状はあまりに悲惨です。他大学のopacで見当を付けて捜しています。法学類や経済学類の図書室の蔵書も貸し出しできるようにしていただけませんか。
人社	博士	女	中央	最新の本の検索エンジンを増やしてほしいです。
人社	3年	女	中央	蔵書検索の結果と一致しないことがある。(とくに書庫の蔵書は見つからないことが多い。整理が不十分な印象。)
人社	教員	男	中央	Webサイトの蔵書検索画面で、図書の表紙画像はほとんど不要ですので、画像を表示しないという選択ができるようにはできないでしょうか。環境によっては画像の表示に時間がかかることがありますし、同じスペースで得られる情報量とアクセススピードという点でも、画像がない方がよい場合があります。あと、トップページの表示が非常に横広がりに表示され、右端の項目の利用がしづらく思います。
医薬保	教員	女	保健	図書館の検索PCを立ち上げ、文献検索をするまでに時間がかかる
理工	教員	男	自然	- 文献検索端末を各階に設置するべき(自然科学系図書館)。現在は1Fにしかなく、2Fの日本語書籍開架利用時に階下と往復する必要がある。 - 学休期の開館時間を延ばすべき。学部学生の利用は減少するが、院生を始めとした研究にたずさわる大学構成員にはあまり関係がない。研究はむしろその時期に活発に行われるので、その際に図書館が利用できないのは不便。
人社	4年	男	中央	論文等の検索がもっとしやすくなるといいと思う。また複写の量によっては学生にとって負担になる場合があると思うので、その配慮が欲しいと思います。経済的な理由で研究を阻害されるのはなんとも悲しいと思うので。
医薬保	2年	女	保健	保健学類図書館にも中央などにもあるネットで本の場所がわかるようなものを置いておいたほうが利用者する人たちのにはわかりやすい。
人社	1年	女	中央	質問29は、新しい興味のある分野を見つけられる場所です。あと、アカンサスポータルの図書館サービスでこれまで借りた図書などが見れるページが気づいたらリセットされていました。利用していたので改善してほしいです。

3-8 研究室図書に関する意見

理工	2年	男	自然	研究室にある図書も貸し出せるようにして欲しい。
理工	3年	男	自然	資料の検索時、研究室所属の本を選択した時に誰の研究室にあるか表示されると、興味のある事項を教員に質問しに行けるので便利だと思います。
理工	修士	女	自然	他研究室に置かれている本を、図書館を通して簡単に借りられるようにしてほしい。
理工	教員	男	自然	既に、学内のある研究室にある本(専門書)でも、一般の需要がありそうなものは図書館でもそろえて欲しい。研究室在の本は大変借り出しにくいので。

人社	教員	男	中央	学術雑誌の集中管理で、中央図書館にいけば学内所蔵の雑誌は基本的に読めるという状態を希望する。個人研究室管理で「貸し出し不可」は蔵書とはいえない。それは個人消耗品であるので、図書館シールを貼る意義が薄れる。
人社	4年	女	中央	一部の本が研究室だけあります、それはちょっと不便。研究室の本の貸し出すサービスがあったほうがいい。
人社	4年	女	中央	経済学類図書室や法学類図書室の本も中央図書館で返却できると便利だと思います。
医薬保	1年	女	中央	レポートに使いたい本が、しばしば研究室にある本であるので、取り寄せられると嬉しい
人社	3年	女	中央	研究所所在の参考文献も貸出可能にしてほしい
センター等	事務	女	中央	法学関連等、専門書の所在が先生の研究室となっているケースが多いため、借りたいのに借りづらく、利用を諦めることが多いです。図書館に申し込めば、先生の研究室の本も、図書館カウンターで受け取れる(返却できる)という仕組みにしていただけると大変ありがたいです。(サービス内容を勘違いしていたり、改善済みである場合は、どうかご容赦ください。)
人社	4年	男	中央	各学類図書室にしかない非常にためになる書籍をオンラインで借りることができ、図書館や学務で受けとることが可能となれば、学類という制度を作ったような様々な分野への知識・関心につながるはずだ。
人社	1年	女	中央	研究室にある本を図書館から借りられるようになるとありがたいです。
人社	4年	女	中央	図書館外の研究室所蔵書の取り寄せの際に、他の文献のように貸出延長ができないのがやや不便だと感じた。
人社	4年	女	中央	他の研究室の図書館も、きちんと番号順に並べることを徹底してもらい、部外者が探しやすくする。
人社	3年	女	中央	研究室にしか所蔵していない図書をどのように取りに行けばよいかわからない。キャンパスが離れているのは仕方がないが、少々面倒。
人社	3年	女	中央	多くの本が研究室にあるから、閲覧するのに大変。また、取り寄せる制度も時間かかると聞きました。
人社	4年	女	中央	研究室にしかない図書の予約を図書館で行って、後日受け取ることの出来るサービス
人社	4年	男	中央	研究室にある本を借りることが難しい。図書館の本か。教授先生の本か、ちゃんと分けるべき。
センター等	事務	女	中央	研究室所在の書籍を、図書館で借りたり返却する仕組みとしていただけるとありがたいです。

3-9 書庫に関する意見

理工	技術	女	自然	もう少し簡便に、古い雑誌(書庫の中に入っている雑誌)を参照できると嬉しいと思います。自分で書庫の中で自由に探せるなどの方が、気軽に多くの古い文献が探せて、勉強になるように思います。(依頼すると自動でその雑誌が出てくるのを待つだけというも近代的で良いとは思いますが…)。
人社	4年	女	中央	書庫が少し、入るのにためらってしまう。大切なものがたくさん保管されているのは分かっているが、雰囲気自体が暗いのももう少し利用しやすくなれば、と思う。
人社	修士	女	中央	書庫で調べ物をしながら本を読んでいると電気が消えてしまったことがあるので、人がいると消えないような設定にして頂けるとありがたいです。
人社	1年	女	中央	地階書庫の動く棚の使い方がいまいちわからない。どのボタンを押せばいいのか迷ってしまう。
人社	修士	男	中央	書庫にも係りがいればいいなあと思います。
事務局	事務	男	中央	最近が入っていないのですが、中央図書館の地下(1階?)の書庫がほこりっぽいのが気になりました。今は改善されたのでしょうか?
人社	2年	女	中央	蔵書が多く、図書館に行くのも楽しみです。
人社	教員	男	中央	サービスに関してではありませんが、和装本(線装本)が縦置きで(しかも帙に入っていないものが)配架されているのを見ると心が痛みます。

3-10 雑誌・新聞に関する意見

医薬保	4年	男	自然	購読されていない科学雑誌などがあります。
理工	技術	女	自然	過去、東大や京大に所属してきたので、それらの大学に比べると雑誌数(紙での蔵書や電子ジャーナル)が少ないと感じることがあります。ないものねだりだとは思いますが…。
理工	博士	男	自然	有名なジャーナルは揃えてほしい。
理工	3年	男	自然	自然研の雑誌で、欲しい記事の載っている号が無いことが多いので、最新号やバックナンバーをもっと充実させてほしい。
理工	修士	男	自然	電子化されていない昔の雑誌(論文)
理工	修士	男	自然	金沢大学がライセンスを買っていない(ネットで見れない)科学雑誌
理工	4年	男	自然	ニュートンなどの雑誌
人社	3年	女	中央	デザイン雑誌
人社	3年	女	中央	年代が揃っている雑誌
人社	4年	女	中央	雑誌論文が少ない気がします。北陸で規模の大きい大学なので、もう少し雑誌論文を増やしていただきたいです。
人社	4年	女	中央	雑誌・論集が少ない。
人社	4年	女	中央	論文、調査報告書の所蔵数を増やしてほしい。他館から借りることもできるが、お金と時間の両方が負担になるので。
人社	4年	女	中央	雑誌の保管方法を一定にしてほしい。例えば、「越中」で始まる雑誌なのに、同じ雑誌でも「ecchyu」と「ettyu」で保管されている棚が違って、探すのにとても時間がかかった。どのローマ字で保管するのかちゃんと決めておいた方が、これからも収蔵するときに都合がいいのではないかとと思う。
医薬保	修士	女	保健	学術雑誌
医薬保	修士	男	保健	毎月刊行の専門雑誌等はなかなか個人でそろえるのは難しいため、そろえていただけるととてもありがたいです。
事務局	事務	女	自然	過去の新聞記事の電子版、オンライン図書貸し出し
理工	2年	男	自然	新聞は静かなところで読みたいので、ほんわかふえよりも中央図書館2階に置いていただけると嬉しいです。
医薬保	1年	女	自然	新聞とか探すのがとても面倒 図書館のひとたちが新聞を必要とする 講義を、少しでもいいから把握していただければとてもありがたいと思う
人社	4年	男	中央	北國新聞のマイクロフィルムがあるといいと思います。

医薬保	修士	女	保健	各種新聞をそれぞれの図書館に置いていただきたいです。北國と中日？だけというのは、偏りがあります。
理工	修士	男	自然	スポーツ新聞を増やすか、中日スポーツからかえてほしい。日曜日や深夜も開けてほしい 雑誌(論文)は、ある程度閲覧できるのでその点は満足しています。
人社	4年	男	中央	度々利用しています。学習する場所としてとても有効活用させていただいています。ありがとうございます。意見が2つあります。1つ目は新聞についてです。いま現在新聞は月が変わったら一ヶ月分をまとめて1階に移動させていると思います。以前、〇月2日に新聞を読みにもん和かふえ。に行ったとき、2日前のものが置いておらず困りました。せめて一週間分程度はすぐに読める所に置いておいてくださると良いかと思います。2つ目はトイレ掃除についてです。1日の掃除回数を増やした方がいいと思います。トイレトペーパーが散らかっていたり、流しが汚れていたりします。学外の人も利用すると思うので、せめて時々職員が簡単にチェックするなどして、綺麗な状態を保って欲しいです。 もうすぐ卒業なので、読みたい本をたくさん読もうと思っています。 よろしく願います。

3-11 電子ジャーナル, Webサービスに関する意見

理工	修士	男	自然	貯蔵している論文の全電子化、及びアカンサスポータルでの閲覧サービス
医薬保	修士	女	自然	購読する電子ジャーナルの数を増やして欲しいです。
理工	教員	男	自然	既に電子ジャーナルの購読数を減らす議論がされていますが、研究を支援するという意味では減らすどころかより多くの電子ジャーナルの購読が不可欠だと思います。 財政事情等あるかと思いますが、より良い研究環境を整備するためには金沢大学以上に研究環境の整った大学等を参考にすべきですし、電子ジャーナルについては最低でも現状維持とすべきだと感じています。
理工	2年	女	自然	読むのにお金がかかるような論文などが無料で読めたり、取り寄せる事ができたらいいと思う。また、郵送に時間がかかるようなものなら、すぐに見れるように内容をデジタル化してもらえると助かるかも。
理工	修士	女	自然	本等をパソコン上で電子書籍として見られたらいいとおもう
医薬保	修士	男	自然	ジャーナル(論文)をもう少し増やしておいてくれると助かります。また、月巻の医学系の雑誌などを置いて貸出できるようにしてほしいです。
理工	修士	女	自然	より多くの文献がネット上で見れるようになってほしい
医薬保	6年	男	自然	購入希望の雑誌を以下に示します。Heterocycles 日本複素環学会 Chemical Communications Chemical Science Chemical Society Reviews RSCは電子ジャーナルで閲覧が出来ないので なるべく最近までを揃えていただけると嬉しいです。ILL文献複写の依頼を集計すれば、蔵書に無く、必要とされている書物がわかると思います。
理工	教員	男	自然	質問14に書きましたが、より多くの電子ジャーナルの購読ができればよいと思います。
理工	修士	男	自然	各分野の学会誌など
理工	博士	男	自然	journal, but some of them already have in KURA.
理工	修士	男	自然	より多くの電子ジャーナル
理工	博士	女	自然	金大リンクができて 電子ジャーナルへのアクセスがよくなりました。
理工	修士	女	自然	JGPをオンラインで見れるようにしてほしい
医薬保	博士	男	中央	iPadを利用できる席を用意して電子書籍を閲覧できるようにすると面白いと思います。
人社	4年	女	中央	朝日新聞や日経新聞以外の新聞もWebで検索できるように、図書館のパソコンだけでも様々な新聞検索の有料登録をしていただけていたら、ありがたいです
人社	3年	女	中央	学外からでも学生院生や教授が電子ジャーナルの論文の閲覧ができるようなサービスがあれば便利だと思います。すでにあるのかもしれませんが、使い方が分からず、活用できていません。
人社	修士	女	中央	より多い電子ジャーナルをダウンロードできればいいです。
人社	修士	男	中央	購入しているジャーナルの種類を増やす。
センター等	教員	女	中央	人文科学分野の論文データベース(Project Museなど)の充実を強く希望します。論文検索とダウンロードが瞬時にできる環境は研究に不可欠です。
理工	博士	男	中央	より多くの種類の論文を閲覧できるようにすることを望む。特に有名な雑誌(Cell等々)。最近ではアップデートされた新刊がCellのサイトから閲覧できません。
人社	教員	女	中央	電子ジャーナルの充実
人社	3年	女	中央	CNKIに関しては一部しかないので、資料の入手が困難なので、もっと他の分野も使えるようになればいいなと思いました。
医薬保	博士	男	保健	Please add about webejournal
医薬保	博士	男	自然	大学院に在籍して研究をしています。社会人入学なので、金沢まで行くことが容易ではなく、文献取得の際、悩ましいことがあります。 ある程度の有料化は致し方ないと思いますが、金沢を離れざるを得なかった卒業生にもインターネットを利用して図書館で文献を参照させて頂きたいと常々思っています。読みたい文献が手に入らないと、意欲をそがれてしまいます。
医薬保	博士	男	自然	インターネット経由で文献を参照させていただきたいです。その際、大学の卒業生にもアクセスの権利をいただきたいです。
人社	修士	女	中央	もっと多い電子ジャーナルをダウンロードできればいいです。開館時間がちょっと長ければいいです。
医薬保	教員	男	保健	学外からの電子ジャーナルの検索と閲覧が難しい。
理工	技術	女	自然	やはり雑誌(電子ジャーナル)の充実してほしいです。検索の方法なども頻繁に講習会があると嬉しいです。私のような年代(40代)の人間はすぐに情報についていけなくなってしまうので。
理工	修士	女	自然	本の目次をwebで閲覧できると便利だと思う
理工	修士	男	自然	施設予約や購入申請、蔵書検索などでよく図書館Webサイトを利用します。しかしながら、レイアウトが決して良いとはいえず、目的の情報にたどりつき辛く感じます。ページ構成や色彩、アイコン等の見直しや情報の取捨選択を一度検討されてみてはと思います。例として、慶応義塾大学の図書館webサイトが参考になるかと思っています。
人社	4年	女	中央	パソコンを増やしたり、貸出できるようにして欲しい。Web環境が整っていて欲しいです。Webからの質問を受け付けて欲しい。集中講義などの際、学外の先生とをもって連絡を取り合いたい
人社	3年	女	中央	My本棚の「教職員のおすすめ」をもっと充実してほしい。
医薬保	博士	女	保健	図書館員が担当している授業内容のweb閲覧や本のweb閲覧等の期会を設けること
事務局	事務	女	自然	電子ジャーナルが利用しづらい、KU-SSO認証だけにしてほしい

理工	1年	男	自然	過去の新聞や雑誌をデータ化して保存してほしい。
----	----	---	----	-------------------------

4-1 開館時間に関する意見

医薬保	3年	男	医学	もっと夜遅くまでやってほしい
医薬保	2年	女	医学	開館時間をもう少し早めて、8時からにしてほしいです。8時半からの開館だと一限開始まで15分しかないため自習時間にもならず、本を借りに行くにも余裕がありません…。あと、自習スペースをもう少し増やしていただけるとありがたいです。
医薬保	6年	男	医学	他大学は図書館が24時間使えたりもするので、ICカードなどで管理して休みの日でも自習室などは使えるようにしてほしいです。
医薬保	1年	女	医学	土日の開館時間を長くしていただきたい。
医薬保	修士	女	医学	閉館時間を延ばして欲しい。→テスト前は、学生同士でわからない点を話し合って理解することも多いし、また、図書館が長くあいていればバイト帰りなどに寄って勉強もできると思う。勉強できる空間が長い時間あいていることは、嬉しいと思う。
医薬保	博士	男	医学	24時間開館、いかがですか？
医薬保	事務	女	医学	土日祝日もできれば19時頃まで開館してほしい(医学図)
医薬保	6年	女	医学	試験期間中だけでもいいので、休日も平日同様に会館して頂けるとありがたいです。
附属病院	事務	男	医学	開館時間の延長(朝7時ごろから開館していると業務開始前に調べものができて助かります。)
附属病院	技術	女	医学	学生にあわせての開館ではなく、土日なども開催するなどしてほしい。あさもはやかくからあけはしてほしい。
医薬保	博士	女	医学	図書館員がいる時間しか利用できないので、研究などで夜遅くに調べ物をするときに少し不便かなと思います。
医薬保	3年	男	医学	医学図書館の開館日、休日の開館時間を増やしてほしい
理工	3年	男	自然	開館時間(特に土曜日など)をもう少し遅い時間まであけてほしい
理工	2年	男	自然	土日にももう少し長く開いてほしい。
理工	3年	女	自然	土曜日の開館時間を伸ばしてほしい。
理工	2年	男	自然	自然研図書館の開館時間を延ばして欲しい。休日も開館するべき。
理工	修士	女	自然	開館時間を1限開始より前にしてほしい。
理工	3年	男	自然	休日にも積極的に開館して欲しい。
医薬保	6年	男	自然	24時間休日でも使えるようにしてほしい
理工	4年	男	自然	なかなか難しいのかもしれないが、土日の開館時間をもう少し拡大していただければありがたいです。
理工	2年	女	自然	7時開館になるとなお利用しやすいです。
理工	3年	男	自然	大学生の本業は勉強なのだから、せめて金沢大学の学生だけでも24時間利用を許可して欲しい。それが無理なら深夜2:00頃まではやって欲しい。
医薬保	6年	男	自然	勉強スペースのみ必要としている人が多いと思う。貸出はできないが、勉強スペースとして利用可能な日を作り、休館日をできるだけ減らしてほしい。
理工	博士	女	自然	院生になると、大学休み期間が関係なくなるので、休み期間に利用しようとして閉館時間が早いことを忘れることが多い。中央以外はもうすこし閉館時間を遅くしても利用者がいるのではないのでしょうか。
理工	4年	女	自然	以前は24時間利用できた(もしくは当初の予定ではそうするつもりだった)という話を聞きました。24時間は流石に無理だとしても、土日の閉館時間をもう少し遅くしてもらえるとありがたいです。
医薬保	博士	女	自然	開館日、開館時間の拡張
人社	4年	女	自然	日曜日も開館してほしいです。医学図書館は2月まで日曜もやっていたいいなと思っていました。
理工	修士	男	自然	以前のように24時間開館していただけると大変嬉しいです。
理工	3年	女	自然	日曜日や祝日も開館して頂きたいです。開館時間も延長して頂きたいです。
理工	修士	男	自然	テスト週間の時は、開館時間を少し延長して欲しいです。
理工	2年	女	自然	土日の閉館時間が短い。テスト期間だけでも長くしてほしい。
理工	4年	男	自然	テスト期間だけでも閉館時間を延長して、学生のニーズに合わせた柔軟な運営をしてほしい。
理工	教員	男	自然	学外の知り合いが以前と比べると開館時間が短くなって利用しにくくなったと嘆いてました。学内が優先かと思いますがそういう声もあります。
理工	修士	男	自然	土曜の開館時間を延長してほしい。また、日曜も開館してほしい。
理工	2年	男	自然	テスト前だけでも、もっと長い時間開けてほしい。
理工	2年	男	自然	土、日も学習スペースが夜まであいていると良いと思う。
医薬保	6年	男	自然	24時間開館
理工	3年	女	自然	日曜や祝日の開館
理工	3年	女	自然	営業時間の延長
医薬保	1年	女	自然	図書館でいつでも勉強できたらいいのになーと思います
理工	3年	男	自然	とにかく、開館時間、開館日ともに増やしてほしい。
理工	2年	男	自然	自然科学系図書館を日曜日も開館していただけると助かります。また、食堂についても土曜、日曜、昼の時間帯と夕方4～5時の時間帯に開いてもらえると嬉しいです。
理工	4年	女	自然	学習支援として、テスト期間は土日の会館時間を長くすることが多く求められていると思う。
理工	修士	男	自然	開館時間の延長
理工	修士	男	自然	利用可能時間を延長してほしい。
理工	3年	男	自然	テスト期間だけでも24時間開館してほしい。
理工	4年	男	自然	学習の環境の充実のため営業時間の延長等
医薬保	3年	女	自然	休日の開館時間をもう少し延長してほしい。
医薬保	6年	男	自然	24時間開館してもらえるとありがたい
医薬保	3年	女	自然	自然研図書館が日曜祝日も空いていると嬉しいです
理工	2年	男	自然	自然研図書館の開館時間を延ばして欲しい。休日も開館するべき。勉強する場所がないので非常に困る。市営図書館のように24時間開館していて欲しい。
医薬保	2年	女	自然	平日の開館時間を8:30にしてほしい。自然科学系図書館も日曜に開館してほしい。
理工	3年	男	自然	1限に図書館の資料が必要なのもあるので、開館時間を8時30分まで早くして欲しい。
医薬保	2年	女	自然	土日祝日の開館日を各図書館で統一して欲しいです。開館日に一貫性がないと分かりにくいです。

理工	3年	男	自然	時間と日にちをもっと引き伸ばして欲しい。土曜日は早く閉まったり日曜日にやってないのは辛い！
医薬保	修士	女	自然	自然科学系図書館を主に利用していますが、管内がきれいで整理が行き届いているので使いやすく好きです。平日朝はもう少し早く開館してもいいのではないのでしょうか
理工	3年	男	自然	開館時間をもう少し早くして欲しい。
医薬保	修士	男	自然	もし一ヶ月一回日曜日も開館したらいいと思います。
理工	3年	女	自然	自然科学系図書館を日曜日も開館していただけるとありがたいです。
理工	4年	男	自然	テスト期間など、一番利用者が多い期間は開館時間の延長や、日曜日も利用可能にするなどのサービスがあることが望ましいと考えています。現にそうしている大学は多く存在していると認知しています。
理工	3年	男	自然	利用時間もっと長かったら嬉しいです。部分的でもいいから24時間勉強のために開放してくれる場所があったら本当に嬉しい。
理工	1年	男	自然	24時間空いてればいいのには思う
理工	2年	男	自然	平日の開館時間の延長や日曜日などの開館を希望する。
理工	2年	男	自然	本当にながいじかん開けてほしい。
医薬保	4年	女	自然	テスト前限定でもよいので土日の利用時間を延長してほしいです。中央図書館が比較的休日にも開いていて助かります。
人社	博士	女	中央	開館時間を遅くし、閉館時間を遅くしてほしいです。
人社	2年	男	中央	図書館の開館時間を伸ばしてほしい。欲を言えば24時間にしてほしいが、せめてもう少し遅くまで開けてほしい
人社	1年	男	中央	光熱費や人件費の問題があって難しいことは分かっていますが、24時間営業だと嬉しいです。
人社	博士	男	中央	学内研究室及び他大学図書館所蔵図書の貸し出しと返却が土日にもできるとよいと思います。
人社	4年	男	中央	24時間開館
医薬保	男	中央	中央	中央図書館の“ほん和カフェ”はとても便利で良いのですが、土曜も空いていると助かります。生協の購買と同じように14時まででも良いので開店して欲しいです。
人社	1年	男	中央	もう少し早くあいてほしい
人社	女	中央	中央	休日にも開館時間を長くしてほしい
人社	4年	女	中央	土日の閉館時間が早い。
人社	4年	男	中央	開館時間の延長です。そして冬休みの開館です(卒論制作者への環境づくり)
人社	4年	女	中央	もう少し早く開館してくれると嬉しい。1限前に借りられると助かる。
人社	4年	女	中央	平日は最終バスのある時間までは開館してほしい。
理工	1年	男	中央	平日を一限より早くから朝早くから開館してほしい
人社	3年	女	中央	休日の開館時間をもう少し伸ばしてほしい。
人社	3年	男	中央	学生のバイトを雇うなら、休館日をもっと減らして欲しい
人社	3年	女	中央	24時間開館してるといい。
理工	1年	男	中央	開館日を増やして欲しい。土日の閉館時間を延ばして欲しい。
人社	4年	女	中央	土日の開館時間をもう少し長くしてもらえるとありがたい。
人社	2年	女	中央	会館時間もっと伸ばして 休日もあけてほしい
人社	2年	女	中央	祝日や土日でも平日と同じくらいの閉館時間にしてほしい。
人社	修士	女	中央	卒業論文や修士論文のおいこみの時期の年末年始に休業しているのは、やはりつらい。(先端技術大学院大学は年中無休で24時間入れると聞いた)文献複写の受け取りの時間帯が早い。せめて19時までにしてほしい。働きながら通っているため、辛い。
人社	2年	女	中央	中央図書館が土曜に5時にしまってしまうのは不便に感じます。
人社	3年	男	中央	開館時間を一限開始前にしてほしい
理工	4年	男	中央	公務員の試験が近いときは祝日なども開いてほしいと思った。また、春休みは17時で閉まるのは早すぎると思っていた。
人社	1年	女	中央	開館時間が遅すぎると思います。一限が始まる前に勉強したい場合、不便に感じます。また、いつも開館時間ぴったりに開きますが、準備が完了しているのなら、多少入場可能時刻を早めていただいても良いのではないのでしょうか。
人社	1年	女	中央	1か月の開館日・休館日の予定を、もう少し目につきやすい場所に掲示していただきたいです。
人社	3年	女	中央	休日の会館時間ができればもう少し遅くまでにしてもらえると助かります。
人社	1年	男	中央	開館時間を長くする
人社	3年	女	中央	土日の開館時間を延長してほしい。
医薬保	1年	女	中央	休日の開館時間を早めてほしい
人社	2年	男	中央	土日22時まで開館 朝は8時から開館
人社	教員	男	中央	年末年始の開館は難しいとは思いますが、卒論・修論を抱えている学生さんがいるのだから、もう少し開館してあげてほしい。
人社	2年	女	中央	開館時間を少しでも早めて欲しい
人社	4年	女	中央	自習の場として活用しているので、開館時間や開館日がより長くなるとありがたい。
人社	2年	女	中央	土日の開館時間が中央図書館は17:00までなのが少し利用しづらいです。22:00までとは言いませんが、もう少し長いと嬉しいです。
人社	3年	女	中央	1限の授業があると朝行けないので、8時くらいから開けてもらったら嬉しいです。かなり朝希望です。早くはじめていただけるなら早いだけいいです。
理工	1年	女	中央	開館時間が遅く、閉館時間が早すぎる
事務局	事務	女	中央	平日の就業後や夏季休暇期間の就業後の時間に利用したいと思うこともありますので、開館日時を増やしてほしいです。
人社	4年	女	中央	中央図書館、土曜、日曜日も遅くまで開館してほしいです。
人社	2年	女	中央	休みの日の会館時間をのばしてほしい
人社	4年	女	中央	依然、自然科学系図書館は24時間開館していたと聞いたことがあります。依然のように開館時間を延ばしてほしいです。
人社	3年	女	中央	テスト期間だけでも、開館時間を早くしてほしいです。閉館時間も伸びればなお嬉しいです。
人社	2年	女	中央	8時半から開館してくれるとうれしいです。

人社	3年	女	中央	春休み中も、土日は開館してほしいです。
人社	4年	男	中央	朝七時～の解放
人社	4年	女	中央	土、日の図書館開館時間がもう少し長いと嬉しい。せめて19時まで…
人社	4年	女	中央	休日は勉強スペースだけでもいいから、開放時間を延長して欲しい。
人社	4年	女	中央	土日ともう少し長く開館すること。
人社	3年	男	中央	休日、大学内に自由に入れるようにすること、図書室を開けること。電子ロックなら、入退室をネット管理して、誰が出入りしたか分かるようにすれば、ある程度のセキュリティはクリアできるのでは？
人社	1年	男	中央	図書館の閉館時間をより遅めたり、開館時間を早めたりして欲しい。できるた24時間開館している方が嬉しい。
人社	4年	女	中央	文系であっても夜間に自習できる場が欲しいので、大学・図書館を開放してほしい
人社	3年	男	中央	図書館の24時間開放。学生証で研究室に入室可能にする。
人社	3年	女	中央	図書館の開館時間を長くして欲しいです。
人社	2年	女	中央	会館時間の延長、せめて試験期間前後は、土日祝の開館時間をもう少し延長してほしい。また、土日祝もほんわかふえを営業してほしい。
人社	3年	女	中央	春休み中は土日とも開館してほしいです。
人社	3年	女	中央	土日の開館時間を延長してほしいです。
人社	3年	女	中央	土日の利用可能時間を増やして欲しいです
人社	4年	男	中央	図書館のサービスはすごいいいと思いますが、24時間開いている図書館にあこがれはあります。
人社	4年	男	中央	近隣に夜遅くまで学習出来る施設がないため、土日サービスは停止しても、場所は夜遅くまで解放出来るとありがたいと思う。
人社	3年	女	中央	休みの日はもっと開館時間を長くしてほしいです。
医薬保	1年	男	中央	開いている時間をもう少し伸ばして貰いたいです。
人社	4年	女	中央	休日の開館時間をもっと伸ばしてくれるとありがたいなと感じる。試験勉強する際、17時に閉館することで困った。
人社	3年	女	中央	土日の開館時間をもう少し長くしていただけると土日とも図書館を利用しやすくなると思います。(19時まで)
医薬保	1年	女	中央	厳しいとは思いますが土日の閉館時間を伸ばしていただけると助かる
人社	1年	男	中央	土日の開館時間を長くして欲しい
人社	3年	女	中央	開館時間をもっと長くして欲しいです。
理工	1年	女	中央	できれば自然研図書館も休日に1、2年生が入れるようにしてほしい。
人社	3年	男	中央	平日の開館時間を最低8時前後にしてほしい(希望は7時) 土日の閉館時間をもう少し伸ばしてほしい
人社	3年	女	中央	24時間利用できる体制にしてほしい。
人社	2年	男	中央	土日8～22時開館 仮眠室とか欲しい
人社	4年	男	中央	24時間開館してほしい
理工	事務	女	中央	休業期間の土日とも開いていけばいいなと思う時がたまにあります。
理工	1年	女	中央	自習するスペースをより遅くまで開放してもらえるとうれしい。
人社	4年	女	中央	休日の閉館時間をもっと遅くして欲しいです。
医薬保	3年	男	保健	やはり日曜日とも開館して欲しい
医薬保	修士	男	保健	開館時間延長
医薬保	2年	女	保健	1限開始前にその日の講義のレジュメをアカンサスポータルのプリンターを使ってコピーしたいので、保健図書館の朝の開館時間を15分早めて欲しい
医薬保	4年	女	保健	学生としては、朝、一限目の授業が始まる前に図書館を利用出来ると活用の幅が広がると思います。
医薬保	4年	女	保健	本の貸し出しだけでなく勉強スペースとして利用することも多いので、もう少し開館時間を長くしていただきたいです。
医薬保	2年	女	保健	22時閉館ではなく、24時くらいまで開けていて頂けると、学生としてはありがたいかと思います。
医薬保	1年	女	保健	休日の閉館時間を遅くしてもらえると嬉しい。
医薬保	修士	女	保健	日曜も保健学類図書館を開館してほしい
医薬保	2年	女	保健	15分でも良いので、1限前に利用出来るようにしてほしい。
医薬保	2年	男	保健	いつも便利に使わせて頂いています。利用面では特に改善してほしい点などはないのですが、保健図書館について、開館時間を8:30くらいにして頂けたら、1限前にレポートを印刷できるのにな一、とったりしています。
医薬保	3年	女	保健	日曜日とも開館していただけると助かります。
医薬保	修士	女	保健	実習中は日曜日のみの休みだったりするが、図書館がしまっており、利用できない。返却日もCD-ROMなどが付いていると借りる時に返せないで躊躇してしまいます。助産系の図書が他の学校に比較し少ない。
医薬保	博士	女	保健	土日の開館
医薬保	3年	女	保健	日曜日とも22時まであいて頂けると助かります。
医薬保	3年	女	保健	1限開始時刻に間に合わないことがあるので、8時半には少なくとも空いてほしい
医薬保	3年	男	保健	学年ごとによる図書館開館日および時間の制限
医薬保	2年	女	保健	休日とも利用できるようになると嬉しい。
医薬保	3年	女	保健	開館時間の延長、休日の開館
医薬保	修士	男	保健	主に保健学科の図書館を使用していますが、土日の開館時間が短い・もしくは休業であり、不便さを感じております。なかなか平日に図書館に取られない人もいるため、開館時間・頻度の増加があればよいと思います。
医薬保	3年	女	保健	開館時間を延長し、開館日も増やしてほしい
医薬保	4年	女	保健	土日はテスト期間中だけでなく、毎週図書館を開けてほしい。
医薬保	2年	男	保健	最近飲食店での学生の勉強について注意喚起されたが学校がもっと長期間長時間解放されればそのような問題もなくなり、より学習等がはかどると考える。

理工	教員	男	中央	1. 公共交通期間であるバスの運行時間内は、できるだけ開館してほしい。特に、始発のバスが着く時点で開館をしていると、資料を借りたり授業開始までの時間を過ごせたりと助かる。2. パソコン禁止エリアを設定してほしい(打鍵音がうるさいので)。3. 職員による利用者への注意喚起に関し、より積極的に踏み込んだ対応を求める。例えば、混雑時の場所取り目的の鞆の撤去や飲み物などのルール違反への退去命令など。
人社	3年	男	中央	・開館時間は8時半からにしてほしいです。・コンピューターのところに荷物をおき続けている人がいて利用できないときがあるので、時間制限などもうけてほしい。
理工	2年	男	自然	現状開館時間が一限目の授業開始と同じ時間なので、授業前によりにくいです。8時過ぎくらいから開いていると嬉しい。また、図書館のホームページが若干煩雑な印象を受けます。もう少しシンプルにまとまっても良いのではないかなと思います。
医業保	3年	男	医学	大学の図書館を利用するほとんどの人は大学生であると思います。知識を深めるために夜遅くや、何度機でも利用できる体制になってくれればもっと有効に利用できるかと思います。なので、もっと開館時間を伸ばして欲しいです。また、医学図書館の貸出期間が2週間と短く、さらに延長も一回限りであるので、非常に使い勝手が悪いです。せめて中央図書館と同じ基準にしていきたいと思います。
理工	修士	女	中央	24時間開館してほしい。雑誌も貸し出してほしい。ほんわかふえのようなものが自然研でもほしい。
医業保	修士	男	自然	休日の利用時間をもう少し遅くまで延長してもらえると助かります。休日は学食などが閉まっていることもあり、休憩しながら飲食できるスペースを隣接してほしいです。(騒音が影響してしまうなどの問題点はあると思いますが)
人社	4年	女	中央	利用できる時間を延ばし、一人で学習できる席を増やしてほしい。また、館内の空調が効いてなくて過ごしにくいときがあるので配慮してほしい。
医業保	3年	男	医学	24時間の自習場所とミーティング場所は最低限だと思います。
人社	3年	女	中央	休日の開館時間を長くしてほしい 暖房、冷房が不十分で寒い(暑い)ときが多い
医業保	5年	男	医学	24時間開館 無料コピー機 冷水機
理工	修士	女	自然	試験期間は24時間営業などにしてもいいと思います。10時まででもいいですが、学校に残り集中したい人もいます。またロッカーを備え付けて、一時的に席を離れる場合などに使用できるといいと思います。
人社	3年	女	中央	利用者が少ないから仕方ないかもしれないが、土日の閉館時間をもう少し長くしてほしい。図書館のすぐ近くに自動販売機(飲み物、軽食)がほしい
人社	教員	男	中央	開館時間を長くすることが最大の来館者向けサービスだと思います。あと書庫を利用出来る時間を長くしていただけると助かります。
理工	3年	男	自然	上にも挙げたが、時間を選ばず学習できる場所をきちんと確保すること。図書館付近に駐車スペースが欲しい。
理工	事務	男	中央	土日祝の開館時間を平日並みにしてもらいたい。せめて19時までにしてもらいたい。一般来場者用の駐車場として、中央図書館の生協と図書館裏駐車場を確保すべきではないか。一般来場者にとって、駐車場と図書館までの距離がありすぎて大変不便である。

4-2 閲覧サービスに関する意見

医業保	6年	男	医学	貸出可能な書物をホームページから調べ、図書館にあることが確認できた状態で図書館に赴いたが、本棚に当該本が無い、ということが多い。また、貸出期限を過ぎても返却されていない本が多い。もっと罰則を厳しくしてもいいのではなかろうか。
医業保	博士	男	医学	医学生？のような人たちが窓口が存在している意味がわかりません。面倒くさそうに携帯をかまてて窓口に座っているの、正直目障りです。持ち回りの係か何かですか？
医業保	技術	女	医学	貸出延長について金沢市立の図書館では期限内の延長については処理日から延長、返却期限をすぎた場合には返却日から延長する処理となっています。同じようにすることはできないでしょうか。
医業保	3年	男	医学	図書貸出期間の医学図書館における延長は強く希望します。
理工	博士	男	自然	おすすめの本の紹介
理工	修士	男	自然	本の貸し出し期間を長くしてほしい
医業保	3年	女	自然	他の館にある本を予約すれば希望の館で借りられるようにするサービス
理工	修士	男	自然	本の返却窓口を、図書館以外にも設置してほしいです。
事務局	事務	女	自然	職員によるアドバイス等
理工	修士	男	自然	貸出の延回数上限を上げてほしい。または、窓口にて申請するなどの条件付きでもいいので一度返さずにそのまま貸出延期をできるようにしてほしい
理工	4年	女	自然	返却期限の数日前にお知らせがくるのはありがたいが、当日にも送って欲しい
理工	4年	男	自然	自分が過去に借りた本を簡単に検索できるとありがたい
人社	3年	男	中央	貸出中になっていない書籍が結構な頻度で開架にないので置きサービスのようなものも必要だと思います。
人社	4年	女	中央	・新着図書の掲示・希望書籍の注文や外部への文献複写依頼制度の周知
人社	4年	男	中央	返却された本をすぐに貸し出しできるようにすると良いのでは？貸し出されたということは、読んでみたいと思う人が多いと思われるので、「人気の本」といったコーナーを設けてみてはいかがでしょうか。
人社	2年	女	中央	オススメ文庫の展示
人社	2年	女	中央	雑誌の借り方がよくわかりません。
人社	3年	女	中央	図書の貸出の延長をネット(スマホ)でも出来るようにしてほしい。
人社	4年	男	中央	1、書店のように、入荷予定の新刊の情報を入口付近に掲示してほしい。現在は新刊コーナーにただ並べられているだけで、利用者がいちいち確認しなければならない。そうではなく、事前にある程度入荷する本を利用者に伝えていけば、図書館全体の利用頻度が高まると考えられる。2、1ヶ月単位で、学類別貸出上位10巻のランキング表を入口付近にでも掲示するとよい。1年生など、図書館の利用が少ないにとって、とりあえず読もうという気持ちになると考えられる。これらによって、図書館の利用が活発になると考えられる。
理工	1年	男	中央	来館者が気軽に本を借りたり、分からないことがあったときに相談できるような環境を作っていくこと
人社	4年	女	中央	貸出予約や延長などがもっと手軽にできるようになってほしい
人社	修士	男	中央	書庫に入り口のどこに係りがいれば言いやすいとおもいます。その自動開きの機会の書架が自分ひとりできなくて、係りを呼びに行くのがちょっと時間がかかります。

人社	3年	女	中央	筆記用具を容易に貸りたい
人社	4年	女	中央	良い文献がなかなか見つからない時に、一緒に探してくれると助かります。
人社	4年	女	中央	もっと借りたい本を早くかりれるようにしてほしい
人社	修士	女	中央	CD等の資料も開館時間外に返せるようになれば便利だと思う。また、返却期限が過ぎてしまった本も、窓口以外や開館時間外に返せるようにしてほしい。時間が合わず、開館時間内に図書館に行けないこともあるので。
人社	4年	男	中央	DVDやCDの貸し出しを希望しています。
人社	2年	女	中央	貸し出し日数が少し短いので長くして欲しいが、他の人の迷惑になることを考えると同じ文庫の冊数が増えたらいいとおもう
人社	4年	女	中央	返却期限が日曜など学校に来ないときになるときがあるので、平日になるようにしてほしい。
人社	4年	女	中央	15冊まで借りられるようにしてほしい。
人社	3年	女	中央	最近、Web上では貸出可になっている図書が、実際に行って探すと該当の場所にはなく見つけれなかったことがあり、予約取り置きなどができると便利だなと思いました。図書館の環境としては、静かで、勉強に集中できます。加えて、サークルやゼミなど多数のメンバーで集まって話せる場もあり、助かります。
人社	4年	女	中央	自動貸出機をもっと充実させて欲しい。各階に設置して欲しい。
医薬保	2年	女	保健	本の貸し出し期間が長いので、分厚い本でもじっくり読むことができ良いと思います。
医薬保	3年	男	保健	本を貸してもらった後に、その本を図書館外に持ち出したときにブザーが鳴ったことが数回あります。毎回確認のために、時間がかかるためブザーがならないようにしてほしいです。お願いします。
医薬保	修士	女	保健	学生の企画や意見などを随時取り入れられるような意見ボックスがあるといいと思う。また、その都度、そのお返事を掲示して欲しい。できることはそのお返事を、できないことは、できないという形(理由)でもいいのでオープンにしていただけると、様々な意見が見れていいのではないかと思います。
センター等	教員	女	中央	教員や院生の貸出冊数の上限が少ないと思う。貸し出し期間も短いと思う。土日の開館時間を長くしてもらいたい。土日もカフェを営業してもらいたい。
理工	修士	女	自然	図書館がもっと自動化が進むといいと思いました。例えば、新聞紙のバックナンバーをパソコンなどで探して、機械がたくさんある新聞紙のなかから引き出してもってくるなどのサービスです。
人社	2年	女	中央	良い意味でも悪い意味でも受動的なサービスだと思います。なにか講習会とかしてても参加しにくさがあると思います。
医薬保	1年	女	中央	鶴間地区の図書館をもっと使いやすく、充実したものにしたい。
理工	修士	男	自然	わかりやすいサービス

4-3 職員に関する意見

医薬保	6年	女	医学	司書さんによって融通のききかたがちがいが、多少戸惑うことがあります。いつも気持ちよくつかわせていただいています。
医薬保	博士	女	自然	新刊案内のリストなどがあるといいと思う。また、様々なジャンルごとにお勧めの本を月1で紹介するなど。問題点として、図書館員同士で話をしている気づいてもらえないときがある。また機器の操作教育はしっかりとすべき。
理工	2年	男	自然	たまに図書館の学生のスタッフ？が雑談したりするのが気になります。
人社	3年	女	中央	サービス以前に図書館で働いている人の意識を変えたいのでは。もちろん図書館は接客業ではないが、やらされている感が肌に感じられあまり心地よくない。
人社	1年	女	中央	本の場所が分からない時にカウンターの方に質問しづらいです。
事務局	事務	女	中央	職員の対応のレベルに差がある。
人社	3年	女	中央	中央図書館のある女性職員の方はいつも不機嫌そうに対応するので、直して欲しい。他の方は丁寧だと思う。
人社	4年	男	中央	受付の方がとても優しいので行きやすい。ただたまに夕方の方の学生？のカウンターの人のときは行きにくさを感じることもある。
センター等	事務	女	中央	「出口のブザーが頻繁に鳴るのが嫌なので気軽に図書館に行けない」と言う学生がいたので、回答者出館時ブザーが鳴った際、そのことを職員の方に話したところ「頻繁に鳴るということはない」との回答で、解決しなかった。
医薬保	2年	女	保健	図書館の本の貸し出しは機械で行うことがほとんどなので、あまり図書館のスタッフの方と関わる機会はありません。スタッフの方と関わることで自分がほとんどないので少し冷たい印象を受けてしまいます。もう少し、スタッフの方とのやり取りがあっても良いかと思います。
医薬保	博士	女	自然	図書館員がもっと工夫をすべき。ただいっただけでは来館者は増えない。学習を目的に来る人は多いと思うが、本を読みに来る人はほんの一部ではないでしょうか。何を指すかで対処法は違います。入ってすぐのところにお勧め、というか紹介みたいなコーナーがありますが、もっと興味をもってもらえるような工夫が必要だと思います。ただ置いてあるだけではだれも見ません。
理工	3年	男	自然	以前、貸出延長のやり方が分からなくて尋ねたことがあるのですが、PCの画面を見せてもらいながら親切に教えてくれて助かりました。サークルでのAVホールの利用でとてもお世話になっているしありがたいです。
人社	1年	女	中央	受け付けの方の対応がいつも丁寧で、また利用しようという気になります。
人社	1年	女	中央	カウンターにいる職員で初めて利用する図書サービスに対しての説明が冷たかった人がいた。質問17に「やや思う」が二つあり、「やや思わない」がなかった。「やや思わない」の回答をしたい。
人社	博士	男	中央	利用時の対応の画一化(対応する職員により大きな差がある)
医薬保	1年	女	中央	いつも気持ちよく使うことが出来ており、感謝しています。本を探しているときに、司書さんに大変親切にしてくださいました。ありがとうございます。

人社	教員	女	中央	随分以前ですが、金沢大学赴任直後に(私は教員です)、いくつか情報を提供していただきたくて中央図書館に参りましたが、スタッフの方に、こちらの質問にほとんど回答していただかず、その方には全く笑顔もなく(それはまあよしとしても)、早く帰れとばかりにやっかい払いされまして、正直、第一印象は最悪でした。色々な大学の図書館を利用してきましたが、そんな対応をされた大学は皆無です。おかげさまで、中央図書館の窓口の印象は未だに悪く、足繁く通うことは全くありません。ですが、ありがたいことに(本来は当たり前ですが)、メール上での各種やり取りにおいて、不快感を抱いたことはありません。現在、図書館から研究室蔵書の貸し出し等、色々と依頼が参りますが、全て快く迅速に対応させていただいております。研究費での図書購入等に関しましても、迅速且つ丁寧にに対応していただいていると感じています。いつもありがとうございます。
人社	教員	女	中央	図書館のサービスの向上のために何よりも必要なのは、職員の方たちが安心して働けるようになることです。司書は大変専門性の高い仕事なので、みなさん正規で雇用されるべきです。
人社	修士	女	中央	態度が悪い職員がたまにいる 態度が良い職員もたまにいる
人社	3年	女	中央	学生証を忘れたときに、借りたい本があったので、カードなくても借りれますか、と聞いたところ、すごく嫌な顔をされて、対応もあまり良くなかったのが、残念だった。カード忘れたのはこちらの過失ですが、謝る気持ちを無くすくらいの態度でした。
人社	3年	女	中央	先日、図書館のパソコンの不具合?で印刷がうまくできなかった際に、丁寧に対応てくださった方がいて、ありがたかったです。嬉しかったです。
理工	修士	女	中央	学生アルバイトをもっと雇ってほしい。
人社	4年	女	中央	たまにひどく愛想のない図書館員の方がいることだけが気になります。
医薬保	修士	女	保健	図書館員の対応がキツイことがあった(中央図書館)
医薬保	修士	男	保健	保健学科図書館の利用が大半ですが、室内は静かで良いところだと思います。しかし、図書館前の休憩スペースで大声を出している学生をよく見かけ、ドアが開くたびに不快な気持ちになります。また、特に夜間、カウンターにおられる方(バイト?)の方に図書館の説明を求めても満足 of いく返答が帰ってきたことはほぼありません。全員に一定の教育をしていただけると幸いです。
人社	3年	女	中央	受付の人でぶっきらぼうなおばさんがいて、すごく嫌な気持ちになったので少なくとも笑顔で対応してもらえると嬉しそうです。それと盗難被害は自己責任だとは思いますが、なんとかならないかなと思っています。
人社	1年	女	中央	カウンター業務の方の対応をもう少し改善してほしいです。全体的に、もう少し親切に対応していただければ、もっと気持ちよく利用できます。また、書庫は暗くて気味が悪く、行きたいとは思えません。書庫の本は、職員の方が取ってきてくださるか、もしくはもっと書庫へ行きやすい環境を整えることが、これからの図書館利用の活発化には必要だと思います。 オープンスタジオやAV室等は、会議の際などにとても便利な部屋で、良いと思います。
人社	修士	男	中央	図書館職員の方々には、普通の大学職員より創造性や洞察力などの点で優れた学力が求められるものと思います。職員の修士号取得や資格取得などのキャリアアップ支援を拡充していただけますと幸いです。 学生が図書館職員の方々に質問しやすいように、各職員の名札に個人的な得意分野を記載して紹介するのはいかがでしょうか? そうすれば、学習支援スタッフとしての図書館職員の存在感が増して、質問を通じた利用者との交流が活発になることでしょう。また、職員の個性を活かせる職場づくりにも繋がります。 年度末は、若者の自殺が増える時期です。本学でも、尊い命が失われることが多くあります。命の大切さやゲートキーパーに関する本の展示も行っていたいただけますと幸いです。

4-4 イベントに関する意見

医薬保	4年	男	医学	文献検索サイトなどの講習会を開催されているのは知っており、参加したいと思うものはあるのですが、日程が講義と重なって参加できないことがありました。講義日程など参照した上で参加しやすい様に調整して頂けると参加者が増えると思います。また、講習会を紹介する際に、対象としたい学年やそのツールがどのような場面で役に立つのかをアピールすれば参加してみようと思う学生も増えるのではないかと思います。
理工	修士	男	自然	ホールを利用したイベントやセミナーをもっと開催して人が来るキッカケを増やすと良いと思います
医薬保	修士	女	自然	イベントのPOP紹介がもっとあればと思うことがあります。また、過去に紹介されたPOPは一つの資料にまとめ、常時閲覧可能になれば、と思います。教員のお勧め図書はWEBで常時確認できますが、こちらもやはり紙媒体で図書館内で常時確認できることができれば良いと思います。というのも双方とも紹介文展示されている時はすぐに書籍が借りられてしまい、POPを見て読みたい、と思っても実物がないということが多いからです。そろそろ返却されたかな、と思った頃にはイベントも終わり紹介文も無くなりタイトルを忘れてしまった、ということも多いです。
センター等	教員	男	中央	公開イベント、学生向け講演会
人社	4年	女	中央	正月には餅つきを企画するなど、学生が自然と図書館の近辺に来くなるような企画があったらいいと思う。
人社	3年	女	中央	図書館で行われるイベント案内を月まとめて掲載されている資料を貸出しの際に頂きたいです。
人社	1年	男	中央	幅広い世代に受け入れられる企画を行う
人社	4年	女	中央	映画上映会 シアタールームをより気軽に使えるようにする
人社	3年	男	中央	図書館のサービスをもっと紹介してほしい この前日経テレコンの使い方を知ったが、教えてくれないとそんなサービスがあることも知らなかったと思う。
人社	修士	女	中央	検索方法を個別に教えて頂いたり、レポートの書き方の講習の機会を作って頂いたり大変助かります。また、図書を無料で譲って頂ける機会には、日頃から手に入りにくい書物をいただくことができました。できれば、図書館のオリエンテーションを実際に図書館の職員の方と一緒に頂く機会を設けていただけると有り難いのですが。

人社	修士	男	中央	今日、「読書離れ」が叫ばれています。金大生の多くも、放課後はスマホやSNSが手放せず、読書で豊かな心を育むことが疎かになっているのではないのでしょうか。そのような学生を読書に引き込むには、館内にとどまらずネット上でも読書キャンペーンを仕掛けることをお勧めします。学生の年齢層は、FacebookだけでなくLINEやTwitterの利用者が多いはず。ハッシュタグ付きの学生目線の感想文を募り、金大OPACや各種SNSでシェアするという取り組みはいかがでしょうか？【参考URL】 http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail02_3592_all.html
人社	4年	女	中央	学習会・討論会・読書会などの開催をしてほしい。
人社	4年	男	中央	個人的には、短歌関係のイベントが増加すればもう一点を入れる。
医薬保	1年	女	中央	〇〇特集や△△シリーズなどをもっとやって欲しい
事務局	事務	女	自然	非常勤職員なのだが、そもそも図書館の利用方法を知らない。採用時に図書館の利用方法等の説明があれば良い。
理工	修士	男	自然	以前、図書館ボランティアの方が行っていたような映画の上映会をまた企画していただきたいと思いました。
医薬保	2年	男	保健	図書館内でのコピーカードやちょっとした文房具等の発売
理工	修士	女	自然	毎回の特集コーナーは見ていて飽きません。特に、流星群のときの星の特集はどの本を読んでも面白かったです。研究のための図書館でもあります。研究に集中していると、つい目の前のものしか考えられなくなってしまうので、そんなときふと外の広い世界に気づかせてくれる図書館であってほしいと常に考えています。

4-5 館内案内に関する意見

人社	3年	男	中央	わからないことがあれば簡単に調べたり聞いたりできる環境作りが重要であると思う。
理工	3年	男	自然	図書館の位置がわかりにくい。
理工	2年	男	自然	自然研図書館の場所が分かるように、ホームページに地図をあげる。
理工	修士	男	自然	入ってすぐのところに大きく、分類ごとに示された図書館内の地図があると非常に助かると思います。
理工	修士	女	自然	自習室の充実やオススメとして最新の情報(出版された本やニュースやそれに関する本)を入り口などで紹介してもらえると、図書館に行くだけで情報が得られたり興味が広がるのでありがたいです。もうしていただきます。
医薬保	1年	男	中央	どこにどのような本があるのかももっとはっきり分かりやすい場所に示して貰いたいです。
人社	4年	女	中央	案内図(本の保管場所案内)をもっと見やすくすると思う。
人社	1年	女	中央	図書のある場所を視覚的に表示されるサービス
人社	博士	男	中央	時折、外部利用者が右往左往していることがあるので、比較的大きめの案内板(見取り図)を分かりやすい場所(出入口など)に設置する。
人社	4年	女	中央	知らないサービスがあるかもしれない(二階のスタジオの利用など)ので、どんなサービスがあるかをもっと押し出してよいのではないか。(入口付近にサービスと利用方法、用例を掲示するなど)
人社	4年	女	中央	理工学域の図書館にいった際、閉館近くに理工学域の建物から出ようとしたときに入ってきた入り口のシャッターが降りてしまっていて、どうすればいいのかわからず困ったことがあった。(自分は人間社会学域)理工学域の学生は学生証で出入りできる扉があったようだが、シャッターがしまることや、そのようなことを知らなかったため混乱した。あとから聞いた話では、建物には学生証がなくても出ることのできる出口があったらしいので、そちらへの案内図など用意していただくとありがたいと思います。
人社	1年	女	中央	図書の配置場所を館内図のようにして表示してほしいです
理工	1年	女	中央	よくある質問に対しての簡単な掲示。
医薬保	1年	女	保健	保健学類の図書館は、建物の中どこにあるのか分かりにくいところが難点だと思う。
医薬保	2年	女	保健	入口とかに図書館でできることやそのその場所の案内などがまとめて紹介されていると迷わずにすぐ行動できていいと思う
医薬保	3年	女	保健	もう少しどこになんの本があるか分かりやすくする工夫(例えば、本屋さんの文庫本コーナーで作者名が見出しのように出ているやつと同じように、本棚に項目の書いた看板のようなものを挟む)
医薬保	修士	男	保健	図書館前のラウンジの消灯時間について。保健学類の新聞が1日遅れ、読みにくい配置場所であること、せめてラウンジに置いてほしい。角間キャンパスでは雑誌が読めるのに他キャンパスでは読めないこと。コイン式のコピー機がないこと。書籍検索のためにPCを開くのにかかる。
理工	4年	女	自然	さまざまな学域のそれぞれの研究家がどういったことを研究しているのか？またそれを調べるのに参考となる本があると思う。全部の研究室ではなく、時期で紹介される研究室を変えていくなど新たに研究室配属される学生の皆さんにとっても参考となると思う。
人社	3年	女	中央	新しく出た本・教授や図書館員さんおすすめの本を、「図書館だより」のような感じでメール配信などしてくれたら、今よりもさらに本に興味を持つことができ図書館を利用するいいきっかけになるのではないのでしょうか。メールなら学生たちも気軽にチェックできていいと思います。ちょっとした提案です。
人社	3年	女	中央	貸し出し期限が近づくとメールで知らされるサービスはとてありがたいです。さらに図書館オンラインサービスの個人ページで、今まで借りた本からその人にオススメの本が表示されるサービスがあれば、より利用頻度が高まると思います。
人社	1年	女	中央	図書館職員の方のおすすめ本を展示してほしい。
人社	3年	男	中央	・授業で参考になる図書をシラバスに記載したり、その図書がどの図書館にあるかもしくはないかを記載してほしい。・自然研で借りた本を、中央でも返せるように、その逆も可能なようにしてほしい。
医薬保	2年	女	保健	どの授業にどんな本がおすすめとか役立ったとかの紹介があると本を探しやすくなると思う
医薬保	教員	女	保健	予約制で自分の研究テーマの文献検索の具体例を個別にしてくれると、大変ありがたいです。
理工	修士	女	自然	いつも丁寧に対応していただき、とても気持ちよく利用させてもらっている。ただ、学生などで、校外から借りた書籍の扱い方が分からない人がいたようなので、指導をしっかりしていただきたいと思う。
理工	修士	男	自然	もう少し学年の低い時から図書館の利用法を知っていたら良かったと思う。
人社	4年	女	中央	使わずに過ぎてしまう制度が存在するので、1年次の授業での周知を強化して欲しい。
人社	4年	女	中央	分からないことがあれば、受け付けの方に聞いたり、友人に聞いたりして今は頻繁に利用するようになったが、図書館の利用方法がわからず全く利用していない友人もいる。あまり周りに聞けない人の為にも図書館サービスの利用方法をインターネットなどで簡単に調べられるようにしてほしいのかもしれない。

人社	3年	男	中央	サービスの方法や使うメリットがやや学生にとって分かりにくい。講義など紹介できる場をもう少し有意義に使えるとさらに良いと感じる。
----	----	---	----	---

4-6 コピー、相互利用に関するサービス

人社	4年	女	中央	消しカスを捨てるゴミ箱が欲しいです。お金でコピーできるコピー機もあると助かります。
医業保	修士	男	医学	医学図書館しか使わないが、サービスは充実していると思う。ただ、論文雑誌をコピーすることが多いのだが、自然研図書館のようにカウンターで受け取れる形である方が利用しやすい
医業保	2年	女	医学	文献複写依頼は無料にしてほしい。
医業保	1年	女	中央	コピーカードを生協で購入してから利用する、ということを、もう少し強調すべきだと思う
人社	4年	女	中央	複写の手続きを手書きではなく、ネット上でできるようにする。
人社	4年	女	中央	コピー代を安くしてほしい。
医業保	博士	女	保健	コピーカードの販売機を図書館近くに設置してほしい。
人社	4年	女	中央	文献コピーや発表用飼料のコピー代がかなりかさむため、なにかしら支援があるとありがたい。土日は18時からまで開いてほしい。(特にテスト期間、卒論提出期間など)
理工	3年	男	自然	他図書館や研究室からの貸借図書の受け渡しを希望の図書館で可能にして頂けると助かります。
医業保	2年	女	自然	借用サービスをより使いやすく、明確にして欲しいです。サービスの存在を知らない人も結構いるし、借用にかかる費用(私費の場合)も、図書館員によって答えが一貫しておらず曖昧なので困ります。
理工	4年	男	自然	文献を取り寄せられるサービスをより認知させること
理工	修士	男	自然	研究室所在の書籍とかたまに読んで見たいのがあるのですが、あれはどうやって入手したらいいのかがよくわからないので、そういうのも管理して図書館で貸し出しができるようなシステムがあれば。そもそも分野の全く違う研究室間であんまり関わりがないので書籍を探しにはいきにくいので。あとは、自然科学館の研究室か中央図書館まで借りに行く気にならないので、何かそういうのに対するサービスがあれば教えて欲しい。なければ何かサービスがあれば利用したい。
理工	修士	男	自然	文献複写依頼は結構手続きが難しく、認知度も低いので、もう少し説明があると初めての人にもとつきやすいと思われます。初めて利用したときはかなり不安だったので意見させていただきました。
理工	4年	男	自然	いつもILL複写ありがとうございます
理工	修士	男	自然	気になっていることとしては、自然研には無く中央には資料がある場合に、遠いために取りにくいのが非常に大変であることがあります。無理なお願いかもしれませんが、自然研で予約をして、後日自然研の窓口で受け取るなどのシステムがあると非常に助かります。
人社	4年	女	中央	ほしい文献が附属学校などにある場合に、取りに行けないことに困ったことがある
医業保	1年	女	中央	他図書館の借用サービスは継続すべき
人社	博士	男	中央	学務経由で図書の貸出ができるようにしてほしい。
人社	4年	女	中央	他の図書館から借りるときの手続きをもっと簡単にしてほしいです。
人社	2年	女	中央	論文の取り寄せが簡単にできるようにしてほしいです。
人社	2年	男	中央	法科大学院の本のとりよせ
人社	3年	男	中央	ILLの申し込みが紙媒体でもできるようにできれば有り難いです。
人社	4年	女	中央	各学類などにある学内の図書室の利用をILLだけでなく、延長のできる貸し出しができるようにしてほしい
人社	4年	女	中央	他図書館からの借用サービスは非常に便利なのですが、遠い図書館から借りる際の送料を安くしてほしい。図書館に言ってもどうしようもないことかもしれませんが…。
人社	1年	女	中央	付属中学校や他キャンパスの図書館の本を取り寄せて希望の図書館まで運んでくれる制度を導入してくれると、もっと図書館が利用しやすくなると思う。金沢大学は蔵書は多いと思うがいろいろなところに図書館が点在していて利用しにくい。
人社	4年	女	中央	中央図書館をよく使用するのですが、机や椅子も十分にありますが、パソコンを使用する机もあり、学習する際、とても快適で、大学に用がなくても、学習するために図書館に来ることも多いです。加えて、図書館にない文献もWebから申請することができ、またその際も迅速に文献が届き、図書館としては優秀であると感じました。
人社	1年	女	中央	例えば自然研図書館の本を中央で貸し借りできるように、など大学内で図書の移動できるサービスがあればより良い。
理工	3年	男	中央	借りた図書館と違う図書館でも本が返却できるようにしてほしい。
人社	4年	女	中央	全体的にとっても親切・丁寧なサービスを提供していただいていると思います。特にILLサービスには何度もお世話になりました。欲しい本が金沢大学内に所蔵されているのが最も理想ではありますが、そうでないときもこのサービスのおかげで満足のいく学習ができたと感じています。以前ILLサービス関係で困ったことがあったとき、職員の方がとても親切に対応してくださったのが印象に残っています。
医業保	3年	男	保健	他の図書館から学生証で図書を借りれるシステム
医業保	2年	女	保健	他の図書館からの借用サービスは名前は聞いたことがあったのですが、やり方がよくわからないのでやり方を書いた分かりやすいポスターがあると良いと思います。もし、今そのようなポスターがあるのなら、それがどこに貼ってあるのか分かりにくいので分かりやすいものを貼ってほしいです。
センター等	教員	女	中央	・ILLはいつもすばやく対応していただき感謝です。・繰りかえしになりますが、どうかProject Museだけでも入れてください。出張の折などに、他の(多くは北米、欧州)大学の図書館のデータベースを利用させてもらい、研究環境の差を実感します。・蔵書がもっと目に見えるとうよいと思います。多くの本が書庫にあるので、本との出会いが自ずと少なくなっているのでは。管理の問題はあるかもしれませんが、書架を迷路のように張り巡らし、本の森を歩くような経験が日常的にできるとよいと思います。

4-7 視聴覚資料に関する意見

人社	4年	女	中央	・視聴覚ブースでの機械の使用方法が分かりにくいので、もっと分かりやすくしてほしい。(ヘッドホンの音を出すための操作が分かりにくい)・できればDVDデッキに早送り、巻き戻し機能がほしい。・DVD視聴手続きをカウンターで行う際に、リモコンの借り忘れがないように、必要かどうか聞いてほしい。
人社	1年	男	中央	DVDの使い方が少しわかりにくい。
人社	2年	男	中央	DVDとかを見るスペースのリモコンの貸し出しをもっと簡易化して欲しいです。いちいち紙に学籍番号やら名前やら書くのが面倒なので…

人社	2年	男	中央	雑誌や新聞も含め紙媒体の点数を豊富に揃えるだけでなく、有識者や著名人の対談音声や映像を閲覧できるシステムを作って学生のモチベーションをあげるようなサービスを提供してほしいです。
人社	3年	女	中央	もう少しDVDを増やしてほしいです。それから、図書館に持ち込める飲み物をほんわかふえで販売してほしいです。
人社	3年	女	中央	DVDを見るためにカウンターまでいくのが面倒。利用者だけで手続きが完了するシステムがあればいいなと思う。新着図書はもっと目立つようにおいてほしい。
人社	1年	女	中央	CDなどの資料を貸出し可能にしていきたいです。
人社	4年	女	中央	DVD
センター等	教員	女	中央	いろいろな音源

4-8 広報等に関する意見				
医薬保	3年	女	医学	このアンケートのように利用者の意見をとりいれる調査を定期的に行うとよい。
理工	2年	男	自然	本を利用して勉強を楽しむ方法を伝える宣伝。
理工	4年	男	自然	こういったサービスについてあまり知られていないのでもう少し宣伝が必要だと思う。
人社	4年	男	中央	本を読むだけでなく、資料館をもっとアピールして、百聞は一見にしかずを実践すればよいと思う。
人社	4年	男	中央	より学生のためを思うなら、もっと学生の意見を聞くべきだと思う(特に図書館をよく利用するひとに、例えば、グループスタジオや、書庫に行く人、パソコン使用で物品を借りていく人などから) ふだん、図書館を利用しない人にはわからないような細かい部分での要望が聞けるはずだから。

4-9 ブックリユース市に関する意見				
理工	1年	男	中央	古本市の回数増やして欲しい。授業が重なっていけないことがあったから。
医薬保	2年	男	保健	古くなった蔵書などを無料で配布するのは嬉しいのでこれからも続けていってほしい

5-1 閲覧スペース、学修環境に関する意見				
医薬保	4年	男	医学	医学系図書館の机配置が、また行きたくなるような感じではない。勉強してる人の顔が外から見えるのはあまり嬉しくない。
医薬保	5年	男	医学	全体的に広い空間になっているが、もう少し机と椅子を増やしてほしい。また、これは利用者側の責任だが、医学図書館2階のPCスペースに荷物を置いて、場所を確保したまま日中実習へ行く5年生が非常に多く、利用したいときに座席が無いことが多い。公共の場所なので荷物を置いて場所取りしないよう、もっと積極的に告知してほしいし、定期的に荷物を回収し受付で保管しておき、注意するなどしてほしい。
理工	修士	男	自然	人が多い時に寝てるだけで席を占領している学生は追い出して欲しい。
理工	修士	男	自然	個人用のスペースがもう少し欲しい。
理工	4年	男	自然	一人用の席がもっと欲しい...
理工	3年	女	自然	テスト期間時の混み具合がわかるサービス
理工	4年	女	自然	自然研図書館の新聞を座って読めるようになると思う。
理工	3年	女	自然	本棚に対して本の数が少ないので、本棚を減らして机や椅子をもっと増やしたほうが、より多くの学生が図書館を利用できてよいと思います。
医薬保	修士	女	自然	サービスというべきか迷うところですが、学習用の大きな机の相席を行いにくいという点に困っています。自然科学系図書館はしきりを作ったことにより大分改善されましたが中央は依然酷いです。試験期間中は特に席取り競争が激化するのでどうにかならないものかと思っています。また個人用学習机も良いのですがやや暗いのが気になっています。
理工	3年	女	自然	自然研図書館の、大きなテーブルにしきりがついたのはとてもよかった。
理工	4年	女	自然	個人の学習スペースがあるのがとても快適で集中することができる。
理工	修士	男	自然	4人がけのテーブルに1人で座っている人ばかりなので、無駄が多いと思う。1人がけのテーブルを増やしてほしい。
人社	修士	女	中央	四人用あるいは二人用の検討室があれば、いいだとおもう。
人社	3年	女	中央	もっと個別席をつくるべきだとおもう。
人社	2年	女	中央	勉強してる人が多いので、ラウンジの席数を増やすか読書専用スペースを設置してほしいです。
医薬保	1年	女	中央	机の増設
人社	3年	男	中央	自然研と中央でそのサービスに差があると思う。中央のコンセントを増やしたり、一人のスペースも増やしてほしい。大きい机もしている人同士出ないと使いにくく、スペースが無駄になっているとおもう。
人社	2年	女	中央	一人で勉強できるスペースを増やしてほしい。
人社	2年	女	中央	勉強のためにほぼ毎日利用させていただいております。1人用閲覧席がもっと増えると嬉しいです。
人社	2年	女	中央	1人席を増やして欲しいです。
医薬保	1年	男	中央	図書館は何より広々として開放感のある場所であってほしい。中央図書館はとても広々として開放感のある私の大好きな図書館である。中央図書館にいと落ち着いて本の世界に浸ったり、未来への展望を考えたりすることができる。そしてまた、中央図書館に行きたいと思う。一方で医学図書館は広さのわりに人が多くて、なんだか窮屈なイメージを受ける。また、本を読んでいる人よりテストのために勉強している人が多い気がして、それもまた窮屈な気分させる。もっと自由な空間であって欲しい。そのためには自習室をふやして、医学図書館はもっと広々としたものにして欲しい。
医薬保	3年	女	保健	勉強できるスペースがせまい(鶴間)
医薬保	3年	女	保健	保健学類図書室は学習スペースがかなり限られていて、席が埋まっていることが多いです。
医薬保	3年	女	自然	自然研図書館地下スペースに勉強用机が増えると良いと思う。自然研図書館が日曜日も開館していたら嬉しい。
医薬保	4年	男	医学	自習スペースの充実。面積の関係上、これ以上の拡充は難しそうだが、もう少し自習スペースを拡大してほしい。土日の開館時間を長くしてほしい。
理工	2年	男	自然	一人用の机を増やしてほしいと思います
理工	3年	男	自然	自習空間の環境の整備
理工	1年	男	自然	1人で集中できる机がほしいです。
人社	1年	男	中央	個人用の机がもっと増えると嬉しい

理工	1年	男	中央	より静かな環境で勉強ができるように館内での私語厳禁を強め、軽い話し合いができる領域を設ける
人社	4年	男	中央	学習出来る環境づくりが必要であると考えます。仕方のないことですが、机の数が少なく、勉強したくても出来ないのは非常に勿体無いと思う。
人社	3年	女	中央	学校での自習にどの教室が使えるのかいまいちわからないので、貼り紙などで明示して欲しいと思います。あちこちの空き教室を生徒がそれぞれ自由に使っているような状態です。節電のためにはあまり良くないのでは…
理工	1年	男	中央	個人席を増やして欲しい
人社	3年	女	中央	経済学類生にも研究室が欲しいです。
人社	4年	女	中央	1人での学習スペースをもう少し増やしてほしい。
理工	事務	男	中央	インフラを改修して、もっとオープンスペース等を確保すべきではないか。図書館だと、屋外スペースにビニル等で仕切りをつくって、冬でも自由に勉強できる開放的なスペースが必要ではないか。
理工	1年	男	中央	学習スペースを増やすこと
人社	4年	女	中央	公務員試験の勉強の際によく利用させていただきました。平日夜遅く、休日も開館している図書館は、自宅では集中できない私にとって、とても貴重な勉強場所でした。同じ、公務員試験を受けた友人たちも、図書館で勉強している人がとても多かったです。これから公務員試験を受ける方たちにとっても、図書館は有難い存在だと思います。職員の方々は大変だろうと思いますが、これからも頑張ってください。
医薬保	3年	女	保健	自習可能なスペースの増設
理工	3年	男	自然	自習場所の確保と空調管理
人社	1年	女	中央	個別ブースの席数を増やしていただけると助かります。
医薬保		男	中央	主に中央図書館を利用していますが、オープNSTAジオやほん和カフェなどが増設されてから非常に利用しやすくなりました。また、サークルの展示などもさせていただいており、図書館職員の皆様には感謝しております。
医薬保	3年	男	医学	中央図書館について、大きいので仕方ないとは思いますが、夏暑いので 医学図書館の2階オープNSTAジオについて、テーブルの配置はディスカッションに最適なのですがしゃべっていいのかよくわからず結局個人でテーブルを丸ごと占領してしまいます。
医薬保	博士	女	医学	グループルームをずっと使用している人がいます。二時間1グループで区切ってほしいです。
医薬保	3年	女	医学	医学図書館2階のテーブルを何個もまとめて大きくするよりも2、3個をつなげてもらえれば使える人数が増えて使いやすくなります。
理工	修士	女	自然	自然研にも中央のようなオープNSTAジオがあるといいと思います。
医薬保	5年	女	医学	2階のオープNSTAジオの座席の数を増やすか、もっと小さく仕切ってほしい。テーブル6つを1人ないし2人で使っているのももったいない気がする。
理工	修士	女	自然	個別学習室がすばらしいです。予約表だけでなく、現在の使用状況がわかるシステムがあると待たずに利用できるのでもいいと思います。
理工	3年	女	自然	仮眠をとることのできるちょっとした個室スペースや飲食しながらグループワークができる部屋などがあればよいと思います。また、興味があるワードをいれたらそれに関連した本を紹介してくれるサービスがあるとよいと思います。(今のopacは一文字でもあっていないと不一致になる確率が高いように感じます。)
人社	4年	男	中央	オープンスペース(小声をだしてもいい場所、机)などを増やしたほうがいい。またパソコンからの印刷ができるパソコンを増やしたほうがいい。印刷機ももちろん増やしたほうがいい。現金での集金を学生証のプリペイドでできるようにしたほうがいい。(絶対にスムーズになる)
医薬保	博士	女	医学	グループルームの数を増やしてほしいです。カフェは軽食(といってもスパゲティや丼物など男子のお腹を満たすもの)を提供したら利用者が増えると思います。
理工	1年	女	中央	すぐに席が埋まるので、もっと席を増やしてほしいです。
理工	2年	男	自然	その他:本をただひたすら読み、そこからいろいろ考える場所

5-2 学修支援に関する意見

理工	2年	男	自然	先生が授業で取り扱う参考図書
理工	修士	男	自然	学生の学習意欲を掻き立てる、科学者の伝記など。
人社	3年	男	中央	学生が調べたいと思うことについての記述がなされているものがあると良いと思う。
人社	修士	女	中央	授業で指定されているテキストの最新版は最低限置いてほしい。
人社	1年	女	中央	共通教育科目で開講している講義に関する図書。
理工	2年	男	自然	上のアンケートにもあったように職員や大学院生が常駐して学習を支援してくれたらとても助かると思う。もし、自分が院生になった場合には喜んで協力したいと思う。また、問題集は貸し出し期間を長くするなどのサービスがあっても面白いと思う。
理工	教員	男	中央	何でも相談できるのは、逆に何を相談したら良いのかわからないかたちになっている気がする。病院が診療科を明示する様に、時間帯を設定し相談受付内容を明示する形での学生支援サービスも検討しては如何か。
センター等	教員	男	中央	包括的、総合的な学習相談のワンストップサービス
人社	3年	男	中央	学問分野ごとに詳しい職員を置き、論文や専門書の解説、紹介を学生にすることが必要だと思われる。
人社	1年	女	中央	事前の予約なしに、本当に気軽に訪れることのできる相談窓口。
医薬保	1年	女	中央	気軽に教授に質問できる環境(メールアドレスなどの連絡先を教えてもらうなど)が欲しい。
医薬保	博士	男	医学	時々行われる講習会が役立つ(Endnote使い方など)
理工	4年	男	自然	論文の読み方などの手法を教授するサービスがあったら良いと思います。
理工	修士	男	自然	文献検索などほぼ必要としない学部1年生の時にやり方を教えても殆どの人は忘れてしまう。だから学部4年で教えなおす、もしくは学部1年時から文献を調べる授業を実施する必要がある。
理工	修士	男	自然	職員や院生が学習支援を行うのは非常に良いと思います。僕はそれを知らなかったの、それを周知させることが重要だと思います。
理工	4年	男	自然	情報処理の授業などで教わったことはぼんやりと頭にありましたが、実際に論文検索などを行うのは4年生からがメインでなのでほとんど忘れていました。こういうシステム(論文検索など)があるということを知れたので有意義だったと思います。3年生あたりでやっていただけたらより効果が出るのかなとも思いました。

理工	教員	男	自然	図書館の使い方を情報リテラシーの一環として教育することは良いことだと思います。しかし、学士1年生に教えても、彼らにはニーズがないので、結局は大半を忘れてしまいます。ニーズが生じるような時期、卒業研究開始時期(4年生前期)とか修士課程の学生に対して、「研究者倫理」・「情報リテラシー」・「生命倫理」・「哲学」など研究上必要な基礎知識を必修化し、オンライン教材で提供するのが良いと思います。図書館利用法は「情報リテラシー」の一部に含まれることになると思います。どこの大学でも共通のニーズがあると思いますので、オンライン教材は共同開発するなり、どこかで開発したものを利用するので良いと思います。
人社	4年	男	中央	卒業論文作成講座など。
人社	4年	女	中央	論文の書き方(レポートではなく)や、卒論テーマの相談、進め方の相談がもっと気軽にできるようにしてほしいです。また、四年になってから卒論をするとなると間に合わなかったりするので、早い時期から論文を書くことについての説明や講義等があれば助かりました。
人社	4年	女	中央	図書館の使い方など授業でもっと詳しく教えてくれれば、図書館をより有効的に使えたと思う。もうすぐ卒業なので、あまり利用する機会がなかったのが残念でした。
人社	3年	女	中央	論文の書き方講座などをもう少し増やす
人社	4年	男	中央	ciniiの利用の仕方を学部1,2年生に紹介するとよい。長期的にみると、卒論執筆において役立ったり、大学が研究機関らしくなったりする。
人社	博士	男	中央	図書館が学習サポートを行うよりも、教員や嘱託職員などの大学関係者によるサポートを充実させる方が効果的だと思われる。
人社	2年	女	中央	レポートの書き方講習会などを行っているのは知っているのですが、参加者が他にどれだけいるのか分からず参加しづらい。もっと参加したくなる講習会があればいいと思う。
人社	博士	女	中央	レポートの書き方教室や個室を増加してほしいです。
医薬保	博士	女	医学	院生や留学生と大学生のつながる場になるのいいと思います。学習支援に限らず、大学院に進んだらどうなるのか、どういう道があるのか、どんなことをしてるのか、留学は？など、普段聞けないことを聞く場としての図書館があってもいいのではないのでしょうか。
理工	修士	男	自然	院生によるTA活動の活性化が必要だと思います。
人社	1年	女	中央	各学部の先輩に授業のことや単位のことについて質問できるサービス
人社	4年	男	中央	知識の蓄積、受け継ぎが不十分だと感じる。研究室では同じ学年の人としか一緒に学習をしていない。教授から研究の仕方を教わったり、先輩から役立つ本を教わったりといった活動が不足している。中央図書館に学習支援の職員がたまに居るが、利用している様子を見たことがない。人件費の無駄ではないか？ 文献複写のやり方などは、本格的に必要なになってくる4年のときには忘れてしまっている部分が多い。
人社	3年	女	中央	先輩との交流支援
人社	修士	女	中央	学生同士の学問的な交流がなさすぎる
医薬保	1年	男	中央	質問11ですが、本当に勉強したい人は自分で教授等に聞きに行くと思うので図書館でいちいちそのようなことをする必要はないと思います。
人社	2年	女	中央	分からないことがあればその担当の先生に聞きに行くことが多いと思うのであえて図書館で学習支援のサービスを行う必要はないと思う。
人社	1年	女	中央	レポートの添削や相談が毎日できると助かります。
理工	3年	女	自然	留学支援
医薬保	博士	女	医学	Yes its better. Sometimes the visitors are foreigner students, they need to help for sure.
理工	修士	女	中央	留学生に対応する方がたが必要なのではないか。また論文検索の仕方をもう少しわかりやすくマニュアルを作って掲示してほしい。
理工	修士	男	自然	月に一回程度図書館から学生への利用案内をメールで送る。4月は図書館での利用案内、11月など卒業論文などを意識し始めるときは論文検索の方法、文献取り寄せの方法など3月などの就職活動を意識する頃には日経テレコム使い方などを送るなど
人社	4年	女	中央	パソコンでの蔵書検索やオンライン蔵書検索などの使い方は、情報処理基礎で学習したが、いざ使う時は忘れてしまっているの、パソコンの近くに分かりやすく説明したものとよいと思う。

6 地域連携等に関する意見

人社	4年	女	中央	金沢大学図書館は石川県立図書館と連携しているため、県立図書館で借りた本を大学で返却できるのサービスがとていいと思っています。これがもっと、玉川図書館などとも連携して広がればさらに便利になると思っています。
理工	修士	男	自然	大学図書館として地域に密着したオープンなサービス
人社	4年	女	中央	もっと市民が利用できる図書館にするべき。学生ばかりで市民も入りにくいのでは。市民対象の講座等を図書館で開いて、足を運んでもらうところから初めてみては。
センター等	事務	男	中央	高校生の大学見学者への対応があればいいと思います。
人社	修士	男	中央	金沢市・美大図書館との図書カード共有化事業で、学外利用者は増えましたでしょうか。きっとまだまだ金大図書館は両者にとって近くて遠い存在であることでしょう。そこで、市民・美大生向けに、金大図書館見学ツアーを企画してみるのはいかがでしょうか。

○金沢大学附属図書館資料整備要項

平成 22 年 12 月 6 日
図書館委員会決定

第1 この要項は、金沢大学附属図書館規程第3条に定める図書館資料の整備（以下「資料整備」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2 この要項において「資料整備」とは、現在及び将来にわたる利用者ニーズにこたえるため、資料の収集、所蔵資料の管理や分析・評価、不用資料の選定、資料の保存、予算配分、利用者ニーズの調査等、図書館資料の構築、維持及び発展のために行う諸業務をいう。

（資料整備の資料区分）

第3 資料整備は、情報の記録媒体の種類にかかわらず、次の資料区分に従って行う。

- （1）学習用資料
- （2）研究用資料
- （3）逐次刊行物
- （4）参考資料
- （5）金沢大学関係出版物
- （6）特定コレクション
- （7）郷土関係資料
- （8）寄附申入れの資料
- （9）その他図書館資料の構成を補完するための資料

（資料整備に関する委員会）

第4 附属図書館の資料整備に関する基本的な事項については、金沢大学図書館委員会（以下「委員会」という。）が当たる。

（基本方針の策定等）

第5 附属図書館長（以下「館長」という。）は、委員会の議に基づき、資料整備に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を策定する。

2 基本方針は、適宜見直しを行う。

（収集計画の作成）

第6 館長は、会計年度ごとに、委員会の議に基づき、年間資料収集計画（以下「収集計画」という。）を作成する。

（資料の収集）

第7 館長は、収集計画に基づき資料の収集を行う。ただし、資料の収集に伴う事務手続は、情報企画課において所掌する。

2 館長は、前項の結果を、翌年度の図書館委員会に報告するものとする。（分館等との連絡調整）

第8 館長は、資料整備に当たっては、分館長と連絡調整の上、購入、寄贈等により資料を受け入れ若しくは配置し、又は廃棄、売却等により資料の処分を行うものとする。

(予算の確保)

第 9 館長は、図書館委員会の協力を得て、資料の収集に必要な予算の確保に努め、収集計画に基づき適正な予算配分を行うものとする。

(雑則)

第 10 この要項に定めるもののほか、資料整備に関し必要な事項は、図書館委員会の議を経て館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成 13 年 12 月 21 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 22 年 12 月 6 日から施行する。

○金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針

〔平成 22 年 12 月 6 日〕
〔図 書 館 委 員 会 決 定〕

(趣旨)

第 1 この基本方針は、金沢大学附属図書館資料整備要項第 5 に基づき、附属図書館における資料整備の基本方針（以下「方針」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資料の収集)

第 2 附属図書館長（以下「館長」という。）は、附属図書館が、学習図書館機能、研究図書館機能、保存図書館機能及び電子図書館機能を果たすために、別紙に掲げる収書方針で必要な図書館資料（以下「資料」という。）の収集を図る。

2 館長は、資料を収集するに当たり、資料選定の具体的な基準を別に定める。

(資料の管理)

第 3 館長は、資料の効率的な利用と適正な管理を行うに当たって、適切な資料配置及び資料保存並びに資料の不用決定を行うとともに、適宜蔵書点検を行う。

(資料の評価等)

第 4 館長は、資料の効果的な収集と運用を図るため、必要に応じて所蔵している資料の分析・評価を行うとともに、利用者に対する要望等の調査を行う。

(方針の改正)

第 5 この方針は、研究・教育の動向、本学のカリキュラムの変更、利用者要求の変化及び資料構成の評価に基づき、必要に応じて改正を行うものとする。

(雑則)

第 6 この方針に定めるもののほか、方針に関し必要な事項は、金沢大学図書館委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この方針は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この方針は平成 22 年 12 月 6 日から施行する。

別紙（第2関係）

1. 学習用資料

（1）本学に授業科目がある分野等

教育効果を最大限に高めるために、授業を担当する教員等の授業計画に沿って必要とする資料を、必要な時期にできる限り提供できるようにする。

（2）一般的教養、社会問題等の関連分野

幅広い人間形成に役立つ必要な資料を選択的に収集する。

2. 研究・教育用資料

専門分野の研究及び授業を企画する教員が、必要な資料を整備する。

3. 逐次刊行物（新聞を含む）

（1）調査・研究、教育及び学習活動を支援する各分野の主要な逐次刊行物は、全学的合意を得て計画的に整備する。

（2）主要な逐次刊行物以外のものは、必要に応じて選択的に整備する。

4. 参考資料

（1）逐次刊行物に相当する資料：基本的な参考図書を対象に、主題分野のバランスや利用度をもとに数年おきに見直しをする。

（2）その他の参考資料：調査・研究、教育及び学習活動に必要な辞典、事典、便覧、書誌等を積極的に整備する。

5. 金沢大学関係出版物

金沢大学資料館との協調の上、本学で刊行された出版物すべてを収集する。

6. 特定コレクション

金沢大学図書館委員会でコレクション等ごとに整備計画を定め、整備を進める。

7. 郷土関係資料及び寄付申入れの資料

調査・研究、教育及び学習活動に必要な資料を選択的に整備する。

金沢大学附属図書館受入資料取扱基準

図 書 館 委 員 会

平成 17 年 3 月 16 日

(趣旨)

第 1 この基準は、金沢大学附属図書館（以下「図書館」という。）が受入れる図書館資料（以下「資料」という。）の適切な管理・運用を図るため必要な事項を定める。

(定義)

第 2 本基準でいう資料とは、印刷その他の方法により複製した文書又は図画、又は電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によっては認識できない方法により、文字、映像、音を記録した物品として管理が可能なもの（ただし、紙媒体以外の CD-ROM、マイクロフィルム、ビデオテープ等を含む）をいう。

(区分)

第 3 資料は、図書又は消耗品とし、次の各号により区分する。

- (1) 図書は、当該資料が長期にわたり本学の教育・研究の用に供されるためのものであり、資産として計上する。
- (2) 消耗品は、当該資料の取得時における使用予定期間が 1 年未満のものであり、資産として計上せず費用として処理する。なお、消耗品として受入れた雑誌類を合冊製本した場合は、その時点で現物管理の観点から図書に計上し、製本に要した経費をもって資産額とする。

(目録・装備)

第 4 資料は、図書又は消耗品図書の区分に応じ、次の各号により目録情報の作成及び装備を行うものとする。

- (1) 図書には、蔵書印の押印、タトルテープの装着、請求番号ラベル及び図書 ID 番号（備品番号）ラベルの添付等の装備を行い、全国目録所在情報(NACSIS-CAT)及びローカル目録情報を作成する。
- (2) 消耗品図書には、蔵書印シールの添付のみとし、目録情報の作成、タトルテープの装着、請求記号ラベル及び図書 ID 番号ラベルの添付は行わない。

(図書)

第 5 図書の範囲は、次の各号による。

- (1) 附属図書館が本学の教育・研究上必要な資料として、1 年以上保存する資料。
例：単行書、全集、叢書、年鑑、年報、白書、会議録、統計書、製本済雑誌等
- (2) 耐久性に劣る資料であるが、内容的に資料価値の高いもので、製本等によって長期保存とする資料。
例：和（漢籍）古書、西洋古典籍、古地図等。
- (3) その他、消耗品図書以外の資料。

(消耗品図書)

第6 消耗品図書として扱う資料の範囲は、次の各号による。

- (1) 未製本の逐次刊行物及び合冊製本を前提とする講座又はシリーズ扱いの分冊図書。
例：商業雑誌，学会誌，紀要，研究報告書等
- (2) 後日完全な内容で刊行されることが確実な一時的又は速報的な出版物。
例：抜き刷り，予稿集，予備版等
- (3) 事務用及び職員研修用資料等で，消耗度が激しく，かつ保存の必要がないもの。
- (4) 簡易な装丁又は形態で刊行され，頻繁な使用に耐えず，長期間にわたる管理が困難なもの。
例：一枚もの地図及び楽譜，カード類，加除式資料の追録等
- (5) 逐次改版され内容が更新されるもので，内容的にみて研究室等で利用に供する場合に長期保存を必要としないもの。
例：職員録，人名録，操作マニュアル，データ集，各種試験問題集，カタログ，視聴覚資料等

(蔵書統計)

第7 蔵書統計には，図書に区分された新規受入資料を加算する。

付則

- 1 この基準は平成17年4月1日から施行する。
- 2 金沢大学附属図書館資料受入基準（平成58年3月18日制定）は、廃止する。

○金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項

〔平成 22 年 12 月 6 日〕
〔図書館委員会決定〕

(要旨)

第1 この要項は、金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針第3に基づく金沢大学附属図書館が管理する図書館資料の不用決定及び処分に関し、国立大学法人金沢大学固定資産等管理規程に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(図書館資料の定義)

第2 この要項において、図書館資料（以下「資料」という。）とは、金沢大学附属図書館規程第3条に規定された資料のうち資産として登録されたものをいう。

(不用の決定)

第3 物品管理部局責任者は、使用中の資料で利用の必要がなくなったもの、又は利用することができないと認めたものが次の各号の一に該当する場合は、不用資料リストを作成するものとする。

- (1) 保存を必要としない複本。
- (2) 資料の内容が逐次改訂され、又は改訂版等により利用価値を失い、かつ、保存の必要がないと認めるとき。
- (3) 短期間の利用を目的として取得された資料で、利用価値を失い、かつ、保存の必要がないと認めるとき。
- (4) 長期にわたる頻繁な使用若しくは管理上の不測の事故により汚損若しくは破損がはなはだしく、補修を行うことが不可能なとき、又は補修に要する費用が当該資料の購入費等より高価であると認めるとき。
- (5) 当該資料の代替となる資料が整備され、かつ、保存の必要がないと認めるとき。

(不用決定の要件)

第4 物品管理部局責任者は、第3の規定により作成したリストに基づいて学内へ使用希望の有無を照会し、不用であるか否かを判定するものとする。

(返納の手続)

第5 物品管理部局責任者は、第4に定める照会により、不用と判定された資料について、物品管理責任者に返納手続きを行うものとする。

2 返納手続きは、異動年月日及び異動理由を記した管理通知書（以下「物品異動届」という。）により報告するものとする。

(処分の決定)

第6 物品管理部局責任者は、物品管理責任者対し物品移動届の提出により処分の依頼を行うものとする。

(処分)

第7 物品管理責任者は、前条の規定に基づき返納された資料を処分しようとするときは、第4に定める照会により、学内において使用する見込みがないことを確認の上、契約責任者に対し処分の依頼を行うものとする。

2 契約責任者は、売却（交換を含む。）により処分するものとする。ただし、契約責任者は、売却することができないもの及び売却することが不利又は不適當であると認めるものについては、廃棄その他の方法により処分を行うことができる。

（異動の記録）

第8 売払又は廃棄処分にした資料については、図書台帳にその異動を記録するとともに、目録所在情報を削除する。

（蔵書印の処理）

第9 売払又は廃棄処分にした資料については、蔵書印及び登録番号を所定の消印で抹消する。

（消耗品扱いの資料）

第10 資産として登録されていない消耗品扱いの資料の不用の決定及び処分については、資産に準じた手続で行うものとする。

附 則

1 この要項は平成22年12月6日から施行する。

2 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び廃棄に関する要項（平成14年9月11日制定）は、廃止する。

中央図書館狭隘化対策WG 検討報告書

平成24年3月12日

目 次

1. はじめに	1
2. 狭隘化の現状と推移の把握	1
(1) 狭隘化の現状	1
(2) 退職教員からの返納図書の推移予測	2
3. 蔵書数の削減についての検討	3
(1) 未登録図書の状況	3
(2) 金沢工専図書の取り扱い	4
(3) 除籍基準について	4
(4) 郷土資料(210 番台)の重複配架の見直し	4
4. 電子化された雑誌と重複する雑誌等の取り扱い	4
(1) 紀要	4
(2) 保存年限を定めて廃棄する雑誌	5
(3) 遺跡発掘報告書	5
(4) EU 資料	5
(5) 電子ジャーナルとの重複雑誌	6
① 最新電子ジャーナルとの重複図書	6
② 電子ジャーナルのバックファイルコレクションとの重複雑誌	6
5. 寄贈図書・雑誌の受入方針の見直しについて	6
6. 書架の増設計画	7
7. 平成 23 年度実施した作業	7
(1) 技術・工学系図書の自然科学系図書館への移動	7
(2) 書庫蔵書の再配架作業	7
(3) 書架の増設	7
8. まとめ	8
WGメンバー	9

資料

資料 1 中央図書館狭隘化対策ワーキンググループについて	10
資料 2 中央図書館書庫狭隘化調査	11
資料 3 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項	14
資料 4 書架増設計画(案)	15
資料 5 各数値の試算内訳	17

中央図書館狭隘化対策WG

検討報告書

1. はじめに

中央図書館（以下中央館とする）は、平成元年に角間キャンパスの北地区に開設し、大量の図書資料を必要とする人文系の各研究分野を主たる利用者としてその学習・研究を支えている。開設後 23 年間に受け入れた蔵書と研究室からの返納図書の増加により、現在の蔵書数は収蔵限界の約 9 割に達しようとしている。このままの状況で推移すれば今後数年のうちに蔵書は収蔵限界に達し、図書館業務に支障をきたすこととなる。可能ならば、新たに書庫を増築するのが理想であるが、国や大学の財政事情を斟酌すれば短・中期的には非現実的である。このような状況を解消するため、図書・雑誌資料の受入、除籍及びサービス業務の担当職員からなるワーキンググループ（以下 WG とする）（資料 1）を設置し、増改築によらない狭隘化の対策を短期集中的に検討することとした。

検討方針では、①増改築によらない短・中期的(※)な狭隘化対策 ②検討事項には予算要求事項を含む ③検討の期限は平成 24 年 3 月 30 日（平成 23 年度末）とした。また、検討課題のうち実施可能なものは、この期限前に随時実施することを骨子とした。

狭隘化は、大学図書館が学習・研究の基盤を支える使命のために資料収集を第一優先に行う以上宿命的なものであり、狭隘化の対策ではこの収集第一優先の考えを転換することが検討の第一歩であると考え、これまでの資料収集の方針の変更や重複本の削減を中心に検討を進めた。また、近年の電子ジャーナルの充実や電子書籍の流通状況も狭隘化改善の要素として視野に入れ検討を行った。

(※)短期的とは 0～5 年程度。中期的とは 5 年～10 年程度を目処とした。

2. 狭隘化の現状と推移の把握

(1) 狭隘化の現状

狭隘化対策の議論を進める上で現状の把握が必要であり、書庫 1 階及び地階の狭隘化を数値的に把握するための調査が行われ、第 2 回委員会（平成 23 年 11 月 8 日）において報告された（表 1 及び資料 2 に詳細を掲載）。この報告により、各書庫の占有率(※)は、1 階書庫では 91.5%、地階書庫では 78.6%、電動集密書架を配置した地階保存書庫では 85.8%、全体では 85.6%であることがわかった。占有率が 90%を超えると資料の配架作業に支障をきたすこととなる。すでに、1 階書庫では 66%の書架が 90%を超す状況となっており、いくつかの分類においては日常の配架作業へ支障を生じていることがわかる。保存書庫には、第四高等学校、石川師範学校、金沢工業専門学校などの前身校の資料や暁烏文庫等の各種

文庫及び和洋雑誌のバックナンバーが保存されており、これら資料の年々の増減はない。また、蔵書数の増加について、平成 22 年と平成 23 年の同時期のデータを表 2 で比較すると 1.3 万冊余り増加していることがわかる。

(※) 占有率とは書架全体に対する図書の配架されている割合。配架済棚数を総棚数で除した数値。

表 1. 書庫狭隘化の現状調査 (2011. 11 : 香川による)

書庫名	総棚数	配架済棚数	未配架棚数	占有率 (%)
1 階書庫	7, 090	6, 489	601	91. 5
地階書庫	6, 446	5, 065	1, 381	78. 6
地階保存書庫	13, 391	11, 486	1, 905	85. 8
全体	26, 927	23, 040	3, 887	85. 6

表 2. 蔵書数の推移

平成 22 年		平成 23 年	
開架 (冊)	書庫等 (冊)	開架 (冊)	書庫等 (冊)
147, 810	425, 905	157, 155 (9, 345 増)	429, 873 (3, 968 増)
合計 573, 715		合計 587, 028 (13, 313 増)	

注 : 集計日 : 平成 22 年は 5 月 18 日、平成 23 年は 5 月 9 日

(2) 退職教員からの返納図書の推移予測

中央館で管理する図書は平成 23 年 4 月現在約 120 万冊であり、このうち約 60 万冊が研究室貸出となっている。ここ数年退職教員の増加に伴い当該教員から返納される図書が増加し狭隘化を加速する要因の一つとなっている。このため、今後 6 年間の返納図書の推移について調査(2011. 11 北川による)を行った。定年退職者数と返納予定図書を表 3 に示す。

表 3. 各館所管の返納図書の推移予測 (2011. 11 : 北川による)

図書館名	事項	平 23	平 24	平 25	平 26	平 27	平 28	計
中央館	人数	5	10	12	13	6	8	54
	返納予定数	1, 765	4, 431	3, 196	3, 171	3, 554	2, 358	18, 475
自然館	人数	8	13	13	8	8	14	64
	返納予定数	2, 701	1, 217	2, 792	622	424	1, 425	9, 181
医学分館	人数	2	4	9	4	6	5	30
	返納予定数	35	84	198	1, 680	389	863	3, 249

注 上段は退職予定者数 (総務部人事課調べ)。下段は返納図書の予定数。

これまでの例から返納図書の約3割は重複図書であり約5,500冊の除籍が見込まれるが、残りの約1.3万冊については収蔵スペースを確保する必要がある。また、書誌データが電子情報化される昭和63年(1988年)以前に購入され研究室貸出しとなっている図書については、今後の利用や重複図書か否かを確認するために遡及入力を行う必要がある。

3. 蔵書数の削減についての検討

新たな教育研究用図書と前述の退職教員からの返納図書を受け入れつつ、狭隘化の改善を図るため重複図書や教育研究に不要と思われる図書については除籍や廃棄等を行い、蔵書数の削減又は抑制を図る必要がある。以下に具体的対策についての検討結果を記す。

(1) 未登録図書の状況

中央館には、前身校の継承図書、古書、寄贈図書などの未登録図書が約4.4万冊存在していることが北川から報告された。表4に未登録図書の状況を掲げる。これらの図書についてもかなりの量の重複図書があると推測されるため、書誌データの電子化登録作業を進め資料の有効利用を図るとともに重複図書を除籍しスペースの確保を図る必要がある。

表4. 中央図書館の未登録図書の状況(2011.11:北川による)

保管場所	内容	棚数	概算冊数	状況等
書庫1階	重複図書	40	1,200	除籍待ち
地下書庫	備品	80	2,400	備品番号のチェックが必要
	消耗品	50	1,500	重複調査後必要のないものは除籍
	高等師範	160	4,800	遡及入力待ち、重複分は除籍
	重複図書	24	720	除籍待ち
地下保存書庫	ロシア語	46	1,380	遡及入力待ち
	消耗品	40	1,200	重複調査後必要のないものは除籍
	三井名誉教授寄贈図書	84	2,520	新規登録待ち
	金沢工専継承図書	930	27,900	遡及入力後、自然系へ移動。重複分は除籍
	合 計	1,454	43,620	

注 1棚あたりの冊数は通常25冊で計算するが、現状を優先し30冊で計算した。

(2) 金沢工専図書の取り扱い

金沢工専の継承図書は、約 2.8 万冊で保存書庫の集密書架に配架されている。書誌データの電子化がされていないためほとんど利用されていない。資料の利活用を図るためにも遡及入力を行う必要がある。また、重複本も多数含まれていると思われるため、今後コレクションとしてはまとめず、通常の図書と同じ基準で除籍処理を行い、それ以外の図書については、図書の有効活用を考慮して自然科学系図書館で保管することを検討する必要がある。

(3) 除籍基準について

狭隘化の要因の一つとして不要図書の除籍が円滑に行われていないことがあり、「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項：第 3（不要の決定）」（資料 3）の運用について具体例を検討した。次の例に掲げる保存していても資料的価値が増すとは考えられない図書については、必要ならば条件を定め除籍し新たな資料受入のためのスペースに充てる必要がある。

【廃棄を検討する図書の例】

- ①コンピューター等のマニュアル
- ②永続的に電子版が利用可能な書籍
- ③オンライン利用が可能な書誌データベースの冊子版
- ④利用頻度が落ちた百科事典
- ⑤現在利用されていない過去のシラバス掲載図書
- ⑥版が異なるだけの重複本

(4) 郷土資料（210 番台）の重複配架の見直し

これまで、石川、富山、福井、新潟の 4 県の郷土誌については、2 冊を配架していたが、日本史（210 番台）の書架の狭隘化が著しく、今後は、使用頻度を勘案し石川県内のみ 2 部の配架とする。また、今後も全国の郷土誌の配架は必要であり、スペースを確保するために現在の石川県の 3 冊目、富山、福井、新潟県関係の 2 冊目以降については除籍する必要がある。なお、除籍後も貴重な資料であることから安易に廃棄せず引き取り先の照会を行う必要がある。

4. 電子化された雑誌と重複する雑誌等の取り扱い

(1) 紀要

GiNii 又は各大学の機関リポジトリなど永続的に電子版が提供される状態にある大学発行の紀要類については、今後の受け入れを中止し、電子化されている巻については廃棄する必要がある。ただし、石川県内の大学等発行の紀要、歴史の長い紀要については、個

別に判断するものとする。また、研究室から図書館へ移管した雑誌の廃棄については、当該研究室に確認をする必要がある。

(2) 保存年限を定めて廃棄する雑誌

現在受け入れている雑誌について、学术论文の掲載がないなど、学術機関として長期的に保存する価値がないと判断できるものについては、保存年限を定め、年限を過ぎたものから廃棄する必要がある。また、保存にあたっては製本も行わないこととする。

表 5 に非学術雑誌の保存年限（案）を記す。なお、この表に則り、既に新規受入をしていないタイトルについても、製本・未製本を問わず個別に判断して廃棄する必要がある。

表 5. 保存年限を定めて廃棄する雑誌

分野	内 容	量	保存年限
語学系雑誌	内容が陳腐化するものが多いため、長期保存の必要がない。 例：聴く中国語、Hir@gana times	9 タイトル	3 年
娯楽系雑誌・情報誌系雑誌	最新情報を得るために利用されるので、長期保存の必要が低い。 例：山と溪谷、CD ジャーナル、number	27 タイトル	3 年
受験系雑誌 IT 系雑誌	最新情報が重要なため、古い資料の利用は、まずない。 例：教員養成セミナー、留学ジャーナル、受験ジャーナル、日経パソコン	5 タイトル	3 年

(3) 遺跡発掘報告書

遺跡発掘報告書は、1 件につき 300 冊程度の発行部数しかなく考古学を学習・研究する上で貴重な資料である。現在 1 階書庫に 196 棚、地階書庫に 168 棚を分割して収蔵している。しかし、毎年の受入数が千数百冊（15 棚）におよぶため狭隘化を進める要因の一つになっている。平成 20 年度から発行部数の少ない遺跡発掘報告書の有効活用を目的に国立情報学研究所の CSI 委託事業として、遺跡発掘報告書を PDF 化して公開する全国遺跡リポジトリの構築が進められている。狭隘化の対策として遺跡リポジトリに登録されて PDF を利用できるものについては考古学関係研究室へ返納又は不用資料リストに掲載するなどの対応が必要である。

(4) EU 資料

EU 資料コーナーには、欧州委員会出版局が出版する公式資料や各政策分野の広報資料など約 2,600 冊の図書と雑誌約 300 タイトルが 3 階閲覧用書架 168 棚に収蔵されている。こ

れまで紙媒体を受け入れる一方であったが、現在は、ほとんどの印刷物が EU の Web. サイトで閲覧可能となっている。今後、EU 資料コーナーにある資料については、基準を設け保存するものと廃棄するものを判断し、コーナーの縮小を図る必要がある。

(5) 電子ジャーナルとの重複雑誌

①最新電子ジャーナルとの重複図書

平成 23 年度の電子ジャーナルの契約雑誌数は約 7,000 タイトルであるが、全学的に電子ジャーナルで読める雑誌の冊子版との重複購入は減ってきている。このため、現行の電子ジャーナルと冊子版の重複については、狭隘化対策の有効手段とはなりにくいと考えられることから、本 WG では検討しないこととした。

②電子ジャーナルのバックファイルコレクションとの重複雑誌

附属図書館で購入した電子ジャーナルバックファイル（古い号のオンライン版）は以下のとおりである。この中には人文科学系の雑誌も多く含まれているため、相当数の重複があると思われる。個々のタイトルについて調査し、可能であれば除籍することを検討する。

【附属図書館で購入したバックファイル】

- ・サイエンスダイレクト(全分野) 概ね 1994 年頃以前(雑誌による)
- ・シュプリングーリンク(全分野) 1999 年以前から各誌の創刊号まで
- ・Science 1880-1996
- ・Nature 1992-1996

5. 寄贈図書・雑誌の受入方針の見直しについて

個人、団体等からの寄贈図書は教育、研究面で貴重な資料として活用されているが、毎年の蔵書のうち寄贈図書が占める割合は 10～20%、雑誌においては、25%（タイトル数では 95%）であり、すべてを受け入れ永久保存することは、狭隘化を進める要因の一つとなる。このため受入方針を見直し、教育、研究上不必要なものについては、返送又は送付元の了解を得て廃棄するなどの対応が必要である。

【寄贈図書・雑誌受入方針の見直しの骨子】

- ①原則として学習・研究用資料であること。
- ②永続的に電子版が提供される状態にあるものは除く。
- ③附属図書館の各館（室を含む）で所蔵していないこと。

6. 書架の増設計画

除籍や受入図書の削減の努力をしても、蔵書数は毎年約 1 万冊程度増加すると予想され、

中期的狭隘化対策として館内のスペースの見直しを行い、書架を増設し、蔵書数の増加に対応する必要がある。本WGでは書架の増設可能場所を検討し書架増設計画（案）を表6にまとめた。なお、Aについては、23年度内に設置することとした。Bについては予算要求中である。Cについては、空スペースの活用として狭隘化の状況に合わせ設置が可能である。Dについては、既存の閲覧机13台（66席）の移動先を検討する必要がある。設置場所を資料4に記す。

表 6. 書架の増設計画（案）

※設置場所		規格	棚数	収蔵冊数	実施時期
A	地階書庫及び1階書庫	単式スチール書架	539	13,475	23年度実施
B	地階書庫既存書架延長	単式スチール書架	448	11,200	25年度実施
C	3階閲覧室（EU付近）	複式閲覧書架	288	7,200	24～27年度
D	3階閲覧室（南西部分）	複式閲覧書架	1001	25,025	28～32年度
合 計				56,900	

7. 平成23年度実施した作業

(1) 技術・工学系図書の自然科学系図書館への移動

地下書庫に配架されていた技術（400番台）・工学（500番台）の図書約1,500冊を自然科学系図書館へ移動した。

(2) 書庫蔵書の再配架作業

今年度に行った重複本の除籍、不要図書の処分及び技術・工学系図書の自然科学系図書館への移動などで書庫内に約1.8万冊分の”ゆとり”をつくることができた。この”ゆとり”を書庫内の分類毎に均等にするため、学生アルバイトを使い以下のとおり蔵書の移動作業を行った。

【作業期間】 10日間：2月15日（水）～2月28日（火）

【延べ人数】 40人日（1日6時間）

【作業内容】

- ・地階書庫内の蔵書の移動
- ・書架の組み替え（6段の書架を7段へ）
- ・1階蔵書を地階へ移動
- ・1階書庫内の蔵書の移動（再配架の前段階まで）

(3) 書架の増設

「6. 書架の増設計画」で掲げた「A：地階書庫及び1階書庫」を増設することとした。これにより収蔵可能数が13,500冊増加となる。

8. まとめ

中央館では、受け入れ図書の増加に対し不要図書の処分が円滑に行われていなかったこと、また、近年は退職教員からの返納図書が増加していることもあり書庫内の狭隘化が進み、日々の配架業務に支障が生じ始めている。このような状況を解消するため、本 WG では、現状分析と今後の短中期的取組について調査検討を行った。

今回の WG の調査から中央館の書架の占有率は 86%に達していることがわかった。館内の現在の蔵書数は 58.7 万冊であり、このことから中央館の収蔵限界は 68.3 万冊と推算した。これに対し蔵書数の増加は、平成 22 年～23 年の例を上げれば 1.3 万冊であり、このまま推移すれば 7 年余りで限界に達することとなる。理想的な改善策は書庫の増築であるが、短中期的には困難であり長期的な課題である。本 WG では、この収蔵限界に達する年数を可能な限り延長するため①既存の蔵書を減らすこと ②受入図書を減らすこと ③収蔵能力を増加させること を柱として具体的な検討を行った。

既存の蔵書を減らす対策としては、重複本及び不用図書を減らすこととした。重複本を除籍することは蔵書を減らす上で最も効果的であるが、中央館には金沢工専継承図書など 4.4 万冊（附属図書館全体では 10.3 万冊）の電子データとして登録されていない図書が含まれており除籍作業が円滑に進まない原因の一つとなっている。また、継承図書の中には貴重な図書も含まれており、資料の有効活用を図るためにも計画的に遡及入力を推進していく必要がある。なお、未登録図書には約 3 割程度の重複図書が見込まれることから遡及入力を進める過程において重複図書を除籍すれば狭隘化を軽減することができる。また、学習、研究に不用な図書については「資料の不用決定及び処分に関する要項」に沿って除籍していく必要がある。さらに、電子ジャーナルのバックファイルコレクションには人文系においても重複する雑誌があるため、関係する研究科と調整し除籍する検討が必要である。

受入図書を減らす対策としては、寄贈図書については学習・研究用に限定することとし、雑誌については保存期限を定めるなどして永久保存を極力減らす必要がある。また、附属図書館でサービスできる電子化された雑誌等については、費用対効果の面からも基本的に受入れしないこととしなければならない。

収蔵能力の増加については、書架を増設することを検討し設置場所を「6. 書架の増設計画」にまとめた。このうち「A：地階書庫及び 1 階書庫」（1.3 万冊分）については平成 23 年度の対策として行うこととした。

この他今年度の作業として、重複図書と消耗品扱いの図書などを除籍したこと及び技術・工学系図書の自然科学系図書館への移動などにより地下及び 1 階書庫の固定書架に合わせて約 1.8 万冊分のゆとりを確保した。これにより前述の書架の増設と合わせて占有率を 4.5%改善することができた。

本 WG では、当面の狭隘化を解消するために今後 10 年間を目処とした検討を行った。そ

の結果、書架の増設、金沢工専図書の移動などにより蔵書の限界冊数を 8.5 万冊まで増加させることが可能と見積ることができた。本 WG で検討した作業を継続的に行い毎年の蔵書の増加を 1.3 万冊以内に抑えて推移すると 7 年の限界は 14 年まで延長可能となる。蔵書の増加を抑えればさらに限界は先になるが、学習・研究へ影響がでることは避けられない。それ以降は書庫の増築を含めた抜本的対策を検討する必要がある。

なお、短・中期的にも学習・研究のニーズや学術流通の変化により狭隘化の事情も変化することから、本報告書を基とした諸計画は定期的な見直しが必要である。

【WGメンバー】

酒井量基 情報サービス課長

村田勝俊 情報企画課副課長

橋 洋平 専門職員

北川律子 図書情報係長

守本 瞬 雑誌・電子情報係長

香川文恵 中央図書館係長

資料

資料 1 中央図書館狭隘化対策ワーキンググループについて

資料 2 中央図書館書庫狭隘化調査

資料 3 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項

資料 4 書架増設計画（案）

資料 5 各数値の試算

資料 1

平成 23 年 10 月 1 日
附属図書館長裁定

中央図書館狭隘化対策ワーキンググループについて

1. 趣旨

中央図書館の狭隘化の対応について検討するため、中央図書館狭隘化対策ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」と言う）を設置する。

2. 委員

ワーキンググループの委員は、次のとおりとする。

- (1) 情報サービス課長
- (2) 情報企画課副課長
- (3) 情報サービス課専門職員
- (4) 情報企画課図書情報係長
- (5) 情報企画課雑誌・電子情報係長
- (6) 中央図書館係長

3. 委員長

ワーキンググループの委員長は、情報サービス課長とする。

4. 報告

ワーキンググループの検討結果については、平成 24 年 3 月 30 日までに附属図書館長へ報告し狭隘化対応に資するものとする。

なお、ワーキンググループの任務は、検討結果の報告をもって終了する。

5. 庶務

ワーキンググループの庶務は、中央図書館係において担当する。

6. その他

その他、ワーキンググループに必要な事項については、ワーキンググループにおいて協議する。

自然科学系図書館の特別開館(24時間利用)の中止について (持続可能な「自学自習」の確立に向けて)

金沢大学附属図書館長 柴田正良 平成21年1月5日

平成17年度より自然科学系図書館が新しく角間南地区に開館して以来、学生・教職員のみなさまの便宜のために、夜8時の閉館以後も翌朝まで図書館を開放し、特別開館（いわゆる自然科学系図書館の24時間利用）を実施して参りました。

しかしながら、このたび、24時間利用体制を抜本的に見直した結果、以下の理由により来年度より24時間利用を中止することになりました。自然科学系図書館を時間外にご利用頂いていた学生・教職員のみなさんにはご迷惑をおかけすることと存じますが、どうぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

自然科学系図書館の特別開館（24時間利用）に関しては、それを主に検討するワーキンググループを立ち上げ、その提案を全学の図書館委員会に諮り、そこで得られた「24時間開館中止」という結論をすでに情報企画会議、教育企画会議、教育研究評議会において報告し、了解を得た次第です。

24時間利用中止の主な理由は、

- (1) 閉館後のセキュリティが確保できない、
- (2) 冷暖房なしの状態であり、滞在しうる学習環境を提供できない、
- (3) カードキーを持

たない学生（文系・医系・理系1～2年生）が利用できない、ということです。

このうち、閉館後のセキュリティ問題がもっとも深刻であり、現状では、巡視・監視等の管理体制が十分とはほど遠い状態にあります。したがって、この状態を抜本的に改善することが現在の本学において困難である以上、利用者を危険に晒すことはもっとも回避すべきことであり、閉館時の利用を中止せざるをえないと判断いたしました。残りの2つの理由も、もともと24時間利用を本学が運営・施設整備の面から全学体制で実行してきたわけではないという弱点に関わっています。例えば、「冷暖房をきちんとしてほしい」という、夜間利用者の不満の声に対しては、「自然科学系図書館は正式には夜間＜開館＞しているわけではなく、ただ、学生・教職員の資料閲覧・複写を許可しているだけである」というのが私どものせいぜいの言い訳でした。しかし、全学体制による24時間＜開館＞実施に立ちはだかる問題としては、現在の閉館後の入館者は全体の7%程度にすぎず、午後10時以降では5%程度でしかない、という冷厳たる事実もあります。

一方、セキュリティ対策を含めたこのような費用対効果とも言うべき考慮とは別に、図書館

を24時間開館することが本当に大学にとって手放しで歓迎すべきことなのか，という根本的な問題があります。ご存じのように，ニューヨークでは地下鉄が24時間走っており，深夜でも早朝でも市民はそれを気軽に利用することができます。というよりも，正確に言えば，24時間営業の地下鉄を利用せざるをえない生活スタイルで市民生活ができあがっているわけです。しかし，翻って，大学はどうでしょうか？ 少なくとも本学においては，深夜・未明の活動を研究や勉学の基本サイクルの中に恒常的に組み込んでいるような学生・教職員はいないはずです。とすれば，たまたま，試験やレポートの直前に「開いててよかった」という場合もあるかもしれませんが，しかし，それは翌日の研究や勉学のことを考えれば，持続可能なスタイルとは言えないでしょう。ことに，学生にとっての本学の理念「自学自習」が，一過性の興奮状態で達成されるわけではなく，落ち着いた持続可能なプランによって初めて実効的となる，ということとは明らかではないでしょうか。したがって，図書館は，学生のみなさんの「計画に基づく学

習と研究の進展」を支援するのに吝かではありませんが，コンビニのような便利機能を提供することは本義ではないと考えています。

なお，持続可能な「自学自習」の支援ということでは，来年度より図書館は，学生のみなさんの要望に応えるべく，全学的な理解と協力のもとに，中央図書館，自然科学系図書館，医学系分館の3館すべてにおいて，通常期平日夜10時までの開館時間の延長を行うことを決定いたしました。前にも増したみなさんのご利用をお待ちしております。

ただし，図書館としましては，「24時間利用中止」の件につき，とくに学生のみなさんのご意見を直接に聞く必要があると考えており，平成21年1月28日（水）に，主にこの問題をテーマとした「図書館長と学生の懇談会」を計画しております。24時間利用中止に限らず，この際，図書館のさまざまな事柄について，みなさんの率直なご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

以上。



(資料17) 附属図書館関係各種統計(経年変化)

大学・図書館規模

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	根拠
a1.1	予算規模(千円)	45,490,327	47,568,084	47,727,650	47,726,292	48,839,275	48,907,951	50,029,342	50,595,915	大学財務諸表「経常経費」
a1.2	学部規模	8	8	8	8	8	8	8	8	学術基盤実態調査
a1.3	キャンパスの数	2	2	2	2	2	2	2	2	
a1.4	スタッフ									
a1.4(1)	総学部学生在籍数	8,057	8,007	7,993	7,982	8,011	7,989	7,968	7,932	大学概要 5/1現在(別科・科目等履修生・研究生等を含まず)
a1.4(2)	総大学院生在籍数	2,471	2,387	2,355	2,423	2,471	2,468	2,426	2,369	大学概要(法務研含む。科目等履修生・研究生等を含まず)
a1.4(3)	教員数	1,137	1,170	1,176	1,190	1,219	1,209	1,206	1,207	大学概要(特任教員・教諭を含む)
a1.5	図書館規模									
a1.5(1)	蔵書冊数	1,758,256	1,760,139	1,786,038	1,811,077	1,823,511	1,843,184	1,864,667	1,878,426	図書館概要
a1.5(2)	逐次刊行物所蔵数	34,212	34,620	35,082	35,366	35,606	35,887	35,970	36,014	図書館概要
a1.5(3)	図書館・図書室数	4	4	4	4	4	4	4	4	図書館概要
a1.5(4)	図書館施設面積(m ²)	19,170	19,170	19,170	19,170	19,170	19,170	20,510	20,510	大学概要
a1.5(5)	図書館職員数	43	45	43	43	43	43	44	44	図書館概要

資源

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	根拠
a2.1	蔵書冊数									
a2.1(1)	利用対象者当たりの蔵書冊数	150.73	152.21	154.98	156.19	155.84	158.00	160.75	163.23	蔵書冊数/(全学生+教員)
a2.2	収集活動									
a2.2(1)	利用対象者当たりの年間購入図書及び購読雑誌数	1.52	1.53	1.65	1.80	1.71	1.71	1.69	1.41	年間購入冊数/(全学生+教員)
		0.20	0.20	0.18	0.17	0.16	0.15	0.14	0.14	年間購読雑誌数/(全学生+教員)
a2.4	目録資源									
a2.4(1)	OPACデータ入力率	39.78%	41.65%	42.36%	43.19%	43.98%	45.09%	45.91%	-	NACSIS-CAT業務分析表(国立情報学研究所作成)

管理運営

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	根拠
a3.1	職員									
a3.1(1)	図書館職員当たりの利用対象者数	271.28	256.98	268.00	269.65	272.12	271.30	263.64	261.55	(全学生+教員)/図書館職員数
a3.1(2)	図書館職員当たりの蔵書数	40,890	39,114	41,536	42,118	42,407	42,865	42,379	42,692	蔵書数/図書館職員数
	〃 図書受入冊数	720	723	664	667	611	645	637	514	図書受入冊数/図書館職員数
	〃 雑誌受入数	187	162	164	161	159	157	144	136	雑誌受入タイトル数/図書館職員数
a3.2	施設設備									
a3.2(1)	利用対象者当たり図書館面積・閲覧座席数・利用対象者当たり閲覧座席数	1.64	1.66	1.66	1.65	1.64	1.64	1.77	1.78	面積/(全学生+教員)
		1,708	1,708	1,700	1,734	1,742	1,685	1,991	2,033	大学概要
		0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.14	0.17	0.18	座席数/(全学生+教員)
a3.3(1)	開館状況									
	年間開館日数(中央図書館)	320	314	317	321	320	319	319	313	学術基盤実態調査
	年間開館時間数(中央図書館)	3,224	3,149	3,547	3,588	3,575	3,556	3,547	3,479	学術基盤実態調査
	年間開館日数(自然科学系図書館)	286	280	281	281	278	277	277	280	学術基盤実態調査
	年間開館時間数(自然科学系図書館)	2,862	2,827	3,218	3,215	3,164	3,127	3,126	3,149	学術基盤実態調査
	年間開館日数(医学図書館)	298	296	297	300	285	271	281	306	学術基盤実態調査
	年間開館時間数(医学図書館)	3,284	3,315	3,531	3,582	2,279	3,210	3,572	3,585	学術基盤実態調査
a3.3(2)	休日・時間外の開館状況(中央図書館)									
	休日開館日数	39	37	41	42	44	45	45	41	学術基盤実態調査
	休日開館時間数	312	296	327	336	352	360	360	328	学術基盤実態調査
	夜間・土曜開館時間数	873	833	1,249	1,280	1,251	1,225	1,223	1,187	学術基盤実態調査

(資料17) 附属図書館関係各種統計(経年変化)

サービス

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	根拠
a4.2	図書館アクセス									
	入館者数	689,457	664,418	649,047	742,667	753,092	744,954	753,641	776,256	図書館概要
a4.2(2)	利用対象者の平均来館数	59.10	57.46	56.32	64.05	64.36	63.86	64.97	67.45	入館者数/(全学生+教員)
a4.4	貸出									
	貸出冊数(学生)	98,804	102,467	111,382	122,615	124,023	119,805	116,860	113,423	図書館概要
	貸出冊数(教員)	7,526	8,988	10,323	11,035	11,185	12,127	13,496	13,221	図書館概要(*職員を含む)
	貸出冊数(学外者)	3,501	3,526	4,048	4,909	5,315	5,607	5,891	5,510	図書館概要
a4.4(2)	利用対象者の平均貸出冊数	9.12	9.64	10.56	11.53	11.56	11.31	11.24	11.00	貸出冊数(学生+教職員)/(全学生+教員)
a4.7	ILL件数									
	貸借(受付)	883	1,044	1,108	958	845	856	999	962	図書館概要
	貸借(依頼)	1,245	1,001	1,191	942	899	1,013	1,014	1,103	図書館概要
	複写(受付)	9,347	8,926	7,985	6,670	4,277	2,796	4,923	4,113	図書館概要
	複写(依頼)	8,472	6,366	5,949	5,392	5,219	5,324	4,020	3,852	図書館概要
a4.7(3)	ILL受付件数と依頼件数の割合									
	貸借(依頼/受付)	1.41	0.96	1.07	0.98	1.06	1.18	1.02	1.14	貸借(依頼/受付)
	複写(依頼/受付)	0.91	0.71	0.75	0.81	1.22	1.90	0.82	0.94	複写(依頼/受付)

経費 大学総経費＝予算規模－(受託研究費+受託事業費)，図書館総経費＝図書館運営費(特別管理経費+図書館事業費)+人件費+図書館配当資料費

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	根拠
a5.1	全般									
a5.1(1)	大学総経費に占める図書館経費の割合	1.02%	1.09%	1.07%	1.10%	1.05%	1.03%	1.01%	1.06%	大学総経費/図書館総経費
a5.1(2)	利用対象者当たりの図書館総経費(円)	38,708	43,392	43,093	44,298	42,530	41,992	42,131	45,065	図書館経費/(学生+教員)*1000
a5.2	図書館運営費									
a5.2(1)	図書館総経費に占める図書館運営費の割合	12.21%	10.56%	10.73%	11.09%	10.95%	11.18%	10.77%	10.77%	図書館運営費/図書館総経費
a5.2(2)	図書館総経費に占める人件費の割合	47.48%	45.26%	43.93%	41.41%	42.50%	40.23%	39.46%	37.50%	人件費/図書館総経費
a5.2(3)	図書館総経費に占める外部委託費の割合(L2)	1.24%	0.32%	0.37%	0.35%	0.39%	0.41%	0.43%	0.51%	外部委託費/図書館総経費
a5.2(4)	図書館総経費に占める賃借料の割合(L2)	2.81%	2.53%	2.55%	2.47%	2.53%	2.37%	2.37%	2.23%	計算機賃借料/図書館総経費
a5.2(5)	図書館総経費に占めるその他の運営費の割合(L2)	8.16%	7.71%	7.81%	8.27%	8.03%	8.40%	7.96%	8.03%	運営費-外部委託費-計算機賃借料/図書館総経費
a5.3	図書館資料費									
a5.3(1)	図書館総経費に占める図書館資料費の割合(L1)	40.31%	44.19%	45.34%	47.51%	46.55%	48.60%	49.77%	51.73%	図書館配当資料費/図書館総経費
a5.3(2)	図書館資料費に占める図書購入費の割合	15.92%	14.44%	14.11%	17.30%	18.13%	17.64%	17.26%	15.28%	図書+大型コレクション費/図書館配当資料費
a5.3(3)	図書館資料費に占める雑誌購入費の割合	3.00%	1.65%	1.64%	1.30%	1.63%	1.63%	1.43%	1.46%	雑誌/図書館配当資料費
a5.3(4)	図書館資料費に占める電子資料費の割合	79.95%	82.98%	83.34%	80.54%	79.16%	79.67%	80.66%	82.58%	EJ+DB/図書館配当資料費
a5.3(5)	図書館資料費に占めるその他の資料費の割合	1.13%	0.93%	0.91%	0.86%	1.08%	1.06%	0.64%	0.67%	製本費/図書館配当資料費
a5.3(6)	利用対象者当たりの図書館資料費(円)	15,602	19,173	19,539	21,045	19,797	20,406	20,969	22,313	図書館配当資料費/(学生+教員)
a5.3(7)	利用対象者当たりの図書購入費(円)	2,484	2,769	2,756	3,641	3,589	3,600	3,620	3,563	図書+大型コレクション費/(学生+教員)*1000
a5.3(8)	利用対象者当たりの雑誌購入費(円)	469	316	320	273	323	333	301	341	雑誌/(学生+教員)*1000
a5.3(9)	利用対象者当たりの電子資料費(円)	12,474	15,911	16,284	16,950	15,672	16,258	16,914	19,253	EJ+DB/(学生+教員)*1000
a5.3(10)	利用対象者当たりのその他の資料費(円)	176	178	178	181	213	215	135	156	製本費/(学生+教員)*1000

・ a2.4(1)の平成26年度の数値は、平成27年11月に国立情報学研究所が公表予定である。

・ a1.5(4), a2.2(1), a3..3(1), a5.1(1), a5.1(2), a5.2(1)～(5), a5.3(1)～(10)の算出方法については、今回見直しを行っており、平成19年度の数値については、「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書（7-4 定量的評価指標による基礎データ）」に記載されている数値と異なる。
また、「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書（7-5 定量的評価指標による基礎データ）」に記載のa3.3(3), a4.3(1), a5.1(3)については、削除した。

金沢大学附属図書館 医学系分館将来構想計画

～次世代ハイブリッド医学図書館を目指して～

医学系分館将来構想検討ワーキンググループ報告書

金沢大学附属図書館
医学系分館将来構想検討ワーキンググループ

平成22年5月

目 次

はじめに	1
1 将来構想計画作成の経緯と基本的視座	2
1－1 検討過程	2
1－2 WG メンバー	2
2 わが国の医学系大学図書館全般の動向と本学利用者のニーズ	4
2－1 医学教育の動向	4
2－2 医学系図書館の動向	6
2－3 国内医学系図書館についての实地調査	8
2－4 本学学生の医学図書館に対するニーズ	10
3 医学系分館の現状と課題	12
3－1 附属図書館における医学系分館の位置づけ	12
3－2 施設	13
3－3 サービス	14
3－4 蔵書	19
3－5 地域貢献	22
4 医学系分館が備えるべき機能	23
4－1 医学系分館の強化ポイント	23
4－2 将来構想の基本コンセプトと実施すべきサービスと機能	23
5 増改築計画案	30
参考資料	32
付録	33
付録1 「医学教育モデルコアカリキュラム（平成19年改訂版）A基本事項」の改訂内 容	33
付録2 関東地方及び関西地方の医学系図書館の調査結果	35
付録3 本学医学系学生の医学系分館に対するニーズ調査結果	38
付録4 本学と同規模大学の医学図書館との基本データの比較	41

はじめに

附属図書館長 柴田正良

金沢大学附属図書館医学系分館は、昭和41年11月に竣工された、築後40年を経た図書館である。このように医学系分館を紹介するだけで、本WGが取り組むべき将来構想の眼目が理解されるであろう。すなわちそれは、あまりにも老朽化した建物と設備を、現在の学生・研究者のニーズに合わせた最新のものに更新することである。

本学の基本的なキャンパス体制は、平成元年に第一陣が到着した角間移転以後、平成12年には、中央図書館（角間北地区）、自然科学系図書館（角間南地区）、そして医学系分館（宝町地区）の3館体制とすることが図書館委員会で確認されている。しかし、このように図書館機能が空間的に別々の建物として分散するということは、当然のことながら、それぞれの整備状況に差が出てくるというリスクを意味する。これは残念ながら、基本的に国の財政支出に頼って施設整備を行わなければならない国立大学法人にとって、自分たちのプランだけで単独に回避しうるリスクではない。そして、このリスクが最悪の形で現実のものとなってしまったのが、他の2館の整備状況から大きく遅れた医学系分館だと言うことができる。

実は、医学系分館の増改築計画は、平成22年度の本学のいわゆる概算要求事項として、もうほんの少しで実現されるところであった。しかし、その後のわが国の政権交代時におけるスローガン「コンクリートから人へ」が影響したものかどうか定かではないが、結局は見送られてしまったという経緯がある。それは本学附属図書館にとって、まことに痛恨の極みであった。

わが国のような資源の乏しい国にとっては、まさに「教育は国家百年の大計である」。国立大学法人が支え育む教育と研究の内容が、時の政権やイデオロギーにおもねることも屈することもあってはならないが、わが国が運命的に抱えている条件の中でのみ国民の高等教育の砦が築かれているのも事実である。したがって、今後ますます厳しさを増すであろう国際競争社会の中でわが国が生き延びていくための基盤である大学教育と、さらにまたその基盤である大学附属図書館の使命が極めて重いものであることを、われわれは肝に銘じなければならない。本学の医学系図書館の増改築の必要性は、主たる利用者である多くの学生・研究者の切なる願いからだけでなく、わが国の百年の計を実現する必須の策としても理解されなければならないのである。

恐らく図書館というものは、人類が知的遺産を蓄積しはじめた頃から何らかの形で存在していたのであろう。それは、歴史上最も初期の図書館と言われている紀元前7世紀のアッシリア王の宮廷図書館よりも、はるか以前のことに違いない。しかし、この普遍的で歴史的な存在である図書館の一層の進化は、わが国においては格別の重要性を帯びた事業として、また本学においては第一のプライオリティを持つ課題として、われわれが未来に向けて確実に実現していかなければならないものである。

1 将来構想計画作成の経緯と基本的視座

平成20年度に実施した本学附属図書館の自己点検評価（参考資料1）の中で、医学系分館の老朽化への対応が緊急の課題として指摘され、早急な将来構想計画の策定が求められた。

このことを受け、今年度、附属図書館では、医学系分館将来構想検討ワーキンググループ（以下WG）を図書館委員会の下に設置し、医学系分館に求められる機能及びサービスの指針について検討を行った。この報告書では、その検討結果について報告し、医学系分館の将来構想計画及び増改築案のマスタープランを提示する。

なお、WGでは、次の3点を基本的視座として、検討を行なった。

1. わが国の医学教育の動向
2. わが国の医学系図書館の動向
3. 本学学生・院生を中心とした医学系分館の利用者のニーズ

検討過程及びWGメンバーは以下のとおりである。

1－1 検討過程

平成21年度

7月31日 第1回WG（WGの設置経緯・目的と作業スケジュールの確認）

6月24日 平成21年度第1回図書館委員会でWGの設置及び経過報告

10月5日 附属図書館職員4名が東京地区及び関西地区の医学図書館に出張し、実地調査

10月28日 第2回WG（実地調査結果、学生からの意見、地域貢献機能の充実について検討結果についての報告を行い、医学系分館が備えるべき機能について意見交換）

12月8日 平成21年度第3回図書館委員会で中間報告

2月24日 第3回WG（報告書案について意見交換）

3月9日 第4回図書館委員会で中間報告

平成22年度

5月12日 第4回WG（本報告書を承認）

5月26日 平成22年度第1回図書館委員会で最終報告

1－2 WGメンバー

柴田正良(座長, 附属図書館長)

西條清史(附属図書館医学系分館長)

和田隆志(医学系研究科教授)

山本 健(医学系研究科教授)
長瀬啓介(附属病院教授)
須田貴司(がん研究所教授)
杉森 慎(医学科3年)
和田明梨(医学科3年)
内島秀樹(情報部情報企画課長)
岡部幸祐(情報部情報サービス課長)

その他、報告書の作成及び調査にあたり、以下の情報部職員が作業に関わった。

村田勝俊(情報企画課副課長)、松原美重子(情報サービス課副課長)、吉田政信(情報企画課総務係長)、守本瞬(情報企画課情報企画係長)、橋 洋平(情報サービス課医学系分館係長)、藤原恵理子(情報企画課コンテンツ第1係)、池上佳芳里(情報サービス課自然科学系図書館係)

※肩書きは平成21年度のものの。

2 わが国の医学系大学図書館全般の動向と本学利用者のニーズ

医学系分館に求められる機能及びサービスの提案に先立ち、まず、わが国全体の医学教育及び医学系の大学図書館全般の動向について、既存文献と実地調査によって取りまとめを行った。その後、ポイントとなる機能について、図書館の主たる利用者である本学学生に聞き取り調査を行い、ニーズを探った。

2-1 医学教育の動向

医学研究を行うために不可欠な学術雑誌とそれらを探すための検索ツールの急速なオンライン化に伴い、近年、医学系大学図書館の利用形態が大きく様変わりしている。研究支援機能に関しては、1990年代中盤までの来館者に対するサービスに代わり、オンライン・サービスのサポート及び利用環境の整備に中心が移ってきている。その一方、医学教育のコア・カリキュラムの変更に伴い、従来とは違った形での教育支援機能が求められるようになってきている。まず、この状況を探るために、医学教育に関する動向について既存の文献からポイントを抽出した。

2-1-1 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議最終報告

近年の医学教育改革については、平成19年度に出された「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議最終報告」（参考資料2）で、改善・充実方策について取りまとめを行っている。その中で医学系図書館に最も関連があると思われるのが、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂についての提言である。この点を中心に、わが国の医学教育改革に関するトピックを以下のとおり要約した。

近年の医学教育改革に関するトピック

①社会的要請を踏まえた医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂

- 早い段階からの研究マインド・科学的・論理的思考の育成
- 医師であるとともに研究者でもある専門家（フィジシャン・サイエンティスト）の養成
- 地域医療を担う医師の養成
- 医師として研究的な視点を常に備えるために求められる資質の明確化

②診療参加型臨床実習の充実

③大学病院における新医師臨床研修の充実

④医学部教育→新医師臨床研修→専門医研修と続く、専門医養成の在り方の改善・充実

⑤臨床研究の推進

- 臨床研究や研究者の総合的な支援を行う拠点の整備

- 学部教育の充実（具体的には、臨床研究に必要とされる基本的知識の修得）
 - ⑥教育研究病院としての大学病院の役割を適切に果たすための組織体制の在り方の改善・充実
 - ⑦女性医師の増加に伴う環境整備
- その他、全項目を通じて、次のようなトピックについて言及されている。
- 医療現場に立った時に必要とされる思考力・対応力
 - コメディカル等の医療スタッフ、患者との協調
 - 地域の多様な医療機関や産業界との連携
 - 診療情報等の個人情報の取り扱いについての指導の徹底

つまり、医学教育の動向として、以下のような点が挙げられ、

- 社会的要請を踏まえた医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂
 - 臨床研究に必要とされる基本的知識の修得など学部教育の充実
- 図書館としては、以下のことに取り組む必要があると言える。
- 新しい医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応
 - 学部教育段階からの臨床研究支援への対応

2-1-2 医学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン（平成19年度改訂版）

この報告を受けて、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」が2007年12月に改訂された（参考資料3）。この中の「A基本事項、4. 課題探求・解決と学習の在り方」の部分、医学系大学図書館のサービスのあり方と特に関連が強いと思われるので、この部分の改訂内容（付録1）を以下のとおり要約した。

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」中の「課題探求・解決と学習の在り方」に関する平成19年度改訂内容

①必要とする内外の学術情報検索能力の向上

（従来版） 教科書、論文や講義などの内容について、重要事項や問題点を抽出して論理的に表現できる。

（改訂版） 講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。

②サイエンス・マインドに基づく論文・レポート作成能力の向上

（従来版） 自分の考えを論理的に整理し、分かりやすく表現できる。

（改訂版） 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。

- ③後輩等への適切な指導が実践できること（新設）
- ④生涯にわたって継続的学習に必要な情報を収集できること（新設）
- ⑤医療改善のための科学研究（臨床研究，疫学研究，生命科学研究等）に参加すること（新設）

以上から、「学部教育レベルにおける研究の視点の充実」「生涯に渡って研究を行えるようなフィジシャン・サイエンティストの育成」といった今後の医学教育における重点事項が見えてくる。この目標は、医学教育を支援する機関としての医学図書館のサービスの今後の充実を図る際にもポイントとなると思われる。

以上のように、新しい医学教育モデル・コア・カリキュラムには、以下のような内容が盛り込まれており、

- 国内外の学術情報検索能力の向上
- 問題点を抽出し、客観的・批判的に整理した上で、自分の考えを表現する能力の育成
- 科学研究（臨床研究，疫学研究，生命科学研究等）への参加

図書館としては、次の点に留意する必要があると言える。

- 学生の学術情報検索能力の向上に役立つサービスや空間の用意
- 論文，レポート，プレゼンテーション資料の作成を支援し、学生の表現能力向上に役立つサービスや空間の用意
- 研究に不可欠な学術情報の提供とアクセス環境の整備

2-2 医学系図書館の動向

近年のわが国の大学図書館は、「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）（平成18年）」（参考資料4）、「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ）（平成21年）」（参考資料5）等の文部科学省の政策文書を踏まえて動いている。その結果、電子ジャーナルの導入が進み、オープンアクセス運動への関与と機関リポジトリの構築など電子媒体を中心とした学術情報流通の拠点としての大学図書館の位置づけが明確になりつつある。

このことに加え、医学図書館として特に顕著な動向を調べるために、過去5年間に雑誌「医学図書館」（特定非営利活動法人日本医学図書館協会の機関誌で、医学とその関連分野における情報活動・サービス等に関する研究論文・記事を収録した学術雑誌）等に発表された文献をレビューし、近年わが国の医学系図書館で重視されている機能・活動を以下の4点にまとめた。なお、「医学図書館」に発表された以外の文献については、城山泰彦「研究文献レビュー：今日の医学図書館」（参考資料6）を参考にした。

近年重視されているわが国の医学系図書館の機能・活動

①情報リテラシー教育への参画（学習・研究支援）

大学図書館の情報リテラシー教育への参画については、どの分野の図書館についても該当するが、学術雑誌論文の利用頻度が非常に大きい医学系分野では、伝統的にそのニーズが特に高かった。2－1にまとめたように、学部教育段階から情報検索のスキルが求められるようになり、今後そのニーズはさらに高まると思われる。

また、1990年代前半まで主流だった図書館員によるデータベースの代行検索に代わり、利用者自身による検索が当たり前となった現在、具体的な参考調査質問に答えることから、効率的な情報探索ツールの利用方法を学部教育段階から教員と図書館員が一体となって指導することへと利用者サービスの重心が移りつつある。特に近年、医学系学部で積極的に実施されているチュートリアル教育（少人数で構成された学生グループに課題を与え、学生がその課題について、思考を重ねながら掘り下げていき、解決していく教育方法。指導教員はチューターと呼ばれる。）の支援のニーズとともに情報検索支援が求められている。

②診療活動に役立つ情報提供サービス

他分野の図書館にはない、医学系図書館独自のサービスとして、診療活動に役立つ情報提供サービスが挙げられる。具体的には、EBM（Evidenced Based Medicine の略。エビデンス（科学的根拠）に基づいた医療）に対応した情報提供、診療ガイドラインに関する情報提供がある。診療ガイドラインについては、情報を利用するだけでなく、作成にも図書館員が関わるケースもある。

③一般市民の知る権利に応える情報提供サービス

インフォームドコンセント、セカンド・オピニオンなど患者及び一般市民の「知る権利」に対する意識の向上とともに、情報提供の対象を学内者だけではなく一般市民へと拡大する動きがある。また、病院機能評価の項目の中で、患者ニーズに応える情報提供が求められている。

④職員の育成

①～③のとおり、近年、医学系図書館では、より幅広い利用者に対し、高度で専門的な情報提供を行なうことが求められるようになってきている。その前提として、図書館職員の資質向上が必要となる。具体的には、（1）継続教育、（2）ヘルスサイエンス情報専門職員資格認定制度認定 等によって資質向上を目指す動きが見られる。

以上のとおり、近年の医学系図書館の動向として、以下の4点をポイントとして挙げることができる。

- ① **学習・研究支援**：Web上で学術情報を利用できる環境の整備と情報リテラシー教育への参画。課題解決型学習を支援するサービスと空間の整備
 - ② **診療支援**：EBM，診療ガイドライン等の診療活動に役立つ情報提供
 - ③ **地域貢献**：一般市民への情報提供サービスの拡大
 - ④ **研修**：高度で専門的な情報提供を可能とする職員の研修
- 以下の章では，この4つを軸にして調査を行う。

2-3 国内医学系図書館についての実地調査

次に2-2でまとめた①学習・研究支援，②診療支援，③地域貢献，④研修の4ポイントについて実地調査を行った。2-2については，理念的に過ぎる部分があるので，より具体的なイメージをつかむために，東京地区及び関西地区の医学図書館を6館選び（東京大学，東京女子医科大学，京都大学，京都府立医科大学，大阪大学，大阪市立大学），附属図書館職員による見学及び聞き取り調査を行った。これらの大学の選定に関しては次の点を考慮した。

- 設置母体（国立／公立／私立）
- 大学の規模（総合大学／単科大学）
- 近年改築を行った図書館
- WGメンバーから推薦のあった先端的な取り組みを行っている図書館

その調査結果をまとめたのが付録2である。この資料は，2-2の①～④の内容を中心に，各項目について聞き取りを行なった結果を取りまとめたものである。

その結果をもとに各医学図書館のサービス及び機能を整理し，本学医学系分館の現状との対比を行なった（第1表）。この表中の△及び×となっている項目が本学の医学系分館で不足している機能及びサービスといえる。これらをまとめると以下のとおりとなる。

■本学で不足している機能・サービス（＊ 全国的に低調なもの）

- 情報リテラシー教育の実施
- 視聴覚資料の利用状況
- E J，外部DBの利用説明会の実施
- 貴重書の保存・展示のためのスペース
- 研修医，看護師等を含む診療スタッフ向けの各種説明会の実施
- 図書館職員の専門的研修
- ラーニング・コモンズ ＊
- アメニティ・スペース ＊
- 24時間開館 ＊

第1表 他大学の医学図書館の機能・サービスの現状

平成22年10月に附属図書館職員が東京地区及び関西地区の出張・調査を行った結果を取りまとめたもの。

凡例：○実施・あり、△一部実施・少ない、×未実施・ない、空白は未調査

区分	機能・サービス等	A	B	C	D	E	F	本学	コメント
学習支援	シラバス掲載図書等基本書の整備	○	○	○	○	○	○	○	
	国家試験対策コーナーの整備	○	×	○	○	○	×	○	収集方針・方法は館によって異なる
	情報リテラシー教育(オリエンテーション, DB講習会, 情報検索の授業支援等)の実施	○	○	○	○	○	△	△	
	ラーニング・コモンズ(グループ学習, インターネット利用, 視聴覚資料の利用, レポート作成等多様なニーズに対応し, 職員が利用サポートを行う利用者用パソコンを中心としたコーナー)の整備	△	△	△	△	△	△	△	各館ともPCコーナー, グループ学習室はあったが, LCはなし。別キャンパスでは整備済の館あり。
	飲食等が可能なアメニティ・スペース	△	△	△	○	△	△	×	
	視聴覚資料の利用頻度	○	○	○	×	○	×	△	
	24時間開館	×	×	×	×	×	×	×	他キャンパスで自習室を24時間開放しているケースはあり
研究支援	EJ, 外部DBの提供	○	○	○	○	○	○	○	
	EJ, 外部DBの利用説明会の実施	○	○	○	○	○	△	△	
	貴重書の保存・展示のためのスペース	△	○	×	○	×	○	△	中央図書館に集中している場合もあり
	カウンターでの参考調査件数	△	△	△	△	△	○	△	EJ, DBの利用についての質問が増加。担当者に依存。
診療支援	EBM, 診療情報を提供する外部DBの提供及び利用説明会の実施	○	○	○	○	○	△	△	本学は, DBは入れているが講習会は未実施
	研修医, 看護師等を含む診療スタッフ向けオリエンテーションの実施	○	○	○	○	○	○	△	
	診療ガイドラインの作成支援	×	×	×	×	×	×	×	
地域貢献	学外者の館内閲覧・複写サービス	△	○	○	○	△	○	○	
	学外者に対する資料の館外貸出	×	×	×	×	×	○	○	
	医療関係者個人からの文献複写依頼受付	×	△	○	○	×	○	△	
	地元医療機関・団体との連携	○	×	×	○	○	×	×	
	学外者向けの医療情報コーナーの整備	×	×	×	×	×	×	×	専門情報に特化する傾向
	附属病院内図書室との連携	○	×	×	×	×	×	×	
研修	OffJT(日本医学図書館協会等主催の学外で行われる医学図書館向け研修)への参加	○	△	○	○	○		△	国立大とそれ以外で傾向が分かれる
	OJT(説明会等の資料作成が自己研修)	○		○				△	

- 参考調査質問への対応 *
- 診療ガイドラインの策定への参画 *
- 地元医療機関・団体との連携 *
- 学外者向けの医療情報コーナーの整備 *
- 附属病院内図書室との連携 *

■本学で実現している機能・サービス

- シラバス掲載図書等基本書の整備
- 国家試験対策コーナーの整備
- E J，外部DBの提供
- 学外者に対する資料の貸出

以上については、今回見学を行なった6大学の状況をまとめたものなので、これをそのまま全国的な傾向とみなすことはできないが、わが国の医学図書館の一断面と見なすことはできるだろう。

2-4 本学学生の医学図書館に対するニーズ

次に視点を換え、本学の医学系分館の中心的な来館利用者である学生の立場から見たニーズを探った。当然のことながら、学習・研究支援に関するニーズが中心となる。

2-4-1 既存の調査結果の分析

本学では、学生の学習・研究改善のための参考資料とするために、過去数回に渡り、「学習・研究環境改善のための学生生活調査」（参考資料7）を行なってきた。その最新版である2006年の調査をもとに、本学学生、特に医学系学生の傾向について以下のとおり要約した。

本学の医学系学生の学習・生活等に関する動向

①授業がないときに過ごす場所

学部学生30%，大学院生の10%が図書館をあげている。図書館は、特に学部学生の居場所となっている。

②在籍学部への満足度

医学部医学科は男子・女子とも40%が満足している。この数値は、全学部中最も高い。

③自分の生活の中で大切なもの

医学部医学科は、「学業・研究」を上げている人の割合が全学部中いちばん高い。

④金沢大学に対して特に要望する事項

以下の順に多くなっている。

1位：食堂，喫茶，売店など福利厚生施設の拡充，2位：駐車場の整備・拡充，
3位：通学手段の確保，4位：授業時間割，カリキュラムの改善，
5位：教員の教え方の改善，6位：図書館の充実

授業内容そのものよりも福利厚生施設の拡充を望む学生が多い。この傾向を学部ごとに
見ると，医・薬・保健系の学生で図書館の充実を望む学生が10%以上となっており，角
間キャンパスの学部より高い数値を示している。このことは，③に挙げた学業に対する意
欲の高さと現在の医学図書館の施設の貧しさの両方を反映していると考えられる。

⑤その他

自由意見として，大学は自学自習が肝心という意見や時間延長要望に対する希望が書か
れている。

以上から，本学の医学系の学生については，医学を学ぶことに対する意欲は相対的に高
く，図書館に対する期待も大きいことが読み取れる。

2-4-2 医学類学生に対する聞き取り調査

この傾向をより具体的に調査するために，WGの学生委員を通じて，本学の医学系学生
のニーズの取りまとめを行った。その結果が付録3である。これを以下のとおり要約した。

本学医学系学生の医学系分館に対するニーズ

- 図書館内の自習用スペースとして個席とグループの両方が必要。医学類のチュートリ
アル室等を含めても現在の自習スペースは，不足している。
- チュートリアル教育支援に関しては，資料を用意するよりは，自力で検索できればそ
れで良い。ただし，現在は情報検索のための講義は多くない。
- 視聴覚資料については，資料の内容によってニーズは高い。アピールも必要だろう。
- 医学書は非常に重いので，それに加えて自分のPCを携帯するのは負担が大きい。図
書館内設置の学生用PCのニーズは高い。
- 少しでも多くの論文をダウンロードできるようにして欲しい。
- 留学生用図書は不足しているので，整備して欲しい。
- キャンパス全体としてアメニティ・スペースは不足している。図書館内にも飲食や会
話が可能なスペースがあると良い。
- 24時間開館については，意見が分かれている（深夜利用のニーズは少ない。ダラダ
ラと利用するのはよくない⇒開館時間が増えれば，勉強時間も増える。テスト前ぐら
いは延長して欲しい。）。

3 医学系分館の現状と課題

附属図書館は、角間キャンパスの中央図書館（平成2年竣工）、自然科学系図書館（平成17年竣工）と宝町・鶴間キャンパスにある医学系分館の3館体制で運営されている。求められる機能について提言を行なう前に、医学系分館の現状と課題について、「附属図書館における医学系分館の位置づけ」「施設」「サービス」「蔵書」「地域貢献」の観点から概観する。あわせて、本学と同規模大学の医学図書館の基礎データとの比較を行い、不足点を明らかにする。

3-1 附属図書館における医学系分館の位置づけ

本学附属図書館の組織の基本的在り方として、平成12年度の図書館委員会で3館によるキャンパス単位での分業体制が認められている。これは附属図書館を中央図書館、自然科学系図書館、医学系分館の3館から構成し、各キャンパスの教育・研究内容に応じて、設置目的、サービス対象、サービス内容などを定めたものである。

この将来構想のうち、以下の4点については、平成17年の自然科学系図書館の建設とその後の3館体制の整備（平成16年～19年）により果たされつつある。

1. 自然科学系図書館、医学系分館の管理部門の中央図書館への集中化
2. 比較的利用頻度の低い自然系・医学系バックナンバーの自然科学系図書館への集中と自然科学系図書館のバックナンバーセンター化
3. これに伴う利用頻度の高い雑誌のサービス・保存体制の強化
4. 全学学生用図書費による3館の主題別の学生サービスの展開

一方、医学部旧書庫の取り壊し予定に伴う医学系図書の自然科学系図書館地下書庫での一時保存、学術雑誌の大規模な電子ジャーナル化（約6600タイトル）と冊子の購入中止、団塊の世代の退職に伴う研究室備付図書の大量返却など、新たな現象を前に3館体制の内実に見直しが迫られており、附属図書館全体として、以下のような課題が浮上している。

1. 自然科学系図書館の役割（バックナンバーセンター）の変化とそれへの対応
2. 研究室図書の返却に伴う書庫収容力や電子ジャーナル化に伴う雑誌の保存の見直し
3. 情報化に伴うリテラシー教育の強化とラーニング・コモンズ機能の導入
4. 図書館運営経費の共通経費化の推進による3館体制の強化

宝町地区の拠点図書館である医学系分館においては医学図書館としての独自の課題とともに、特に3館体制の中で、以下の点が問題となっている。

1. 保存スペースの確保：旧書庫機能の回復による保存スペースの確保（自然科学系図書館一時保存図書用）
2. インテリジェント化：電子ジャーナルなど医学情報の全面的電子化に伴うサービス提

供機能の全面的見直し

3. ラーニング・コモンズの導入： 医薬保健学域の学生に対する学習・情報収集環境の提供
4. サービス体制の確立： 宝町・鶴間地区全体（医薬保健学域）としてのサービス体制の確立
5. 医療情報提供の拠点化： 医学研究者，医療従事者，地域，患者に対する医療情報提供の拠点作り

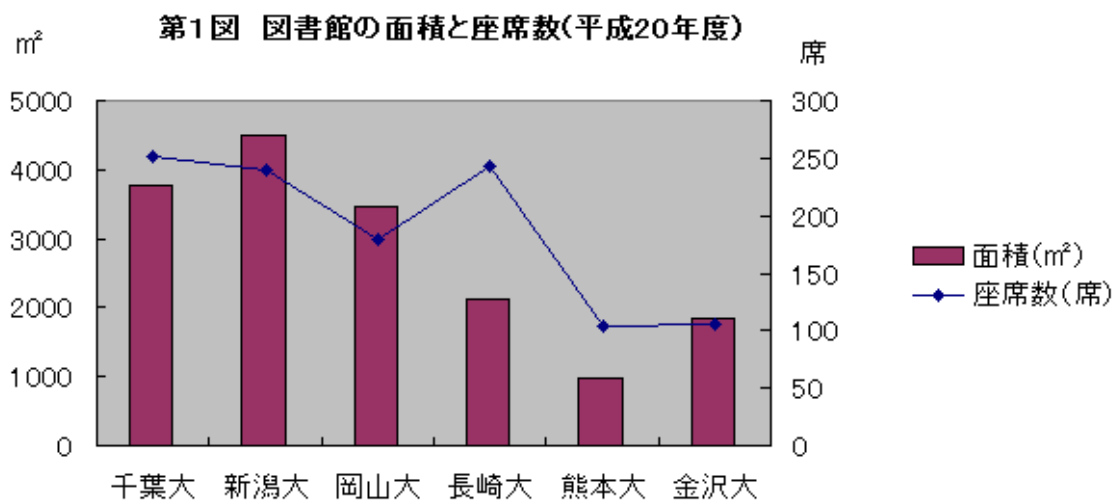
本学医学系研究科・附属病院は，北陸地区の医療拠点としての重要な位置を占めており，宝町地区における医学情報提供機能の基盤整備は必須の課題である。現在の老朽化した施設では，先に挙げたような課題を担いながら，世界の最先端に位置する医療に必須のメディアライブラリー機能を提供することは期待できず，その更新が是非とも必要である。

附属図書館では，以上のような認識に基づいて，医学系分館の増改築を推進することを本学の3館体制の次期の最大の課題として捉えている。

3－2 施設

医学系分館は，昭和44年11月に竣工された，地上2階（書庫部分は4層）の全館開架方式の建物である。建築後40年を経ているが，耐震補強を含む改装は行っておらず，角間キャンパスの2館に比し老朽化が激しい。当面の改修もままならない状況で，床，壁，窓，トイレ等を中心に利用環境も劣悪なものとなっている。

建物面積1845㎡，閲覧席数106席であるが，これは，同規模の他医学図書館と比較するとかなり見劣りがする（第1図）。グループ学習室が未整備なのに加え，館内でパソコン等を利用するためのスペースも不足しており，新しい図書館サービスを展開して行く上での支障となっている。



以上の結果，施設の現状と課題については，以下のことが言える。

1. 図書館の面積の狭さ→ 閲覧席数の少なさ，パソコンを利用できるスペースの不足
2. 床，壁，窓，トイレ等の老朽化に伴う利用環境の悪さ

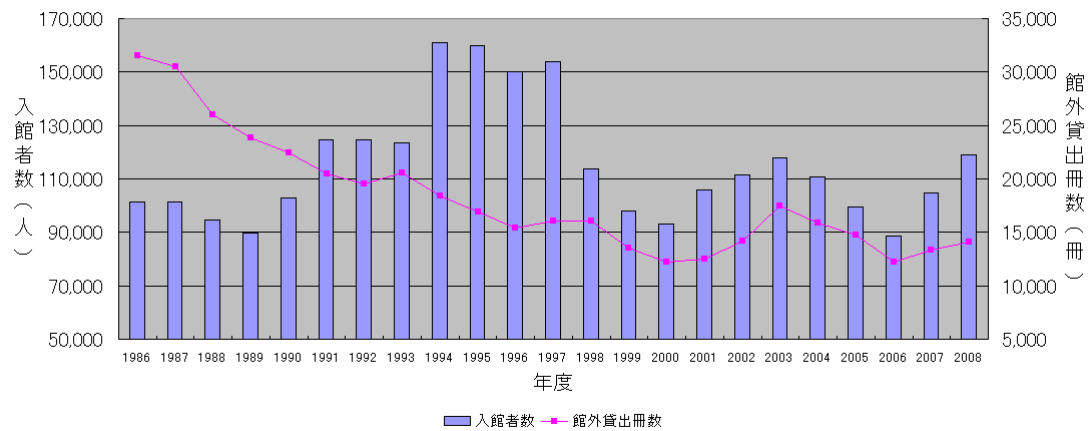
3-3 サービス

医学系分館では，①閲覧（館内閲覧，館外貸出），②文献複写依頼・受付，③参考調査等のサービスを行っている。

3-3-1 閲覧（館内閲覧，館外貸出）

図書館入館者数及び館外貸出数はともに伸び悩んでいる（第2図）。従来の医学系分館では，最新の学術雑誌掲載論文の提供が閲覧サービスの中心だったが，2000年代以降の学術雑誌の電子ジャーナル化の進展に伴い，来館利用からWeb利用へと移行しつつある。入館者数及び貸出数の伸び悩みは，このことが主因と考えられる。ただし，貸出冊数の減少率に比較すると入館者数の変化は少ない。このことは，従来から学生等の学習の場として図書館が利用されていることを意味していると思われる。

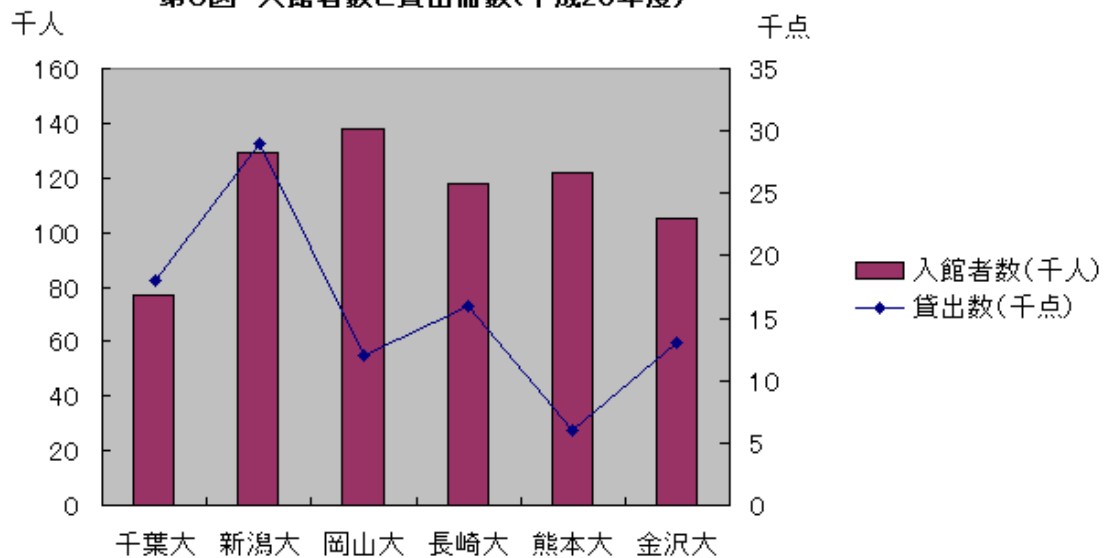
第2図 医学系分館の入館者数と館外貸出冊数の推移



(注) 図書館概要のデータを基に作成

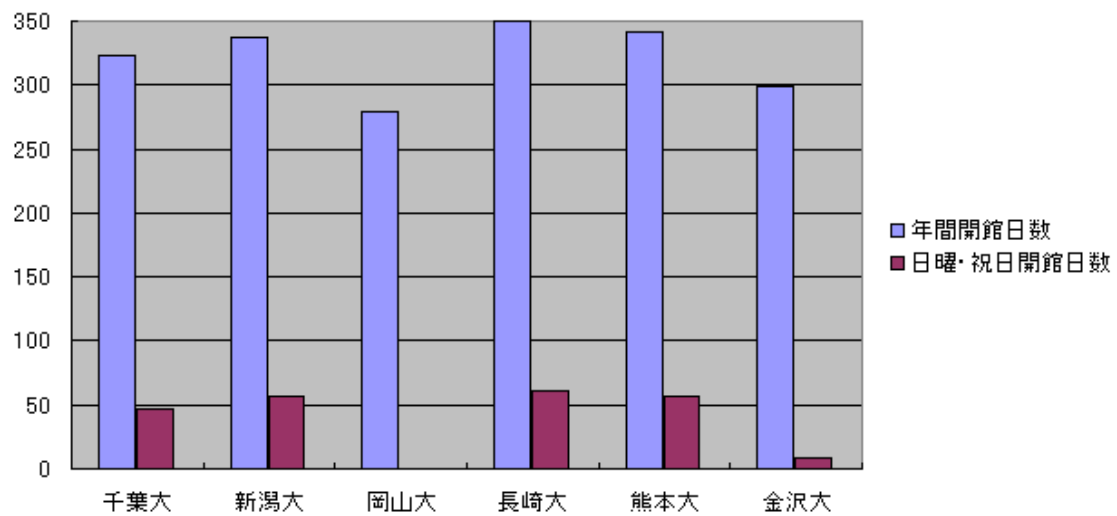
他大学と比較すると、入館者数・貸出数とも多いとは言えないが(第3図)、このことは、後で見るとおり開架図書冊数と貸出制限冊数が、他大学よりもかなり少ないことと関係があるかもしれない。

第3図 入館者数と貸出冊数(平成20年度)



年間開館日数は、約300日だが、他大学と比べるとやや少なめである（第4図）。

第4図 年間開館日数(平成20年度)



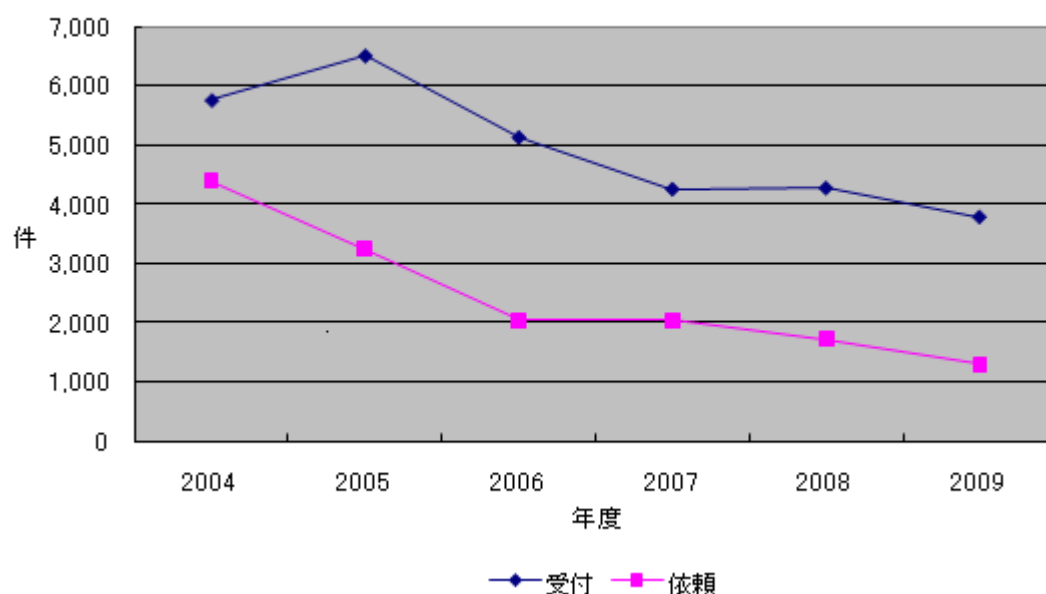
以上の結果、閲覧業務の現状と課題については、以下のことが言える。

1. 資料の電子化に伴う貸出冊数の減少→ 学生の学習の場としての利用が中心に
2. 貸出条件、開館日数等については改善の余地がある。

3-3-2 文献複写依頼・受付

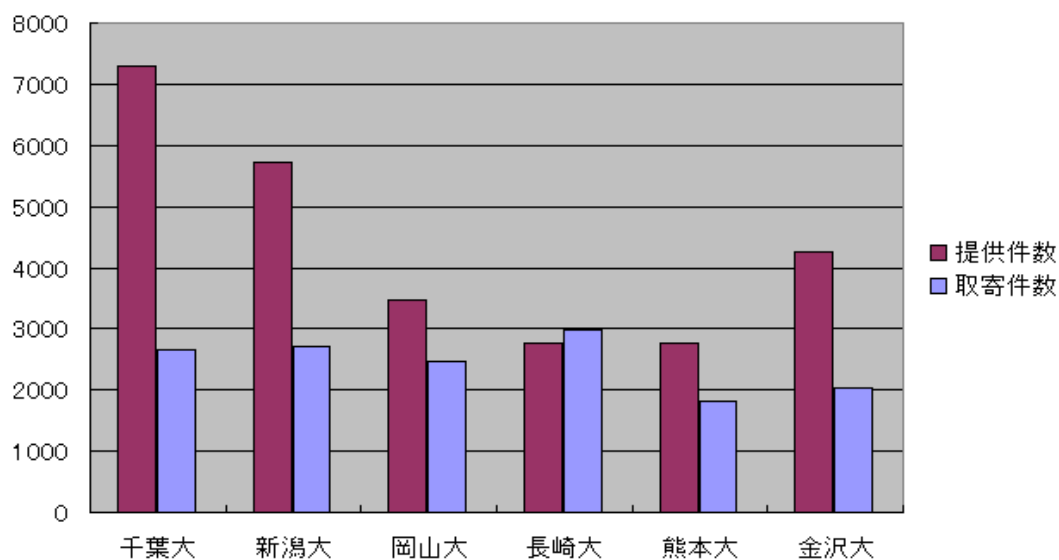
文献複写業務については、電子ジャーナルの導入に伴い、学外への依頼件数が激減している。ただし、従来から依頼件数よりも受付件数が上回っており、本学所蔵の冊子体資料に対するニーズが依然として大きいことを示唆している（第5図）。

第5図 学外からの文献複写受付件数及び学外への依頼件数の推移



他大学と比較しても、提供件数が取り寄せ件数を大きく上回っている傾向が鮮明で（第6図）、本学所蔵の医学系資料が全国の大学図書館で活用されていることが分かる。

第6図 図書館間文献複写依頼(平成20年度)



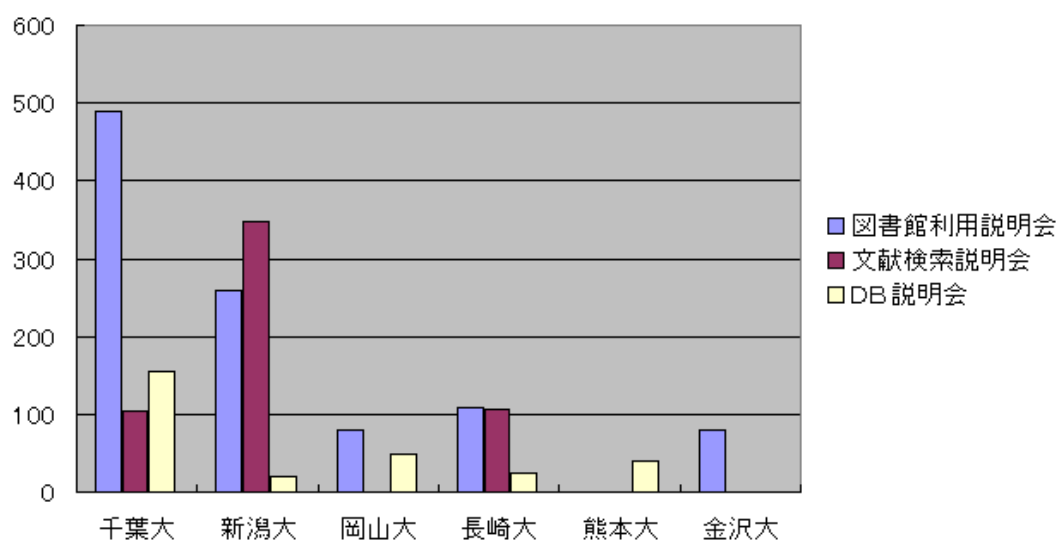
以上の結果、文献複写業務の現状と課題については、以下のことが言える。

1. 資料の電子化に伴い依頼・受付ともに減少傾向
2. 受付＞依頼件数→ 本学所蔵資料への全国的なニーズは高い＝保存の必要

3-3-3 参考調査

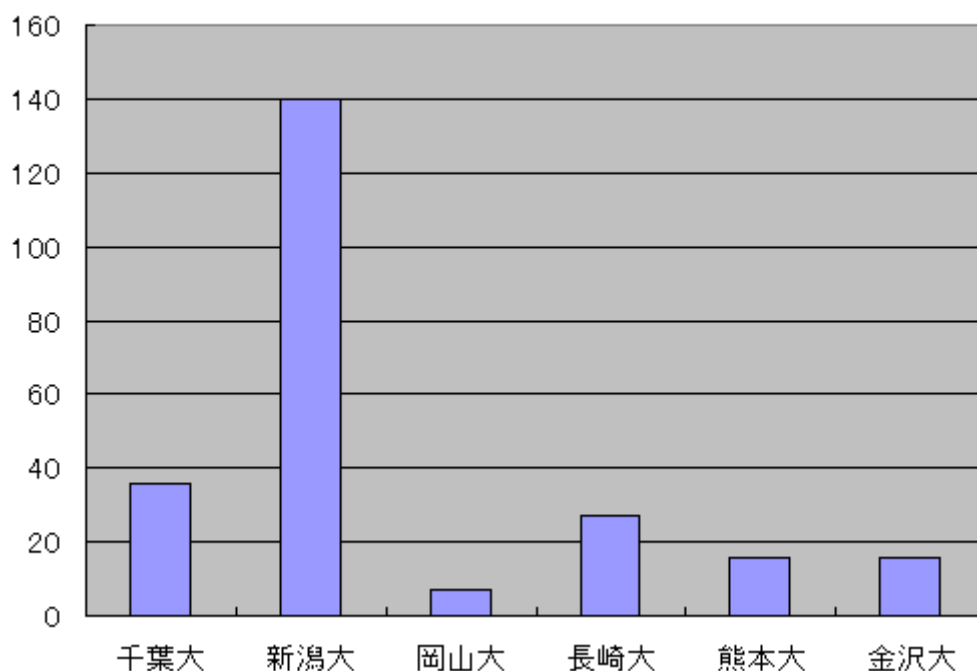
参考調査業務に関しては、全国的な傾向同様、P u b M e d、医中誌W E B等のインターネット上で容易に利用できるデータベースの登場に伴い、図書館員による代行検索から利用者自らが検索を行う形に変わった。その結果、従来型の参考調査質問は減少し、データベースや電子ジャーナルの利用法に関する質問が増えている。この状況に対応して、情報リテラシー教育の充実が求められているが、医学系分館では他大学に比べると十分に対応できていない状況である（第7図）。

第7図 情報リテラシー教育の実践
説明会等への参加者数(平成20年度)



また、図書館内の利用者用パソコン台数の点でも見劣りがする（第8図）。

第8図 図書館内の利用者用PC台数(平成20年度)



以上の結果，参考調査業務の現状と課題については，以下のことが言える。

1. 従来型の参考調査質問は減少→E J 及び外部D B の利用法についての質問が増加
2. E J 及び外部D B の利用説明会等の情報リテラシー教育の実施は不十分
3. 館内の利用者用P C 台数は不十分

3－4 蔵書

医学系分館の収蔵可能冊数は，約18.5万冊である。現在の収蔵冊数は，約15.8万冊で収蔵比率は，86%となっているが，分館の収蔵能力を超えた5.8万冊については，現在，自然科学系図書館に一部仮置きを余儀なくされている状況なので，実質的には，収蔵能力を超過している。

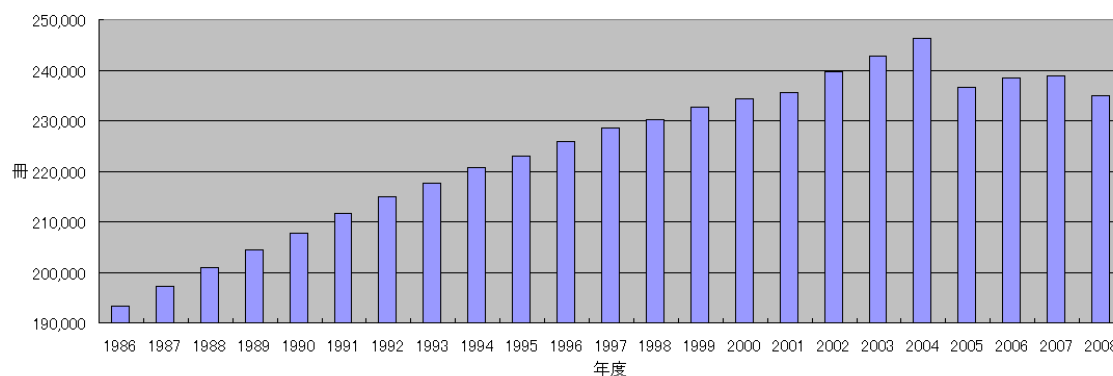
この分を含め，今後，以下の①～④の蔵書が増加する見込みで（第9図），合計28万冊の収蔵能力が必要となる。

- ① 自然系図に一時移動している医学系資料（5.8万冊）
- ② 宝町研究所蔵分（2.8万冊）
- ③ 他地区の医学系資料（2.1万冊）
- ④ 今後10年間の増加見込み冊数（2.2万冊）

その他，医学系分館では，明治時代以前の古医書等を約2000冊所蔵しているが，これらについては，現在，空調設備のない通常の事務室のスチール棚に保管している。資料

の長期保存及び３－２で見た利用ニーズの観点から見て、この状況についても改善が必要である。

第9図 医学系分館の蔵書数の推移

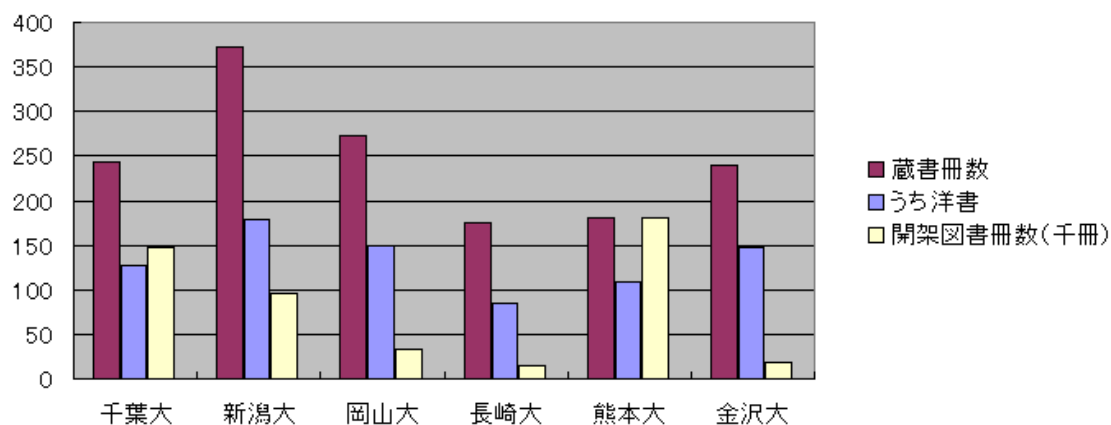


(注)図書館概要のデータを基に作成。製本雑誌冊数及びがん研究所、附属病院、研究室所蔵分も含む。

他大学と比較すると、蔵書冊数は平均的だが、開架冊数の少なさが目立つ（第10図）。

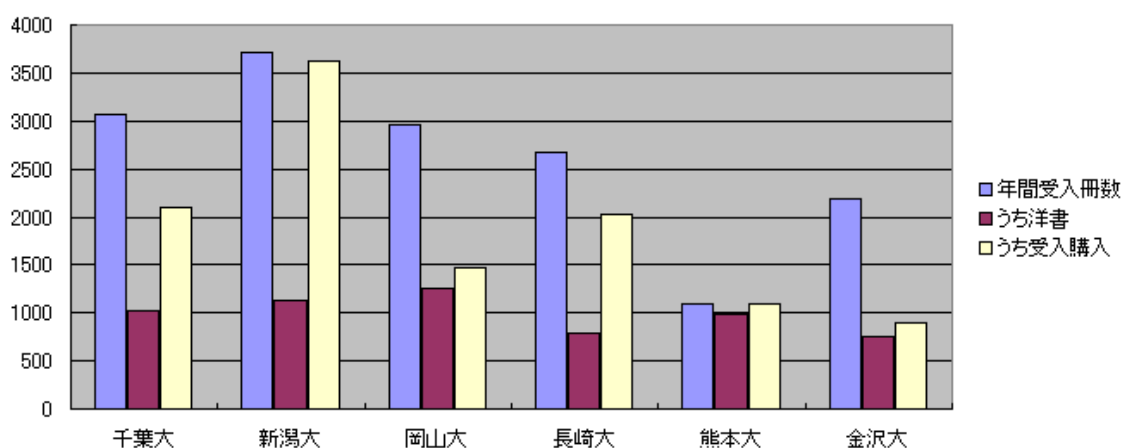
千冊

第10図 蔵書冊数(平成20年度)



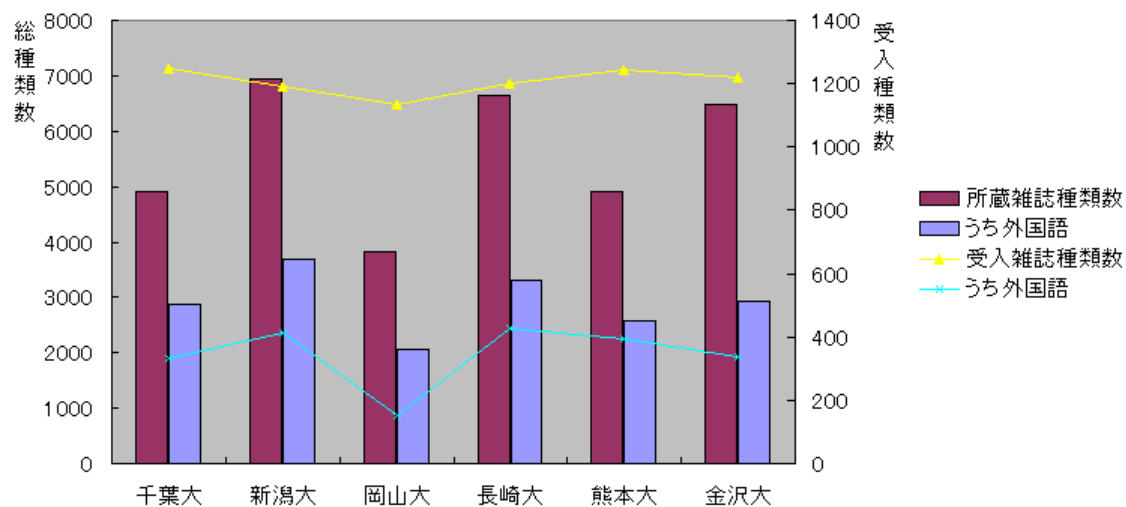
また、年間受入冊数も多いとはいえない（第11図）。特に購入冊数が少ない。

第11図 年間受入図書冊数(平成20年度)



所蔵雑誌種類数については、戦前からの雑誌を多数所蔵していることもあり、平均レベル以上のコレクションを維持している（第12図）。このことが、図6で見た学外機関への文献複写の提供件数の多さとなって現れていると考えられる。

第12図 雑誌所蔵種類数と受入種類数(平成20年度)



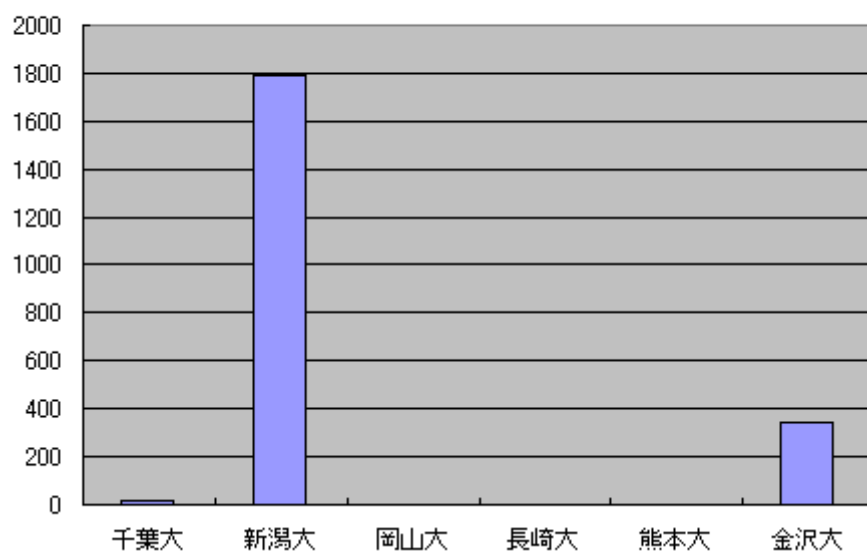
以上の結果、蔵書の現状と課題については、以下のことが言える。

1. 既に収蔵可能冊数を越え、自然科学系図書館に仮置きをしている状況
2. 貴重書の保存環境が劣悪。展示スペースはない。
3. 前身校から引き継いだ雑誌等、蔵書数はかなりあるが、開架図書数が非常に少ない。

3－5 地域貢献

平成16年、附属図書館利用規程を策定し、北陸地方に在住または勤務する一般市民、元職員、卒業生については館外貸出を認めるなど、地域貢献サービスを拡大した。他大学に比べても、学外者に対して館外貸出を行うなど、積極的にサービスを行っているといえる（第13図）。

第13図 学外者への貸出冊数(平成20年度)



ただし、他大学・病院等からの文献複写依頼にも応えているが、所蔵資料等を利用した一般市民向けの展示、地元医師会等の団体と連携したイベント等については、館内にスペースがないために全く行っていない。

患者図書館機能については、附属病院内に患者図書室を整備する計画はあるが現在未整備であり、一般市民からの医療情報に関する要求には十分応え切れていない。

以上の結果、地域貢献の現状と課題については、以下のことが言える。

1. 学外者への館外貸出を実施している。
2. ただし、地元の医療関連団体等の連携は行っていない。
3. 附属病院内の図書室は未整備。

4 医学系分館が備えるべき機能

4-1 医学系分館の強化ポイント

2-3で示した「本学で不足している機能・サービス」について、本学の現状及び前章までの分析を踏まえて、本学医学系分館が強化すべきポイントを以下のとおりまとめた。なお、図書館サービスとして研究支援と診療支援を区分するのは難しいため、以下では「研究・診療支援」としてまとめた。また、研修については、当計画とは別に情報部として対応するため、以下の強化ポイントからは除外した。

医学系分館の強化ポイント

1. 学習支援

- 開架図書コーナーの拡充
- 留学生用図書の充実
- 自習スペース（個席・グループ席）の拡充
- 開館日・時間の延長
- 学術情報検索能力及び表現能力の向上に役立つ情報リテラシー教育の充実
- ラーニング・コモンズ（十分な台数の学生用PC，視聴覚ブース，職員のサポート）の設置
- アメニティ・スペースの整備

2. 研究・診療支援

- 全国的に利用されている学術雑誌等の保存スペースの拡充
- 本学固有の貴重な資料を保存・展示するスペースの拡充
- 診療活動に役立つ情報提供の拡充
- 診療スタッフを含む研究者を対象としたEJ及び外部DBの利用説明会等の拡充

3. 地域貢献

- 附属病院図書室と連携した一般市民への情報提供サービスの拡大
- 地元の医療関連団体等の連携

4-2 将来構想の基本コンセプトと実施すべきサービスと機能

以上の強化ポイントを実現するために、将来構想計画の基本コンセプトを示した後、「学習支援」「研究・診療支援」「地域貢献」「図書館の機能とデザイン」の観点から今後求めら

れるサービスと機能についてより具体的な提案を行う。

■将来構想の基本コンセプト

機能的で快適な利用環境と先端的医学情報基盤を備え、印刷物からデジタル資料までをシームレスに利用できる「次世代ハイブリッド医学図書館」

1 学習支援

- 向学心の高い学生のニーズに応えるため、授業や国家試験対策に役立つ基本的な資料を整備し、十分な自習スペース（個席・グループ席）を用意すること。また、可能な限り開館時間を延ばすこと。
- 生涯に渡って研究を行なえるようなフィジシャン・サイエンティストを育成するために、その基礎となる情報リテラシー教育の支援を行なうこと
- チュートリアル教育をはじめとした医学教育を支援できるようインターネットや視聴覚教材等が利用可能な学生用PCを十分な台数設置したラーニング・コモンズを設置すること。
- キャンパス全体として整備が遅れているアメニティ・スペースを整備すること

2 研究・診療支援

- 研究・医療活動の基盤となる学術・医療情報を効率的に利用できるように、所蔵する冊子体資料から電子ジャーナル、データベース等のデジタル資料までをシームレスに提供すること
- 研修医、看護師等の診療スタッフを含めた多様な利用者が電子ジャーナル、データベースを効果的に利用できるように、サポート及び利用環境の整備を行なうこと。
- 本学図書館固有の全国的に見て貴重な資料を確実に保存・展示するスペースを用意すること

3 地域貢献

- 一般市民に対する資料提供サービス（文献複写依頼受付等を含む）を拡充させること
- 患者を中心とした一般市民向けの医療情報提供サービスを充実させること
- 附属病院内図書室との連携を進めること

4 図書館の機能とデザイン

- 1～3のサービスの前提となる、環境と安全安心に配慮した機能的な施設とすること
- 本学のキャンパス・マスタープランと整合性の取れたデザインとすること

この基本コンセプトの下、具体的に、以下の機能を実現するものとする。

4-2-1 学習支援機能

①日常の学習の支援

学生等が受講する講義・実習・実験等の予習・復習を支援するために、シラバス掲載図書、各科の基本書等の基本文献を系統的かつ効率的に選定し、提供する。特に利用頻度の高い基本書については、複数冊購入し、常に館内で参照できるようにする。場合によっては、電子ブック等の電子版教科書を図書館サイトから提供する形態も検討する。

また、問題解決型カリキュラム(チュートリアル教育等)用資料及び検索ツールを提供し、自学自習に対応できるようにする。

館内には、十分な自習スペースを用意する。その際、書架周辺の静謐空間(個席)とグループ学習に対応できる会話可能な空間(LC, グループ学習室)の2つのタイプを用意するなど、多様なニーズに応えられるよう配慮する。

将来的には、アカンサスポータル上での教材提供など本学で推進しているeラーニング計画やWeb版シラバス等と連携することで自宅学習のサポートの支援を行うことも視野に入れる。

②医師国家試験等の対策支援

医学系学生が必要とする国家試験対策及び研修医マッチング用の資料・情報(過去問, 過去数年分の出題基準, 最新の試験情報等)を提供するコーナーを設置する。学習スペースとしては、自習を行う個席だけでなく、学生グループによる勉強会等に対応できるスペース(グループ学習室)を提供する。

③医学系情報リテラシー教育の支援

学生のレポート・論文等の作成を支援するための説明会を実施する。内容的には、医学系の学術情報収集の方法を中心とし、授業の課題、卒業論文、臨床研修マッチング用レポート、各種プレゼンテーション等の作成に役立つ実践的なものとする。

実施に当たっては、医学系の担当教員と図書館職員とが協力して講義・実習を行なう。特定のデータベースの利用法については、外部講師を招くことも検討する。

また、実施の前提として、職員は、電子ジャーナル、データベース、文献管理ツール等の利用方法について習熟した上で、情報リテラシーに関するリーフレット、学内サイト等を作成・提供し、日常的な問い合わせにも対応できるようにする。実施報告及び教材については、ホームページ上でも提供し、成果を見えるようにする。将来的にはeラーニング教材化を目指す。

その他、館内のLC付近にコピー機、プリンタ、裁断機、スキャナー、簡易製本機等の機器類を設置し、実際に論文・レポートを作成することができる場所を提供する。また、

適宜利用方法についてサポートを行う。

また、以上を実現するための情報基盤を充実し、今後も更新していく。

④参考調査業務の充実

情報リテラシー教育を日常業務の中で補うために、特定テーマ・事項についての文献検索法や文献の学内所在場所（研究室所蔵図書等）の調べ方など、随時、利用者からの参考調査質問に適切に答えられるようにする。また、資料の探し方をまとめた、本学における医学系の文献の探し方マニュアルを整備する。

⑤視聴覚資料の提供

学生等が受講する授業・実験・実習等の予習・復習に役立つ視聴覚資料を提供する。資料の選定に当たっては、特に学生のニーズにも留意する。今後、DVD等のパッケージ型の資料だけでなく、Web上で提供される医療関連の動画教材等の導入も検討する。

⑥留学生向けサービスの充実

わが国の「留学生30万人計画」に対応した留学生増員計画を本学で実施した場合、医学系部局については大学院の留学生数が大幅に増加する見込みである。このことに対応するために、留学生向け図書館オリエンテーションを定期的実施する。併せて、英文版図書館サイト、英文版利用案内リーフレットの作成し、館内サイン・掲示の2ヶ国語化を図ることと日常的な図書館利用及び文献収集等のサポートを行う。また、現在不足している洋書教科書類の充実を図る。

⑦アメニティ空間の提供

図書館利用者の気分転換を図るためのアメニティ・スペースを館内に用意する。館内への飲食物（水筒、ペットボトル等は除く）の持ち込みを禁止する代わりに、このスペースでは、飲食可能とする。その他、長時間利用者がリフレッシュを行えるよう、教育・研究・診療等以外の非専門的な情報（新聞、雑誌、テレビ）の提供も行う。

また、キャンパス全体として、学生向けのアメニティ・スペースが不足気味なので、マスタープランとの整合性を図りながら、カフェ形式の飲食可能スペースの設置についても検討する。

4-2-2 研究・診療支援機能

①最先端の学術雑誌論文の提供

最先端の医学系の研究・診療に必要な電子ジャーナル（EJ）、データベース等の学術情報については、バックアーカイブを含めて、研究の核となるタイトル（LWW Fixed100、メ

ディカルオンラインをはじめとする電子ジャーナルパッケージ, New England Journal of Medicine, Cancer Research 等の基本タイトル, EBMR 等の医学情報データベース) の購読を継続し, 今後さらに充実させる必要がある。

そのために, 本学附属図書館の学術情報基盤整備計画ワーキンググループでの議論等を通じて, 全学的な観点から系統的かつ効率的に選定・導入を進める。また, それらの資料を効率的に利用できるように, 図書館 Web サイトをポータル化する。さらに, 必要に応じて, 講習会の実施, 利用マニュアルの整備等のサポートを行う。

金沢大学 I D 等と連携して, E J の統合認証を可能とし, キャンパス外からの E J 利用を簡単に行なえるようにする。

②研究史, 大学史等の研究用資料の提供

本学が所有する医学史的に貴重な古医書等の資料及び本学固有の医学系資料を確実に保存するスペースを用意し, 利用者からの要望に応じて提供する。

貴重書等については, 学内資料館及び医学類記念館と連携して, 随時, 展示等の企画に参画する。

③学術論文等の作成支援

学生のレポート等の作成の場合同様, 館内の L C 付近に学術雑誌論文執筆に役立つ機器類 (コピー機, プリンタ, 裁断機, スキャナー, 簡易製本機等) を提供し, 実際に論文・レポートを作成することができる場所を提供する。また, 利用方法についてサポートを行う。

④本学の教育・研究業績の登録と公開・発信

本学医学系の研究業績 (学術雑誌掲載論文, 紀要, 科研費報告書, 博士論文等) の視認性を高め, 全世界的に引用される機会を高めるため, これらの研究業績の全文を, できる限り金沢大学学術情報リポジトリ KURA に登録し, W e b で公開する。また, そのための支援を行なう。将来的には, 研究者のプロフィールサイトからのリンクも検討する。

本学刊行物のうち医学系に関する分については, 医学系分館で網羅的に収集を行う。

⑤学会・研究会等の運営支援

希望に応じて, 宝町キャンパスで開催される学会・研究会等のための場所を提供する。また, 配布資料, プレゼンテーション, 動画, 成果報告, 関連研究等を KURA に登録し, 成果の蓄積・公開を支援する。

⑥臨床医療情報データの提供

臨床医療情報に関するデータベースを提供することで, 医師・看護師等の情報ニーズ (エビデンスに基づいた診療ガイドライン, 最新のエビデンスを要約したサマリー等) に応え

る。また、必要に応じて、講習会の実施、利用マニュアルの整備等のサポートを行う。

4-2-3 地域貢献機能

一般市民向けの医療情報の提供は、①附属病院内図書室（現在、別途検討中）、②医学系分館の2箇所で行う。患者を中心とした一般市民に対する啓蒙的な医療情報の提供は、附属病院内図書室で行い、専門的な医療情報を求める一般市民に対するサービスは、医学系分館で行う。医学系分館内には、医学啓蒙書コーナーは特に設置せず、附属病院内図書室で行うサービスを後方支援する体制とする。

①医学系分館での地域貢献機能

医学を志す高校生等に対する情報提供コーナーを館内に設け、オープンキャンパス等と連動する形で医学類の活動をPRできるようにする。

また、館内の静謐空間と競合しないように留意した上で、本学で実施している一般市民向け健康講座や地元医師会、地域の医療関係企業・団体・大学との交流支援に活用できる多目的スペースを設ける。

その他、地元医師会関係者、県内医療従事者からの文献複写依頼に対応できるような、文献デリバリーサービスを検討する。

また、県内の病院・医療関係団体と共同で、メディカルオンライン等の電子ジャーナルをコンソーシアム契約によりより安価で導入できないか、検討を行う。

②患者向け医療情報の提供

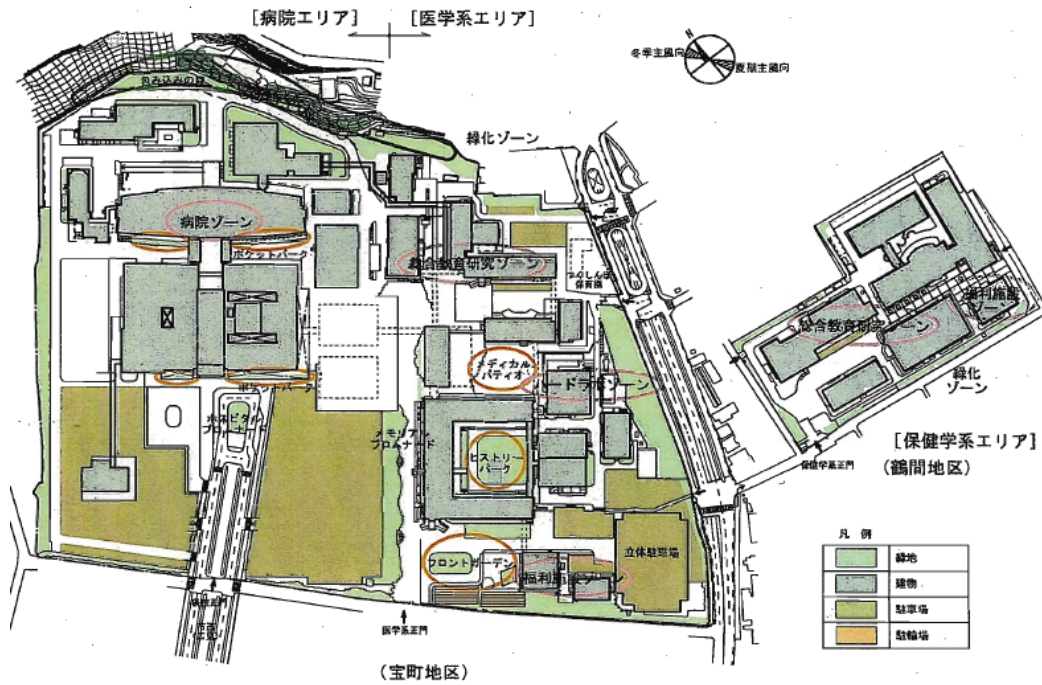
附属病院内図書室で対応する。運営方針については、附属病院内の運営委員会等で決め、医学図書館が実務面のサポートを行なう。

4-2-4 図書館の機能とデザイン

以上の機能・サービス及び建物の設計全般に渡って、以下の6点に留意する。

1. 省エネ・CO2削減 省エネ・CO2削減を意識した建物・設備とする。
2. ICTの活用 eラーニング教材、学生の持ち込みノートPC及び動画等広帯域通信に対応できるネットワーク設備を備えた建物とする。
3. 耐震等安全対策 耐震等安全性の高い施設・設備とする。
4. バリアフリー バリアフリーを意識した施設・設備とする。
5. 時間外開館 利用者のニーズとセキュリティに配慮した時間外開館を実施する。
6. 建物の設計 金沢大学キャンパス・マスタープラン（第14図）との整合性を取り、医学系の研究・学習活動を刺激するようなクリエイティブで新鮮な感性を取り入れたデザインとする。

第14図 金沢大学キャンパス・マスタープラン 2007 中の宝町・鶴間団地の屋外環境計画図



5 増改築計画案

4の機能を実現するために、次のとおり、本学医学系分館の増改築計画案としてまとめた（第15図）。

第15図 医学系分館増改築計画概念図



また、必要とする設備・スペースを図書館機能と対照させて次のとおりまとめた（第2表）。

第2表 必要な機能とスペース

					学習支援							研究・診療支援						地域貢献	
					授業支援	医師国家試験	情報リテラシー	参考調査	視聴覚資料	留学生	アメニティ	学術文献	大学史	論文作成支援	研究業績公開	学会支援	臨床医療情報	一般市民向け	患者向け
区分	コーナー名称	定員	個数	備考	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2
居住空間	閲覧席	個席(複数フロア)	1	80	○	○	○					△	△	△				△	
		4人掛席(複数フロア)	4	10	○	○	○					△	△	△				△	
	その他の閲覧室	研究個室	1	4	○	○						○	○						
		ライブラリー・コモンズ	30	1	○	○	○	○	○	○		△	△	△			△	△	
		グループ学習室	8	5	○	○	○					△	△	△		△			
		多目的ルーム	50	1			○		○					△		○		○	
		アメニティ・ラウンジ	15	1							○							○	
	ユーティリティ	サービスカウンター	2	1				○		○				△				○	
		コピーコーナー(公費)		1								○		△					
		事務室	5	1	事務スペース														
		製本準備室		1															
		物品倉庫		1															
		書類倉庫		1															
資料収納空間	開架	図書	2万冊	1	○	△						△							
		基本書	5段	1	○	○						△							
		参考図書	20段	1	○	△						△							
		医師国家試験対策	10段	1		○													
		本学関係資料(新着)	5段	1									○		○				
		雑誌展示(新着和)	80種	1	△	△						○							
		雑誌展示(新着洋)	10種	1	△	△						○							
	書庫	図書	9万冊	1								△							
		雑誌バック旧(和)	2万	1								○							
		雑誌バック戦前(和)	1万	1									○						
		雑誌バック旧(洋)	4万	1								○							
		厚生省報告書	70段	1								△							
		統計書	30段	1								△							
		大学史関係	30段	1										○					
		本学関係資料(バック)	20段	1									○		○				
		貴重書室	200段	1									○						
		貴重書展示室		1									○						
図書館外	アカンサスポータル				将		○												
	大学Webサイト				将		○	○	○			○		○	○	○	○		
	病院図書室																		○
	教室、研究室、病院等						将							将					

凡例
 ○ 主要な利用
 △ 想定される利用
 将 将来的に検討

参考資料

1. 金沢大学附属図書館編. 金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書. 2009, 60, 20, 85p
2. 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議最終報告. 2008, 58p.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/029/index.htm
3. 医学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン(平成19年度改訂版). 2007, 68p.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033/toushin/1217987_1703.html
4. 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会. 学術情報基盤の今後の在り方について(報告). 2006.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm
5. 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ). 2009.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1282987.htm
6. 城山泰彦. 研究文献レビュー：今日の医学図書館. カレントアウェアネス. 295, 2008, p.28-36. <http://current.ndl.go.jp/ca1659>
7. 金沢大学教育企画会議学生生活部会編. 学習・研究環境改善のための学生生活調査. 2006, 183p

別添資料2

「項目（A）基本事項」について、下記のとおり改訂する。

改訂案	現行
A 基本事項 4 課題探求・解決と学習の在り方 (1) 課題探求・解決能力 一般目標： 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 到達目標： 1) 必要な課題を自ら発見できる。 2) 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3) 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4) 課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよい解決方法を見出すことができる。 5) 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策をたてることができる。 (2) <u>学習の在り方</u> 一般目標： <u>医学・医療に関連する情報を重要性と必要性にしたがって客観的・批判的に統合整理する基本的能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</u> 到達目標： 1) <u>講義、国内外の教科書・論文、検索情報</u>などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 2) <u>得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現</u>できる。 3) 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって<u>文書と口頭</u>で発表できる。 4) <u>後輩等への適切な指導が実践できる。</u> 5) <u>各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究等）に参加する。</u>	A 基本事項 4 課題探求・解決と論理的思考 (1) 課題探求・解決能力 一般目標： 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 到達目標： 1) 必要な課題を自ら発見できる。 2) 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3) 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4) 課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよい解決方法を見出すことができる。 5) 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策をたてることができる。 (2) <u>論理的思考と表現能力</u> 一般目標： <u>情報を重要性と必要性にしたがって取捨選択し、その要点を論理的に整理し、分かりやすく表現する能力を身に付ける。</u> 到達目標： 1) <u>教科書、論文や講義などの内容について、重要事項や問題点を抽出して論理的に表現</u>できる。 2) <u>自分の考えを論理的に整理し、分かりやすく表現</u>できる。 3) 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって<u>文書または口頭</u>で発表できる。 (新設) (新設)

(3) 生涯学習への準備 一般目標： 学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての<u>能力（知識、技能、態度・行動）</u>を身につける。 到達目標： 1) 生涯学習の重要性を説明できる。 2) <u>生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</u>	(3) 生涯学習への準備 一般目標： 学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての<u>態度、技能と知識</u>を身につける。 到達目標： 1) 生涯学習の重要性を説明できる。 (新設)
(4) 医療の評価・検証と科学研究 一般目標： 医療の改善のために<u>不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることを学ぶ。</u> 到達目標： 1) 科学的根拠にもとづいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。 2) 患者による医療の評価の重要性を説明できる。 3) <u>研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われるべきことを説明できる。</u> 4) <u>医療改善のための科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加する。</u>	(4) 医療の評価 一般目標： 医療の改善のために<u>不断の評価が必要であることを学ぶ。</u> 到達目標： 1) 科学的根拠に基づいた医療の評価の必要性を説明できる。 2) 患者による医療の評価の重要性を説明できる。 (新設) (新設)

東京地区及び関西地方の医学図書館での実地調査結果報告

付録2

*別紙調査項目について、平成21年10月5日～6日に各館で実地調査

項目	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学
1 学習支援機能	・PBLの課題に対応した図書購入 ・ビデオ・DVD(利用度高) ・オリエンテーション ・文献検索指導 ・国試対策図書コーナー	・シラバス図書購入 ・DVD(利用度高) ・オリエンテーション ・データベース講習会を実施	・シラバス図書(貸出可) ・正規・奨励授業でOPAC, WoS, Pubmed等 ・SMART imagebase等 ・国試対策図書購入 ・オリエンテーション(院生2回)	・シラバス図書購入 ・DVD等(利用度低) ・図書館利用法の授業を実施 ・国試対策図書コーナー(寄贈呼びかけ)	・シラバス図書購入 ・推薦図書制度 ・ガイダンス ・DVD(医療系ドラマのニーズ有→購入厳しい) ・国試コーナー(寄付金による)	・シラバス図書購入 ・DVD等(利用度低, 医療系ドラマ等は利用あり) ・オリエンテーション(院生)
2 教職員向けサービス	・UpToDate ・Clinical Evidence ・Cochrane Library ・今日の診療プレミアム(WEB版) ・オリエンテーション(看護師・臨床研修医・新入医局員) ・DBガイダンス ・End Note説明会	・Up To Date ・Clinical Evidence(BMJ) ・Cochrane Library(Ovid: EBM Reviews) ・オリエンテーション(看護師)	・Cochrane Library ・EBM Reviews ・今日の診療 等 ・MEDLINE, EndNote等の講習会実施(対象者限定なし)	・UpToDate(スタンドアロン版, 卒業生寄付金) ・DynaMedのトライアル ・オリエンテーション(研修医)	・UpToDate(デスクトップ版10月～) ・EBMR	・参考カウンターでの対面サービス ・オリエンテーション(看護師)
3 研究支援機能	・SFX(リンクリゾルバ)を導入 ・研究所蔵図書の蔵書点検実施(年1回)	・eDDSサービス(来館不要の複写サービス) ・大判ポスター印刷	・電子ジャーナル、データベース、電子ブックそのものやリストの整備	・オリエンテーション(大学院生) ・データベース等講習会(オンデマンド型への移行検討)	・データベース講習会 ・講座図書の貸借仲介	
4 アメニティ	・ブラウジングスペース ・図書館向いの談話室	・小ラウンジ(地下通路)	・ラウンジ(新聞、飲食可)	・ブラウジングルーム(新聞・軽い読み物, 飲食は図書館前のロビー)	・なし ・* 自由学習室(飲食禁止)	・1Fに広いスペース
5 貴重書	・貴重書なし ・展示スペース(入口・研究所蔵の古書)	・貴重書室(112㎡, 職員出納で閲覧可) ・PDF可(50年以上) ・標本室(研究室管理) ・展示スペース(館内2, 玄関1)	・貴重書室なし(附属図書館で対応) ・電子図書館への移行	・貴重書室(書架18列) ・展示スペース(貴重書・関係資料の一部)	・貴重書室なし(本館で対応)	・貴重書室(38㎡, 適塾記念会預り資料, 個別空調, 施錠)
6 一般市民への開放	・病院内の情報提供スペースで医療情報を提供, 講演会等も開催。	・館内閲覧, 複写	・館内閲覧, 複写 ・近隣の医学図書館と協定。互いの学生は貸出可。	・地元在住者(学生を除く)、卒業生。貸出は行っていない。 ・近隣医学図書館と提携。	・地元在住・在勤(医学図書館のみ貸出不可)2000円/2年 ・卒業生(名簿で確認)・旧教職員(貸出)	・特に制限はない。(500～600名/月) ・利用登録をしたものには貸出しも行っている。
7 地域医療との連携	・地元医師会とは覚書を交わし図書館利用可。 ・近隣自治体の医師会向け講習会会員に図書館利用サービス。	・病院からのILL依頼は受け付けている。 ・OBからの複写依頼に関しては最近サービスを開始した。(自館資料)	・個人の文献複写 申込みも受付している。(現金為替、現金書留で入金後、送付、自館所蔵資料のみ受け付けている)。 ・近隣医科大学とやりとりを行っている。(学外者向け利用案内に記載している)	・関係病院ネットワーク事業(年会費で人を雇用)を行っており、加盟している病院の所属員に、複写サービス、来館サービスを実施 ・個人からの複写依頼もある。後納。他大学への依頼は未実施。	・地元医療機関利用カード(貸出不可)無料	・一般市民向けのサービス内で対応 ・対個人へのコピーサービスは実施(前金制)
8 開館時間(24時間, セキュリティ)		・BDS装置(バーあり)	・バー無しのBDS装置、ゲート録画、1日1度(13時半頃)警備員巡回、窓の鍵を鍵付に交換。	・入退館システムを導入	・BDSはICカードにも対応化のものを入れている。ただカードがIC化していない(磁気カード)	・BDS装置(バーあり)
参考調査	・激減してはいるが、依頼があった場合はよく話を聞いて対応→信頼につながる	・あまりない。一般的な所蔵調査か医学史関連がほとんど。	・EJ/DBの使い方の説明が中心	・夜の方が利用が多いためあるかもしれないが、把握していない	・ない。ILLの続きで行うことがたまにあるくらい。	
職員の熟練度/研修	・異動がないので、経験が生きる。 ・学内に医学専門ではない教職員向けの医学講習会があり受講している。 ・医学雑誌の特集記事をDB化の際に検索用にMESHを付与(研修によい) ・日本医学図書館協会の研修を受けている	・3年ほどで異動のため、専門性は低い。医図協の研修は参加(ときどき)。	・ライフサイエンス研修を受けている。 ・説明会の資料作りが研修の変わりになっている。	・日本医学図書館協会、公大協の研修に参加。	・日本医学図書館協会の研修に毎年行っている。	
その他	・雑誌の新着は机に並べる→新着雑誌が分かりやすい ・狭いながらキャレルを工夫して配置し、席数を確保 ・先生による開架図書のチェックを行い古いものははずす ・延滞にペナルティ(延滞金)あり		・日中、閲覧室の人数を定期的に数えている。	・先生はほとんど来なくなった。日中よりも夜間の方が多いのかもしれない(学生ではなく嘱託職員が担当。雑誌受入。ILL受付等も担当。年休の時には正規職員が代理で入る)。		

今回の出張の調査事項について

金沢大学附属図書館

現在、本学では、医学系分館(築40年)の増改築に向けて計画を策定しているところです。その参考にさせて頂くために、貴館について見学をさせて頂くことになりました。お忙しいところ、お手数をお掛けしますが、以下の項目について情報交換をさせて頂ければ幸いです。

- ポイント1: 医学系図書館として備えるべき機能・サービス
- ポイント2: 建物・設備・家具等のデザイン・レイアウト及び利用者の動線
- ポイント3: ライブラリー commons 的な機能について

■基本データ

		貴図書館の状況	(参考)本学の状況
総面積			1845㎡
席数			106席
(うち個室)			48席
個室の有無			なし
グループ学習室の有無			なし
視聴覚室, 多目的ホール等			なし
収蔵可能冊数			19万冊
電動周密書庫			なし
検索コーナー	検索用PC(台・運用)		4台(カウンター横で自由に利用可)
	インターネット閲覧用PC(台・運用)		10台(情報ラウンジで学内者限定で利用可(要認証))
	プリンタ(台・運用)		2台(自由に利用可)
	視聴覚ブース(席数・運用)		2席(カウンターで手続き後, 利用可 / DVD,VHSが視聴可)
	その他の機器等		
開館時間			月～金 8:30～22:00 土 10:00～16:00
他建物からのアクセス			渡り廊下で医学系教育棟と接続

■調査項目 ※出張当日に情報交換させて頂きたいと考えている事項です。よろしくお願いいたします。

#	項目	内容	本学の現状・備考	貴館の状況
1	学習支援機能	学部で行なっている情報リテラシー教育、テュートリアル教育等と連携したサービス・資料提供を行なっているでしょうか？	各科の教科書的な定番書籍を「基本書」として館内で常時利用できるように提供	
		動画等のマルチメディア教材へのニーズはどれくらいあるでしょうか？	DVD等を用意しているが利用度は低い	
		学生・院生・留学生向けの図書館オリエンテーション及び利用指導は行っているでしょうか？	新入生対象のオリ+情報処理の授業への参画。医学系中心のオリはほとんど実施していない。	
		国家試験対策のため、図書館としてどういうことを行っているでしょうか？	自習用のスペースを提供	
2	教職員向けサービス	診療支援として、どういう情報やサービスを提供しているでしょうか？	EMBR等のDBの提供	
		看護師、研修医向けのオリエンテーション、講習会は実施しているでしょうか？	ニーズはあるが、ほとんど実施できていない	
3	研究支援機能	電子ジャーナル等の文献の提供以外に研究支援としてどういうサービスを行なっているでしょうか？	リンクリゾルバ等による使い勝手の向上を検討している。その他は、特に行っていない。	
		各研究室・講座等で所蔵している資料は図書館に集中化されているでしょうか？学内の文献デリバリーについて問題はありますか？	各講座に分散している資料がかなりあり、すぐに利用できないケースがある	
4	アメニティ	図書館内のアメニティスペースとしてどういうものを用意しているでしょうか？	館内に新聞コーナーはあるが非常に狭い。休憩は、隣の教育棟のラウンジを利用してもらっている	
5	貴重書	貴重書室はあるでしょうか？（→貴重書の定義と収録範囲）	ある。「古医書目録」に掲載されている1900年以前の洋書＋和綴本	
		貴重書室の広さと機能	通常の事務室の棚及び別キャンパスの自然科学系図書館に収納	
		展示用スペースはあるでしょうか？	館内にはない。別棟で記念館があり、一部の図書を展示	
6	一般市民への開放	利用できるサービスの範囲	石川県内在住者、卒業生、元職員等には館外貸出可	
		一般市民向けの医学情報コーナーはあるでしょうか？	特に作っていない。新図書館ではどうするか検討中	
		附属病院等の中に患者図書室はあるでしょうか？医学図書館と連携をしているでしょうか？	現在準備中。一般向けサービスはこちらで行う予定。	
		患者向けの情報サービスとして、どういうことを行っているでしょうか？	計画中の病院図書室で行う予定だが、具体的な内容は未定	
7	地域医療との連携	学外の医療関係企業、団体、大学向けのサービスは行っているでしょうか？例えば、地元の医師等の個人からの複写依頼を受け付けているでしょうか？	機関からのILL依頼を受け付けている。対個人の複写については来館者に対するサービスのみのみ。	
		学外の医療関係企業、団体、大学等とタイアップしたイベント等は行っているでしょうか？	特に行っていない。地元医師会と連携した活動についての提案あり	
8	開館時間	24時間開館を行っているでしょうか？行なっている場合、問題点はあるでしょうか？	行っていない。	
		どういうセキュリティ対策を取っているでしょうか？	バーなしのBDS装置のみ	

本学医学系学生の医学系分館に対するニーズ調査結果

医学系分館のサービスについて、WG 学生委員が平成21年7月に本学医学類学生に対して電子メールで行ったアンケート調査等で出された意見を医学系分館係が取りまとめたもの。

1. 学習支援

1-1 図書館内に自習できるような個室と少人数グループで利用できるスペースの両方が必要か？

→両方必要。以下その理由

- 現在医学類棟にある少人数で利用できるチュートリアル室は6年生が中心に利用しているため下級生が利用できるスペースが少ない。
- また1階廊下のフリースペースは冷暖房設備が整っていないため夏冬には向かない。
- 下級生も実習班等で中小人数で集まらなくてはいけない機会がしばしばあり、スペースがなく困惑した経験があるので図書館にもそのようなスペースがあったらと思う。
- 個室に関しても、特にテスト前は講義室が満員なので快適で静かな自習スペースがほしい。

1-2 医学類で行っているチュートリアル教育に関連して、図書館が支援できる事項はあるか？
図書を出し出す+場所を提供する 以外にはあるか？

→チュートリアルは自分達で考えて進めていくもので、自分が探したい図書、ネットの情報が得られれば良いからそれだけやっていただけたら十分だと思う。

1-3 動画等のマルチメディア教材へのニーズはあるか？DVD のようなパッケージ型教材は利用率が低い印象があるが、専用ブースを作れば利用は増えるか？

→臨床医学・国試対策の学習ではニーズはある。そのようなブースがあれば利用は増えるだろう。

→専用ブースを増やすよりも、動画等の教材(例えば予備校の授業)などが入っていたら利用する。どんな教材があって、どういった科目に使えるかなどのアピールがあった方が利用するようになると思う。

1-4 自分のノート PC より、図書館備え付けの PC の方が利用されるか？

→自分の PC は無線 LAN がつながりにくい、つながるまで時間がかかる、医学書だけでも重いのに PC まで学校に持ってくるのは大変との意見が多い。下級生でも実習等では PC を利用する機会が多く、図書館備え付けの PC は調べ物などでほとんど誰もが利用したことがある。また特に臨床実習をしている5年生、6年生の図書館 PC の利用は最も多い。しかしプレゼンのためのパワーポイント等の利用は自分のパソコンでの作成が多いようだ。

1-5 医学類で医学系の情報検索(PubMed, 医中誌, 電子ジャーナル等)や論文作成法についての講義等が行われているか? そういうものがあれば, 図書館員が参画することも考えられる。

→そのような機会は多くはないが実習で何度か行われた(3年)。その際パソコン室のパソコンに加え図書館のパソコンも利用した。論文に関しては, 検索したときにダウンロードできる論文とできない論文があるそうで, 少しでも多くの論文がダウンロードできるようになれば良い。

1-6 留学生向けの図書館オリエンテーション及び利用指導に対するニーズはあるか?

→臨床実習にきた留学生は, 原書が少なく利用できる医学書がほとんどないと言っていた。留学生の数も少なくないため, 留学生用の教材, 医学書があれば助かると思う。

1-7 その他, 学生に対する学習支援としてどういうことが考えられるか?

→快適な室温・空気の調節, 広々とした自習スペース, 豊富な種類・数の医学書, 雑音等の遮断など

2. 国家試験対策

医学類として, または, 学生独自で, 国家試験対策としてどういうことを行っているか? それと図書館サービスとの連携は考えられないか? 国家試験対策コーナーとしてどういう資料があれば, 歓迎されるか?

→医学類としては特に対策は取っておらず, 基本的にしておらず自分達で国試対策委員を作って運営している。模試や予備校のビデオ講座などを取り寄せてみんなで受けている。国試対策委員との連携で, 予備校のビデオ講座などをストックして利用できるようにしたら良いと思う。

→ また, 5年のBSL(5年生のカリキュラムとなっている病院の臨床実習。5年生は一年間かけてすべての科を回り実際に臨床の場でドクターの指導を受ける。免許はないので医療行為は全くおこなわない)用に見られる論文を増やしてほしい。

3. アメニティスペース

3-1 宝町キャンパスで, 学生がリラックスできるスペースというのは, どれぐらいあるか?

→あまりないと思われる。1廊下のフリースペース, 生協2階のソファークらいである。

3-2 どういう機能があると良いか?

→本, 雑誌, 漫画等を読めるスペース, 軽い軽食を取れるスペース, ミーティング等のために少人数で話せるスペースなど

4. 開館時間

24 時間開館についてのご意見をお知らせください。

→ 以下のとおり、学生間でも意見が分かれている。

- 24時間開館するなら自習室・パソコン室が良い。しかし、深夜に利用するのは、ごくわずかな人に限られると考えられる。今の開館時間で十分という意見もあるし(実際20時, 21時になると利用者は非常に少ない), せめてテスト前だけは終了時間をさらに延長してほしいという意見もある。また朝の開館を早めてほしいという意見もある。
- 24時間開館にすることで学生の勉強時間が増えるのではないかという意見もあった。一方, 24時間開館にするとだらだらと長時間居座る人も増え, 次の日の実習・講義等に悪影響を及ぼすのではないかと懸念する人もいた。

本学と同規模大学の医学系図書館の基本統計値の比較

旧六大学の医学系図書館の2008年度の統計を比較したもの。

大学名	千葉大学 亥鼻分館	新潟大学 旭町分館	岡山大学 鹿田分館	長崎大学 医学分館	熊本大学 医学系分館	金沢大学 医学系分館
主なサービス対象部局	医学部, 看護学部, 薬学部(一部), 医学部附属病院等	医学部(医学科), 医学部(保健学科), 歯学部, 医歯学総合病院, 脳研究所	医学部, 歯学部, 大学病院, 自然生命科学研究支援センター等	医学部(医学科, 保健学科), 歯学部, 薬学部, 附属病院, 研究センター等	医学部(医学科, 保健学科), 附属病院, 研究センター等 ※薬学部分館は別統計	医学部, 附属病院, がん研究所等 ※保健学類図書室は別統計
面積(m ²)	3784	4509	3474	2124	982	1845
※保健学系図書室					272	356
総面積(m ²)	3784	4509	3474	2124	1254	2201
座席数(席)	251	240	180	243	104	106
※保健学系図書室					50	48
総座席数(席)	251	240	180	243	154	154
奉仕対象数	総数	3926	4539	5105	4319	2603
	うち学生	1723	2307	2662	1942	1002
職員	専従(兼務)	4(1)	5(1)	4(1)	2(1)	3(1)
	非常勤・臨時	6.5	2.9	4.0	6.3	2.0
蔵書冊数(千冊)	蔵書冊数	243	373	272	175	181
	うち洋書	128	178	149	85	108
開架図書冊数(千冊)	147	95	34	15	181	18
受入図書冊数	受入計	3059	3716	2958	2677	1103
	うち洋書	1019	1138	1248	782	995
	うち受入購入	2095	3618	1468	2026	1093
所蔵雑誌種数	所蔵計	4916	6949	3821	6633	4902
	うち外国語	2875	3691	2074	3316	2584
受入雑誌種数	受入計	1249	1193	1134	1202	1243
	うち外国語	333	414	150	428	393
館外個人貸出	入館者数(千人)	77	129	138	118	122
	貸出数(千点)	18	29	12	16	6
	貸出数学生(千点)	17	22	11	14	5
貸出規則	貸出期間(学生・図書)	14日	14日	1週間	14日	14日
	貸出冊数上限	5冊	5冊	2冊	5冊	5冊
相互協力業務	図書貸借	貸出冊数	26	106	33	21
		借受冊数	104	12	23	34
	文献複写	提供件数	7290	5709	3476	2765
		取寄件数	1枚:35円	1枚:40円	1枚:35円	1枚:40円
年間開館日数	323	337	279	350	342	299
日曜・祝日開館日数(2008年度)	47	56	0	61	57	0
利用者用PC台数	36	140	7	27	16	16
学外者へのサービス	対象者	卒業生	卒業生 教職員OB 地域住民	卒業生 教職員OB 地域住民 その他	その他	卒業生 教職員OB 地域住民 学生(他大学)
	貸出数	14	1787	0	2	0
利用教育	新入生対象		実施	実施	実施	実施
	図書館利用	回数	11	3	1	2
		参加数	489	260	80	108
	文献検索	回数	7	7	0	1
		参加数	104	347	0	106
	データベース検索	回数	11	1	3	1
参加数		154	21	48	24	
設置年(新築)	1978	1982	1967	1979	1961	1969
最終改修年	1996	2000	-	-	2009	-

○金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項

平成 22 年 12 月 6 日
図 書 館 委 員 会 決 定

(要旨)

第1 この要項は、金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針第3に基づき、学問及び文化の遺産として後世に継承する価値があると認められる図書館資料（写本及び手稿類を含む）について、その指定基準、保存及び管理運用の方法に関し、必要な事項を定めるものとする。

(貴重資料の指定基準)

第2 貴重資料の指定基準は、次の号によるものとする。

- (1) 洋書は1700年以前、和書は元和以前、漢籍は明代（万暦年間）以前にそれぞれ刊行されたもの。
- (2) 前号に属さないもので、特に希少価値、資料的価値又は芸術的価値があると認められるもの。

(準貴重資料の指定基準)

第3 準貴重資料の指定基準は、次の号によるものとする。

- (1) 洋書は1701年から1900年まで、和書は寛永から明治まで、漢籍は清代に刊行されたもので、希少価値、資料的価値又は芸術的価値において貴重資料に次ぐものと認められるもの。
- (2) 前号に属さないもので、将来、資料的価値が生ずると予想されるもの。

(集書・叢書)

第4 一括して取扱うことによって資料的価値が生ずると認められる集書・叢書は、その全体を貴重資料又は準貴重資料として指定する。

(指定)

第5 貴重資料及び準貴重資料（以下「資料」という。）の指定は、金沢大学図書館委員会が関係教員の意見を徴して認定し、附属図書館長が行う。

(整理)

第6 資料の整理は、次の各号によるものとする。

- (1) 資料の分類は、資料の種類により日本十進分類表、米国国立医学図書館分類表又は文庫固有の分類表等を適用するものとする。
- (2) 目録情報は、日本目録規則又は英米目録規則等に基づき作成するものとし、特に重要な目録情報の作成にあたっては、最新の注意を払う。

(装備)

第7 資料の装備は、次の各号によるものとする。

- (1) 新たに受入れた資料への蔵書印の押印、登録番号の付番及びラベルの貼付の際は、書誌的に重要な箇所を避け、かつ、原形を損なうことのないよう注意する。
- (2) 和装本、卷子本及び一枚もの等は、畳紙、袋、函等を作成して収納する。

(保管)

第8 資料の保管は、次の各号によるものとする。

(1) 資料は、中央図書館にあっては特別資料室又は保存書庫、医学系分館にあっては医学系分館貴重資料室又は医学部記念館資料室、自然科学系図書館にあっては貴重資料室（以下「資料室」という。）に配架するものとする。

(2) 資料室は、防虫、除湿等に必要な措置を講じ、資料を損傷することのないよう十分注意するものとする。

(補修)

第9 資料の補修を行う場合は、慎重に形態・保存状況等を見極め、有識者の意見を徴した上で、必要に応じて専門業者に委託するものとする。

(利用)

第10 資料の利用は、金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料利用内規に定めるところによるものとする。

附 則

この要項は平成14年9月11日から施行する。

附 則

この要項は平成22年12月6日から施行する。

附属図書館の活動(平成20年度～26年度)

1 文書等

年度	月	館	内容
H21	12	全	「金沢大学附属図書館 基本理念と目標」策定
H22	5	医	「医学系分館将来構想計画 ～次世代ハイブリッド医学図書館を目指して～：医学系分館将来構想検討ワーキンググループ報告書」作成
H23	3	中	「中央図書館狭隘化対策WG検討報告書」作成
H25	11	全	「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」策定
H25	11	全	「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」策定

2 声明, 決議, 協力協定締結等

H24	6	全	「学習支援促進のための金沢大学, 名古屋大学, 静岡大学の3大学附属図書館連携事業」締結
H25	1	全	「金沢大学附属図書館、金沢美術工芸大学附属図書館及び金沢市図書館における貸出カードの共通使用に関する覚書」

3 新規に開始した継続実施サービス, 事業, イベント等 ※ イベントの個々のタイトル等は4に記載

H20～		全	教員おすすめ図書コーナー 金大生のための読書案内ー教員から学生へー
～H21		中	暁烏記念式・講演会
H21～		中	図書館学生ボランティア「とぼら」
H21～25		中	明後日朝顔プロジェクト金沢in金沢大学中央図書館
H22～	4	中	「ほん和かふえ。」営業開始
H22～	5	中	EUカフェ(年1回, 5月, 学内教員が「ほん和かふえ。」でEUの話題についてミニ講演・対談)
H22～	5	中	EU講演会(数年に1回, EU関係者による講演)
H22～	8	中	サマーアドベンチャー(オープンキャンパスにあわせて開催する高校生向けセルフツアー企画)
H22～24		中	金沢美大との共催による展示と講演会
H22～		中	ブックリユース市(年2回程度 中央図書館で実施)
H23		中	ほん和かライブ(中央図書館ブックラウンジを利用したイベントを公募形式で随時実施)
H23～		中	利用者参加の防災訓練(毎年秋に実施)
H23～25		中	図書館外壁にイルミネーション設置(創基150年事業の一環で実施)
H24～		全	金沢大学附属図書館ECO学習コンクール
H25～		全	ラーニングアドバイザー制度
H25～		中	ビブリオバトル
H25～		中	学習支援相談所設置
H25～		全	いしかわクールシェアスポット参加
H25～	8	全	いしかわ環境フェア出展
H25～		中自	留学生オリエンテーション
H26～	10	医	プラタナス・カフェ営業開始

4 図書館主催・共催等による講演会・シンポジウム, 会議等

H20	4	中	第59回 暁烏記念式・講演会「アメリカ人の見た日本の宗教: 地の果てへの旅」(D. K. アンドリューズ氏)
H21	4	中	第60回 暁烏記念式・講演会「念仏の力, 命の言葉」(暁烏照夫氏) 以後中止
	2	自	平成21年度金沢大学附属図書館シンポジウム／DRF-KanNihonkai「大学図書館のミッションと機関リポジトリ ～環日本海域からの情報発信～」
H22	6	中	レクチャー&トーク(ASLE-Japan/文学・環境学会主催) 塩野米松(作家), 生田省悟, 結城正美
	12	中	ミニトーク&座談会 金沢城・三十間長屋に図書館があった?!ー附属図書館の歩みを語るー 越野 正勝(本学元図書館)
	1	中	ギャラリー&アートカフェ「アートで語る」(金沢美大との共催)
	1	中	展覧会「批評と言説: テキストによる展覧会」(金沢美大との共催)
H23	10	自	ワークショップ「グローバルな学術世界と研究: 海外学術雑誌における英語論文執筆と投稿について」(自然科学系図書)
	12	中	附属図書館シンポジウム「芸術の普遍性を創る風土(ローカリティ)の衝撃」を開催(秋元, 日比野, 宮下)(中央図書館オープンスタジオ, 70名)
	1	中	トークイベント&展覧会「美術とマンガ: クロスオーバー・カルチャー」(金沢美大との共催)
H24	01	自	附属図書館シンポジウム「環境との調和を目指す車社会とは」(自然図, 80名) 日産, 高山
	7	自	教育著作権セミナー開催
	11	中	大学生のための読書講座 講師: 中村航(作家) 主催: 金沢大学生協, 読売新聞社, 出版文化産業振興財団
	1	中	展覧会&アートカフェ「彫刻というモノとコト」 講演「彫刻と公共: 愉快的鑑賞法」(金沢美大との共催)
H25	5	中	第1回ヴァーチャル・ミュージアム・セミナー開催
	5	中	EU講演会(「Ireland and the EU」ドナル・ケニアリー(アイルランド大使館副代表))
	7	自	環境学コレクション 公開シンポジウム「里山×里海×文学」
	10	医	医学図書館講演会「よく日本ーだったー『金沢大学医学部創立百五十周年記念誌』の編纂で学んだことー」
	11	中	かふえトーク「ポスターは, 私の夢や希望である」松浦 昇(金沢大学名誉教授)
	11	中	石川県大学図書館協議会特別研修会「学習支援と大学図書館」
	12	自	附属図書館シンポジウム「地球と人類のCO2物語」
	2	中	アクティブラーニング基礎理解研修
	3	医	大学間連携「大学図書館におけるこれからの学習支援: ラーニングコモンズを超えて」
H26	4	全	平成26年度東海北陸地区国立大学図書館協会総会(本部棟6階大会議室)
	9	中	大学間連携共同教育推進事業採択事業「図書館機能強化プログラム」講演会「大学職員のためのレポート作成指導法講
	1	中	シンポジウム「宮本憲一、戦後日本公害史を語る」の開催協力(主催: 地域政策研究センター, 協力: 附属図書館)

5 図書館主催・共催等による展示等

H20	5	中央	EU資料展 EU資料に親しもう!
	10	中央	うけつがれた「モノ」たち-明治・大正・昭和の掛図・模型- (資料館と共催)
	12	中央	就職支援図書展示
H21	4～5	中央	新歓展示 全学類長による「私の薦める一冊～新入学の諸君へ～」
	5	中央	EU資料展 EU資料に親しもう!
	8,10	中央	特別資料展示 時をかける絵はがき: 100年前は...
	11	中央	特別資料展示 古地図で金沢散歩
	11-12	中央	就職支援図書展示 就職にカツ!
H22	4	中央	特別資料展「棟方板画愛染品 と 俳味大鑑(暁烏文庫より)」
	4	中央	トップに聞く「記憶に残る一冊」展

	5	中央	EU資料展 EU資料に親しもう！
	6	中央	環境文学特別パネル&おすすめ図書展示 (ASLE-Japan/文学・環境学会主催)
	8	中央	教科書展(オープンキャンパス)
	10-11	中央	資料館特別展協賛図書展
	10	中央	国際オープンアクセスウィークパネル展示
	11	中央	就職支援図書展
	12-3	中央	倉田徹先生サントリー賞受賞に関する展示
H23	1-3	中央	“武士の家計簿”の磯田道史先生サイン本展示
	1	中央	人文社会科学系学術図書出版助成による「金沢大学人間社会研究叢書」第1巻を展示
	1-2	中央	展覧会「批評と言説:テキストによる展覧会」
	4-5	中央	学内共同教育研究センター長による「わたしの薦める一冊 ～ 新入生の諸君へ ～」
	5	中央	EU資料展 2011
	8	中央	教科書展(オープンキャンパス)
	9	中	暁烏文庫展
H24	4	中央	学生サークル代表者による「私の薦める一冊 ～ 新入生の皆さんへ ～」
	5	中央	EU資料展 2012「EUとユーロ」
	6	全	祝・創基150年「金沢大学創基150年史」
	8	中央	オリンピックの地に見るイギリス文学
	8	中央	教科書展(オープンキャンパス)
	10	中央	外国語教育センター語学教材特別展
	11	中央	そうだ金沢大学附属図書館へ行こう～泉鏡花文学賞Week[共催事業]
	11-12	中央	金沢大学人間社会研究叢書
	12	中央	グリム童話誕生200年展
	12-2	中央	ビブリオバトルで紹介された本
H25	4	中央	新歓展「貸出ベスト10+α」
	5	中央	EU資料展「ヨーロッパの物語～ワグナー生誕200年に寄せて～」[石川EU協会, 石川日独協会共催]
	5-2	中央	国立女性教育会館図書パッケージ貸出サービス
	6	中医	風土を彫る:谷内正遠木版画展
	7-8	中央	フェアトレード展 協力企画, 学生サークルKuLOs主催]
	8	中央	「教科書展」<オープンキャンパス>
	10	中央	「国際ガールズ・デー関連BOOK FAIR」[協力企画, 学生サークルEn2主催]
	10	自然	企画展示「ブルーボックス祭(講談社ブルーボックス展)」
	11	中医	ポスターは”時代の鏡”である!?:松浦昇展
	11-12	中央	いざ, 就活(就職支援図書展)[就職支援室との共催]
	11-12	自然	企画展示「理系英語を鍛える」
	1-2	自然	企画展示「鉄の馬」
	1-2	中央	図書館の本をPOPで展示(平成24年度「中等国語科教育法A」課題発表展)
	2	自然	企画展示「科学オリンピックを楽しむ」
	3-4	中央	図書館の本をPOPで展示(第2期)(平成25年度「中等国語科教育法A」課題発表展)
H26	4-5	自然	企画展示「学術雑誌を読もう」
	5	中央	EU資料展「EU加盟国へ留学したら」
	6	中央	米澤穂信氏著作展示:山本周五郎賞受賞記念
	7-8	自然	企画展示「海」
	8	中央	特別展示「超・過去問」
	10	自然	企画展示「宇宙」
	10-12	中央	ミニ展示「2014年ノーベル賞受賞者の著作とその関連本」
	10-11	中央	短歌で詠む恋の記憶～記憶からたどる物語:学生課題発表展 & 万葉の時代に遡る日本の恋の短歌
	11	医学	貴重書展示
	11	中央	創作短歌コンクール&応募作品展示
	11	自然	ECO学習コンクール入賞作品展
	11-12	自然	企画展示「リクエスト購入図書」
	11-12	中央	「いざ, 就活(就職支援図書展)」
	1-2	中央	とぼらおススメ図書
	1-2	中央	ミニ展示「ビブリオバトルを戦った本たち」
	1-2	自然	企画展示「金沢の冬-雪と雷-」
	2-3	自然	企画展示「金沢に新幹線がやってくる」

6 広報用資料の作成

※ 定期的なもの以外

H21	4		新入生オリエンテーション用 DVD「図書館ナビ～めざせ達人～」
H23	4		新入生オリエンテーション用 DVD「図書館へ行こう！」

7 外部資金, 寄付金の受入

H17～24		全	次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(金沢大学学術情報リポジトリKURAの構築)
H22		中	田嶋記念大学図書館振興財団(四高掛図保存用品棚の購入)
H24		医	金沢大学医学部十全同窓会(医学図書館の増改修)
H24～		全	大学間連携共同教育推進事業(ラーニングアドバイザー, 学習支援相談所, 講演会等の実施)
H26～		全	スーパーグローバル大学創生支援事業(国際交流ルームの整備)

8 企業との連携

H20～		全	北陸銀行文庫(本学と北陸銀行との間に締結した「包括的連携協力協定に関する覚書」事業の一環として中央図書館に設置し, 寄贈を受けた図書を配架, H24～ 医学図書館, H26～ 自然科学系図書館にも設置)
H23～24		自	環境学コレクション日産コレクション(日産自動車から寄贈を受けた環境学関連の資料を自然科学系図書館に配架)

9 海外調査出張

H20	11		SPARC Digital Repositories Meeting 2008に出席, アメリカ国立医学図書館, ジョージ・メイソン大学, コロンビア大学訪問, 出張者:内島秀樹, 川井奏美)
-----	----	--	--

H24	3		金沢, 名古屋, 静岡大学3大学連携で海外調査(香港科技大, 香港大, 香港城市大(以上香港), 南洋理工大, シンガポール国立大, 出張者:橋 洋平)
H24	3		金沢, 名古屋, 静岡大学3大学連携で海外調査(モナシュ大, ディーキン大, ビクトリア大, マッコーリー大, シドニー工科大, シドニー大, 出張者:池上佳芳里)
H24	10		米国の大学図書館への調査出張(ロチェスター大学, ジョージア工科大学, 出張者:野田晶子, 川井奏美)

10 各年度のその他の出来事

年度	月	館	サービスの変更, コーナーの設置, 施設・設備の整備等
H20	9-10	全	附属図書館アンケート実施
	1	自然	図書館長と学生の懇談会
	2	医学	医学図書館未登録図書の一部を医学類E棟地下書庫に移動
	2	全	館内全域で無線LANが利用可能になる
H21	4	全	アカンサスポータルとの利用者データ等の連携
	4	自然	24時間開館中止。平日(通常期間)の開館時間を22:00までに延長。
	4	中央	平日の開場時間繰り上げ(8:30)実施
	9	中央	とぼら選書コーナー設置
	10	全	貸出中資料のメール通知サービス開始
H22	4	中央	ラーニングコモンズ設置,「ほん和かふえ。」営業開始
	4	全館	「図書館利用券」として利用できる職員証及び学生証のICカード化
	4	全館	学内LANIに無線LAN接続されたノートPCから1枚10円で印刷可能に
	4	中央	書庫とトイレの照明が人感センサー化
	10	中央	資料館側扉の自動ドア化(扉オープンセレモニー)
H23	4	自然	環境学コレクション及びAVブースを設置
	4	保健	保健学類図書室の土曜日開室時間を, 13:00-17:00から10:00-17:00へ延長
	4	中央	オープンスタジオに学習支援文庫設置
	6	中央	大学会館側玄関にパラソルを設置
	8	自然	入館ゲートを更新
	10	医学	医学系分館, 増改修工事の開始に伴い附属病院旧外来診療棟内に仮移転
H24	5	全館	金沢大学所蔵貴重資料リポジトリ公開
	6	自然	留学生サービスに関するアンケートの実施
	7	中央	環境学コレクションユネスコスクールセクションを設置
	7	中央	いしかわ事業者版環境ISO登録
	8	全館	OPACに統合検索機能を追加
	9	中央	中央図書館オープンスタジオの壁面の全面ホワイトボード化
	11	中央	音声・拡大読書機を設置
	3	医学	医学図書館竣工式
	3	医学	北陸銀行文庫を医学図書館にも設置
	3	全館	図書館Webサイトのデザインの見直し
H25	4	全館	金沢大学所蔵貴重資料リポジトリの金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトへの統合
	5	全館	公式Facebookページ開設
	7	自然	自然科学系図書館利用者アンケート
	8	保健	開館時間を延長(夏季休業期間中の平日の閉館時間を22:00まで延長)
	9	医学	自動販売機を設置
	10	全館	ラーニング・アドバイザー制度運用開始
	11	医学	医学図書館モニュメント除幕式
	11	医学	開館時間を延長(土:閉館時間を17:00まで延長, 日曜日:臨時開館)
	12	全	ひかり(金沢大学附属図書館メールニュース)を廃刊
	1	自然	留学生コーナーを新設
H26	4	全	金沢市図書館及び金沢美術工芸大学附属図書館の利用券と一般利用者用利用券を共通化
	9	中央	図書館向けデジタル化資料送信サービス開始
	12	全	ミャンマー工学教育拡充プロジェクトへの不要図書の提供
	1	中央	留学支援コーナーの設置
	1	全	西安電子科技大学(本学協定校)への不要図書の提供
	1	中央	ブックラウンジの音響設備の更新
	2-3	中央	2Fトイレ改修工事
	3	全	OPAC plusの利用案内動画(日本語版, 英語版)の作成 ICT教材作成費獲得

11 受賞記録

H25	6	全	北陸情報通信協議会表彰(柴田正良附属図書館長)
	2	全	東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテスト 優秀賞(金沢大学附属図書館学術情報リテラシー教育推進WGの活動に対して)
H26	12	全	いしかわ事業者版環境ISO 優良活動表彰
	2	全	東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテスト 最優秀賞(金沢大学附属図書館学術情報リテラシー教育推進WGの活動に対して)

「平成26年度学術情報基盤実態調査」(文部科学省)による他大学(国立大学)との比較表

● 「平成26年度学術情報基盤実態調査」(平成27年7月現在公表されている最新版)

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001015878>

全体の統計とA～Dの大学規模別の集計値が公表されている。

資料中に記載のA, Bクラスの内訳は以下のとおり。金沢大学はAクラスに分類されている。

Aクラス (8学部以上)19校

北海道大学・東北大学・千葉大学・東京大学・新潟大学・**金沢大学**・信州大学・名古屋大学
京都大学・大阪大学・神戸大学・岡山大学・広島大学・山口大学・九州大学・長崎大学
鹿児島大学・筑波大学・富山大学

Bクラス (5～7学部)16校

弘前大学・山形大学・茨城大学・埼玉大学・岐阜大学・静岡大学・三重大学・徳島大学・愛媛大学
熊本大学・琉球大学・総合研究大学院大学・島根大学・香川大学・高知大学・佐賀大学

● (参考)

平成26年度学術情報基盤実態調査結果報告

<http://www.janul.jp/j/documents/mext/jittai26kekka.pdf>

平成26年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告(概要) * 文末に添付

<http://www.janul.jp/j/documents/mext/jittai26gaiyo.pdf>

● 算出方法の相違により、一部の項目については、図書館概要等の数値と異なる。

〔I 総括事項〕 GENERAL ITEMS

平成26年5月1日現在

区分 Section	大学数 Number of colleges and universities	教員数 Academic staff (Teaching and research)	職員数 Non-academic staff	学生数 Students	大学図書館数			
					中央図書館 Main libraries	分館 Branch libraries	部局図書館・室 Departmental libraries	計 Total
	大学	人	人	人	館	館	館・室	館・室
金沢大学		1,098	1,098	10,538	1	2	0	3
Aクラス平均	19	1,902	2,129	15,789	19	47	109	175
Bクラス平均	16	699	977	7,563	16	18	4	38

※教員数、職員数、学生数は学校基本調査(平成26年5月1日現在)を特別集計したものです。

※教員数は特任教員を含めると1,207人

[Ⅱ 個別事項] LIBRARY ITEMS

1. 図書館・室の職員 LIBRARY STAFF
1-1 職務内容別 JOB SPECIFICATION

①専任職員・臨時職員 Regular staff, Non-regular staff 平成26年5月1日現在

区分 Section	図書館・室職員総数 Grand Total			管理職 Admini- strative staff	専 門																					その他 Others			業務全般 Staff not specified		
	専任 Regular staff	臨時 Non- regular staff	計 Total		一 般			情報処理 Information processing			受入 Acquisition			整理 Technical processing			閲覧 Circulation			参考 Reference			計 Total								
					専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.						
					人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
金沢大学	24	51	75	4	3	1	4	1	1	2	2	4	6	3	4	7	2	31	33	2	4	6	10	44	54	0	0	0	7	6	13
Aクラス平均	50	56	106	6	4	3	6	2	1	3	9	8	17	5	8	13	9	21	29	4	3	7	28	41	69	2	4	7	10	8	18
Bクラス平均	14	21	35	2	2	1	3	1	0	1	3	3	5	1	3	4	2	8	9	1	2	3	7	15	22	0	4	4	2	2	4

※その他:管理職, 一般, 専門, 業務全般以外の業務に従事している者

②業務委託等職員 Outsourcing staff 平成26年5月1日現在

区分 Section	総数 Total	管理職 Managerial staff	一 般	専 門						その他 Others	業務全般 Staff not specified
			庶務・会計 General affairs, accounting	情報処理 Information processing	受入 Acquisitio n	整理 Technical processing	閲覧 Circulation	参考 Reference	計 Total		
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
金沢大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Aクラス平均	5	0	0	0	0	0	3	0	3	1	1
Bクラス平均	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0

※その他:管理職, 一般, 専門, 業務全般以外の業務に従事している者

1-2 資格別 QUALIFICATIONS

平成26年5月1日現在

区分 Section	情報処理技術者 Data processing specialists			司書 Librarians			司書補 Trained assistants			国立大学法人等職員採用試験 (事務系(図書)) (国立大学のみ)		
	専任 Regular staff	臨時 Non-regular staff	計 Total	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.	専任 R.	臨時 N-R.	計 T.
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
金沢大学	0	0	0	16	11	27	0	0	0	10	0	10
Aクラス平均	2	1	3	40	30	70	1	0	1	33	0	33
Bクラス平均	1	0	1	9	5	14	0	0	0	5	0	5

2. 施設・設備 LIBRARY BUILDINGS AND FACILITIES
2-1 面積・閲覧座席数 FLOOR SPACE, SEATING CAPACITY

平成26年5月1日現在

区分 Section	総面積数 Total floor space	用途別面積 Space							閲覧座席数 Number of seats
		サービススペース				管理スペース		その他 Others	
		閲覧スペース Reading room	視聴覚スペース AV room	情報端末スペース Computing facility	その他 Others	書庫 Stacks	事務スペース Office		
	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	席
金沢大学	19,740	6,363	212	221	2,234	4,224	1,189	5,297	2,038
Aクラス平均	27,715	8,825	323	534	1,856	9,031	2,340	4,806	1,957
Bクラス平均	9,141	2,910	115	228	803	2,852	733	1,501	827

※その他: サービススペース, 管理スペースに該当しないすべての廊下, 階段, 便所等

2-2 書架収容力 SHELF CAPACITY

平成26年5月1日現在

区分 Section	書架収容力 Shelf capacity	
	棚板延長 Total shelves	収容可能冊数 Vols.
	m	冊
金沢大学	54,619	1,517,189
Aクラス平均	107,612	2,989,218
Bクラス平均	29,849	829,130

2-3 図書館利用者用端末台数
COMPUTERS FOR USERS

平成26年5月1日現在

区分 Section	図書館利用者用端末台数 Computers for users		
	据置き Static	貸出し For rent	合計 Total
	台	台	台
金沢大学	69	15	84
Aクラス平均	175	20	196
Bクラス平均	71	13	84

3. 蔵書数 LIBRARY HOLDINGS

平成25年度末現在

区分 Section	印刷物の蔵書数 Printings								
	図書 Books				雑誌 Serials				学位論文 (博士論文) Theses
	全所蔵冊数 Total	和 Japanese	洋 Foreign	点字 Braille	全所蔵 種類数 Total	和 Japanese	洋 Foreign	点字 Braille	
	冊	冊	冊	冊	種	種	種	種	冊
金沢大学	1,856,544	1,182,126	674,418	0	36,000	21,544	14,426	0	1,918
Aクラス平均	3,084,746	1,767,173	1,317,508	66	56,719	32,306	24,413	0	18,646
Bクラス平均	903,988	629,850	274,121	17	18,522	12,738	5,784	0	1,514

平成25年度末現在

区分 Section	電子情報資源の利用可能種類数 Electronic resources								
	電子ジャーナル Electronic journals								
	全利用可能種類数 Total			出版社 Publisher			その他 Others		
	国内 Domestic	国外 International	計 Total	国内 Domestic	国外 International	計 Total	国内 Domestic	国外 International	計 Total
	種	種	種	種	種	種	種	種	種
金沢大学	1,023	6,594	7,617	56	6,388	6,444	967	206	1,173
Aクラス平均	1,525	20,110	21,634	21	7,505	7,525	1,504	12,605	14,109
Bクラス平均	845	9,186	10,030	48	5,874	5,921	797	3,312	4,109

※その他：多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービスを行う業者から購入しているもの（いわゆる「アグリゲータ」）

平成25年度末現在

区分 Section	電子情報資源の利用可能種類数 Electronic resources						
	電子書籍 Electronic books			データベース Databases			学位論文 (博士論文) Theses
	国内 Domestic	国外 International	計 Total	国内 Domestic	国外 International	計 Total	
	タイトル	タイトル	タイトル	種	種	種	件
金沢大学	154	1,388	1,542	6	16	22	148
Aクラス平均	529	19,179	19,708	14	23	36	1,187
Bクラス平均	288	12,674	12,962	8	6	13	480

平成25年度末現在

区分 Section	区分 Section	視聴覚資料所蔵数 Audio-visual materials							
		全所蔵数 Total	マイクロフィルム Microfilms	マイクロフイツ シュ Microfiches	カセットテープ Cassette tapes	ビデオテープ Video tapes	CD・LD・DVD・ BD	レコード Audio dishes	その他 Others
		タイトル	タイトル	タイトル	タイトル	タイトル	タイトル	タイトル	タイトル
金沢大学	金沢大学	8,123	829	198	18	1,966	4,591	11	510
Aクラス平均	Aクラス平均	26,132	9,290	5,902	769	3,081	5,475	346	1,268
Bクラス平均	Bクラス平均	5,948	1,680	444	244	1,340	1,887	72	280

※その他：CD-ROM，DVD-ROM，スライド等

4. 図書・雑誌受入数 ACQUISITIONS
4-1 図書受入数 VOLUME ADDED

平成25年度

区分 Section	購入 Purchase			寄贈 Gift			その他 Others			合計 Total		
	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total
	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
金沢大学	16,473	2,929	19,402	4,221	1,468	5,689	1,802	998	2,800	22,496	5,395	27,891
Aクラス平均	18,113	5,813	23,926	8,784	3,584	12,368	2,487	3,163	5,650	29,384	12,560	41,944
Bクラス平均	6,180	772	6,953	1,736	355	2,091	318	389	707	8,234	1,516	9,750

※その他:雑誌を合冊・製本し図書台帳に記載した, いわゆる図書扱いをしたもの

4-2 雑誌受入数 CURRENT SERIALS

平成25年度

区分 Section	購入 Purchase			寄贈 Gift			その他 Others			合計 Total		
	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total
	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
金沢大学	1,032	644	1,676	4,266	289	4,555	57	2	59	5,355	935	6,290
Aクラス平均	1,800	1,854	3,654	4,933	691	5,624	49	83	133	6,783	2,628	9,411
Bクラス平均	671	338	1,009	2,064	148	2,212	4	1	4	2,738	487	3,225

※その他:図書館又は大学の予算で自家生産した雑誌(研究報告, 紀要等)

5. サービス状況 SERVICE
5-1 開館状況 OPEN HOURS

平成25年度																					
区分 Section	図書館・室数 Number of libraries	開館状況 Open hours																			
		年間開館日数 Open days per year			平日開館 Weekday Services						土曜開館 Saturday service						休日開館 Holiday service				
		総日数 Total days	1館平均 Average	総日数 Total days	総時間数 Total hours	うち時間外開館 Additional open hours				実施館数 Number of libraries	実施率 Ratio	総日数 Total day	1館平均 Average	土曜開館 総時間数 Total hours	5分時間外 Additional open hours	実施館数 Number of libraries	実施率 Ratio	総日数 Total days	1館平均 Average	休日開館 総時間数 Total hours	
						実施館数 Number of libraries	実施率 Ratio	総時間数 Total hours	1館平均 Average												
館	日	日	日	時間	館	%	時間	時間	館	%	日	日	時間	時間	館	%	日	日	時間		
金沢大学	3	882	294	712	9,606	3	100.0	4,129	1,376	3	100.0	108	36	771	771	3	100.0	62	21	475	
Aクラス	175	50,078	286	40,346	530,527	128	73.1	209,706	1,638	114	65.1	4,778	42	67,501	66,890	94	53.7	4,954	53	81,707	
Bクラス	38	12,139	319	8,839	139,997	38	100.0	66,609	1,753	38	100.0	1,540	41	21,832	21,536	37	97.4	1,760	48	25,890	

5-2 長期休業期間中の開館日数 OPEN DAYS DURING HOLIDAYS
(中央図書館)
(Main

平成25年度				
区分 Section	夏季 Summer	冬季 Winter	春季 Spring	計 Total
	日	日	日	日
金沢大学	38	5	46	89
1大学平均 (国立大学)	34	4	26	64
(回答大学 数)	86	86	86	86

(全体)
(Total)

平成25年度				
区分 Section	夏季 Summer	冬季 Winter	春季 Spring	計 Total
	日	日	日	日
金沢大学	35	4	36	75
1館平均 (国立大学)	34	4	25	63
(回答館 数)	290	290	290	290

5-3 時間外開館状況 ADDITIONAL OPEN HOURS
(中央図書館) (Main libraries)

平成25年度							
区分 Section	実施してい ない not open	2時間未満 under 2 hours	2時間以上 3時間未満 2 to 3 hours	3時間以上 4時間未満 3 to 4 hours	4時間以上 over 4 hours	24時間開館 24 hours	合計 Total
国立大学 National univ.	大学 0	大学 0	大学 0	大学 8	大学 78 (金沢大学含む)	大学 10	大学 86
構成比(%)	0.0	0.0	0.0	9.3	90.7	11.6	100.0

平成25年度							
区分 Section	実施してい ない not open	2時間未満 under 2 hours	2時間以上 3時間未満 2 to 3 hours	3時間以上 4時間未満 3 to 4 hours	4時間以上 over 4 hours	24時間開館 24 hours	合計 Total
国立大学 National univ.	大学 0	大学 0	大学 0	大学 0	大学 86 (金沢大学含む)	大学 10	大学 86
構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	11.6	100.0

平成25年度							
区分 Section	実施してい ない not open	4時間未満 under 4 hours	4時間以上 8時間未満 4 to 8 hours	8時間以上 12時間未満 8 to 12 hours	12時間以上 over 12 hours	24時間開館 24 hours	合計 Total
国立大学 National univ.	大学 5	大学 0	大学 29	大学 37 (金沢大学含む)	大学 15	大学 10	大学 86
構成比(%)	5.8	0.0	33.7	43.0	17.4	11.6	100.0

(全体) (Total)

平成25年度							
区分 Section	実施してい ない not open	2時間未満 under 2 hours	2時間以上 3時間未満 2 to 3 hours	3時間以上 4時間未満 3 to 4 hours	4時間以上 over 4 hours	24時間開館 24 hours	合計 Total
国立大学 National univ.	館 54	館 0	館 6	館 36	館 194 (金沢大学含む)	館 55	館 290
構成比(%)	18.6	0.0	2.1	12.4	66.9	19.0	100.0

平成25年度							
区分 Section	実施してい ない not open	2時間未満 under 2 hours	2時間以上 3時間未満 2 to 3 hours	3時間以上 4時間未満 3 to 4 hours	4時間以上 over 4 hours	24時間開館 24 hours	合計 Total
国立大学 National univ.	館 73	館 0	館 0	館 0	館 217 (金沢大学含む)	館 54	館 290
構成比(%)	25.2	0.0	0.0	0.0	74.8	18.6	100.0

平成25年度							
区分 Section	実施してい ない not open	2時間未満 under 2 hours	2時間以上 3時間未満 2 to 3 hours	3時間以上 4時間未満 3 to 4 hours	4時間以上 over 4 hours	24時間開館 24 hours	合計 Total
国立大学 National univ.	館 108	館 1	館 50 (金沢大学含む)	館 56	館 75	館 54	館 290
構成比(%)	37.2	0.3	17.2	19.3	25.9	18.6	100.0

5-4 館外貸出サービス LENDING SERVICE

平成25年度

区分 Section	実施館数 Number of libraries	教職員 Faculty and staff		学生 Students		学外者 Others		合計 Total		
		貸出冊数 Volumes	1館平均 Average	貸出冊数 Volumes	1館平均 Average	貸出冊数 Volumes	1館平均 Average	貸出冊数 Volumes	1館平均 Average	1日平均(*) Average per day
	館	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
金沢大学	3	13,496	4,499	116,860	38,953	5,891	1,964	136,247	45,416	154
Aクラス	165	537,467	3,257	3,622,670	21,956	123,996	751	4,284,133	25,964	86
Bクラス	38	89,587	2,358	871,591	22,937	48,962	1,288	1,010,140	26,583	83

(*) 貸出冊数/総開館日数

5-5 参考業務 REFERENCE SERVICE

※1館当たりの平均										平成25年度
区分 Section	実施館数 Number of libraries	利用者別件数 Users (Number of requests)				業務内容別件数 Type of service				合計 Total
		学内者 University members			学外者 Others	文献所在調査 Bibliographic search	事項調査 Fact search	利用指導 Guidance	その他 Others	
		教職員 Faculty and staff	学生 Students	計 Total						
	館	件	件	件	件	件	件	件	件	件
金沢大学	3	437	1,751	2,187	454	1,507	33	997	105	2,642
Aクラス	160	383	1,118	1,500	318	864	125	761	68	1,819
Bクラス	38	364	1,192	1,556	222	819	228	690	40	1,777

※その他: 文献所在調査, 事項調査, 利用指導以外の対応。金沢大学では、図書館外の道案内、ネットワークIDやパスワード紛失の問い合わせに対する対応等

5-6 文献複写 PHOTOCOPYING SERVICE

平成25年度

区分 Section	実施館数 Number of libraries	実施率 Ratio	利用者別件数 Users (Number of requests)					複写形態別 Types of photocopy				
			学内 University members	学外 Others			合計 Total	1館平均 Average for library	電子複写 Facsimile (Sheet)	1館平均 Average (Sheet)	マイクロフ ィルム Microfilms (Image)	マイクロ フィッシュ Microfiches (Sheet)
				大学図書 館 College and university	その他 Others	計 Total						
	館	%	件	件	件	件	件	件	枚	枚	コマ	シート
金沢大学	3	100.0	5,732	4,146	2,009	6,155	11,887	3,962	70,600	23,533	506	0
Aクラス	152	86.9	735,501	158,208	126,051	284,259	1,019,760	6,709	9,809,222	64,534	125,368	5,235
Bクラス	38	100.0	167,655	40,779	9,981	50,760	218,415	5,748	1,294,376	34,063	3,175	86

※その他:大学図書館以外の公共図書館, 試験研究機関等の図書館

5-7 図書館間相互協力 INTERLIBRARY LOAN SERVICE

平成25年度

区分 Section	実施館数 Number of libraries	実施率 Ratio	図書・雑誌の貸借 Books and serials											
			貸出 Lent						借受 Borrowed					
			国内 Domestic			国外 Internation al	合計 Total	1館平均 Average	国内 Domestic			国外 Internation al	合計 Total	1館平均 Average
			大学図書 館 College and university	その他 Others	計 Total				大学図書 館 College and university libraries	その他 Others	計 Total			
	館	%	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
金沢大学	3	100.0	637	361	998	1	999	333	658	355	1,013	1	1,014	338
Aクラス	152	86.9	25,576	3,055	28,631	152	28,783	189	25,382	4,786	30,168	344	30,512	201
Bクラス	38	100.0	5,139	2,363	7,502	26	7,528	198	5,867	2,111	7,978	5	7,983	210

※その他:大学図書館以外の公共図書館, 試験研究機関等の図書館

区分 Section	実施館数 Number of libraries	実施率 Ratio	文献複写 Photocopy											
			受付 Requests received						依頼 Requests made					
			国内 Domestic			国外 Internation al	合計 Total	1館平均 Average	国内 Domestic			国外 Internation al	合計 Total	1館平均 Average
			大学図書 館 College and university	その他 Others	計 Total				大学図書 館 College and university libraries	その他 Others	計 Total			
	館	%	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
金沢大学	3	100.0	4,146	594	4,740	173	4,923	1,641	3,534	472	4,006	14	4,020	1,340
Aクラス	152	86.9	135,788	33,618	169,406	1,253	170,659	1,123	100,664	9,889	110,553	942	111,495	734
Bクラス	38	100.0	36,413	5,332	41,745	645	42,390	1,116	46,728	2,979	49,707	598	50,305	1,324

※その他:大学図書館以外の公共図書館, 試験研究機関等の図書館

6. 経費 EXPENDITURES

6-1 図書館資料費 LIBRARY MATERIALS EXPENDITURES

平成25年度

区分 Section	図書 Books			雑誌 Serials		
	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total	和 Japanese	洋 Foreign	計 Total
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
金沢大学	89,521	40,654	130,175	18,573	17,500	36,073
Aクラス平均	94,494	72,884	167,378	30,527	88,543	119,070
Bクラス平均	25,812	7,729	33,542	10,465	17,286	27,750

平成25年度

区分 Section	電子ジャーナル Electronic journal:								
	出版社 Publisher			その他 Others			計 Total		
	国内 Japanese	国外 Foreign	計 Total	国内 Japanese	国外 Foreign	計 Total	国内 Japanese	国外 Foreign	計 Total
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
金沢大学	661	170,299	170,960	2,704	668	3,372	3,365	170,967	174,332
Aクラス平均	1,069	311,883	312,952	2,362	8,282	10,644	3,431	320,165	323,596
Bクラス平均	270	94,542	94,812	1,379	1,517	2,895	1,648	96,059	97,707

※その他：多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービスを行う業者から購入しているもの（いわゆる「アグリゲータ」）

- a 図書館資料費
- b 人件費
- c 図書館・室運営費
- d 図書館総経費
- e 大学総経費

平成25年度

区分 Section	電子書籍 Electronic books			データベース Databases			その他 Others	a 合計 Total	a/d × 100	a/e × 100
	国内 Japanese	国外 Foreign	計 Total	国内 Japanese	国外 Foreign	計 Total				
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	%	%
金沢大学	236	408	644	2,924	33,824	36,748	4,000	381,972	76.2	0.7
Aクラス平均	1,877	9,562	11,439	8,209	42,015	50,224	9,975	681,681	55.2	0.9
Bクラス平均	861	966	1,827	3,403	13,097	16,500	2,921	180,247	50.4	0.7

※その他：図書、雑誌、電子ジャーナル、電子書籍、データベース以外の資料。金沢大学では、電子ジャーナルバックアーカイブ購入経費

6-2 図書館・室運営費 LIBRARY OPERATING EXPENDITURES

- a 図書館資料費
- b 人件費
- c 図書館・室運営費
- d 図書館総経費
- e 大学総経費

平成25年度

区分 Section	b 人件費 Salaries and wages	b/d× 100	その他の 経費 Other operating expenditu res	c 合計 Total	c/d× 100	c/e× 100	d=a+c 図書館総 経費 Grand total	d/e× 100	e 大学総経 費 Total university appropriatio n
	千円	%	千円	千円	%	%	千円	%	千円
金沢大学	192,864	38.5	56,909	249,773	49.8	0.5	501,570	1.0	52,106,277
Aクラス平均	403,247	32.7	150,097	553,345	44.8	0.7	1,235,026	1.6	78,273,380
Bクラス平均	110,058	30.8	67,208	177,266	49.6	0.7	357,513	1.3	26,780,822

※その他の経費：経常的備品費、経常的消耗品費、印刷製本費、光熱水料、通信運搬費、電子計算機、複写機等賃借契約に基づき導入している機器の賃借料、会議費、職員旅費、業務委託経費等

平成 26 年度「学術情報基盤実態調査」について（概要）

1 調査の概要

目 的： 国公立大学の学術情報基盤（大学図書館、コンピュータ及びネットワーク等）の現状を明らかにし、その改善・充実のための基礎資料とする。
対 象： 国公立大学計 779 校（国立 86、公立 86、私立 607）（回答率 100%）。
方 法： インターネットを利用したオンライン調査システムにより回答。
基準日： 図書館経費、図書数等は平成 25 年度末、学内 LAN 等は平成 26 年 5 月 1 日。

2 調査結果の主な内容

《大学図書館編》

（1）図書館資料費及び図書館運営費

平成 25 年度の図書館運営費の総額は、前年度と比べて 2.8%（約 23 億円）減少している。一方、図書館資料費の総額は、これまでの減少傾向に対し、1.4%（約 10 億円）増となっている。（5 頁）

⇒ 図書館資料費は、大学の研究教育活動を支える基盤として不可欠であり、本年度の増加は、電子ジャーナル経費の増加が背景にあると想定される。

（2）図書館資料費の内訳

平成 25 年度の図書館資料費の総額（約 706 億円）のうち、電子ジャーナルに係る経費は 34.9%（約 246 億円）であり、前年度と比べて 8.1%（約 18 億円）増加した。一方、紙媒体による図書や雑誌に係る経費は減少している。（6 頁）

⇒ 電子ジャーナル経費の増加は、①電子ジャーナル価格の上昇、②外国為替変動の影響（円安）、③ジャーナルの電子化の進展等が影響している。文部科学省では、平成 26 年 8 月の「ジャーナル問題に関する検討会」の報告書を踏まえ、①大学に電子ジャーナル契約形態の適切な見直しを促すとともに、②研究成果を無償で公開・流通させるオープンアクセスの推進等に取り組んでいる。

オープンアクセス支援の関連施策としては、

- ①科学研究費助成事業を通じて、学協会の電子ジャーナルやオープンアクセスジャーナル刊行に必要な経費を支援、
 - ②科学技術振興機構の J-STAGE により、学協会向けに電子ジャーナルのためのプラットフォームを整備・提供、
 - ③国立情報学研究所の JAIRO-Cloud により、大学の機関リポジトリ構築のためのプラットフォームを整備・提供、
- などがある。

(3) 電子書籍のタイトル数

大学図書館で導入している電子書籍のタイトル数（延べ数）は、平成 25 年度までに約 470 万タイトルに増加した。その内訳としては、海外出版社によるものが約 97% であり、国内出版社によるものは約 3%となっている。（7 頁）

⇒ 大学図書館で導入している国内出版社の電子書籍のタイトル数が少ない理由は、国内出版社が提供する電子書籍コンテンツ自体が海外のものに比して少ないためである。

なお、文部科学省の科学技術・学術審議会／学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」（平成 25 年 8 月）で紹介されているとおり、洋書については電子化が急速に進んでおり、10 万タイトル以上の電子書籍を提供している大学図書館もある。

(4) 機関リポジトリの構築

機関リポジトリ（教育研究成果をインターネット上で無償公開するシステム）を持つ大学は、平成 25 年度は 373 大学（47.9%）となり、前年度より 100 校以上増加した。（8、9 頁）

⇒ 機関リポジトリは、学術情報流通のオープンアクセスの推進のために重要であるとともに、我が国の知的インフラの構築の一翼を担っている。国立情報学研究所が、大学等における機関リポジトリの構築と運用を支援するため、共用リポジトリサービス「JAIR0 Cloud」を提供していることもあり、我が国の機関リポジトリ数は世界一となっている。

なお、平成 25 年度に、学位規則が改正され、博士論文の公表が原則としてインターネットによることとされたことも、機関リポジトリ数の増加に影響していると想定される。

(5) 学修環境の整備

アクティブ・ラーニング・スペース（複数の学生が集まり、様々な情報資源を活用しつつ議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペース）は、平成 26 年度は 338 大学（43.4%）に設置されており、3 年間で約 2.5 倍に増加した。（10 頁）

⇒ 中央教育審議会答申（平成 24 年 8 月）等において、学士課程教育の質的転換に当たり、学生の主体的な学びを促すアクティブ・ラーニングが推進されていることを背景として、そのためのスペースを設置する大学が増加している。

(6) 管理運営等における課題

組織・運営面では「専門性を有する人材の確保」「教員との協働・連携」を課題として挙げる大学が多い（ともに 70%以上）。経費・設備面では「外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保」を挙げる大学が最も多い（82.7%）。（11、12 頁）

⇒ 「外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保」が課題となっている背景については上記（2）を参照。

(参考)

なお、大学図書館における先進的な取組については、文部科学省のウェブサイトで紹介している。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341375.htm

《コンピュータ及びネットワーク編》

(1) 学内ネットワーク（学内 LAN）の整備

学内 LAN を有する 774 大学のうち、平成 26 年度に、通信速度 1Gbps 以上の回線を整備している大学は 670 大学（86.5%）であり、そのうち 10Gbps 以上とする大学は 186 大学（24.0%）となっている。

対外接続回線の通信速度が 1Gbps 以上の大学は 369 大学（47.6%）である。（13 頁）

⇒ 対外接続に関しては、国立情報学研究所により運用されている学術情報ネットワーク（SINET4）により、日本全国の大学や研究機関をつなぐ回線の基幹的部分が整備されている。次期学術情報ネットワーク（SINET5）では、教育研究の高度化・多様化やクラウド利用の拡大等に対応するため、回線強化（最大 40Gbps→100Gbps）が行われる予定であり、それに伴い、大学間の連携により、大学と SINET5 をつなぐアクセス回線の高性能化を図ることが期待される。

(2) 教育への活用

ネットワークを介した遠隔教育は、平成 25 年度に、281 大学（36.1%）で実施されている。また、講義映像等を電子的に録画・保存し、利活用するデジタルアーカイブは、189 大学（24.3%）で整備されている。（14 頁）

(3) セキュリティ対策

セキュリティポリシーは、平成 26 年度には、すべての国立大学で策定されているが、大学全体では 69.3%（540 大学）の大学で策定されている。

また、学内認証基盤^(注)を構築して、複数の学内システムの統一的な利便性・安全性を高めている大学は 599 大学（76.9%）である。（15 頁）

(注) 学内認証基盤は、教職員や学生が、一つのユーザ ID・パスワード、または公開鍵暗号方式等による電子認証等を活用して、学内にある複数の情報システムを利用できるシステムのことである。

(4) 高速計算機（スーパーコンピュータ）の保有状況

スーパーコンピュータ（最大理論性能が 1.5TFLOPS^(注)以上の科学技術計算用の高速計算機）は、平成 26 年度には、32 大学（4.1%）が保有している。また、101 大学（13.0%）は、ネットワーク接続等により学外の高速計算機を利用している。（16 頁）

（注）TFLOPS＝テラフロップス。フロップスはコンピュータの処理性能を表す単位の一つであり、テラフロップスは 1 秒間に 1 兆回（10 の 12 乗回）計算ができる能力を表す。

(5) クラウドの運用

情報システムをクラウド化（全部または一部を学内の情報センターまたは学外の施設に集約・共有化し、効率的に運用）している大学は、平成 26 年度は、555 大学（71.2%）である。また、124 大学（15.9%）がクラウド化を検討している。

大学では、クラウド化の効果として「管理・運用等にかかるコストの軽減」を上げる場合が最も多い（420 大学）。一方、クラウド化していない理由には「セキュリティ面・信頼性への不安」が最も多い（149 大学）。（17、18 頁）

⇒ 文部科学省の科学技術・学術審議会／学術情報委員会「クラウド時代の学術情報ネットワークの在り方」（平成 26 年 7 月）で述べられているとおり、クラウド化を通じて、①ユーザの必要とするコンピュータ資源を、必要な時に、必要な分だけ、速やかに使用することが可能となる、②その資源を多くのユーザで共用することで経済的な運用が可能になる、③大規模にシステムを集約することによって効率化が進展する。

平成 28 年度に運用を開始する次期学術情報ネットワーク（SINET5）では、回線強化（最大 40Gbps→100Gbps）に加え、クラウド基盤強化、ネットワーク機能強化、セキュリティ対策強化等を講じることとしており、接続校への更なる技術的支援が可能となる。

※ 本調査結果の全体は、文部科学省ホームページに掲載されます。

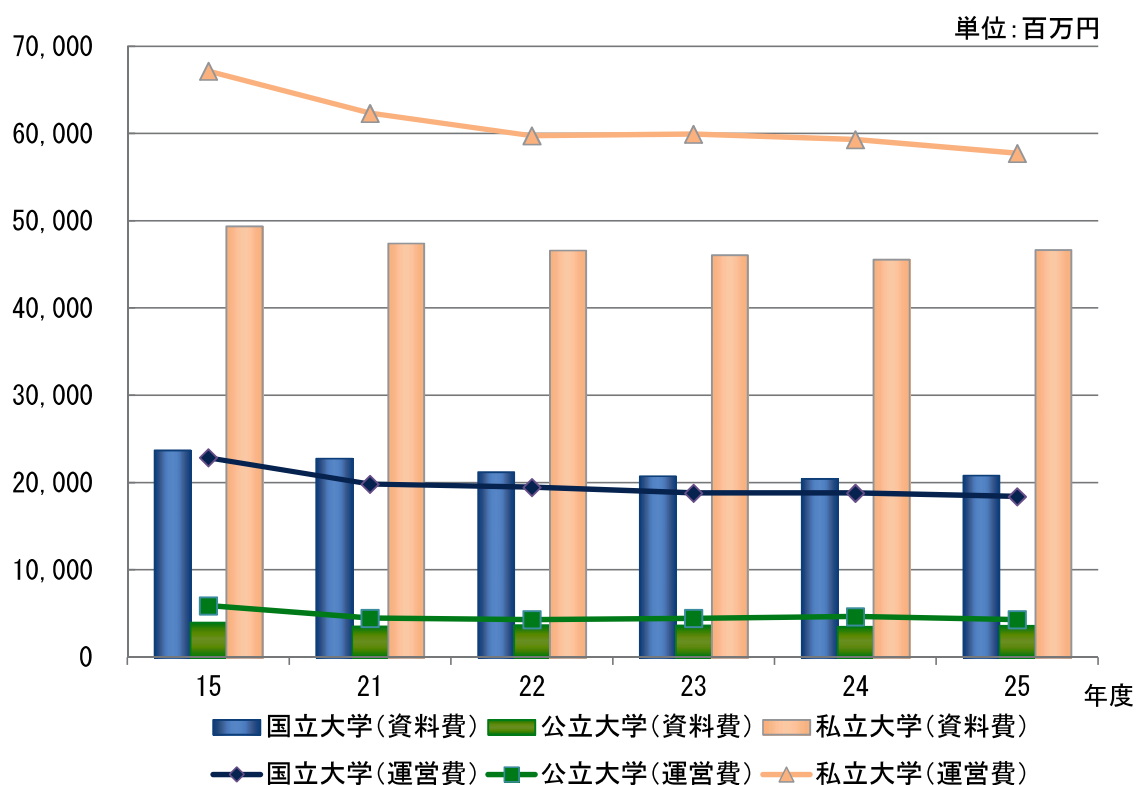
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm

《大学図書館編》

1. 図書館資料費及び図書館運営費（平成25年度）

- 平成25年度の図書館運営費の総額は、前年度と比べて2.8%（約23億円）減少している。
- 一方、図書館資料費の総額は、これまでの減少傾向に対し、1.4%（約10億円）増となっている。

・図書館資料費及び図書館運営費の推移（国公立大学別）



・図書館資料費総額（各年度実績）（棒グラフ）

単位：百万円

年度	15	21	22	23	24	25
国立大学	23,726	22,793	21,230	20,773	20,447	20,844
公立大学	3,995	3,551	3,686	3,650	3,513	3,622
私立大学	49,416	47,438	46,634	46,095	45,588	46,088
合計	77,137	73,782	71,551	70,518	69,547	70,554

・図書館運営費総額（各年度実績）（折れ線グラフ）

単位：百万円

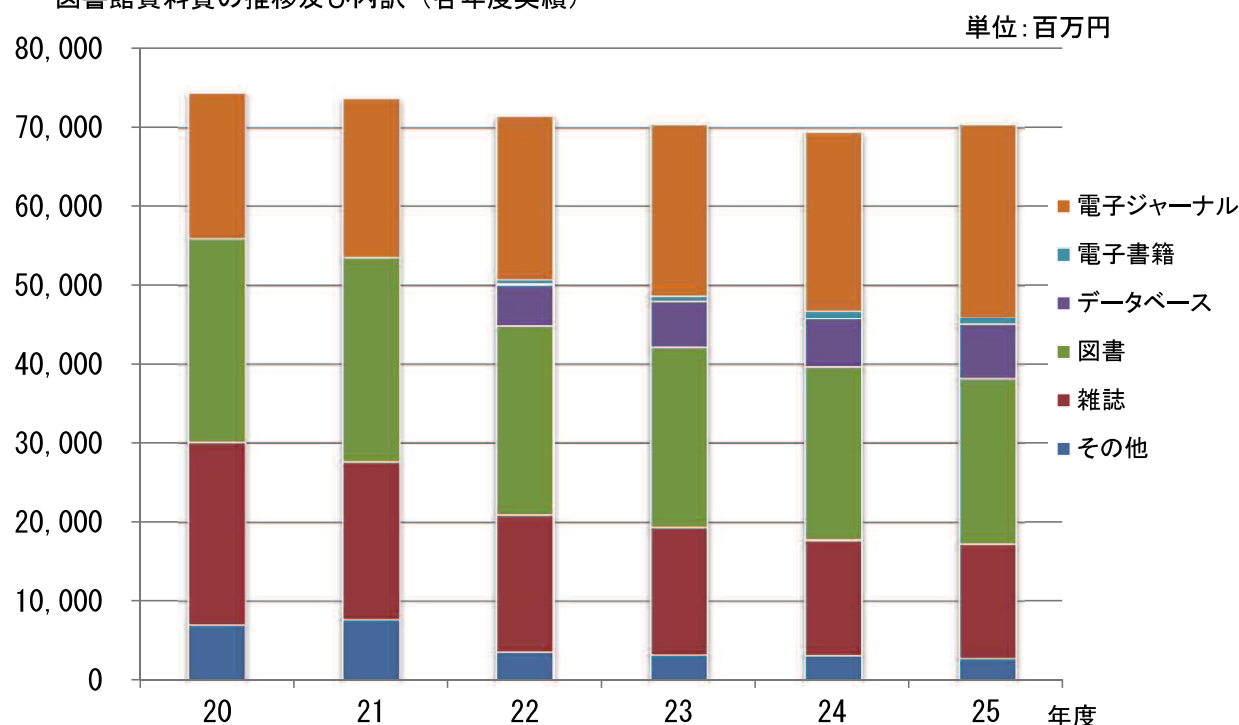
年度	15	21	22	23	24	25
国立大学	22,848	19,835	19,468	18,795	18,809	18,400
公立大学	5,887	4,466	4,290	4,444	4,645	4,302
私立大学	67,146	62,339	59,746	59,946	59,326	57,744
合計	95,880	86,640	83,505	83,185	82,780	80,445

2. 図書館資料費の内訳（平成25年度）

○ 平成25年度の図書館資料費の総額（約706億円）のうち、電子ジャーナルに係る経費は34.9%（約246億円）であり、前年度と比べて8.1%（約18億円）増加した。一方、紙媒体による図書や雑誌に係る経費は減少している。

○ 電子ジャーナル経費の増加は、①電子ジャーナル価格の上昇、②外国為替変動の影響（円安）、③ジャーナルの電子化の進展等が影響していると考えられる。

・ 図書館資料費の推移及び内訳（各年度実績）



図書館資料費の推移及び内訳（各年度実績） 単位：百万円

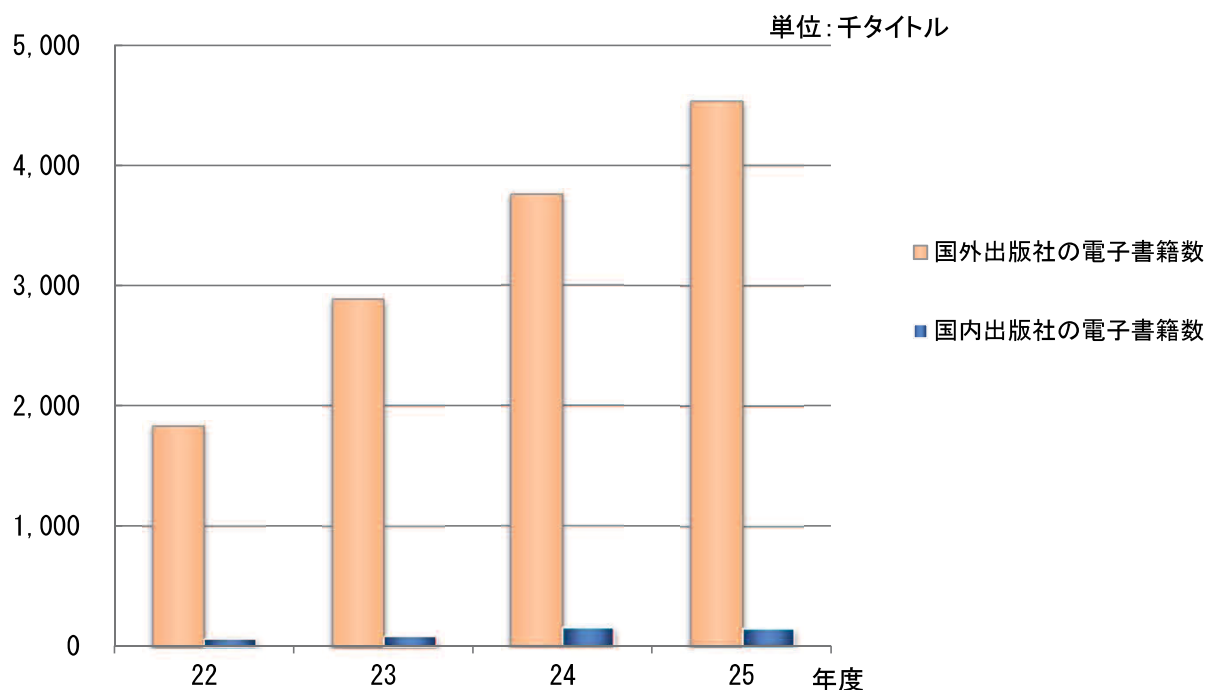
年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
電子ジャーナル	18,439 (24.8%)	20,163 (27.3%)	20,714 (29.0%)	21,776 (30.9%)	22,747 (32.7%)	24,596 (34.9%)
電子書籍	-	-	650 (0.9%)	731 (1.0%)	1,006 (1.4%)	944 (1.3%)
データベース	-	-	5,326 (7.4%)	5,840 (8.3%)	6,078 (8.7%)	6,788 (9.6%)
図書	25,818 (34.7%)	25,863 (35.1%)	23,836 (33.3%)	22,733 (32.2%)	21,891 (31.5%)	20,910 (29.6%)
雑誌	23,063 (31.0%)	19,928 (27.0%)	17,464 (24.4%)	16,184 (23.0%)	14,658 (21.1%)	14,479 (20.5%)
その他	7,140 (9.6%)	7,827 (10.6%)	3,560 (5.0%)	3,255 (4.6%)	3,167 (4.6%)	2,837 (4.0%)
合計	74,461 (100.0%)	73,782 (100.0%)	71,551 (100.0%)	70,518 (100.0%)	69,547 (100.0%)	70,554 (100.0%)

※電子書籍、データベースについては、平成22年度分から調査項目に追加。

3. 電子書籍のタイトル数（平成25年度）

- 大学図書館で導入している電子書籍のタイトル数（延べ数）は、平成25年度までに約470万タイトルに増加した。
- その内訳としては、海外出版社によるものが約97%であり、国内出版社によるものは約3%となっている。

・大学図書館における電子書籍のタイトル数の推移



単位：タイトル

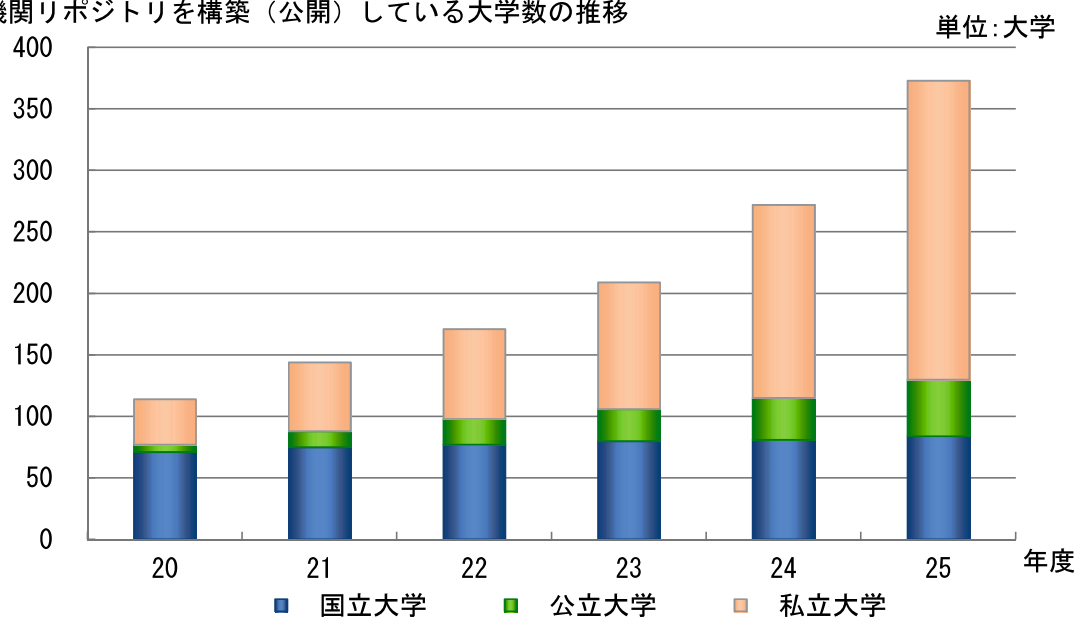
年度	22	23	24	25
国内出版社の電子書籍数	69,947	87,833	158,665	154,029
国立大学	17,651	18,882	22,698	25,946
公立大学	619	1,197	1,970	4,346
私立大学	51,677	67,754	133,997	123,737
国外出版社の電子書籍数	1,833,448	2,883,848	3,762,860	4,537,035
国立大学	583,532	665,744	705,255	896,736
公立大学	32,448	51,914	70,752	177,965
私立大学	1,217,468	2,166,190	2,986,853	3,462,334
合計	1,903,395	2,971,681	3,921,525	4,691,064

4-1. 機関リポジトリの構築（平成25年度）

○ 機関リポジトリ（教育研究成果をインターネット上に無償で公開するシステム）を構築（公開）している大学は、平成25年度は373大学（全大学の47.9%）となり、前年度より100校以上増加した。

○ 独自で機関リポジトリの構築・運用をすることが難しい機関を対象として、平成24年度から国立情報学研究所が提供を開始した共用リポジトリサービス「JAIR0 Cloud」を利用している機関数は129大学で、特に私立大学では、構築（公開）している243大学のうち111大学（45.7%）が利用している。

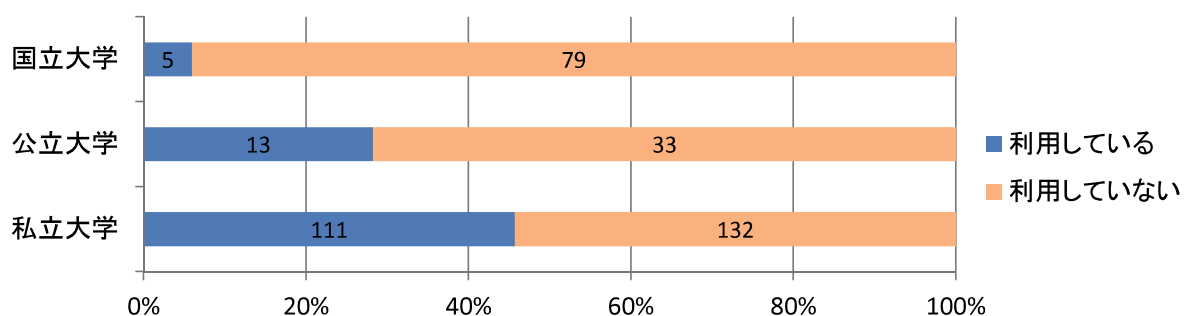
・ 機関リポジトリを構築（公開）している大学数の推移



単位：大学

年度	20	21	22	23	24	25
構築（公開）大学数	114	144	171	209	272	373
国立大学	71	75	77	80	81	84
公立大学	6	13	21	26	34	46
私立大学	37	56	73	103	157	243
調査対象大学数	760	764	769	778	774	779
構築（公開）大学の割合	15.0%	18.8%	22.2%	26.9%	35.1%	47.9%

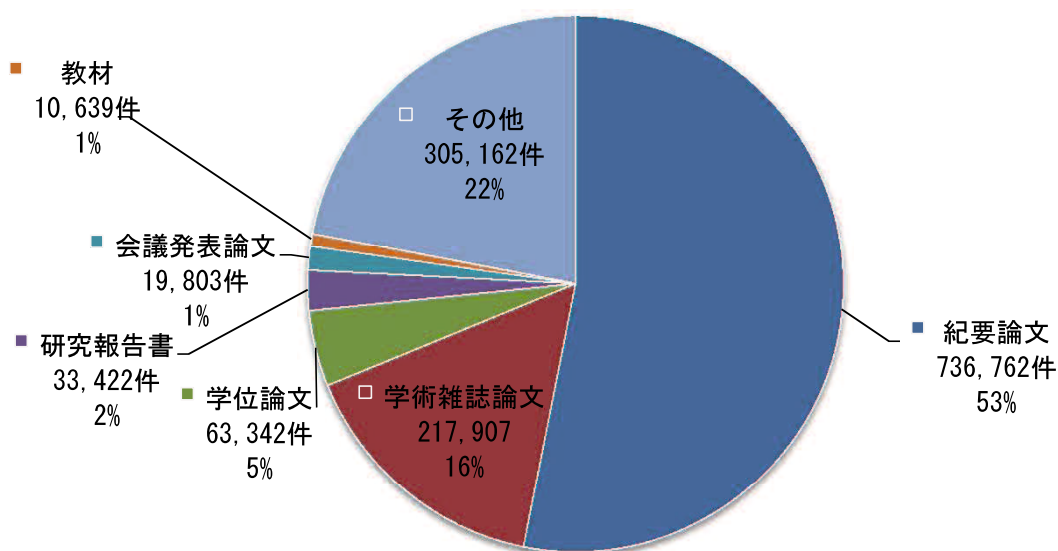
・ JAIR0 Cloudを利用して構築（公開）している大学数（平成25年度末日現在）



4-2. 機関リポジトリのコンテンツ数と登録義務化（平成25年度）

- 機関リポジトリに登載されているコンテンツ（電子化された資料）数は、1,387,037件（前年度比16.6%増）。内訳は紀要論文が約半数を占め、以下学術雑誌論文、学位論文が続く。
- 平成25年度末日時点で、コンテンツ登録を義務化している大学は170大学で、前年度の78大学から大幅に増加している。これは、学位規則の改正により、平成25年度から機関リポジトリによる博士論文のインターネット公表が義務づけられたことによる影響があると考えられる。

・コンテンツ数（平成25年度末現在）＜一次情報：計1,387,037件＞



※「その他」には図書、テクニカルレポート等が含まれる。

■ 紀要論文 ■ 学術雑誌論文 ■ 学位論文 ■ 研究報告書 ■ 会議発表論文 ■ 教材 ■ その他

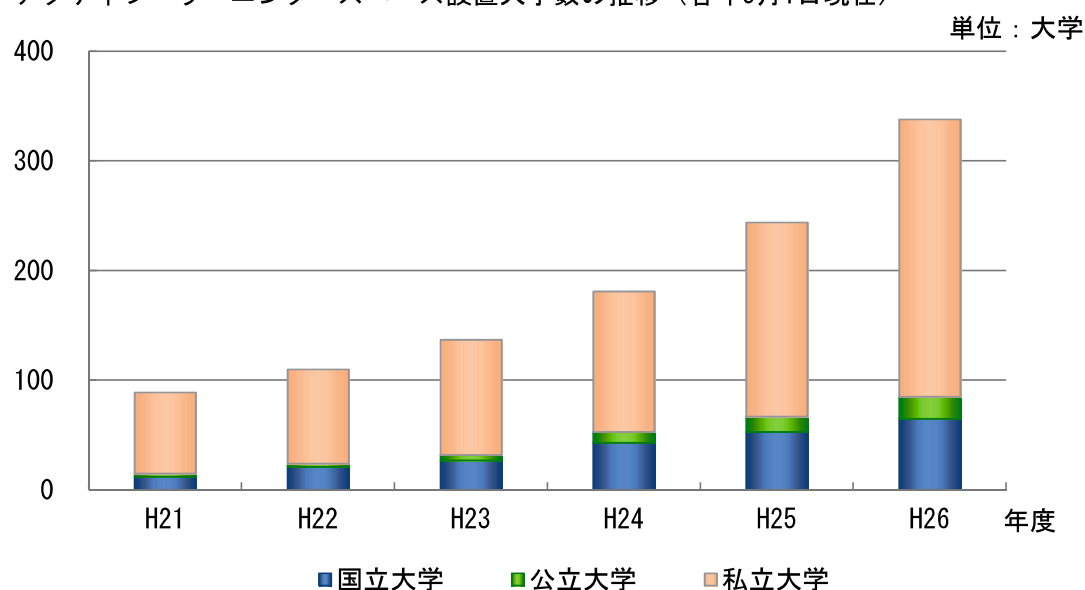
・コンテンツ登録の義務化を行っている大学数

年度	平成24年度	平成25年度
国立大学	11	33
公立大学	10	21
私立大学	57	116
合計	78	170

5. 学修環境の整備（平成26年5月1日現在）

- アクティブ・ラーニング・スペース（複数の学生が集まり、様々な情報資源を活用しつつ議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペース）は、平成26年度は338大学に設置されており、3年間で約2.5倍に増加した。
- 中央教育審議会答申（平成24年8月）等において、学士課程教育の質的転換に当たり、学生の主体的な学びを促すアクティブ・ラーニングが推進されていることを背景として、そのためのスペースを設置する大学が増加している。

・アクティブ・ラーニング・スペース設置大学数の推移（各年5月1日現在）



単位：大学

年度	21以前	22	23	24	25	26
設置大学数	89	110	137	181	244	338
国立大学	12	21	27	43	53	65
公立大学	3	3	5	10	14	20
私立大学	74	86	105	128	177	253
調査対象大学数	760	764	769	778	774	779
設置率	11.7%	14.4%	17.8%	23.3%	31.5%	43.4%

・アクティブ・ラーニング・スペースの設置事例



（名古屋大学）



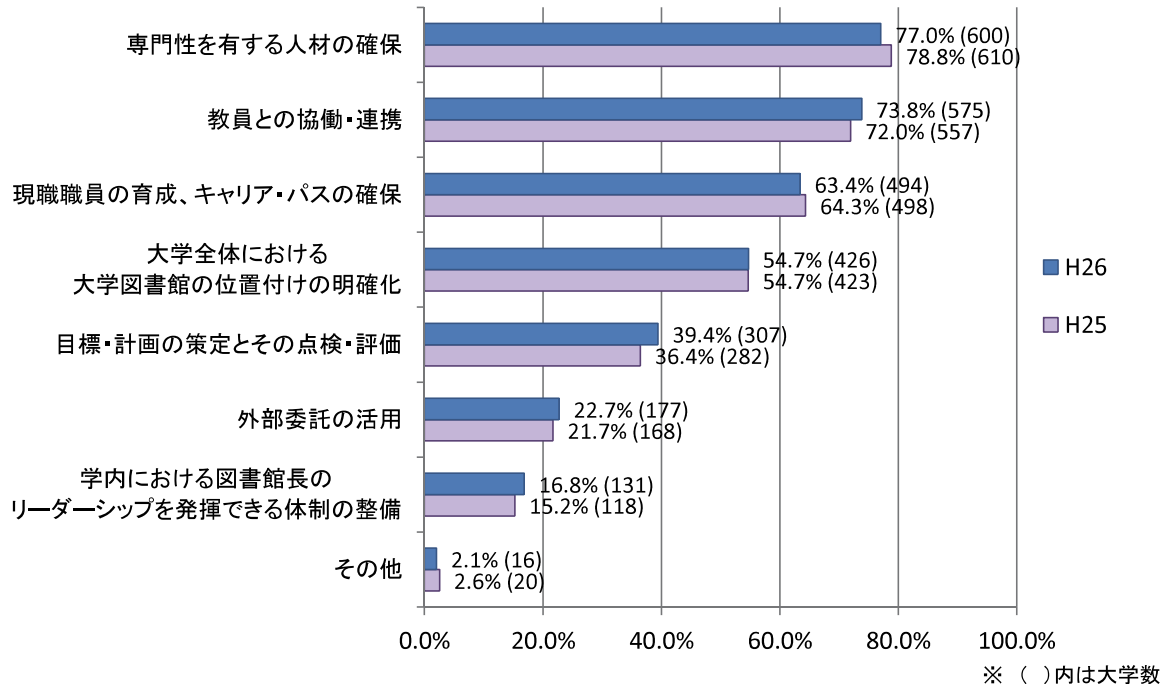
（千葉大学）

6. 大学図書館の管理運営等における課題（平成26年5月1日現在）

※複数回答可

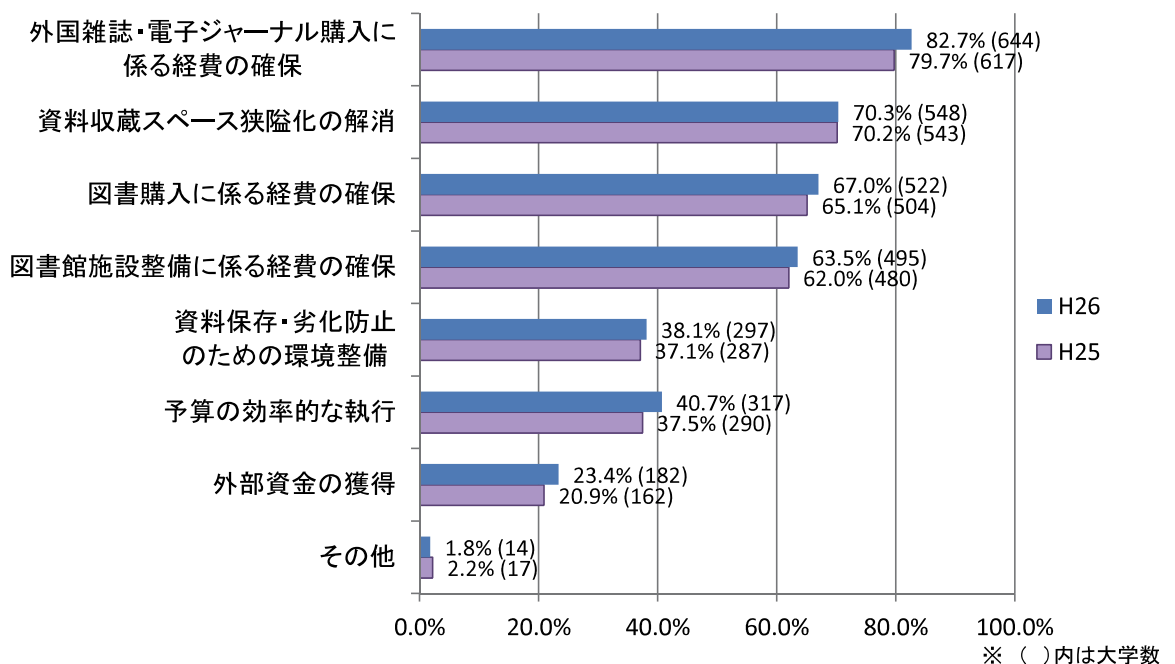
（1）組織・運営面における課題

○ 組織・運営面においては、600大学（全大学の77.0%）が「専門性を有する人材の確保」を課題として挙げている。また、「教員との協働・連携」を課題に挙げる大学が18大学増加し、575大学（73.8%）となっている。



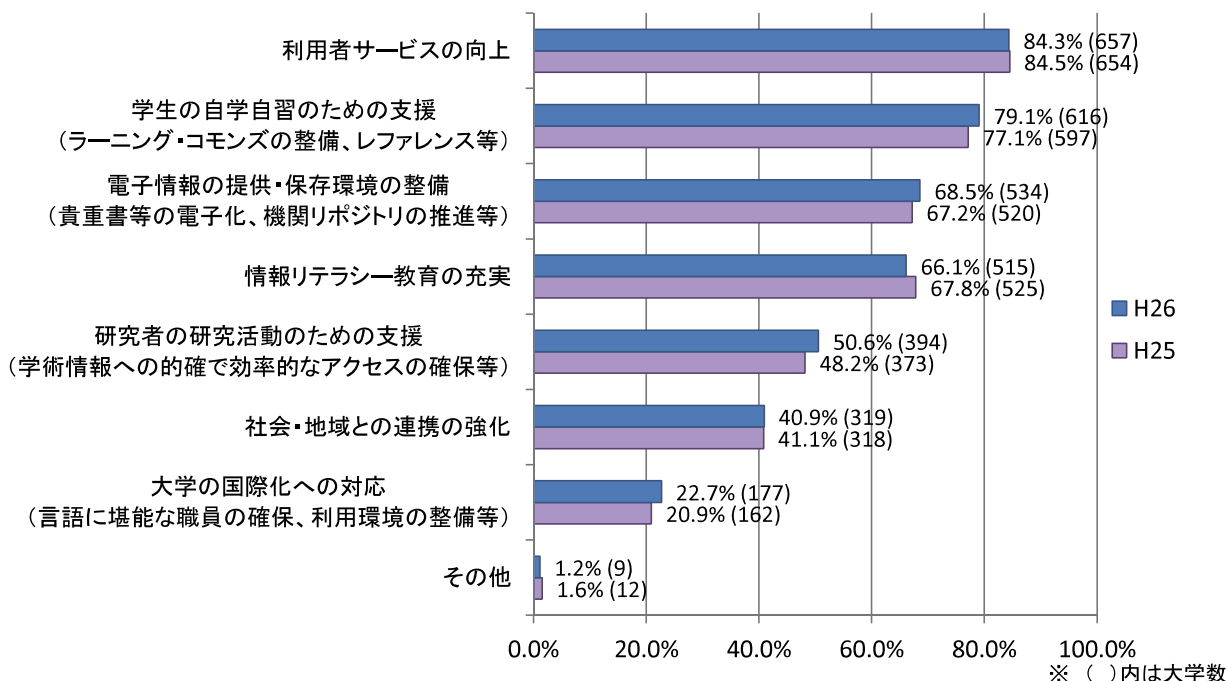
（2）経費・設備面における課題

○ 経費・設備面においては、644大学（全大学の82.7%）が「外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保」を課題として挙げている。次に「資料収蔵スペース狭隘化の解消」を挙げる大学が548大学（70.3%）となっている。



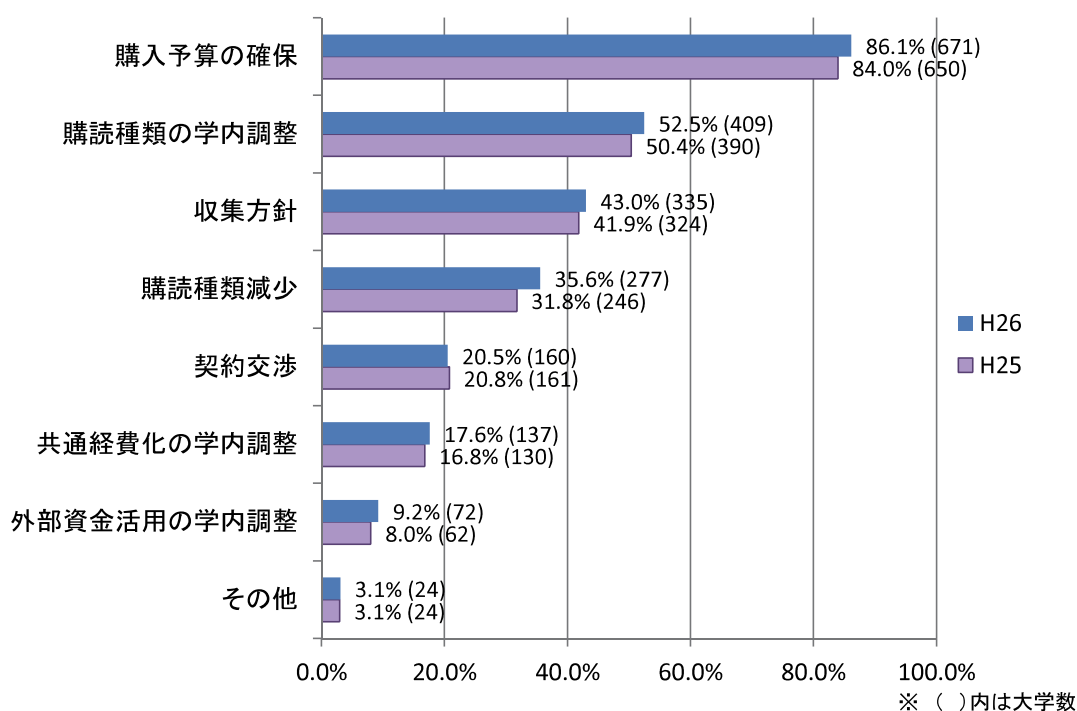
(3) 機能面における課題

○ 機能面においては、657大学（全大学の84.3%）が「利用者サービスの向上」を課題として挙げている。「学生の自学自習のための支援」や「電子情報の提供・保存環境の整備」を挙げる大学もそれぞれ616大学、534大学と多い。



(4) 外国雑誌及び電子ジャーナルにおける課題

○ 外国雑誌及び電子ジャーナルにおける課題として、671大学（全大学の86.1%）が「購入予算の確保」を挙げ、前年度と比べて21大学増加している。「購読種類減少」を挙げる大学が、31大学増加している。



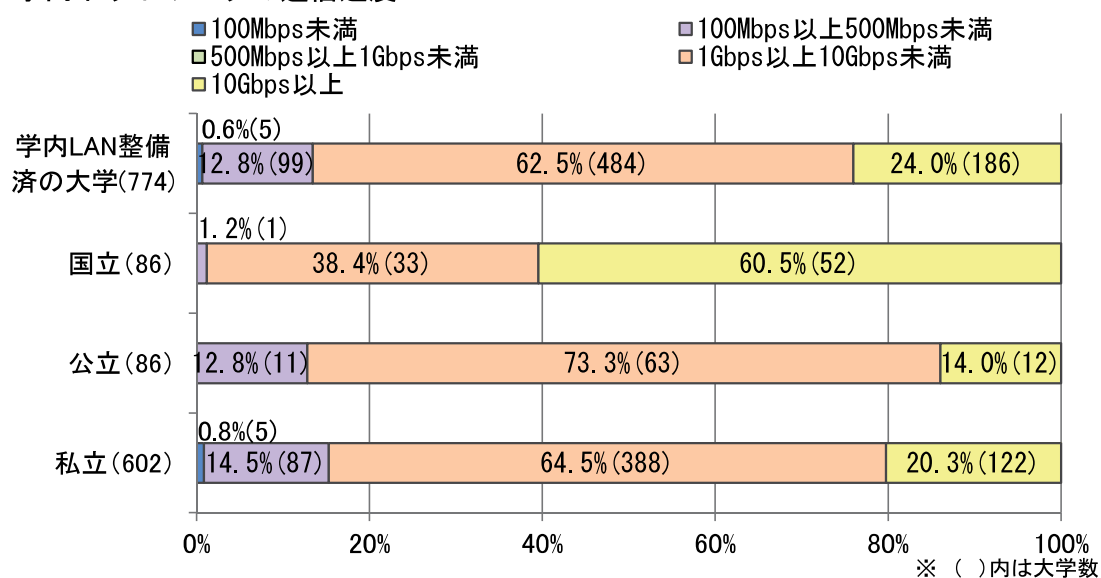
《コンピュータ及びネットワーク編》

1. 学内ネットワーク（学内LAN）の整備（平成26年5月1日現在）

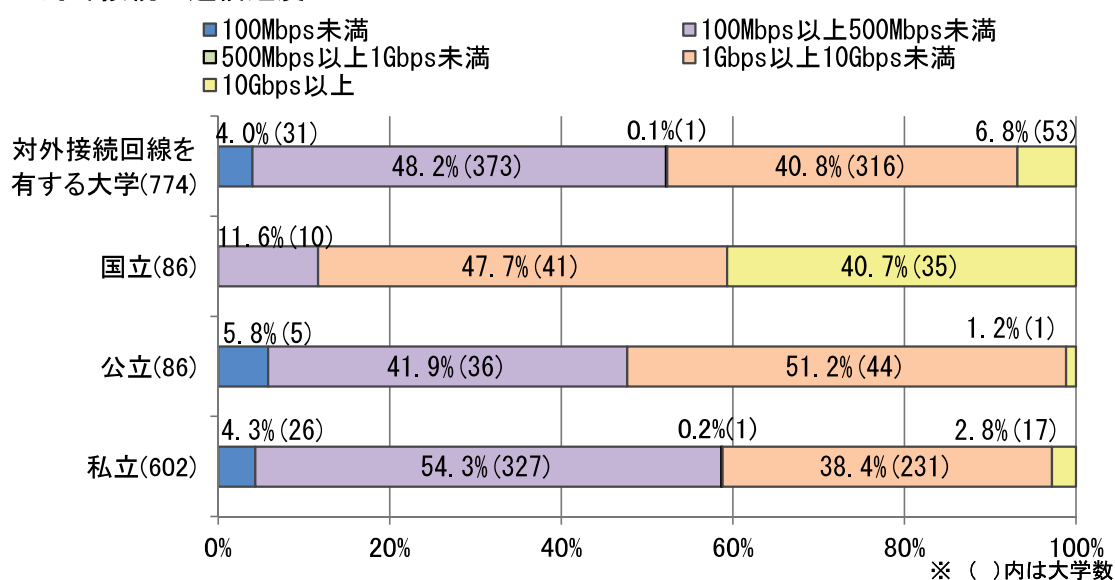
○ 学内LANを有する774大学のうち、平成26年度に、通信速度1Gbps以上の回線を整備している大学は670大学（86.5%）であり、そのうち10Gbps以上とする大学は186大学（24.0%）となっている。

○ 対外接続回線の通信速度が1Gbps以上の大学は、369大学（47.6%）である。

・学内ネットワークの通信速度



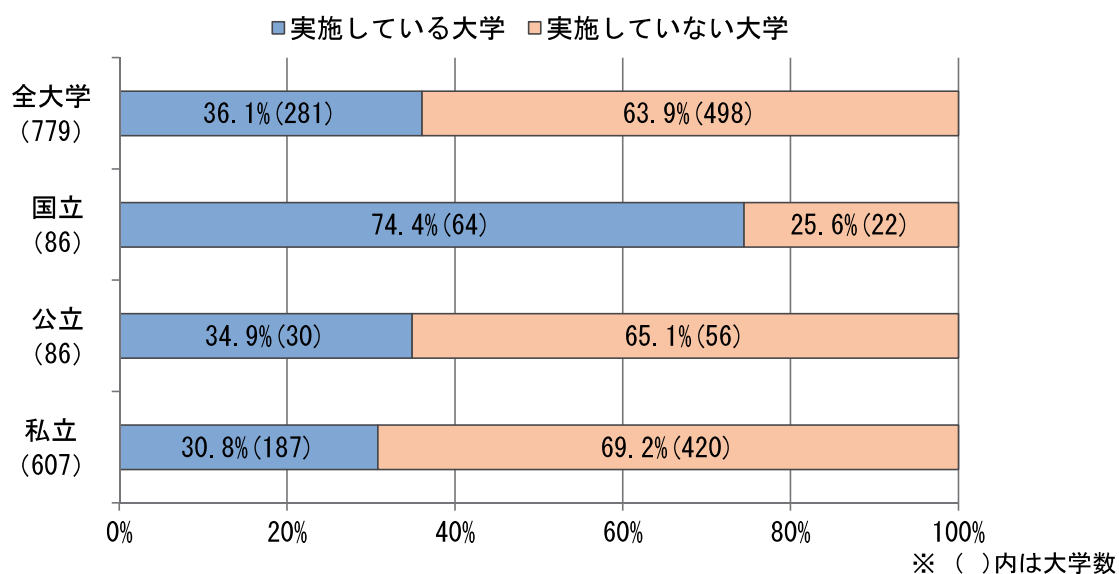
・対外接続の通信速度



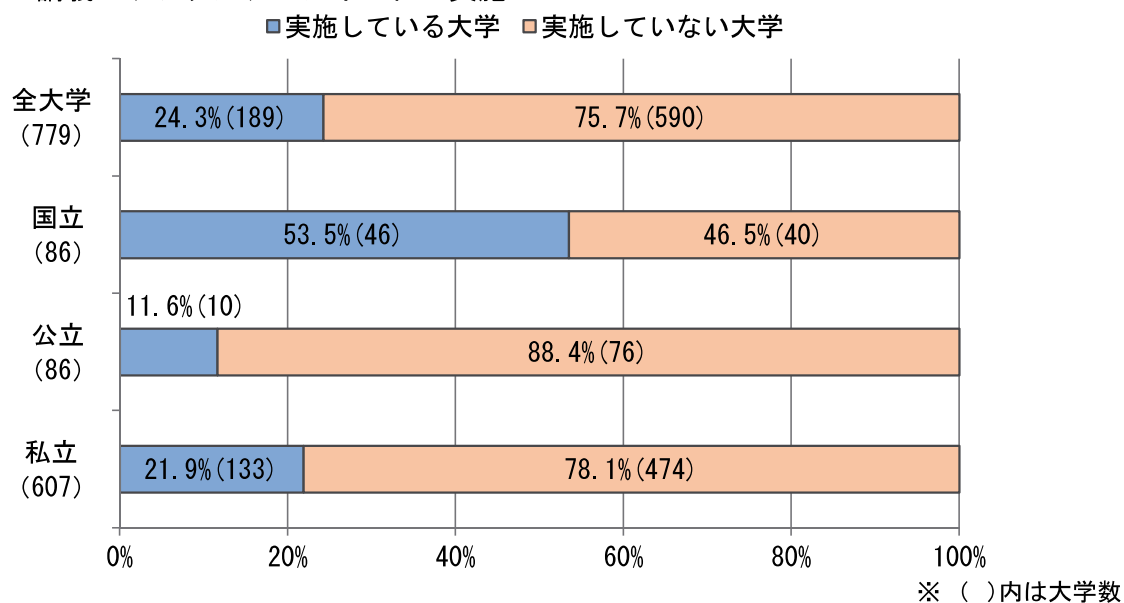
2. 教育への活用（平成25年度）

- ネットワークを介した遠隔教育（インターネット等を用いた授業で、大学等において面接授業に相当する教育効果を有するもの）は、平成25年度に281大学（全大学の36.1%）で実施されている。
- 講義映像等を電子的に録画・保存し、利活用するデジタルアーカイブは、189大学（全大学の24.3%）で整備されている。

・ ネットワークを介した遠隔教育の実施



・ 講義のデジタルアーカイブ化の実施

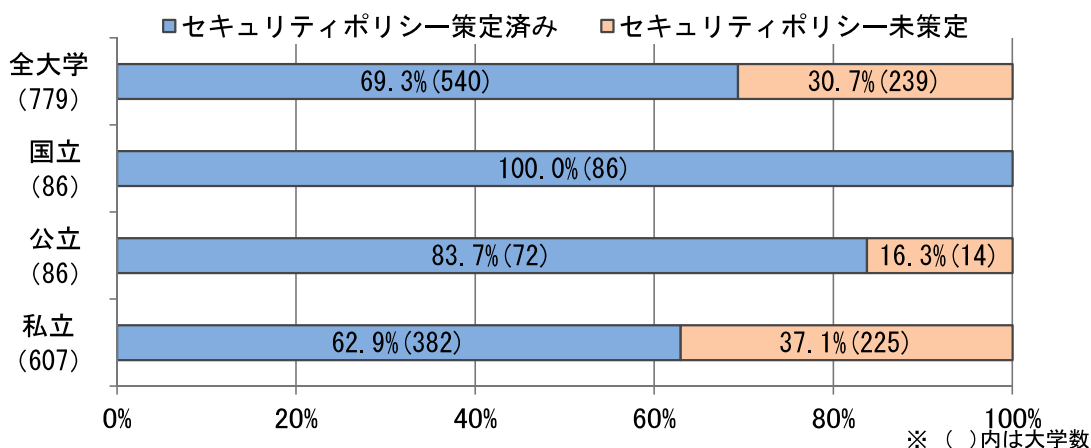


3. セキュリティ対策（平成26年5月1日現在）

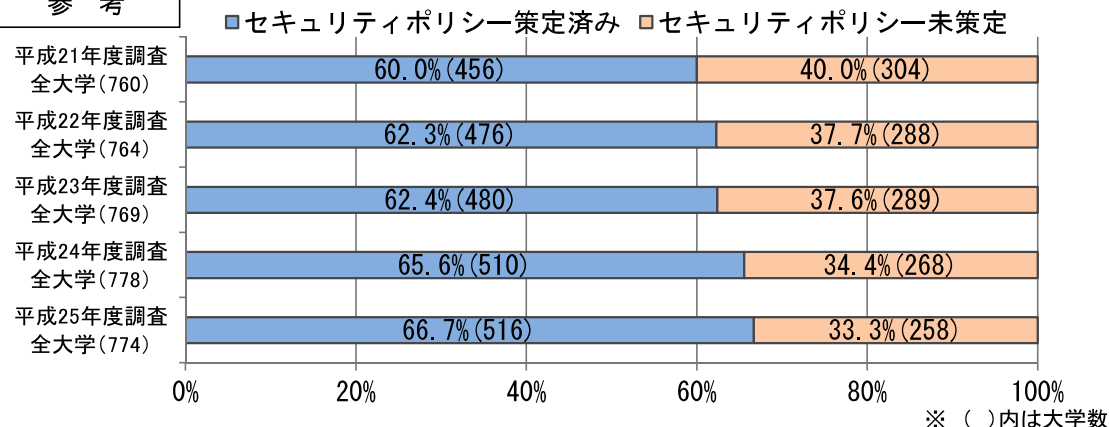
○ セキュリティポリシーは、平成26年度には全ての国立大学（86大学）で策定されているが、大学全体では、69.3%（540大学）の大学で策定されている。

○ 学内認証基盤を構築して、複数の学内システムの統一的な利便性・安全性を高めている大学は、599大学（全体の76.9%）である。

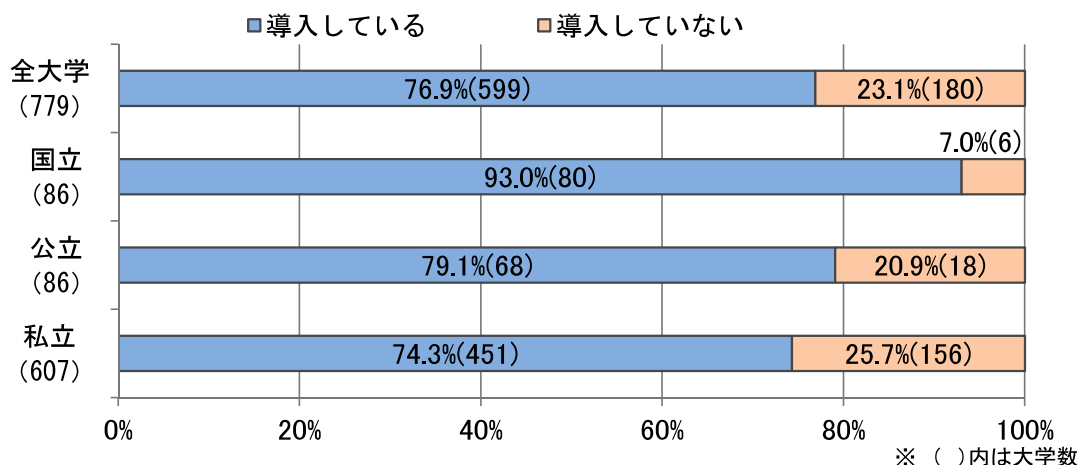
・セキュリティポリシーの策定状況



参 考



・全学的な学内認証基盤の導入状況



4. 高速計算機の保有状況(平成26年5月1日現在)

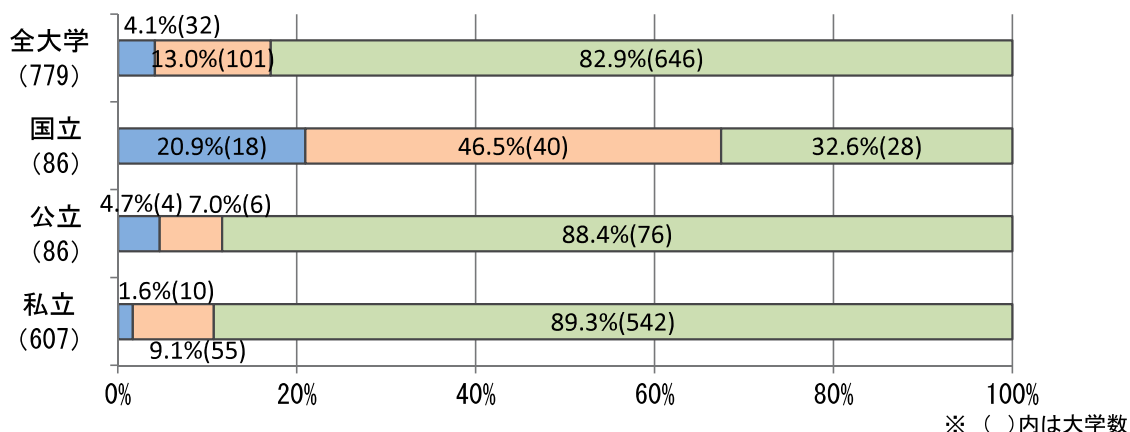
○ スーパーコンピュータ（最大理論性能が1.5TFLOPS以上の科学技術計算用の高速計算機）は、平成26年度には32大学（全大学の4.1%）が保有している。101大学（全大学の13.0%）は、ネットワーク接続等により、学外の高速計算機を利用している。

○ 利用研究分野の内訳は、創薬・ライフサイエンス分野が48.4%と最も多く、次いでナノ・材料分野が17.7%となっている。

※ TFLOPS＝テラフロップス。フロップスはコンピュータの処理性能を表す単位の一つで、テラフロップスは1秒間に1兆回（10の12乗回）計算ができる能力を表す。

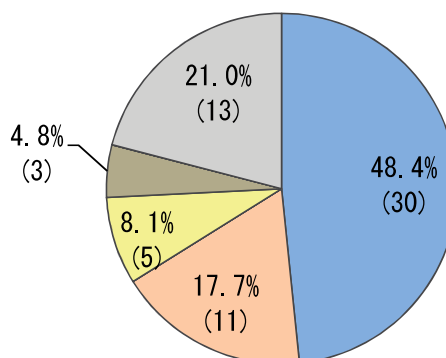
・ 高速計算機の保有状況

- 学内等の需要に基づき、高速計算機を保有している
- 学内等の需要はあるが、高速計算機を保有しておらず、他機関の計算機を利用している
- 学内等の需要がないため、高速計算機を保有していない



・ 利用研究分野

- 創薬、ライフサイエンス分野
- ナノ、材料分野
- 素粒子、原子核、宇宙分野
- 工業製品設計、産業応用分野
- その他



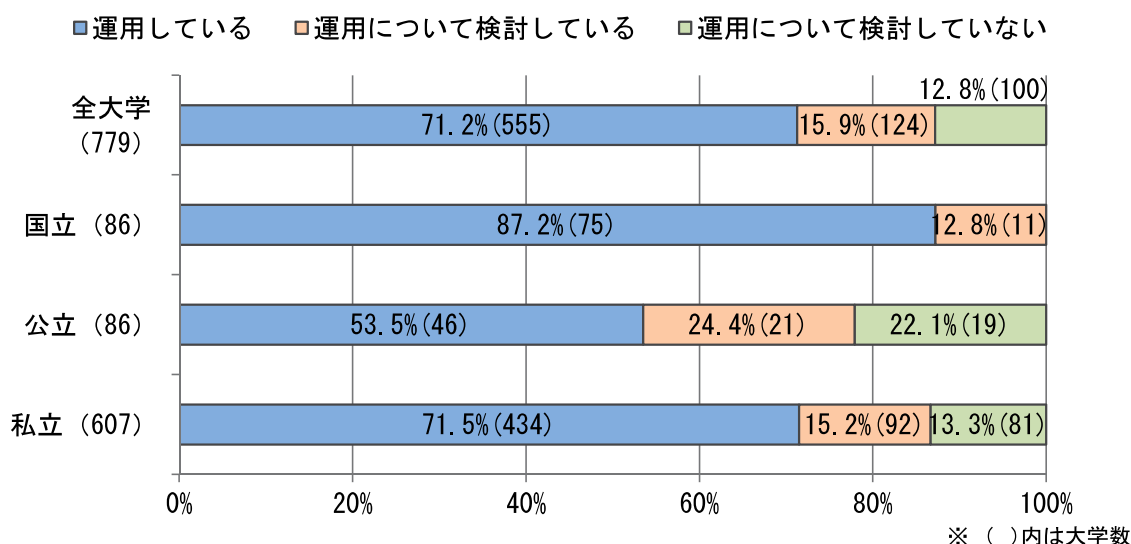
※特定の研究分野において利用されている高速計算機について集計

※ ()内は台数

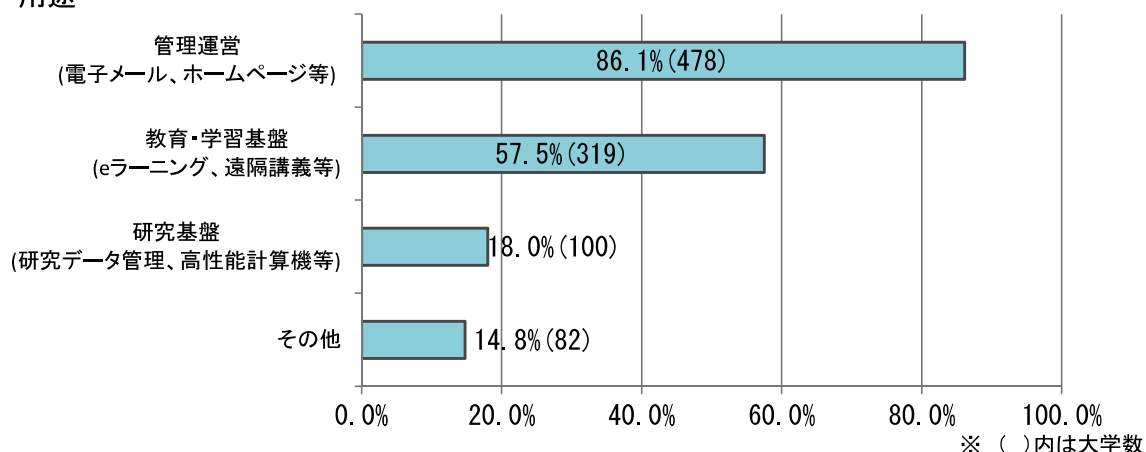
5. クラウドの運用(平成26年5月1日現在)

- 情報システムをクラウド化（全部または一部を学内の情報センター等または学外の施設に集約・共有化し、効率的に運用）している大学は、平成26年度は555大学（71.2%）である。また、124大学（15.9%）がクラウド化を検討している。
- 用途は、管理運営基盤（電子メール、ホームページ等）が478大学、教育・学習基盤（eラーニング、遠隔講義等）が319大学、研究基盤（研究データ管理、高性能計算機等）が100大学となっている（複数回答有）。
- クラウド化の効果として、「管理・運用等にかかるコストの軽減」を挙げている大学が最も多い（420大学）。
- 一方、クラウド化していない理由には、「セキュリティ面・信頼性への不安」が最も多い（149大学）。

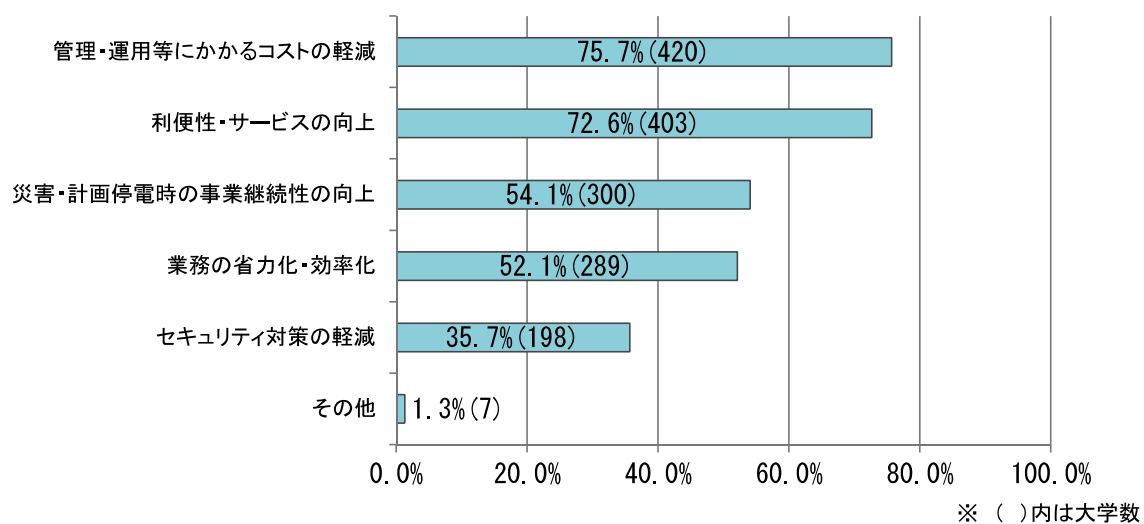
・クラウドの運用状況



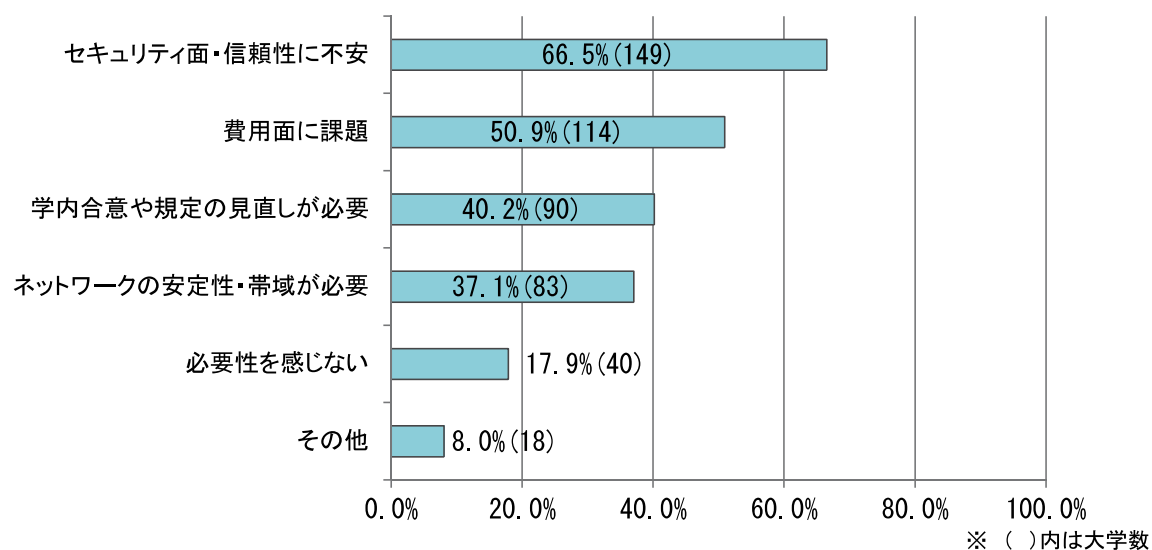
・用途



・クラウド化の効果



・クラウド化していない理由



平成 26 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価に関する利用者アンケート実施要領

1 目的

金沢大学の学生(含む大学院生)及び職員の図書館に対する認識や要望を把握し, 自己点検点検・評価の資料とすること。

2 期間

平成 27 年 1 月 9 日(金)～2 月 5 日(木)

3 対象者

全学生, 全職員

4 実施方法

- (1) 附属図書館 Web ページ中にアンケート用ページを作成する(別紙1)。
- (2) アンケートは匿名で回答できるものとする。
- (3) アンケートの実施について全学生, 全職員に対してアカンサスポータルの電子メール送信機能で周知し, アンケートページに誘導する。
- (4) 回答を促進するために, 回答者の中から抽選により景品を進呈する。
- (5) 実施に当たっては, 学内の各種会議等でもアナウンスを行う。

5 回答促進用の景品

回答促進用に, 次のとおり抽選により景品を進呈する。

(1) 景品

- | | | |
|----------------------|-----------------------|------|
| ● 特賞 | 図書カード 3,000 円分 | 3 名 |
| ● プラタナス賞 | 医学図書館「プラタナスカフェ」特製クッキー | 15 名 |
| ※ 景品は情報部の部課長経費で購入する。 | | |

(2) 抽選方法

- ① 回答ページの最後に抽選応募用のリンクを作り, 図書館 Web サイトに設置したフォームに氏名, 所属, 連絡先電子メールを記入してもらう。
- ② 2 月 6 日(金)12:30～(予定)に抽選会を実施する。
- ③ 当選者に電子メール等で連絡し, 中央図書館に取りに来てもらう。
- ④ 抽選結果を図書館 Web サイトに掲示する。

自己点検・評価用のアンケート調査の設問

★は前回も尋ねている項目

(1) サービス

1-1 来館サービスに関する質問

1. 金沢大学の図書館の中でいちばんよく利用する館を1つ選んでください。利用したことがない方は「利用したことがない」を選んでください。(中央図書館／自然科学系図書館／医学図書館／保健学類図書室／利用したことがない)。 ※ 以下の2～7については、その館について回答してください。
2. ★5-① 図書館の来館頻度を教えてください(ほぼ毎日／週1回程度／月1回程度／3ヶ月に1回程度／利用していない)
3. 図書館窓口での貸出・返却や利用案内等のサービスに満足していますか？サービスを利用したことのない方は「利用したことがない」を選んでください。(5段階評価, 不満⇔満足／利用したことがない)
4. ★2(1)-② 図書館スタッフは利用者一人一人を大事にしていると思いますか？図書館を利用したことがない方は「利用したことがない」を選んでください。(5段階評価, 思わない⇔思う／利用したことがない)
5. ★2(4)-③ 図書館の開館時間に満足していますか？図書館を利用したことがない方は「利用したことがない」を選んでください。(5段階評価, 不満⇔満足／利用したことがない)
6. 図書館の開館日に満足していますか？(5段階評価, 不満⇔満足)
7. (1～6についての問題点の把握)。来館者向けサービスとしてどういうサービスが必要だと思いますか？また、問題点をご記入ください(自由記述)

1-2 学習支援サービス

8. 図書館員が担当している「情報処理基礎」「大学・社会生活論」などの授業は役だっていると思いますか？(5段階評価, 思わない⇔思う) ※学生のみ？
9. ★2(4)-① 図書館内で行っている文献探索などについての講習会などは役にたっていると思いますか？参加したことがない方は「参加したことがない」を選んでください。(5段階評価, 思わない⇔思う／参加したことがない)
10. ★2(1)-⑤ 図書館員は利用者からの学習に関する質問に回答できる知識を持っていると思いますか？(5段階評価, 思わない⇔思う／わからない)
11. 図書館が行う学習支援としてどういうサービスがあると良いと思いますか？(選択肢, 複数可)

職員や院生が常駐する学習支援デスク

職員や院生による予約制の学習支援デスク

特定の授業の予習・復習について院生がサポートするサービス

Webによる学習支援に関する質問の受付

1-3 研究支援サービス

12. 金沢大学学術情報リポジトリ KURA は、皆さんの学習や研究のために役立っていると思いますか？利用したことがない方は「利用したことがない」を選んでください。(5 段階評価, 思わない⇔思う／利用したことがない)
13. ★2(4)-②皆さんの学習や研究のために、他の図書館への文献複写依頼、他図書館からの借用サービスは役だっていると思いますか？サービスを利用したことのない方は「利用したことはない」を選んでください。(5 段階評価, 思わない⇔思う／利用したことがない)
14. (8～12 についての問題点の把握)。学習や研究の支援のために大学全体としてどういうサービスが必要だと思いますか？また、問題点をご記入ください。(自由記述)

1-4 広報活動

1. 附属図書館報「こだま」の内容について評価してください。読んだことのない方は「読んだことがない」を選んでください。(5 段階評価, 不満⇔満足／読んだことがない)
2. ★2(2)-②図書館 Web サイトは、利用者が自力で情報を見つけられるように作られていると思いますか？図書館 Web サイトを利用したことのない方は「利用したことはない」を選んでください(5 段階評価, 思わない⇔思う／利用したことがない)

(2) 資料に関する質問

3. ★2(2)-③学習や研究のために必要な蔵書(紙の本や雑誌)は揃っていると思いますか？利用したことがない方は「利用したことがない」を選んでください。(5 段階評価, 思わない⇔思う／利用したことがない)
4. ★2(2)-④学習や研究のために必要な電子ジャーナルやデータベースは揃っていると思いますか？利用したことのない方は「利用したことがない」を選んでください。(5 段階評価, 思わない⇔思う／利用したことがない)
5. ★2(4)-⑤ 図書館のオンライン蔵書目録(OPAC Plus)は使いやすいと思いますか？使ったことがない方は「使ったことがない」を選んでください。(5 段階評価, 思わない⇔思う／使ったことがない)
6. ★2(2)-⑦図書館資料全般についてお尋ねします。人に頼らずに簡単にアクセスできるように情報が提供されていると思いますか？図書館を使ったことがない方は「使ったことがない」を選んでください。(5 段階評価, 思わない⇔思う／使ったことがない)
7. ★5-②図書館 Web ページから電子資料にアクセスする頻度を教えてください。使ったことがない方は「使ったことがない」を選んでください。(ほぼ毎日／週1回程度／月1回程度／3ヶ月に1回程度／使ったことがない)
8. (23～28 についての問題点の把握)。図書館の蔵書として、どういう資料があると良いと思いますか？また、問題点をご記入ください。(自由記述)

(3) 施設・設備に関する質問

1. ★2(4)-④ 設問1-1で「よく利用する」と回答した館についてお尋ねします。図書館は安全で安心でき場所だと思いますか？(5段階評価, 思わない⇔思う)
2. 中央図書館のオープンスタジオ(3階)の満足度をお書きください(5段階評価, 不満⇔満足／使ったことがない)
3. 中央図書館のブックラウンジ(ほんとかふえ。)の満足度をお書きください(5段階評価, 不満⇔満足／使ったことがない)
4. 医学図書館のオープンスタジオ(2階)の満足度をお書きください(5段階評価, 不満⇔満足／使ったことがない)
5. 医学図書館のブックラウンジ(プラタナス・カフェ)の満足度をお書きください(5段階評価, 不満⇔満足／使ったことがない)
6. 施設を使った展示等のイベント, 活動についての評価
9. ★2(3)図書館はどういう場所であって欲しいですか？次のそれぞれについてご記入ください。

学習・研究意欲をかきたてられる場所 (5段階評価, 思わない⇔思う)

ひとりで学習・研究するための静かな空間 (5段階評価, 思わない⇔思う)

快適でまた行きたくなるような場所 (5段階評価, 思わない⇔思う)

学習・研究・調査のためのとっておきの場所である (5段階評価, 思わない⇔思う)

グループ学習や共同研究のためのスペースが揃っている (5段階評価, 思わない⇔思う)

(4) 総合評価

7. ★金沢大学のサービスの質全般について評価をして点数をつけてください(9点満点)。

(5) 自由記述

(6) 回答者の属性

1. 身分
 - ・学部生(学年+科目履修生他)
 - ・大学院生(修士課程+博士課程+科目履修生他)
 - ・教員
 - ・事務職員
 - ・技術職員
2. 専門分野
 - 研究域／センター／附属病院／附属学校／事務局(室を含む)
3. 性別